平成 25 年度 文部科学省
成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業

双方向性を持ち統合化されたグローバル専門人材育成システムの提言とプログラムの開発
（接続プログラム開発分科会）

事　業　報　告　書

平成 26 年 3 月

学校法人宮崎総合学院

目次

第 0 部　はじめに 1

第 1 章　事業概要 1

第 2 章　事業の内容について 1

2.1　調査報告 1

2.2　東南アジアの職業高校教育内容の現状と、日本の専門学校との接続について 1

第 3 章　事業の実施意義や必要性について 1

第 1 部　調査報告 4

第 1 章　インドネシア・タイの概観 4

1.1　基礎情報 4

1.2　産業・経済 9

1.3　二国間関係 11

1.4　ASEAN 経済共同体発足の影響及び統一カリキュラム開発の動向 12

第 2 章　現地の職業高校、専門学校の現状 14

2.1　学校教育制度 14

2.2　各国職業教育の特徴 18

2.3　職業教育の品質 23

2.4　分野別の特徴 25

2.4.1 職業高校の生徒数の比較 27

2.4.2 専門学校の学生数の比較 31

2.5　インドネシアの職業高校と専門学校の実態及び学生、教員のニーズ 32

2.5.1 職業高校、専門学校を対象としたアンケート調査概要 32

2.5.2 調査対象 32

2.5.3 産業界に要請に対する自己能力評価 33

2.5.4 海外との協力関係 34

2.5.5 ISO の取得状況 36

2.5.6 実習場の整備状況 36

2.5.7 実務実習の満足度 37

2.5.8 就職斡旋の満足度 38

2.5.9 連名学位（ダブル・ディグリー） 38

2.5.10 就職希望地 40

2.6　タイの専門学校の実態及び学生、教員のニーズ 41

2.6.1 職業高校、専門学校を対象としたアンケート調査概要 41

2.6.2 調査対象 42

2.6.3 アンケート結果 42

2.7　その他データ 56
2.7.1 学校数 56
2.7.2 タイの職業高校及び専門学校を対象とした既存アンケート調査結果 66
2.8　カリキュラム例 68
2.8.1 自動車 68
2.8.2 IT、通信 77
2.8.3 マルチメディア 92
2.8.4 エレクトロニクス 98
2.8.5 ホテル・観光 101
2.9　接続カリキュラムの参考となる取組み（AMEICC-COE 支援） 136
2.10　日本企業との連携好事例紹介（泰日工業大学） 138
第 3 章　進出日本企業の人材需要 149
3.1　インドネシアの人材需要 149
3.1.1 進出企業の実態 149
3.1.2 背景 149
3.1.3 人材ニーズ 150
3.2　タイの人材需要 151
3.2.1 進出企業の実態 151
3.2.2 背景 152
3.2.3 人材ニーズ 152
第 4 章　調査のまとめ 154
第 2 部　開発報告 157
第 1 章　領域性の検証 157
第 2 章　東南アジアの職業教育カリキュラムと日本のカリキュラムの接続性について 167
2.1　職業高校マルチメディア科コンピュータ専攻コース 167
2.1.1 マルチメディア科コンピュータ専攻の教育内容 167
2.1.2 教育内容の発展と専門学校との接続について 167
2.2　スマラン第 7 職業高校電子通信科 173
2.2.1 電子通信科の教育内容 173
2.2.2 教育内容の発展と専門学校との接続について 174
2.3　国立第 2 職業高校自動車工学科カリキュラム 177
2.3.1 自動車工学（専門技術：軽車両）の教育内容 177
2.3.2 教育内容の発展と専門学校との接続について 179
第 3 部　総合報告 182
第 1 章　日本の専門教育の「国際通用性」を発揮できる分野 183
第 2 章　日本の専門教育の「国際通用性」を発揮する場合の課題 190

第 3 章　今後のプログラム開発 197
巻末資料集 198
第 1 章　インドネシア　アンケート調査 198
1.1　調査票 198
1.1.1 教員用 198
1.1.2 学生用 206
第 2 章　タイ　アンケート調査 214
2.1　調査票 214
2.1.1 職業高校生・専門学校生対象 214
2.1.2 専門学校生保護者対象 216
2.1.3 教師対象 218
第 3 章　泰日工業大学案内パンフレット 222
第 4 章　バリ職業高校水産分野　紹介 238
第 5 章　インドネシア　現地アンケート調査結果（原文） 248

＜プロジェクト推進委員会の構成＞

①構成機関

構成機関（学校・団体機関等）の名称	役割等	都道府県名
学校法人宮崎総合学院	統轄	宮崎県
学校法人浦山学園	調査・開発	富山県
学校法人麻生塾 麻生外語観光＆製菓専門学校	開発・実証	福岡県
学校法人穴吹学園 穴吹カレッジグループ	開発・実証	香川県
学校法人龍馬学園	開発・実証	高知県
学校法人龍澤学館	調査・開発	岩手県
学校法人九州総合学院	開発・実証	熊本県
日本電子専門学校	実証	東京都
専門学校 東京工科自動車大学校	実証	東京都
日本外国語専門学校	実証	東京都
九州大学	実証	福岡県
NPO 私立専門学校等評価研究機構	統括補佐・調査	東京都
大阪工業技術専門学校	実証	大阪府
長崎国際大学	実証	長崎県
国際大学埼玉短期大学	実証	埼玉県

②実践型グローバル専門人材分科会　構成機関

構成機関（学校・団体機関等）の名称	役割等	都道府県名
学校法人宮崎総合学院	統轄	宮崎県
学校法人浦山学園	調査・開発	富山県
学校法人麻生塾 麻生外語観光＆製菓専門学校	開発・実証	福岡県
学校法人穴吹学園 穴吹カレッジグループ	開発・実証	香川県
学校法人龍馬学園	開発・実証	高知県
学校法人龍澤学館	調査・開発	岩手県
学校法人九州総合学院	開発・実証	熊本県
公立大学法人首都大学東京産業技術大学院大学	開発・実証	東京都
一般社団法人国際フレンドシップ協会	調査	東京都
東京都中小企業団体中央会	開発	東京都
北京飯店／横浜中華街発展会協同組合	実証	神奈川県
株式会社アール・イー・アイ	開発	沖縄県
シック・エジュケーション	調査	東京都
株式会社オリジネーター	実証	東京都

③接続プログラム開発分科会　構成機関

構成機関（学校・団体機関等）の名称	役割等	都道府県名
日本電子専門学校	実証	東京都
専門学校 東京工科自動車大学校	実証	東京都
日本外国語専門学校	実証	東京都
NPO 私立専門学校等評価研究機構	統括補佐・調査	東京都
大阪工業技術専門学校	実証	大阪府
長崎国際大学	実証	長崎県
国際大学埼玉短期大学	実証	埼玉県
株式会社 KEI アドバンス	調査	東京都
株式会社教育企画センター	調査	東京都

④協力機関

構成機関（学校・団体機関等）の名称	役割等	都道府県名
宮崎大学	助言	宮崎県
TDF 株式会社	調査	宮城県
じゃかるた新聞	調査	インドネシア
海外産業人材育成協会(HIDA)	調査	東京都
（株）アセアン・ビズ・コンサルタンツ	調査	東京都
河合塾グループ総合企画本部事業企画推進部	調査	愛知県

⑤接続プログラム開発分科会/調査チーム

構成機関（学校・団体機関等）の名称	役割等	都道府県名
NPO 私立専門学校等評価研究機構	統括補佐・調査	東京都
株式会社 KEI アドバンス	調査	東京都
（株）アセアン・ビズ・コンサルタンツ	調査	東京都
株式会社教育企画センター	調査	東京都

⑥接続プログラム開発分科会/カリキュラム作成チーム

構成機関（学校・団体機関等）の名称	役割等	都道府県名
日本電子専門学校	実証	東京都
専門学校 東京工科自動車大学校	実証	東京都
日本外国語専門学校	実証	東京都
株式会社 KEI アドバンス	調査	東京都
NPO 私立専門学校等評価研究機構	統括補佐・調査	東京都

第０部　はじめに

第1章　事業概要

本事業では、成長が期待される東南アジア市場で活躍するグローバル専門人材の育成環境を構築するにあたり、東南アジア地域の経済発展に着目し、現地国の職業教育体制確立支援につながる専門分野の職業教育カリキュラムを日本の専門学校のカリキュラムへの接続の視点から開発を行うものとする。

第2章　事業の内容について

2.1　調査報告

現地の職業教育の現状、日本の教育機関の活動状況、今後の政策的動向、進出日本企業の人材需要などに関する現地調査、文献調査を行う。本年度はインドネシア、タイについて実施し、その結果を調査報告書としてまとめた（第１部調査報告、巻末資料集参照)。

※本年度事業では、当初計画で想定していた予算・調査機関から改めて勘案した結果、最大限の効果を生むために本年度は調査・分析対象国をインドネシア、タイの２カ国調査とし、その上で当該国職業高校の既存カリキュラムと日本国内カリキュラムとの接続の可能性についての検討比較を行うものとした。

2.2　東南アジアの職業高校教育内容の現状と、日本の専門学校との接続について

調査結果を踏まえた上で、東南アジア現地での基礎教育と日本でのより高度な教育がプログラム上接続するカリキュラム案を具体的に作成し、東南アジア現地での学習については、カリキュラム、教材はもとより、教員の調達、学校の運営などの具体策を東南アジア諸国の実情に即して作成する。あわせて、基礎教育を終え日本に留学した学生に対してのより高度なプログラムのありかた（新たな開発を含む）と運営法を作成することを目標とする。

本年度は上記①調査報告によって、現地の動向としては現状学歴社会ながらも職業教育へシフトしようとしている段階であり、その段階において、東南アジア各国で ISO 認証など新たな職業教育プログラムに取り組んでいる最中であることがわかった。そこで、本年度は、現地の人材需要の状況を職業教育動向から、日本での職業教育、カリキュラムが今後現地でどのように活かされうるかに着眼し、日本の専門教育の「国際通用性」を発揮できる分野・制度を現地職業教育の各種分野内に発見し、現地職業高校における教育カリキュラムと日本国内専門学校教育との接続の可能性・発展性を検証・提案した。あわせて次年度のより具体的な活動への課題をあげた（第２部開発報告、第３部総合報告参照)。

第3章　事業の実施意義や必要性について

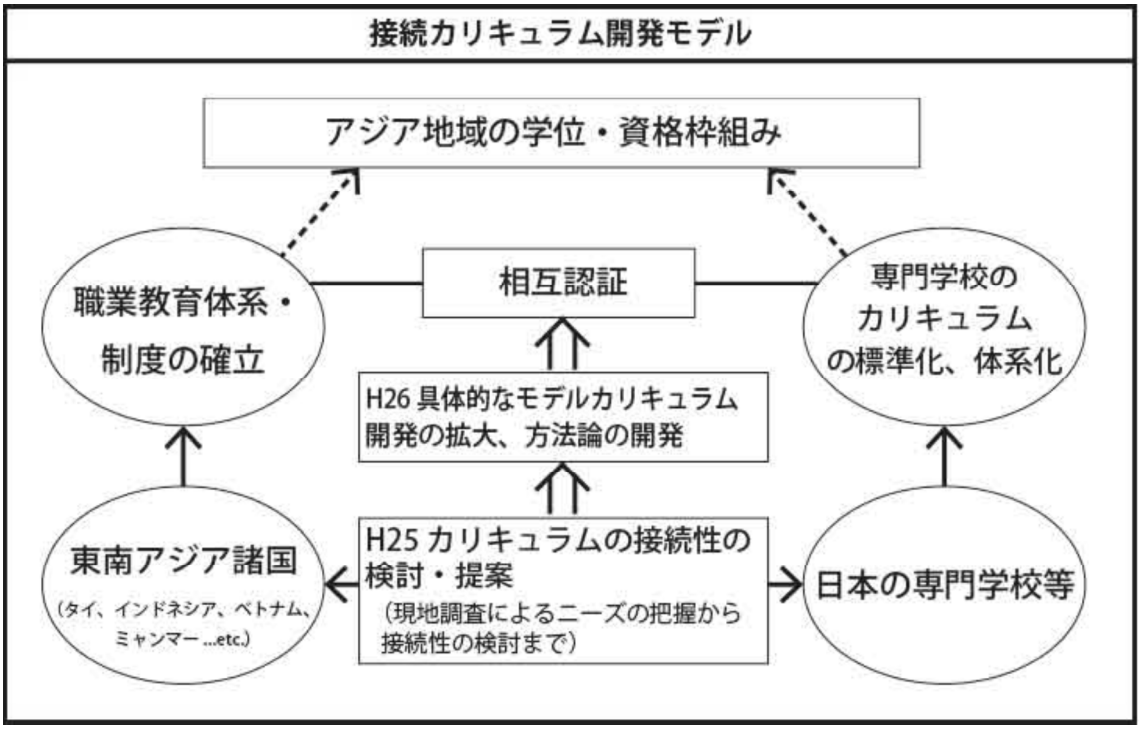
ボローニャ宣言（１９９９年）以降のヨーロッパの学位・資格枠組み形成の動きに呼応し、アジアにおいてもこうした枠組みの検討が始まりつつある（ｃｆユネスコ「アジア・太平洋地域における高等教育の資格の認定に関する地域条約（１９１１年条約改正会合）」）。

とはいえ、東南アジア地域においては、著しい経済発展にくらべて職業教育分野の基盤はまだまだ未整備の状態にある。

日本においては、専門学校を中心に職業教育の諸分野において実効性のある高度なカリキュラムによる教育実践がなされているが、これらの諸分野の職業教育を体系化し、それぞれのカリキュラムを標準化する動きは、これまでは不活発であった。

こうした中、東南アジア諸国では、諸分野の産業発展に必要とされる人材育成基盤が未整備のため発展に対応する人材の不足が問題化している。また日本においても職業教育の位置づけをめぐって制度整備やこれに求められる質保証が論じられる過程で、海外とも共通する職業教育の標準化と体系化が意識されるにいたっている。

そこで、日本の優れた職業教育を、東南アジア諸国の職業教育体系整備のモデルとすべく、その基礎的な研究として、個別分野において日本の専門学校教育に接続可能な東南アジアにおける基礎教育カリキュラムと高度な日本の専門学校教育との接続性の実現には双方にとって大きな意義がある。加えて、その結果として、東南アジア地域の留学生が、日本モデルの下に開発された現地での基礎学習を経て、日本の専門学校でその学習を継続する形で入学してくることは、日本の専門学校にとって、留学生の安定的な確保と高い質の保持が可能となるメリットもあることが考えられる。



なお、本事業は、２年間に及ぶ取組が想定されている。したがって、平成 26 年度以降も引き続き、関連する専門学校や団体・企業等の組織化を図り、事業成果の発展・充実化と普及に努め、目標とする具体的で高度なモデルプログラムと運営法の作成に努めるものとする。その上で、本事業で開発した教育プログラムや運営法を、東南アジアと連携したグローバル専門職業人養成に臨む各校が導入・活用し易くするための仕組を整備することに実施意義がある。これにより、新領域・新設コース等の展開を支援したり、専門学校における当該人材育成の気運の高まりを促進したりすることをあわせて期待する。

第 1 部　調査報告

現地の職業教育の現状、日本の教育機関の活動状況、今後の政策的動向、進出日本企業の人材需要などについて、現地調査、文献調査をタイ、インドネシアについて実施、その結果を調査報告書としてまとめる。

第 1 章では、インドネシア、タイの人口、面積等の基礎情報、産業・経済、日本との二国間関係を整理するとともに、ASEAN 経済共同体発足の各国に与えている影響等について整理する。第 2 章では、現地の職業高校、専門学校に現状について整理する。具体的には、学校教育制度、職業高校の体系化、品質管理、分野別の特徴について整理する。加えて、職業高校、専門学校の実態及び学生、教員のニーズを把握するために実施したアンケート調査の結果について報告する。また、現地で入手したカリキュラムを整理する。第 3 章では、既存の文献をもとに、進出日本企業の人材需要を整理する。第 4 章では調査結果のまとめを述べる。

第1章　インドネシア・タイの概観

1.1　基礎情報

近年の日本企業の海外進出先として、インドネシア・タイ両国は重要な位置を占めている。図 1 から、依然として中国が進出先のトップであることに変わりはないが、近年は中国依存から、徐々に ASEAN にシフトしてきていることがわかる。更に表 2 をみると、その ASEAN の中でも進出先として注目されているのは、インドネシア、ベトナム、タイであることがわかる。よって、進出先の国の雇用も増加していることが想定され、職業高校や、専門学校の学生も日系企業への就職が増加していると推察される。また、日本語や日本文化の教養は日系企業に就職する際には、重要なファクターとなりうるため、海外での日本語教育状況についてみてみる。表 3 より海外の日本語学習者数推移をみると、インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシア、フィリピンが上位である。その中でも学習者数の絶対数はインドネシアが圧倒的に多く、また、2009 年から 2012 年までの増加率をみると、タイが急激に増加していることがわかる。

表 4 より、2 国それぞれの従属人口のうち 15 歳未満の人口比率は、20%以上と高く、今後、日本と両国との接続プログラムを開発した際、両国にとっても長期間貢献することができると考えられる。タイはインドネシアに比べ高齢化がすすんでいるが、日本企業の海外進出先の上位の国であることを考えると、その存在は無視できない。

また、現地の学生が現地の日系企業に就職することを考えると、日本に対する印象をどのように持っているかが就職先決定の一つの重要ファクターとなりうる。図 2 より、アジアの国は中国、韓国を除けばフィリピンに親日度が高く、インドネシア、タイについても 90%以上が日本を好きと回答している。

インドネシア、タイで人材需要の高い自動車をはじめとした製造業、IT 産業、さらには日

本市場でのサービス提供が期待される介護等の分野に着目して接続を検討することが望まれる。

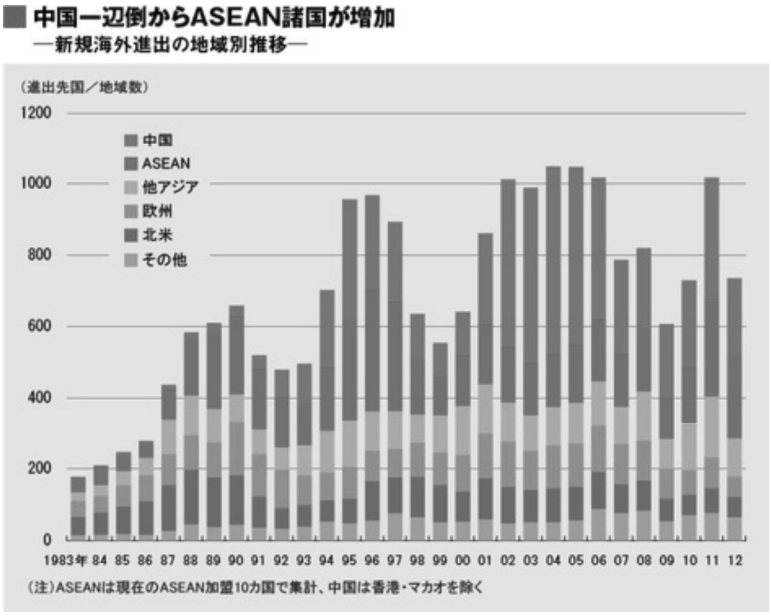


図 1　新規海外進出の地域別推移

出所：東洋経済 ONLINE「最新「海外進出先ランキング」TOP50」

表 1　新規海外進出国のトップ 10 の推移

順位	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年 判明分）	2013年 予定）
1	中国	中国	中国	中国	中国	中国	中国
2	アメリカ	アメリカ	アメリカ	インド	インド	インドネシア	インドネシア
3	タイ	タイ	ベトナム	アメリカ	タイ	タイ	インド
4	インド	インド	タイ	タイ	アメリカ	アメリカ	ベトナム
5	ベトナム	ベトナム	インド	シンガポール	インドネシア	ベトナム	メキシコ
6	韓国	台湾	香港	香港	ベトナム	インド	韓国
7	香港	シンガポール	韓国	ベトナム	シンガポール	シンガポール	タイ
8	イギリス	韓国	シンガポール	韓国	韓国	韓国	アメリカ
9	オランダ	ドイツ	ドイツ	香港	香港	香港	香港
10	メキシコ	香港	ロシア	台湾	台湾	マレーシア	台湾
トップ10圏外時のインドネシア順位	14	21	14	11			

表 2　2012 年　新規進出先トップ 30

順位	進出先（国・地域）	件数	世界家に対する構成比
1	中国	211	28.7%
2	インドネシア	70	9.5%
3	タイ	61	8.3%
4	アメリカ	51	6.9%
5	ベトナム	42	5.7%
6	インド	40	5.4%
7	シンガポール	28	3.8%
8	韓国	23	3.1%
9	香港（中国）	22	3.0%
10	マレーシア	19	2.6%
10	メキシコ	19	2.6%
12	ブラジル	16	2.2%
13	台湾	15	2.0%
13	イギリス	15	2.0%
15	ロシア	12	1.6%
16	カンボジア	8	1.1%
16	ドイツ	8	1.1%
18	オーストラリア	7	1.0%
19	フィリピン	6	0.8%
19	ミャンマー	6	0.8%
19	カナダ	6	0.8%
22	バングラデシュ	5	0.7%
22	オランダ	5	0.7%
24	アラブ首長国連邦	4	0.5%
24	トルコ	4	0.5%
26	カタール	2	0.3%
26	フランス	2	0.3%
26	スイス	2	0.3%
26	イタリア	2	0.3%
26	パナマ	2	0.3%
26	ケニア	2	0.3%

表 3 海外の日本語学習者数増減

順位	国・地域名	学習者数（人）		増減率（%）
		2012年	2009年	
1	中国	1,046,490	827,171	26.5
2	インドネシア	872,411	716,353	21.8
3	韓国	840,187	964,014	▲ 12.8
4	オーストラリア	296,672	275,710	7.6
5	台湾	233,417	247,641	▲ 5.7
6	米国	155,939	141,244	10.4
7	タイ	129,616	78,802	64.5
8	ベトナム	46,762	44,272	5.6
9	マレーシア	33,077	22,856	44.7
10	フィリピン	32,418	22,362	45.0

出所：国際交流基金「2012 年度　日本語教育機関調査　結果概要」

表 4 国別人口データ

年次	総人口 (1,000人)	女 (%)	年平均増加率 (%)	従属人口(%) 15歳未満	65歳以上	中位年齢(歳)	総人口 (1,000人)	女 (%)	年平均増加率 (%)	従属人口(%) 15歳未満	65歳以上	中位年齢(歳)
	インドネシア						タイ					
1950	74,837	50.4	..	39.2	4.0	20.0	20,607	49.8	..	42.1	3.2	18.6
1960	91,947	50.3	2.1	39.9	3.6	20.1	27,312	49.8	2.9	42.7	3.3	18.8
1970	118,362	50.2	2.6	43.2	3.3	18.6	36,915	49.7	3.1	44.1	3.4	18.0
1980	150,820	50.1	2.5	41.1	3.6	19.1	47,483	49.8	2.5	39.4	3.6	19.7
1990	184,346	50.0	2.0	36.5	3.8	21.3	57,072	50.3	1.9	30.1	4.6	24.4
2000	213,395	50.0	1.5	30.7	4.6	24.4	63,155	50.8	1.0	24.0	6.9	30.2
2010	239,871	50.1	1.2	27.0	5.6	27.8	69,122	50.9	0.9	20.5	8.9	34.2
2020	262,569	50.2	0.9	23.5	7.0	31.4	72,091	51.0	0.4	17.1	12.3	38.2
2030	279,659	50.4	0.6	20.1	10.5	35.1	73,321	51.2	0.2	15.1	17.6	41.8
2040	290,223	50.5	0.4	17.9	14.9	38.5	72,994	51.3	−0.0	14.6	22.2	44.8
2050	293,456	50.7	0.1	16.5	19.2	41.6	71,037	51.2	−0.3	14.4	25.1	46.8

出所：総務省統計局「世界の統計 2013」

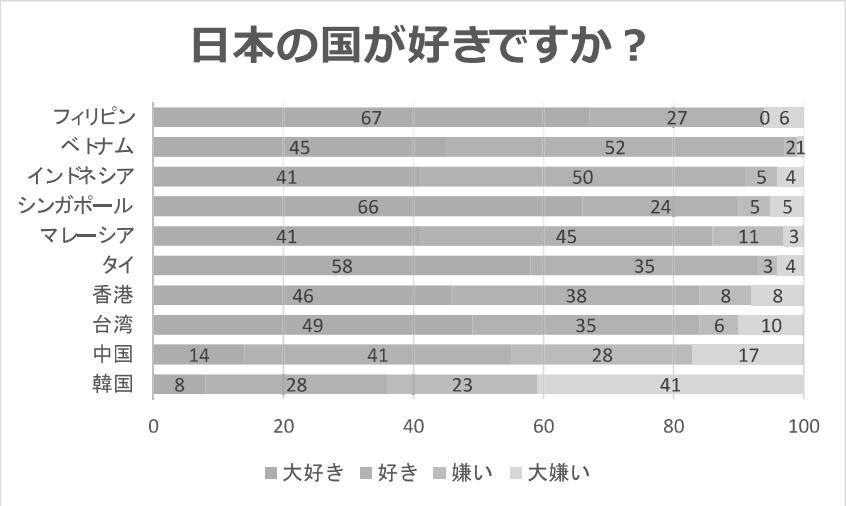


図 2 親日度調査

出所：アウンコンサルティング株式会社「アジア 10 ヶ国の親日度調査」

インドネシア（正式名称：Republic of Indonesia、インドネシア共和国）は、東南アジアの南に位置し、人口約 2.38 億人を有する協和制の国である。公用語はインドネシア語。国土は 189 万平方キロメートルあり、日本の約 5 倍である。東西に 5110 キロメートルもあり日本からシンガポールまでの距離（5,325 キロメートル）に匹敵する。島の数は、13,466 もある。首都はジャカルタ（人口：960 万人）で、ジャカルタを中心としたジャワ島に人口の 6 割が集中している。そして、人口の 88%がイスラム教であり、世界最大のイスラム国として知られている。（表 2-6 参照）

タイ（正式名称：Kingdom of Thailand、タイ王国）は、図 3 に示すとおりマレーシアの北側に位置し、カンボジア、ラオス、ミャンマーに囲まれた国である。人口 6,593 万人を有する立憲君主制の国である。公用語はタイ語。国土は約 51 万平方キロメートルあり、日本の約 1.4 倍である。首都はバンコク（人口：820 万人）である。人口の 94%が仏教である。（表 5 参照）

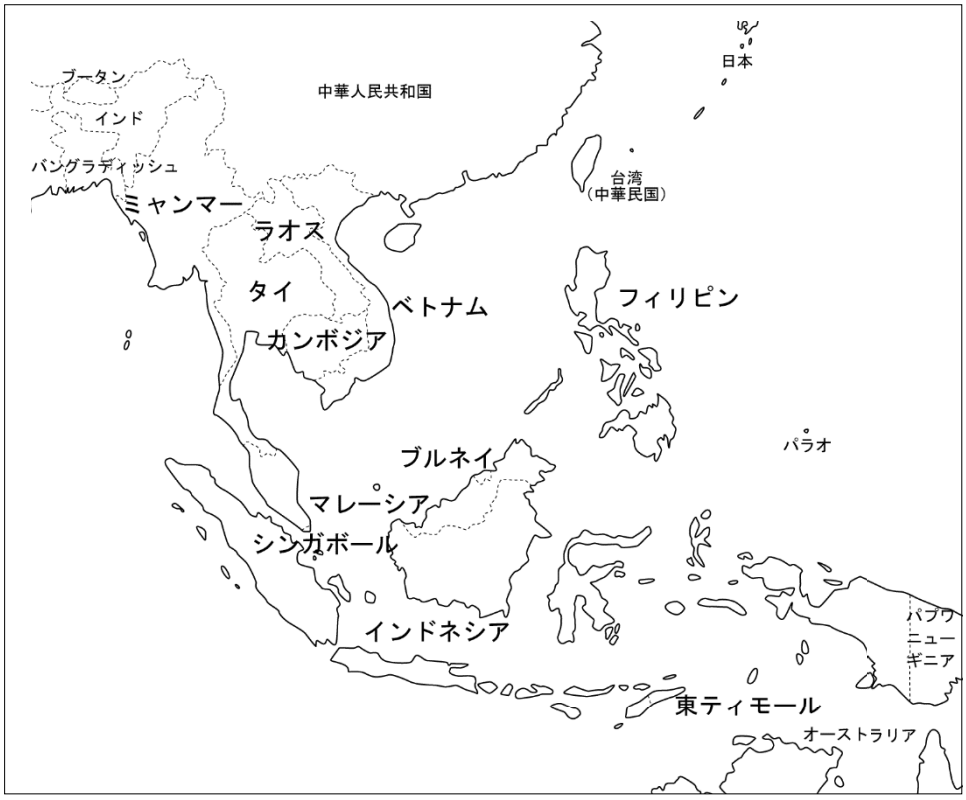


図 3　インドネシア・タイの位置図

表 5　インドネシア・タイの基礎情報

	インドネシア共和国	タイ王国
面積	約 189 万平方キロメートル （日本の約 5 倍）	51 万 4,000 平方キロメートル （日本の約 1.4 倍）
人口	約 2.38 億人（2010 年）	6,593 万人（2010 年）
首都	ジャカルタ（人口 960 万人：2010 年）	バンコク
政治体制	大統領制、共和制	立憲君主制
公用語	インドネシア語	タイ語
宗教	イスラム教 88.1%、キリスト教 9.3%（プロテスタント 6.1%、カトリック 3.2％）、ヒンズー教 1.8％、仏教 0.6%、儒教 0.1%、その他 0.1%	仏教　94%，イスラム教　5%
民族	大半がマレー系（ジャワ、スンダ等約 300 種族）	大多数がタイ族。その他，華僑，マレー族，山岳少数民族等。
通貨	ルピア 1000 ルピア＝8.53 円、0.08 ドル （2014 年 1 月 6 日時点）	バーツ 1000 バーツ＝3,149 円、30.18 ドル （2014 年 1 月 6 日時点）
気候	赤道直下の熱帯性気候のため、乾季（4－9 月）と雨季（10-3 月）の二つの季節がある。乾季は湿度があまり高くならずに過ごしやすい。雨季は午後になるとスコールのような大雨が降り、湿度も高くなる。	熱帯に位置しており、年間を通じて気温は高い。バンコクと南部のマレー半島、北部の山岳地帯、東北部の高原地帯では気候が多少異なる。季節は一般的に雨季（6-10 月）、乾季（11-2 月）、暑季（3-5 月）の 3 つに分けられる。

出所：日本外務省（2013 年 10 月 24 日）「インドネシア共和国」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/data.html#04
日本外務省（2013 年 10 月 1 日）「タイ王国」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html#01

1.2　産業・経済

インドネシアの主要産業は、製造業であり、全体の 24%を占めている。GDP は約 91 兆円で一人当たり GDP は約 37 万円であり、それぞれ日本の 1/5 以下、1/10 以下の水準である。経済成長は、6.2%と高く、今後ますますの成長が見込める。貿易は、輸出、輸入ともに石油・ガスが 20%以上占める。貿易相手国としても日本は重要な位置づけとなっている。タイの主要産業は、製造業であり、全体の 34%を占めているものの就業者は、15%にとどまる。GDP は約 38 兆円で一人当たり GDP は約 56 万円であり、それぞれ日本の 1/10 以下、1/7 程度の水準である。経済成長は、6.4%と高く、インドネシア同様に今後ますますの成長

が見込める。貿易は、インドネシアと違いコンピュータ等の電子部品を輸入、輸出をしている。貿易相手国としての日本は重要な位置づけとなっている。

	インドネシア共和国	タイ王国
主要産業	製造業（24%）：輸送機器（二輪車など），飲食品など 農林水産業（15%）：パーム油，ゴム，米，ココア，キャッサバ，コーヒー豆など 商業・ホテル・飲食業（14%） 鉱業（12%）：LNG，石炭，ニッケル，錫，石油など （カッコ内は 2011 年における実質GDP構成比）（インドネシア政府統計）	農業は就業者の約 40%弱を占めるが，GDP では 12%にとどまる。一方，製造業は就業者は約 15%だが，GDP の約 34%，輸出額の 90%弱を占める。
GDP（名目 2012 年）	8,794 億ドル （約 91 兆円）	3,650 億ドル （約 38 兆円）
一人当たり GDP (2012 年)	3,563 ドル （約 37 万円）	5,382 ドル （約 56 万円）
経済成長率（2012 年）	6.2%	6.4%
貿易品目	輸出：石油・ガス（20.4%）、鉱物性燃料（13.5%）、動物・植物油（10.6%） 輸入：石油・ガス（22.9%）、一般機械機器（13.9%）、機械・電機部品（11.5%）	輸出：コンピューター・同部品，自動車・同部品，機械器具，電子集積回路，天然ゴム 輸入：原油，機械器具、電子部品
貿易相手国	輸出：1.日本（16.6%）、2.中国（11.3%）、3.シンガポール（9.1%） 輸入：1.中国（14.8%）、2.シンガポール（14.6%）、3.日本（11.0%）	輸出：1.中国　2.日本　3.米国 輸入：1.日本　2.中国　3.アラブ首長国連邦

出所：日本外務省（2013 年 10 月 24 日）「インドネシア共和国」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/data.html#04
日本外務省（2013 年 10 月 1 日）「タイ王国」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html#01
円換算は、1$=104 円で計算

1.3　二国間関係

インドネシアは日本に対して、石油・天然ガス等を輸出しており、2012 年には、日本に対して約 2.6 兆円輸出している。一方、日本からは、一般機械、電気機器などを輸入しており、年々増加傾向にあり 2012 年で約 1.6 兆円の対日輸入金額である。なお、日本は、インドネシアとは 2008 年経済連携協定を締結し、多くの物品の関税が撤廃されている。

タイは日本に対して、天然ゴム、自動車関連、コンピュータ関連を輸出しており、その額は年々増加している。2012 年には、日本に対して約 1.9 兆円輸出している。一方、日本からは、機械関連、鉄、自動車関連などを輸入しており、2009 年に減少するも再び増加傾向にあり 2012 年で約 3.5 兆円の対日輸入金額である。なお、日本は、タイとは 2007 年経済連携協定を締結し、多くの物品の関税が撤廃されている。

	インドネシア共和国	タイ王国
貿易主要品目	日本への輸出：石油・天然ガス、機械機器、銅鉱、エビ、天然ゴム、合板等 日本からの輸入：一般機械、電気機器、輸送用機器等	タイから日本への輸出：天然ゴム、自動車・同部品、コンピュータ・同部品 タイの日本からの輸入：機械・同部品，鉄・鉄鋼，自動車部品
貿易額 対日輸出 （億円）	2008年: 33,780 2009年: 20,376 2010年: 24,762 2011年: 27,160 2012年: 25,764	2008年: 21,522 2009年: 14,952 2010年: 18,400 2011年: 19,532 2012年: 18,857
対日輸入 （億円）	2008年: 13,036 2009年: 8,697 2010年: 13,945 2011年: 14,123 2012年: 16,187	2008年: 30,515 2009年: 20,697 2010年: 29,937 2011年: 29,885 2012年: 34,889
日本からの直接投資	24.6 億ドル（2012 年） （約 2,560 億円）	3,484.3 億バーツ（2012 年） （約 1.1 兆円）
在留邦人数	12,469 人 （2011 年 10 月 1 日）	55,634 人 （2012 年 10 月）
在日当該国人数	24,895 人 （2011 年 8 月末）	42,750 人 （2012 年 11 月 5 日）
二国間条約・取極	平和条約（1958 年），賠償協定（1958 年），友好・通商条約（1963 年），航空協定（1963 年），科学技術協力協定（1981 年），租税協定（1982 年），経済連携協定（2008 年）	修好宣言（1887 年），航空協定（1953 年），文化協定（1955 年），貿易取極（1958 年），技術協力協定（1981 年），青年海外協力派遣取極（1981 年），租税条約（1990 年），経済連携協定（2007 年），受刑者移送条約（2010 年）

出所：日本外務省（2013 年 10 月 24 日）「インドネシア共和国」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/data.html#04

日本外務省（2013 年 10 月 1 日）「タイ王国」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html#01

円換算は、1$=104 円、1THB=3.17 円で計算

1.4　ASEAN 経済共同体発足の影響及び統一カリキュラム開発の動向

今回の調査で、インドネシア、タイでは ASEAN 経済共同体発足の影響は少し異なることが分かった。インドネシアでは、ASEAN 経済共同体発足の関心度はそれほど高くない。本レポートの職業高校、専門学校のアンケート調査を担当したインドネシア大学の教授を含むチームメンバーは、ASEAN 諸国からの労働力供給に対する競争力のある人材の育成が課題であると認識していた。意識の高い層の存在するものの、国全体として意識はそれほど高くない。

一方、タイでは、ASEAN 諸国から安価な労働者が入ってくることに危機感を持っている。自国民の競争力向上の一つの手段として、主として技術力の高い日本の高専レベルの職業教育との接続を望んでいる。

今回調査で実施：

タイ職業委員会訪問　　日付：2014 年 1 月 8 日

面会者：副事務局長、国際部門担当委員

日本の専門学校と協力して学生たちの能力を挙げてゆくことは大歓迎である。

日本は他国と違い、人を育てることに長けている。我々タイの教育者としてその姿勢に大変共感できる。

2015 年にアセアン共同体がスタートする。優秀な技術者が国境に関係なく移動できることになる。それに備えてタイ国民は周辺国からの技術者に負けない技術力を持たなければならない。そこで、政府としても職業教育に力を入れようとしている。

日本との協力は、タイ国の経済における日系企業の状況からも双方にとって好ましいと思われる。

しかしながら、これまでも日本側から様々な話が寄せられながらも、なかなか実現に至らないことが多かった。現在、中国がタイの教育分野進出に大変積極的である。プロジェクト実施に至るまで実に早い。日本にもぜひスピード感を持って実現に向けて協力してほしい。

2 月に教育大臣が日本出張した。これは、普通校を見学するのではなく、日本の高専などの職業教育の現場を見学したいという目的からである。

今回、タイ職業教育委員会並びに SAP 専門学校で聞き取り調査した際に、アセアン各国の

新たな取り組みが分かった。観光分野では、ASEAN 統一カリキュラムの開発が進んでいる。2015 年 ASEAN 経済共同体発足に向けた取り組みの一つであり、ASEAN 各国の職業資格の相互認証による雇用流動化、観光産業のサービス品質向上を目的としている。協定の鍵となるのは ASEAN 諸国のツーリズムのスキルと資格の認証である。参加国は、ASEAN10 カ国であり、具体的には、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムである。

他国のツーリズム産業で就業するためには ASEAN 統一観光科カリキュラムで定められた特定のツーリズム職の能力証明書が必要であり、証明書は ASEAN 加盟国内の TPCB（ツーリズム専門人材認定委員会）が発行する。対象となる職種は 32 あり、、具体的には客室清掃、フロント、飲食サービス、旅行代理店、ツアーオペレーターなどがある。タイで入手した観光分野の ASEAN 統一カリキュラムの資料（下写真参照）では、見開きの片側がタイ語、他方が英語で説明が掲載されており、共通言語として英語が用いられている。

写真：観光分野の ASEAN 統一カリキュラムの資料表紙

第2章　現地の職業高校、専門学校の現状

2.1　学校教育制度

日本の修業年限は 6-3-3 が基本となっており、高校卒業後、専門学校で 1 ～ 4 年の修業年限を要する制度となっているが、インドネシア、タイではどうか。

(1)インドネシア

インドネシアの教育制度は、日本と同じ 6－3－3 制で、教育文化省が所管する小学校（SD：Sekolar Dasar）6 年、中学校（SLTP：Sekolah Lanjutan Tingkat Pertama）3 年、高校（SM：Sekolah Menengah）3 年の制度が基本である（図 2－1）。小学校と中学校の 9 年間が基礎教育の期間と考えられている。日本と違っているのは、教育文化省以外にもそれぞれ関連の学校を所管している省庁があることである。その中で最大なのは教育文化省所管の学校体系と平行して初等段階から高等段階まである宗教省所管のイスラム系学校である。

中等教育は前期中等教育（中学校）3 年間、後期中等教育（高校）3 年間に分けられる。前期中等教育は基礎教育に含められ、1994 年度から義務教育化された（2003 年度までに完全実施を目指している）。

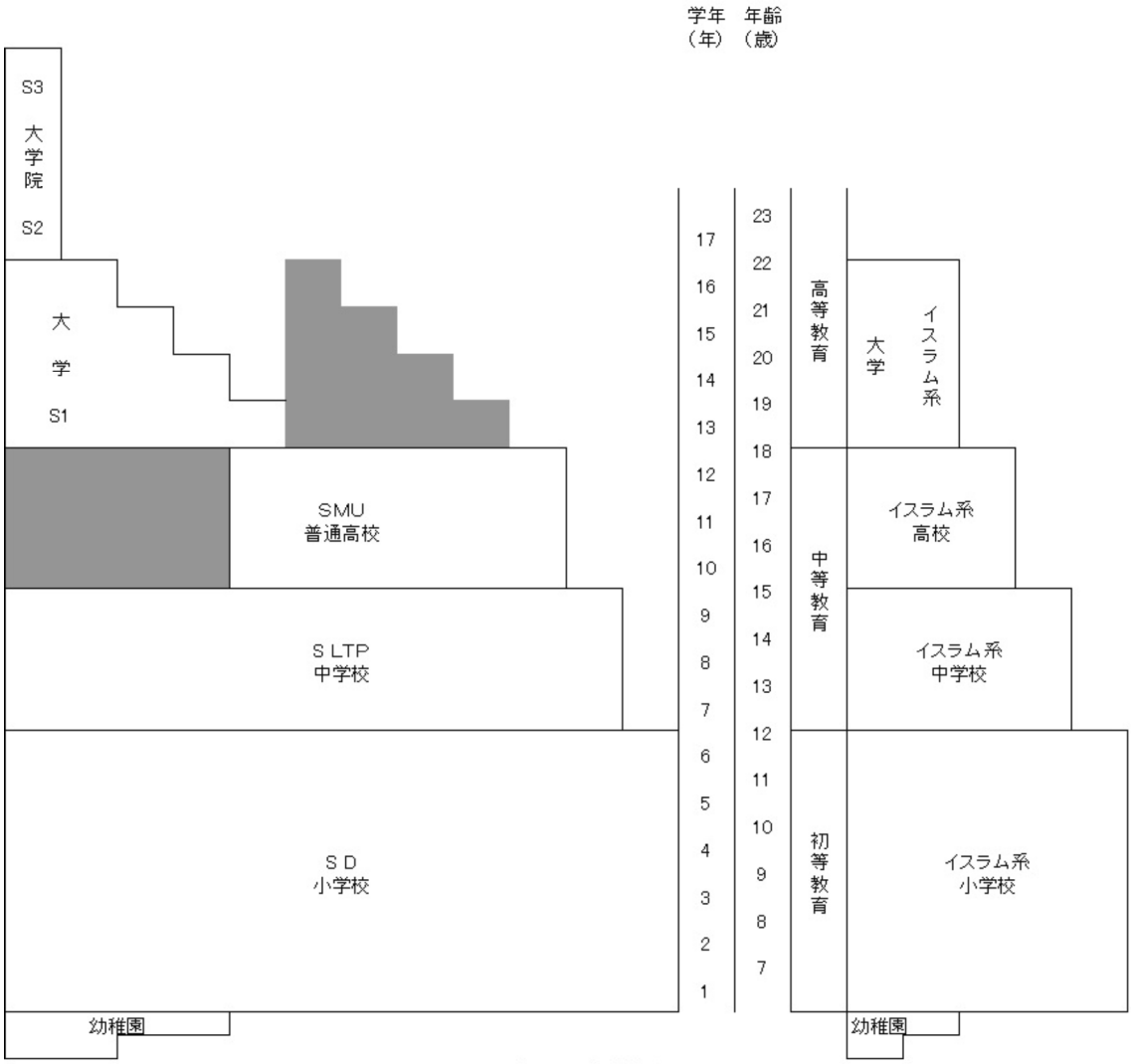
高校生徒の学齢は 16～18 歳である。粗就学率は宗教省所管の高校なども含め、1993 年度に 33.9%、1996 年度に 38.0%と推定されている。州別には、最高のジャカルタ特別区は 90.6%、最低の東ヌサテンガラ州は 26.4%であるなど、中学校以上の地域間格差が見られる。1994 年度の教育文化省所管の中学校 3 年生の内卒業した者は 94.5%、さらに、1995 年度に各種の高校へ進学した者の合計割合は卒業生の 91.3%である。普通高校（SMU）の他に商業高校、技術高校、その他の職業高校に分かれている。職業高校は SMK と呼ばれ、2013 年時点で約 1 万 1 千校存在する。

高等教育機関は学術的教育を行い、学位を出せる機関（大学）と、専門的・職業的教育を行い、終了証書のみを出せる機関（専門学校）の 2 つに区分される。学術的教育を行う大学は最低就学年限が 4 年（旧制度では 5 年）で、卒業生はサルジャナ（学士）の学位を得る。さらに大学院へ進学することにより、マギステル（修士）、さらにドクトル（博士）の学位を修得できる（以下、S1、S2、S3 と略記）。一方専門的・職業的な教育を行う専門学校は就学年限によって、ディプロマ 1～4 の課程に分かれる（以下、D1、D2、D3、D4 と略記。ディプロマ課程全体は SO と略記）。

高等教育機関の種別は、総合大学（Universitas）、専門大学（Institut）、単科大学（Sekolah Tinggi）、ポリテクニック（Politeknik）、アカデミ（Akademi）の 5 つである。最初の 3 つまでが学術的教育および専門的・職業的教育を行う機関であり、後の 2 つが専門的・職業的教育のみを行う機関である。

職業教育に着目し、改めて整理すると、SMK と呼ばれる職業高校（修学年限 3 年）、専門学校（修学年限 1 から 4 年）が存在する。学校制度面では、日本の学校制度とのなじみ

は良い。



インドネシアの教育体系

出所：外務省ホームページ

(2)タイ

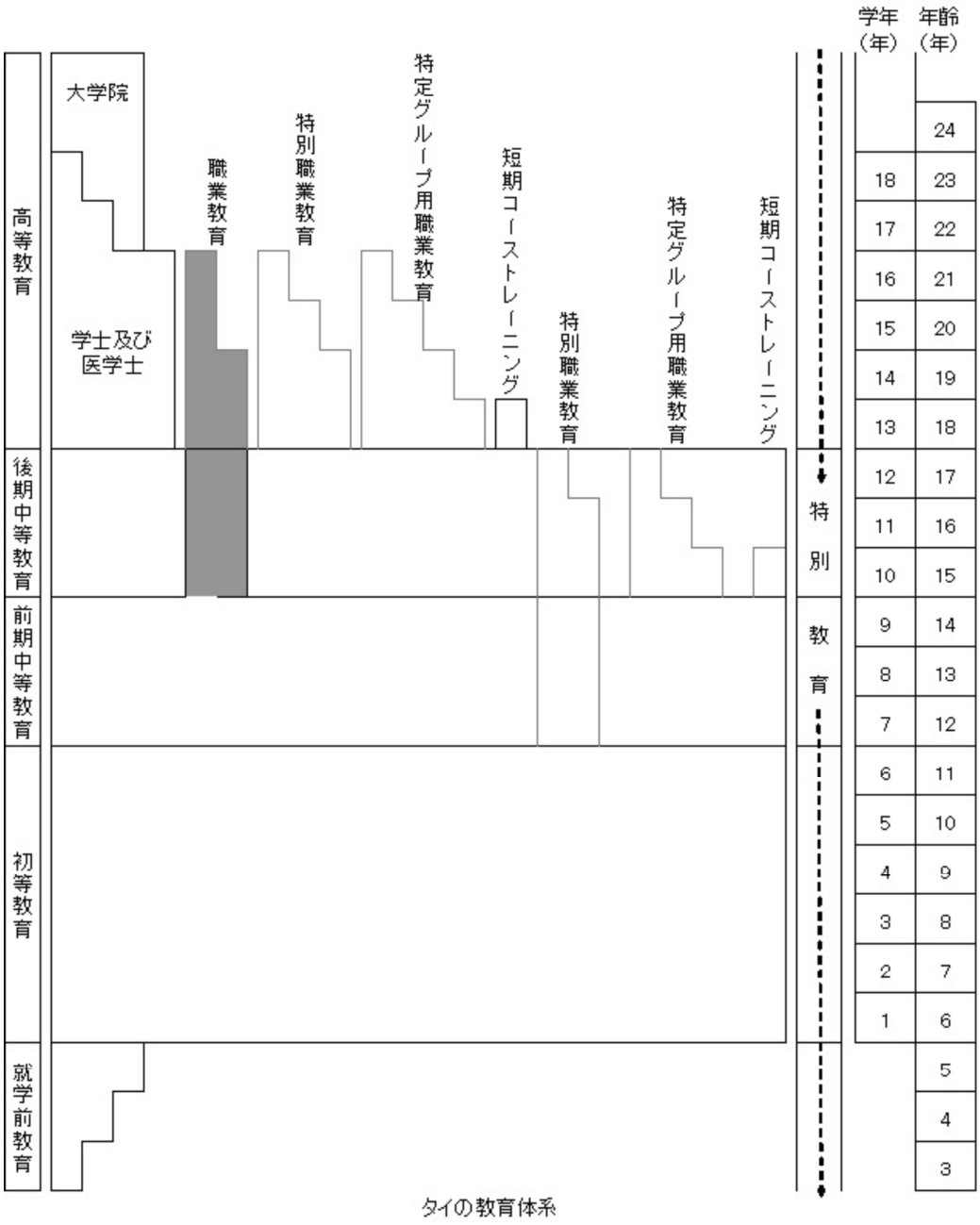
タイの学校教育制度は基礎教育と高等教育で構成される。基礎教育は，初等教育（第１～６学年），前期中等教育（第７～９学年），後期中等教育（第 10～12 学年）の３つの教育段階で提供される 12 年間の教育を指す。後期中等教育段階で生徒は普通教育と職業教育を選択し，この時点で専門教育が始まる。普通教育を受ける生徒は学術機関でのさらなる学習に備え，職業教育を受ける生徒は労働市場に参入するための訓練を受ける。職業教育を受けた生徒は職業・技術カレッジに進学し継続的に教育を受ける場合もある。

高等教育は短期大学レベル（ディプロマ）の課程と大学レベル（ディグリー）の課程に分けられる。短期大学レベルの修学年限は１～４年で，修了者には卒業証書または学位（ディプロマ）が授与される。大学レベルの課程はさらに大学と大学院に細分類され，大学は４年教育１となっている（建築学課程や医学課程の履修期間は６年）。

大学院は学士課程（１年），修士課程（２年），博士課程（３年）から成る。１９９９年の新国家教育法の制定により，２００２年３月から６年間の義務教育から６・３年制の９年間に延長された。

教育制度は，１９７８年より日本と同じ６・３・３・４制が採用されており，義務教育は現在小学校６年間であるが，中学校まで延長（義務教育９年）され，高等学校にも無償教育制度が導入される事となっている。

職業教育は、日本の高専と同様な制度となっており、高校レベルの教育を３年受けた後に、引き続き、専門学校レベルの教育を２年、４年と受ける仕組みとなっている。タイの専門学校との接続を検討の際は、学校制度の面での検討が必要である。



タイの教育体系

出所：タイ教育省

2.2　各国職業教育の特徴

(1)インドネシア

職業関連に関する政策では、労働移住省（ The Ministry of Manpower and Transmigration）傘下の訓練・生産性開発総局（The Directorate General of Training and Productivity Development）の政策が重要である。訓練・生産性開発総局は、2008 年に、「インドネシア人材の競争力増強のための訓練及び生産性の再活性化」を策定した。そこでは以下の 6 項目が重点政策となっている 。

- 訓練及び生産性の規則の強化
- 訓練及び生産性のインフラ強化
- 訓練及び生産性の人的資源を含む資源の品質開発
- 訓練及び生産性の制度、手段の強化
- 訓練及び生産性の予算、金融の強化
- 訓練及び生産性の関連機関の実践の活性化

インドネシアでは職業訓練は労働移住省および教育省によって所管されている。労働移住省では、職業訓練所（Blai Latihan Kerja）、訓練・生産性向上センター（Bedan Pelatihan dan　Produktivitas）を運営している。職業訓練所は労働移住省直営のものが 6 つ（セラン、メダン、スラバヤ、サマリンダ、マカッサル、レンバンにある）、地方政府が管轄するものが約 150 存在する。労働移住省直轄の 6 センターはインドネシアの職業訓練の先導的施設として、情報提供、システム開発、セミナーの実施などを行っている。
労働移住省に所轄されている職業訓練に加えて、教育文化省管轄で職業教育も実施している。職業教育の目的は学生が就業前に必要な専門的技能を身に付ける事によって、社会に円滑的に参加できるようにすることである。並びに、インドネシア国内の雇用者技術（特に労働集約的第三次産業）の底上げも政府の狙いである。

(2)タイ

2003 年に職業教育の主要機関として、教育省の下で職業教育局（Department ofVocational Education）を改組し、職業教育委員会（Vocational Education Commission）が設立された。職業教育委員会は技術短大、職業教育短大など 400 以上の機関を管轄している。
職業教育委員会が設置した教育政策の一つに技術・職業教育（Technical and Vocational Education）がある。また、労働社会福祉省の技能開発局（Department of Skill Development）は在職労働者の職業訓練を担っている。

タイでは職業教育は高く評価されており、後期中等教育として職業教育機関が選択されるケースが多い。教育制度内での職業教育は教育省が担っている。教育省が管轄する職業

高等専門学校としては、技術短大、職業短大、農業短大、技術管理短大、工業・商業短大、マルチ・デューティ短大がある。学位を与える 4 年制の職業教育機関としては、キングモンクット工科大学（大学庁管轄）、ラジャマンガラ工科大学（Rajamangala Universities of Technology）がある。

労働福祉省は、学校制度外の職業教育を担い、「技能開発センター」を全国に展開している。「中央技能開発センター」「地域技能開発センター」「県技能開発センター」に分かれている。

職業教育委員会と労働福祉省は、産業界のニーズに合わせた教育を目指し、協力・提携を強めており、OJT、企業内訓練支援など様々な試みを行っている。

出所：経済産業省　平成２０年度アジア産業基盤強化等事業（AMEICC/COE - PDP 評価調査）報告書

職業高校３年制　コースリスト
カリキュラム 2003(改訂版)

コード	[プログラム]	専攻数	専攻分野					
2101	機械工学	5	自動車	産業機械	船舶機械	農機	鈑金・塗装	
2102	工具とメンテナンス	7	機械工具	メンテナンスツール	製図	機械部品	インジェクション金型 プレス金型	皮革なめし
2103	金属	2	金属溶接	バス車体組立				
2104	電気、電子	5	電源	エレクトロニクス	電気通信	メカトロニクス	コンピュータ技術	
2106	建築	5	構造建築	土木	建築	家具、内装	測量	
2112	印刷	1	印刷					
2116	眼鏡とレンズ	1	眼鏡とレンズ					
2117	造船	5	金属船	木造船	ファイバーグラスボート	水辺の建築	船メンテナンス	
2122	ゴム製品	1	ゴム製品					
2201	商業	9	会計 販売	秘書 オフコン	小売業 医療ビジネス	7. 広報 8. 外国語	9. 視覚障害者向け事務作業	
2202	サービス業	2	セキュリティ	クリーニング				
2301	美術	15	美術 デザイン 芸術品、工芸品	本革製品 陶芸	写真・ビデオ撮影技術 宝石装飾	金細工 芸術 スクリーン印刷	コンピュータ・グラフィックス 貴金属	各国音楽 歯科技工
2401	布と衣服	5	繊物の生産、加工	衣装デザイン	縫製	規格服	服飾ビジネス	
2402	食品および栄養学	3	食糧 および栄養物	食品加工	食品事業			
2403	家政科	4	製造業の家政学	サービス業の家政学	経営の家政学	ホテル業の家政学		
2404	美容	1	美容					
2501	農業	6	植物科学	生物学	農機	アグロ産業	農業	水産業
2601	養殖	1	養殖業					
2602	水産加工	2	水産加工	すり身処理および製品				
2603	海洋水産	1	海洋水産					
2701	観光	2	ホスピタリティ	観光				
2801	繊維	1	繊維					
2802	化学繊維	1	化学繊維					
2803	織物	1	織物					

出所：タイ職業 教育委員会

２年制専門学校　コースリスト（1/2）
2003　改訂版

コード	[プログラム]	専攻数	専攻分野					
3101	機械	8	自動車技術 産業用機械	船舶機械 農機	5 海洋船舶機械工	6 飯金、塗装	7 発電機メンテナンス	環境技術
3102	生産技術	6	マシンツール	ジグと取付具	プレス金型	インジェクション金型	農機	環境技術
3103	金属加工	5	産業用溶接技術	溶接技術	産業用パイピング	バス車体組立	環境技術	
3104	電力	8	電子機器 インストレーション	3 クーラーとエアコン	産業用機器 電気設備	6 配電システムとデバイスメンテナンス	7 電子機器メンテナンス	8 発電技術
3105	エレクトロニクス	4	産業用エレクトロニクス	コンピュータ技術	通信システム	オーディオ/ビデオシステム		
3106	建設	2	建設技術	施工管理技術				
3107	家具産業	3	家具産業	インテリア設計	室内装飾			
3108	建築技術	1	建築技術					
3109	調査	1	調査					
3110	機械製図	2	製造図面の設計および製図	環境技術				
3111	産業技術	11	機械セットアップとメンテナンス 製造業	ゴム、プラスチック産業 靴産業技術	米産業技術 キャッサバ産業技術	物流産業技術 パーム油産業	9.自動車生産管理技術	発電機操作技術 環境技術
3112	印刷技術	1	印刷					
3116	眼鏡とレンズ	1	眼鏡とレンズ					
3117	造船	1	造船					
3118	金属鋳造	1	金属鋳造					
3119	電気通信	4	電話システム	屋外配線	データ通信・ネットワーク・システム	無線通信システム		
3120	測定器具	6	計測技術と管理	石油技術	ガス技術	計測	石油掘削技術	環境技術
3121	土木技術	1	土木技術					
3122	ゴム、ポリマー素材技術	1	ゴム、ポリマー素材					
3123	化学産業	1	化学産業					
3124	石油化学。	1	石油化学製品。					
3125	鉱山技術	1	鉱山					
3127	メカトロニクス	1	メカトロニクス					
3128	コンピュータ技術	4	ハードウェア	ソフトウェア	ネットワークおよび情	マルチメデア		
3130	環境技術	1	環境					
3131	災害予防と復旧	1	火災予防と消火					

２年制専門学校　コースリスト（2/2）
2003　改訂版

コード	[プログラム]	専攻数	専攻分野					
3201	会計	2	会計	コンピュータ会計				
3202	マーケティング	2	マーケティング	穀物取引				
3203	秘書	1	秘書					
3204	オフコン	4	プログラム開発	Web 開発	オフィス用コンピュータービジネス	ＣＧ		
3205	金融、銀行	2	政府、民間企業の財務	自営業の財務				
3206	国際貿易	1	国際貿易					
3207	人材管理	1	人材管理					
3208	保険事業	1	保険事業					
3209	医療ビジネス	1	医療ビジネス					
3210	広告と広報	2	広告	広報				
3211	小売業の経営管理	8	1 一般的な小売業	2 コンビニエンス・ストア	3 百貨店ビジネス	大規模商店 スーパーマーケットビジネス	専門店ビジサービス業	8 レストラン業
3212	ビジネス外国語	5	英語	中国	日本	フランス語	ドイツ語	
3213	商品管理	1	商品管理					
3214	物流管理	3	配送管理	倉庫管理	通関業者			
3215	一般管理	1	一般管理					
3216	事務管理	1	事務管理					
3217	E-コマース	1	E-コマース					
3218	イベント企画	1	イベント企画					

2.3　職業教育の品質

日本では、高等専門学校評価基準に基づき独立行政法人大学評価・学位授与機構が評価している。また、また、特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構は、専門学校での「自己点検・評価」「第３者評価」の唯一の組織として存在している。 インドネシア、タイではどうか。

(1)インドネシア

日本と同様に、第三者機関による評価が行われている。その評価は厳しく、コンピューター・経理・林業・商業コースでは評価基準を満たしているものの、その他のコースは未だにその評価基準に達していないものが多い。

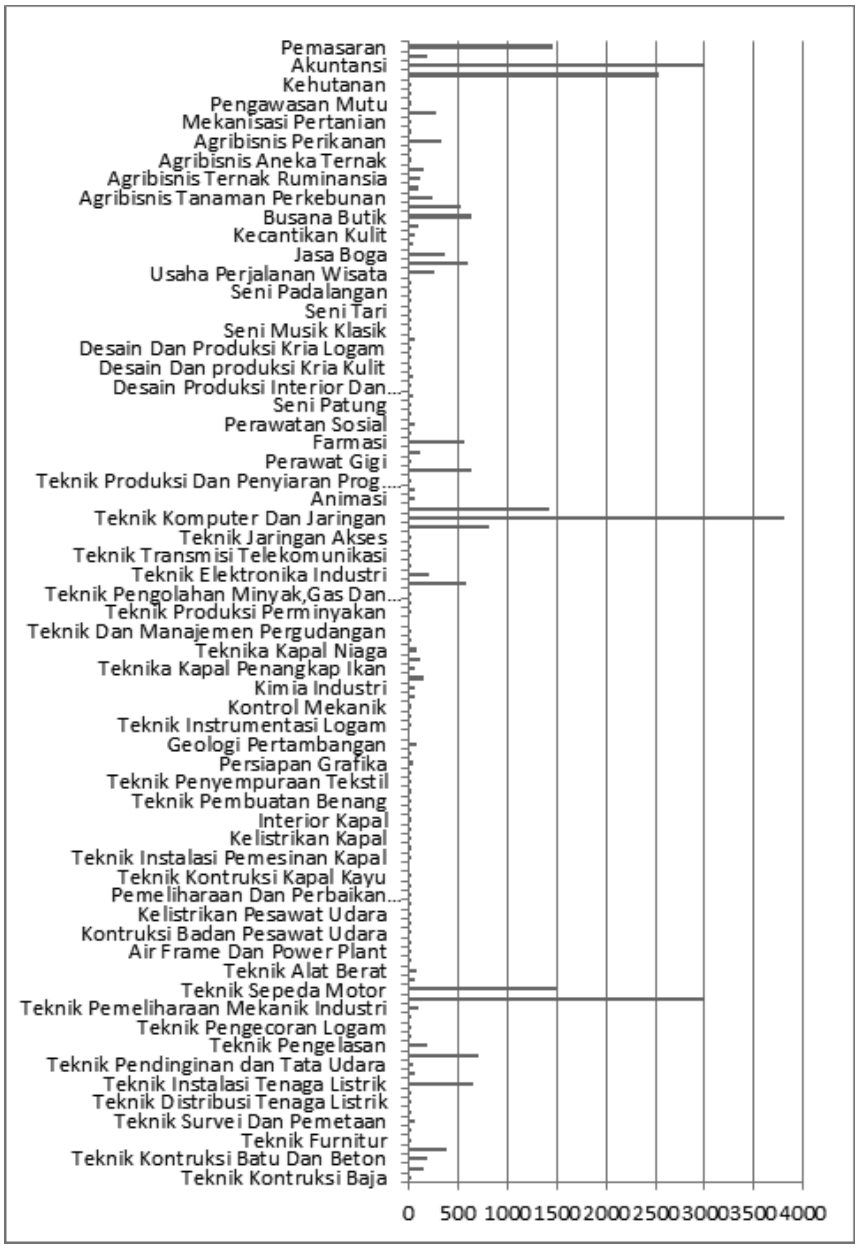


図 4　既に評価基準を満たしている職業高校の各コース

ISOを取得している学校も多くあり、本レポートでのアンケート調査によると41.8%がISOを取得していると回答した。
接続カリキュラムを開発する際には、インドネシア国内の外部評価、ならびにISOへの配慮が必要となる。

表 6　ISOの取得状況

			4 つの主要な都市				
			バンドン	ジャカルタ	デンパサール	スマラン	合計
Iso を取得しているか?。	はい	回答数	16	3	8	16	43
		%	100 %	18.8%	50.0%	100 %	41.8%
	いいえ	回答数	0	13	8	0	21
	-	%	0%	81.3%	50.0%	0%	32.8 %
合計		回答数	16	16	16	16	64
		%	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %

出所：本レポートでのアンケート調査

(2)タイ

タイも日本と同様に、外部機関であるONESQA（Office for National Education Standards and Quality Assessment）により、評価基準の設定、それに基づく教育機関の評価が実施されている。

また、インドネシアと同様に、ISO取得を行っている学校がある。
接続カリキュラムを開発する際には、インドネシア国内の外部評価、ならびにISOへの配慮が必要となる。

2.4　分野別の特徴

日本は、職業教育は高度なマネジメントが行われてり、比較するためのデータも充実している。インドネシア、タイでは全国で収集整理されたデータを入手することが困難であるが、入手できるデータで国間での比較を行った。

日本の専門学校の主な特徴

■制度の概要

【創　設】専修学校制度は昭和５１年１月１１日

【目　的】職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し，又は教養の向上を図る。（学校教育法第１２４条）

【課　程】専修学校には次の３種類の課程がある。
- 高等課程（中卒者対象）：高等専修学校
- 専門課程（高卒者対象）：専門学校
- 一般課程（学歴不問）

【基　準】・修業年限１年以上。
- 授業時数年間８００時間以上（昼間）。
- 学生数常時４０人以上。
- 教育分野８分野。

■称号「専門士」・大学編入学資格の付与

【要　件】・修業年限２年以上。
- 課程修了に必要な総授業時数１，７００時間以上。
- 試験等による成績評価，評価に基づく課程修了の認定。

【指定状況】・２，９５１校／７，２１３学科（平成２２年度）

■称号「高度専門士」・大学院入学資格の付与

【要　件】・修業年限４年以上。
- 課程修了に必要な総授業時数３，４００時間以上。
- 体系的な教育課程の編成。
- 試験等による成績評価，評価に基づく課程修了の認定。

【指定状況】・３２２校／５０３学科（平成２２年度）

■専門学校の規模（引用：平成２２年度文部科学省「学校基本調査」）

【進学率】　新規高等学校卒業者の進学率１５．９％（大学進学率４７．８％，短期大学進学率６．０％，就職率１５．７％）

【分野別】　主な数値は下表のとおり。

	合　計	工　業	農　業	医　療	衛　生	教育・社会福祉	商業実務	服飾・家政	文化・教養
学校数(校)	2,904	548 (18.9%)	63 (2.2%)	1,332 (45.9%)	585 (20.1%)	475 (16.4%)	631 (21.7%)	285 (9.8%)	714 (24.6%)
学科数(科)	8,488 (100%)	1,381 (16.3%)	109 (1.3%)	1,938 (22.8%)	823 (9.7%)	651 7.7%)	1,188 (14.0%)	642 (7.6%)	1,756 (20.7%)
入学者数(人)	266,915 (100%)	36,203 (13.6%)	2,471 (0.9%)	69,634 (26.1%)	41,036 (15.4%)	20,430 (7.7%)	31,853 (11.9%)	8,519 (3.2%)	56,769 (21.3%)
学生数(人)	564,460 (100%)	75,570 (13.4%)	4,390 (0.8%)	194,439 (34.4%)	70,048 (12.4%)	38,101 (6.7%)	58,248 (10.3%)	17,420 (3.1%)	106,424 (18.0%)
卒業者数(人)	222,968 (100%)	32,375 (14.5%)	1,757 (0.8%)	58,644 (26.3%)	35,019 (15.7%)	14,860 (6.7%)	25,673 (11.5%)	7,347 (3.3%)	47,293 (21.2%)
就職者数(人)	166,584 (100%)	22,687 (13.6%)	1,379 (0.8%)	51,863 (31.1%)	29,922 (18.0%)	13,004 (7.8%)	18,152 (10.9%)	3,956 (2.4%)	25,621 (15.4%)
就職率(%)	74.7	70.1	78.5	88.4	85.4	87.5	70.7	53.8	54.2

（注）学校数は複数分野を設置する学校があるため総数は合計と一致しない。

コンピュータやマルチメディア等の IT 関連の最新テクノロジーに対応した人材や，建築，自動車整備，機械，電気等の生活と密接に結び付いた技術者を，実技演習を数多く取り入れた実践的なカリキュラムで育成している。

■主な設置学科…情報処理，コンピュータグラフィックス，自動車整備，土木・建築，電気・電子，放送技術，無線・通信など

介護福祉系では，人材不足のため，卒業生は社会福祉施設，老人介護施設，企業・地方公共団体等の専門職員として活躍している。保育・幼稚園教諭養成系は、女性の社会進出等の広がり，保育・幼児教育の多様化に伴い，需要の高い状態が続き，近年では男性の保育士志望者も増えている。

■主な設置学科…保育，幼児教育，社会福祉，医療福祉，介護福祉，老人福祉，精神保健福祉など

専修学校全体の中では少数派だが，これからの農業に欠かすことのできないバイオテクノロジー，食品の安全性等に関する研究，生活に潤いをもたらすガーデニングやフラワービジネス等，今後さらに成長が見込まれている。

■主な設置学科…農業，園芸，畜産，造園，バイオテクノロジー，動物管理など

オフィスワーク系の事務関連、貿易等の国際ビジネス，旅行・ホテル等のサービス関連の人材を育成している。各種の専門知識のほか，充実したパソコン・インターネット実習環境のもとでコンピュータスキル，ビジネスマナー等，総合的にビジネスを学ぶ。

■主な設置学科…簿記・経理，旅行・観光・ホテル，会計，経営，医療秘書，流通ビジネス，OA ビジネス，福祉ビジネスなど

高齢化社会の到来，医療技術の進歩に伴う予防，検査，リハビリ等の多様な展開の見られる中，看護や歯科衛生だけでなく，理学療法士・作業療法士や，はり・きゅう・あんま，マッサージ，指圧関係の学生数が増加している。

■主な設置学科…看護，歯科衛生，歯科技工，臨床検査，診療放射線，理学・作業療法，はり・きゅう・あんまマッサージ指圧，柔道整復など

ファッション業界の各部門で必要な知識と技術について教育している。就職先はデザイナーやパタンナー等の創作的な職種，アパレルマーチャンダイザーやファッションアドバイザー等の企画・販売・営業支援の職種に分かれる。

■主な設置学科…ファッションデザイン，ファッションビジネス，アパレルマーチャンダイジング，スタイリスト，和洋裁，編物・手芸など

理容・美容系は，安定した人材ニーズを持つ均衡のとれた分野で，エステ・メイクアップ，ネイルアート等も含まれる。栄養・調理系は，健康面から食生活への関心の高まりから人材ニーズは堅調であり，また，近年は製菓や製パンの技術者にも注目が集まっている。

■主な設置学科…栄養，調理師，製菓，製パン，理容，美容，エステなど

芸術系では，エンターテイメント(映画・演劇・音楽)，クリエイティブ(美術・デザイン・ゲーム制作)等，個性や芸術性を重視する教育を実施している。外国語系では，英語のほか韓国語や中国語等の関心の高い言語について，外国人教員による授業や海外研修等を積極的に導入している。

■主な設置学科…デザイン，インテリアデザイン，音楽，外国語，演劇・映画，写真，通訳・ガイド，法律行政，スポーツなど

出所：全国専修学校各種学校総連合会

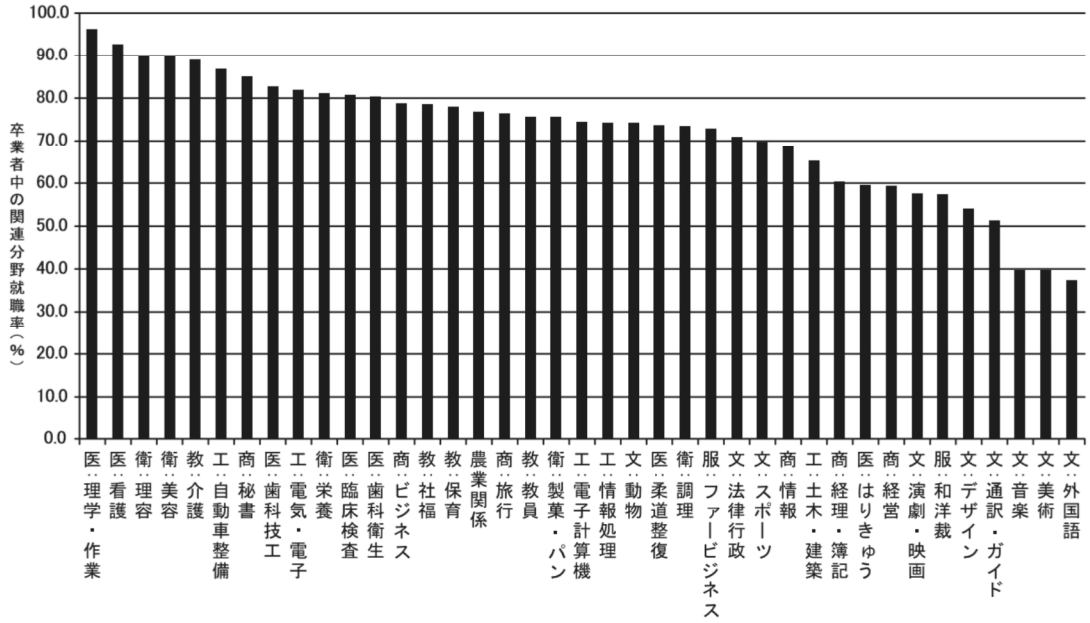


図 5　卒業者中の関連分野就職率

出所：文部科学省「平成 19 年学校基本調査報告書」

2.4.1　職業高校の生徒数の比較

既存のデータをもとに、職業高校の生徒数の比較を行った。

表 7 より、日本と比較して、インドネシア、タイは工業分野の生徒の割合が高く、50%を超える。また、生徒数をみると、インドネシアは 5 倍超、人口比をはるかに超える割合である。

学科別の生徒数をみると、インドネシアは、軽車両製造技術、コンピュータ回線技術の割合が高く、国内の人材需要に応じたものとなっている。

現在人材需要が高く、かつ日本の高度な専門教育を活かせる自動車関連、IT 関連での接続カリキュラムの開発が期待される。また、これから需要増大が想定される福祉等の分野に先行的投資としての接続カリキュラム開発を検討することが望ましい。

表 7　職業高校の分野別学生数の比較表

	日本		インドネシア		タイ	
	生徒数	シェア(%)	生徒数	シェア(%)	生徒数	シェア(%)
工業分野	253,082	34.25%	2,022,439	50.99%	247,530	54.27%
農業分野	92,402	12.51%	172,081	4.34%	16,641	3.65%
医療分野	15,172	2.05%	132,108	3.33%		0.00%
衛生分野	13,165	1.78%	72,511	1.83%		0.00%
教育・福祉分野	11,991	1.62%	7,495	0.19%		0.00%
商業実務分野	209,299	28.33%	1,282,012	32.32%	165,960	36.39%
服飾・家政分野	28,941	3.92%	6,597	0.17%	14,702	3.22%
文化・教養分野	42,612	5.77%	271,460	6.84%	11,276	2.47%
その他	72,216	9.77%	－	－		0.00%
職業高校計	738,880	100.00%	3,966,703	100%	456,109	100.00%

資料:平成25年度学校基本調査
※普通、総合学科除く。

資料:http://bms.vec.go.th　2012年度の全国公立専門学校421校から416校の学生数(高校1年生～3年生)
※医療・衛生・教育・福祉分野は他の分野で集計されている。

表 8　職業高校の分野別・学科別学生数の比較表　詳細　（工業）

日本

工業

	生徒数	シェア(%)
工業分野計	253,082	34.25%
機械関係	62,508	8.46%
電子機械関係	23,088	3.12%
自動車関係	7,235	0.98%
造船関係	128	0.02%
電気関係	42,995	5.82%
電子関係	11,449	1.55%
情報技術関係	21,968	2.97%
建築関係	18,563	2.51%
設備工業関係	2,379	0.32%
土木関係	14,720	1.99%
地質工学関係	—	0.00%
化学工業関係	11,423	1.55%
化学工学関係	808	0.11%
材料技術関係	1,330	0.18%
セラミック関係	868	0.12%
色染化学関係	—	0.00%
工業管理関係	—	0.00%
印刷関係	546	0.07%
航空関係	497	0.07%
その他(工業に関する学科)	28,622	3.87%
水産工学関係	413	0.06%
情報通信関係	529	0.07%
情報システム設計・管理関係	2,557	0.35%
マルチメディア関係	456	0.06%

インドネシア

工業

	生徒数	シェア(%)
工業分野計	2,022,439	50.99%
鉄工建築	117	0.00%
木造建築	12,333	0.31%
石造建築	16,129	0.41%
建築設計	42,975	1.08%
家具製造	1,630	0.04%
下水道配管技術	166	0.00%
測量技術	5,768	0.15%
発電技術	2,501	0.06%
配電技術	1,513	0.04%
送電技術	583	0.01%
受電技術	84,718	2.14%
工業自動化技術	6,746	0.17%
冷房技術	5,531	0.14%
機械技術	157,332	3.97%
溶接技術	20,668	0.52%
金属製造技術	2,060	0.05%
鋳鉄技術	677	0.02%
機械設計	714	0.02%
工業機械保全技術	26,589	0.67%
軽車両製造技術	674,433	17.00%
二輪車製造技術	145,563	3.67%
自動車車両修理技術	7,614	0.19%
重機技術	7,414	0.19%
自動車電気設備	4,371	0.11%
圧縮機・発電機技術	6,170	0.16%
航空機エンジン技術	49	0.00%
航空機機体製造技術	185	0.00%
航空機骨組製造技術	201	0.01%
航空機電気設備	830	0.02%
航空機一般電気設備	457	0.01%
電気機器保全修理技術	2,055	0.05%
鋼船建造技術	769	0.02%
木船建造技術	4	0.00%
FRP船建造技術	0	0.00%
船舶機器設置技術	1,679	0.04%
造船溶接	376	0.01%
船舶電気設備	298	0.01%
船舶製図	406	0.01%
船舶調度品	169	0.00%
紡績糸製造技術	127	0.00%
紡績技術	328	0.01%
布製造技術	723	0.02%
布製品製造技術	1,156	0.03%
衣服製造技術	2,278	0.06%
衣服プリント技術	6,173	0.16%
衣服プリント製造技術	5,255	0.13%
鉱山開発技術	8,821	0.22%
ガラス機器製造技術	0	0.00%
金属機器技術	106	0.00%
機器自動化技術	268	0.01%
機器機械化技術	521	0.01%
化学分析	12,345	0.31%
化学工業	11,269	0.28%
漁船航海機器技術	14,409	0.36%
漁船技術	6,240	0.16%
商船航海機器技術	14,293	0.36%
商船技術	7,453	0.19%
製造管理技術	205	0.01%
倉庫管理技術	164	0.00%
交通管理技術	86	0.00%
鉱油生産技術	109	0.00%
鉱油掘削技術	218	0.01%
鉱油・ガス・石油精製品製造技術	353	0.01%
音響・映像技術	65,074	1.64%
工業電気機器技術	28,435	0.72%
機械電子工学技術	4,058	0.10%
電話通信技術	1,427	0.04%
開閉器技術	890	0.02%
電話回線アクセス技術	944	0.02%
ソフトウェヤー技術	100,423	2.53%
コンピューター回線技術	486,495	12.26%

タイ

工業

	生徒数	シェア(%)
工業分野計	247,530	54.27%
工業科	247,303	54.22%
繊維工業科	227	0.05%
通信技術科	0	0.00%

表 9　職業高校の分野別・学科別学生数の比較表　詳細　（農業、医療、衛生、教育・福祉、商業実務、服飾・家政）

日本

農業

	生徒数	シェア(%)
農業分野計	92,402	12.51%
農業関係	19,170	2.59%
園芸関係	11,382	1.54%
畜産関係	3,836	0.52%
食品科学関係	12,623	1.71%
農業土木関係	4,397	0.60%
農業機械関係	1,041	0.14%
造園関係	6,381	0.86%
林業関係	2,895	0.39%
生活科学関係	5,813	0.79%
農業経済関係	4,661	0.63%
生物工学関係	3,409	0.46%
その他(農業に関する学科)	8,313	1.13%
海洋漁業関係	4,050	0.55%
水産食品関係	1,430	0.19%
栽培漁業関係	1,045	0.14%
その他(水産に関する学科)	1,956	0.26%

医療

	生徒数	シェア(%)
医療分野計	15,172	2.05%
薬業関係	341	0.05%
看護関係	14,831	2.01%

衛生

	生徒数	シェア(%)
衛生分野計	13,165	1.78%
食物関係	13,165	1.78%

教育・福祉

	生徒数	シェア(%)
教育・福祉分野計	11,991	1.62%
保育関係	2,165	0.29%
福祉関係	9,826	1.33%
福祉関係	－	0.00%

商業実務

	生徒数	シェア(%)
商業実務分野計	209,299	28.33%
商業関係	125,977	17.05%
流通経済関係	7,304	0.99%
国際経済関係	9,252	1.25%
会計関係	10,783	1.46%
情報処理関係	52,564	7.11%
その他(商業に関する学科)	3,419	0.46%

服飾・家政

	生徒数	シェア(%)
服飾・家政分野	28,941	3.92%
繊維関係	1,494	0.20%
家政関係	20,065	2.72%
被服関係	3,097	0.42%
その他(家庭に関する学科)	4,285	0.58%

インドネシア

農業

	生徒数	シェア(%)
農業分野計	172,081	4.34%
食用農業・園芸	53,182	1.34%
農園運営	23,718	0.60%
種子育成	9,598	0.24%
反芻動物飼育	10,388	0.26%
鳥類飼育	12,406	0.31%
一般飼育	2,175	0.05%
飼育衛生	1,008	0.03%
養殖魚	23,391	0.59%
海藻	1,878	0.05%
農業機械	2,587	0.07%
農業生産技術	26,936	0.68%
品質管理	648	0.02%
農業一般	2,020	0.05%
林業	2,146	0.05%

医療

	生徒数	シェア(%)
医療分野計	132,108	3.33%
看護師	62,236	1.57%
歯科看護師	506	0.01%
健康指導	8,927	0.23%
薬局	59,026	1.49%
製薬技術	1,413	0.04%

衛生

	生徒数	シェア(%)
衛生分野計	72,511	1.83%
理容	53,541	1.35%
菓子製造	4,944	0.12%
皮膚美容	5,281	0.13%
美容	8,745	0.22%

教育・福祉

	生徒数	シェア(%)
教育・福祉分野計	7,495	0.19%
老人介護	7,495	0.19%

商業実務

	生徒数	シェア(%)
商業実務分野計	1,282,012	32.32%
観光業	28,293	0.71%
ホテル業	93,411	2.35%
事務業務	440,682	11.11%
経理	482,451	12.16%
銀行業務	12,357	0.31%
営業	224,818	5.67%

服飾・家政

	生徒数	シェア(%)
服飾家政分野計	6,597	0.17%
繊維織機デザイン・製造技術	5,733	0.14%
革製品デザイン・製造技術	864	0.02%

タイ

農業

農業分野計	16,641	3.65%
農業科	16,002	3.51%
漁業科	639	0.14%

医療

衛生

教育・福祉

商業実務

商業実務分野計	165,960	36.39%
商業科	151,812	33.28%
観光科	14,148	3.10%

服飾・家政

服飾・家政分野計	14,702	3.22%
家庭科	14,702	3.22%

表 10　職業高校の分野別・学科別学生数の比較表　詳細　（文化・教養、その他）

日本

文化・教養

	生徒数	シェア(%)
文化・教養分野	42,612	5.77%
インテリア関係	3,584	0.49%
デザイン関係	6,013	0.81%
外国語関係	12,778	1.73%
音楽・美術関係	11,054	1.50%
体育関係	9,183	1.24%

その他

	生徒数	シェア(%)
その他計	72,216	9.77%
理数関係	29,152	3.95%
その他（その他）	43,064	5.83%

資料：平成 25 年度学校基本調査
※普通、総合学科のぞく

インドネシア

文化・教養

	生徒数	シェア(%)
文化・教養分野計	271,460	6.84%
マルチ・メディア	179,000	4.51%
アニメーション	5,764	0.15%
テレビ放送・製造技術	5,045	0.13%
ラジオ放送・製造技術	811	0.02%
絵画	883	0.02%
彫像	40	0.00%
宣伝デザイン	5,443	0.14%
インテリアー・環境デザイン	393	0.01%
陶芸品デザイン・製造技術	1,159	0.03%
金属工芸品デザイン・製造技術	3,158	0.08%
木製デザイン・製造技術	5,115	0.13%
クラッシック音楽	1,191	0.03%
近代音楽	866	0.02%
舞踊	1,746	0.04%
ガメラン音楽	1,446	0.04%
影絵芝居	88	0.00%
演劇	530	0.01%
ファッション	58,782	1.48%

その他

タイ

文化・教養

文化・教養分野計	11,276	2.47%
芸術科	11,276	2.47%

その他

資料：http://bms.vec.go.th　2012 年度の全国公立専門学校４２１校から４１６校の学生数（高校１年生～3 年生）

2.4.2　専門学校の学生数の比較

既存のデータをもとに、専門学校の学生数の比較を行った。

日本と比較して、インドネシア、タイは工業分野の生徒の割合が高く、50%を超える。また、生徒数をみると、インドネシアは5倍超、人口比をはるかに超える割合である。

表 11　専門学校の生徒数

	日本		タイ	
	学　生　数	シェア(%)	学　生　数	シェア(%)
農　業	83,921	11.36%	7,818	3.82%
工　業	260,559	35.26%	106,970	52.23%
商　業	209,299	28.33%	80,760	39.44%
水　産	9,423	1.28%	1,113	0.54%
家　庭	42,777	5.79%	3,295	1.61%
看　護	14,831	2.01%		0.00%
情　報	3,013	0.41%	3,341	1.63%
福　祉	9,826	1.33%		0.00%
そ　の　他	105,231	14.24%	1,495	0.73%
専修学校計	738,880	100.00%	204,792	100.00%

資料:平成25年度学校基本調査

資料:http://bms.vec.go.th　2012年度の全国公立専門学校421校から416校の学生数(高校1年生～3年生)

※普通、総合学科除く。

参考：タイの専門学校の学生

	職業高校レベル		専門学校レベル	
	学　生　数	シェア(%)	学　生　数	シェア(%)
工　業　科	247,303	54.22%	106,859	52.18%
商　業　科	151,812	33.28%	77,821	38.00%
芸　術　科	11,276	2.47%	1,495	0.73%
家　庭　科	14,702	3.22%	3,295	1.61%
農　業　科	16,002	3.51%	7,818	3.82%
漁　業　科	639	0.14%	1,113	0.54%
観　光　科	14,148	3.10%	2,939	1.44%
繊維工業科	227	0.05%	111	0.05%
通信技術科	ー	0.00%	3,341	1.63%
合　計	456,109	100.00%	204,792	100.00%

2.5 インドネシアの職業高校と専門学校の実態及び学生、教員のニーズ

2.5.1　職業高校、専門学校を対象としたアンケート調査概要

インドネシアの職業高校、専門学校を対象としたアンケート調査を実施した。概要を以下に整理する。

	インドネシア
配布対象	・ジャカルタ、バンドン、スマラン、デンパサール市の 25 校の職業高校、2 校の職業大学 ・各校の学生４名、教員４名
回収数	128
調査期間	2013 年 11 月から 12 月
調査内容	産業界に要請に対する自己能力評価/海外との協力関係の有無・内容/ISO の取得状況/実習場の整備状況/実務実習の満足度/就職斡旋の満足度/ダブルディグリーの希望/拒否理由/ダブルディグリーの希望国/就職希望地

2.5.2　調査対象

インドネシアでの今回の調査で訪問した職業高校および職業短期大学名は、下記の通りである。

表 12　2013 年度訪問の地域別・学校別回答者

	バンドン	ジャカルタ	デンパサール	スマラン	計
LP3I			4		4
POLINES SEMARANG				4	4
POLITEKNIK NEGERI JAKARTA		4			4
POLITEKNIK NEGERI SEMARANG				4	4
POLITEKNIK SWADHARMA JAKARTA		4			4
POLTEKES GIZI BANDUNG	4				4
SETIEP ARYAPARI-AKTRIPA	4				4
SMK3 Denpasar			8		8
SMKN5 SEMARANG				4	4
SMKN7 SEMARANG				4	4
SMKN9 BANDUNG	4				4
SMKPGEI23 JAKARTA		1			1
SMKPGRI23 JAKARTA		3			3
SMK TELA DAN JAKARTA		4			4
STIBA SARASWATI			4		4
STIBA YAPARI	4				4
計	16	16	16	16	64

2.5.3　産業界に要請に対する自己能力評価

職業学校において外国語教育(日本語、英語、韓国語、ドイツ語)のコースもあり、さらに、経理会計・栄養学・美容・通信など多様なコースがすでに存在している。また、それぞれコースでは、専攻コースに必要な知識として生徒・学生の理解を深める授業も設定されて

いる。たとえば、電気学コースでは、通信・電気機器設置・自動車電気(弱電)・舶用電気(強電)などである。また、コンピューターコースでも同様である。これら授業内容および各コース内容から、インドネシアはすでに国内および海外の要望に十分に答えることができる人的資源を保有していると考えられる。

生徒・学生との面接通じ、これらの授業内容は産業界の要請に、十分対応出来るものではあると確信できる。さらに、彼らに対して必要な能力を得ているかと質問すると、ジャカルタとバンドゥンの回答者は全員能力を有していると回答し、バリでは 14 名が、また、スマランでは 13 名がその様な能力を有していると回答した。

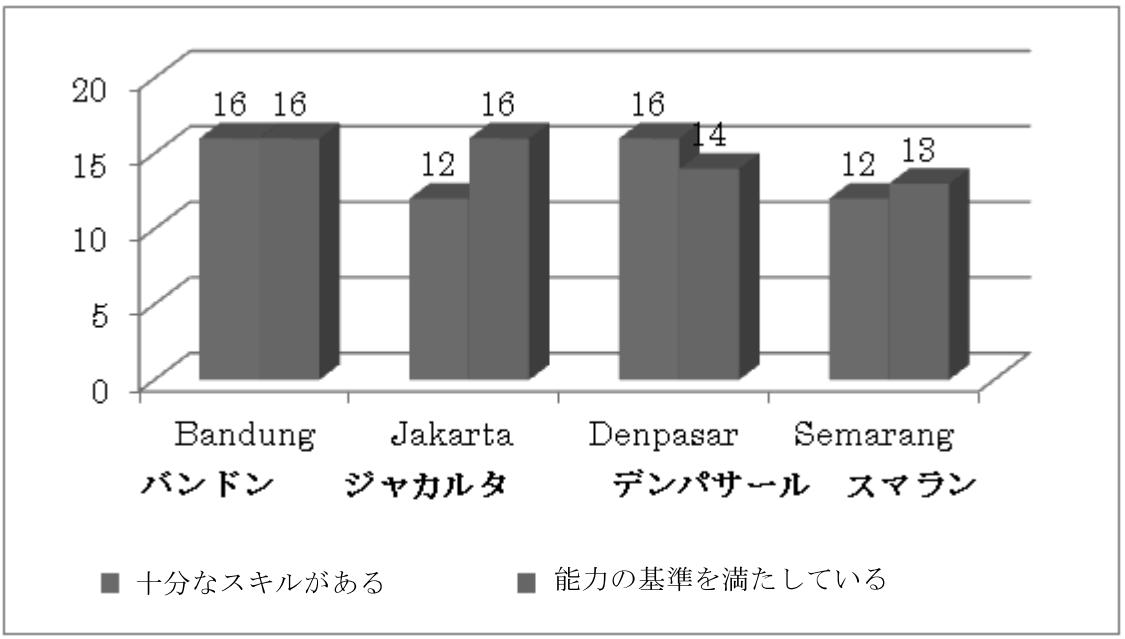


図 6　自己の能力評価

2.5.4　海外との協力関係

生徒・学生に対して所属校は海外の教育機関との協力関係があるかを尋ねると、バンドゥンでは 12 名が、ジャカルタでは 8 名、スマランとデンパサールではそれぞれ 4 名が、所属校ではすでに海外の教育機関との協力体制にあると回答した。国別では、日本(バンドゥンにて 9 名)、台湾(バンドゥンにて 3 名)、さらに韓国・シンガポールなどの国々との協力関係があると回答した。日本はすでに多くの職業高校・短期大学との協力関係を持っていることが分かった。

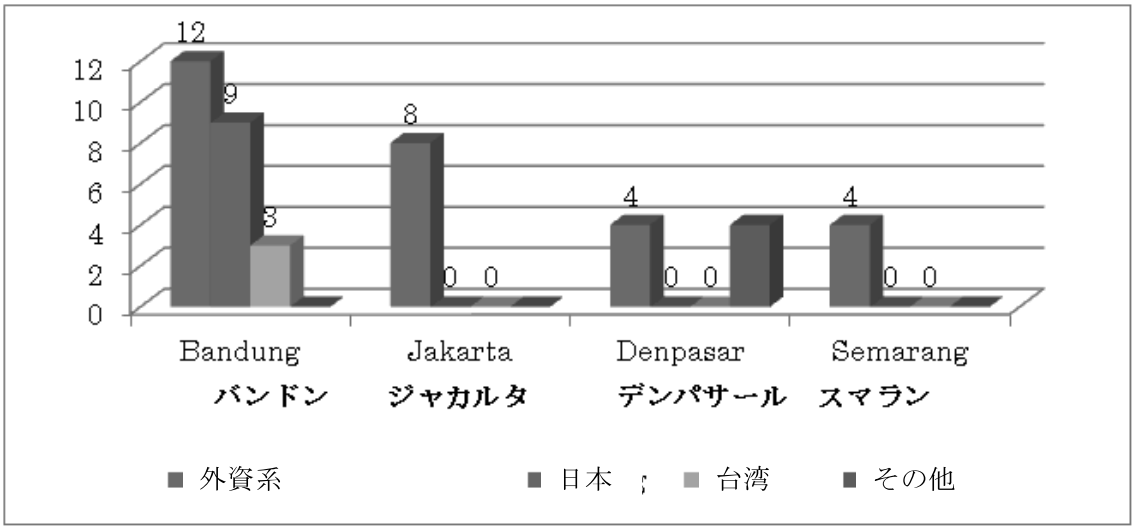


図 7　海外協力関係先

海外との協力関係の内容は、バンドゥンとデンバサールの回答者が、生徒・学生の交換留学および交流を行っていると回答した。なお、交流の内容は、授業内容の交換・教員および実習であると回答した。

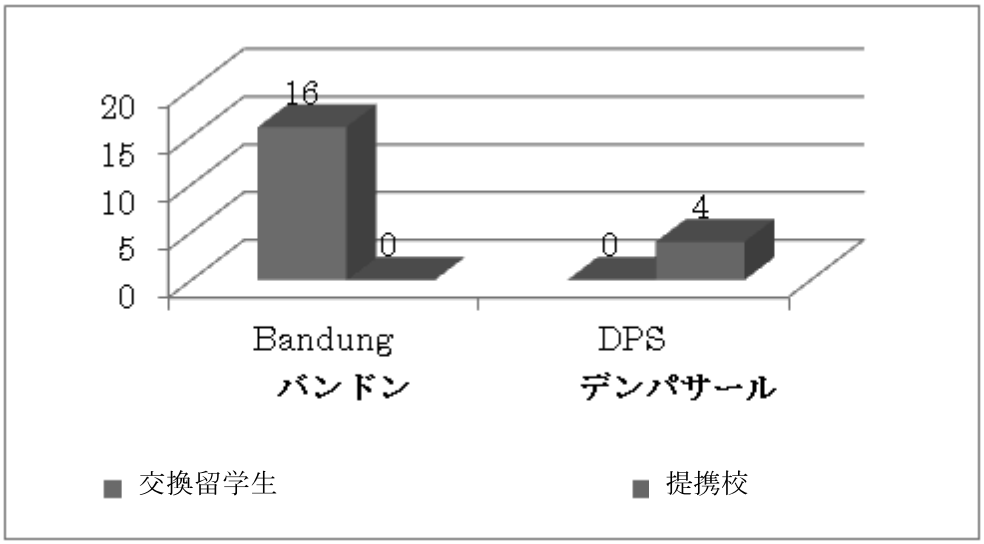


図 8　海外との協力内容

2.5.5　ISO の取得状況

ISO 規定による授業は、電子・自動車・美容・情報工学と語学である。

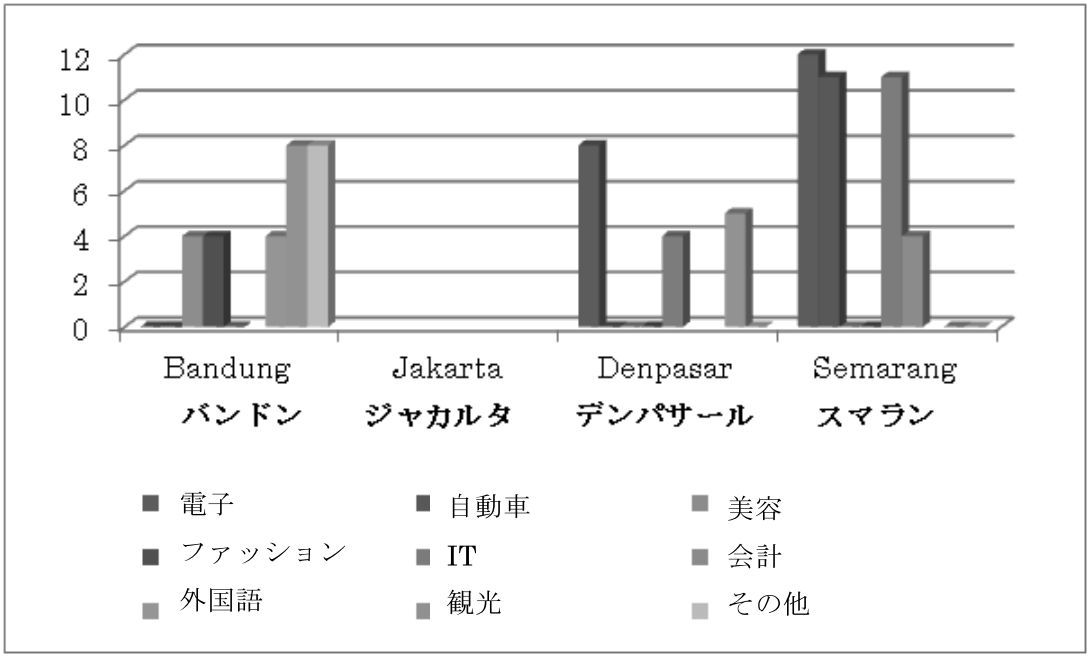


図 9　ISO 認定授業

2.5.6　実習場の整備状況

全ての都市における職業高校および短大は、校内に実習場を完備しているが、デンパサールの回答者は校内の実習場はないと答えた。

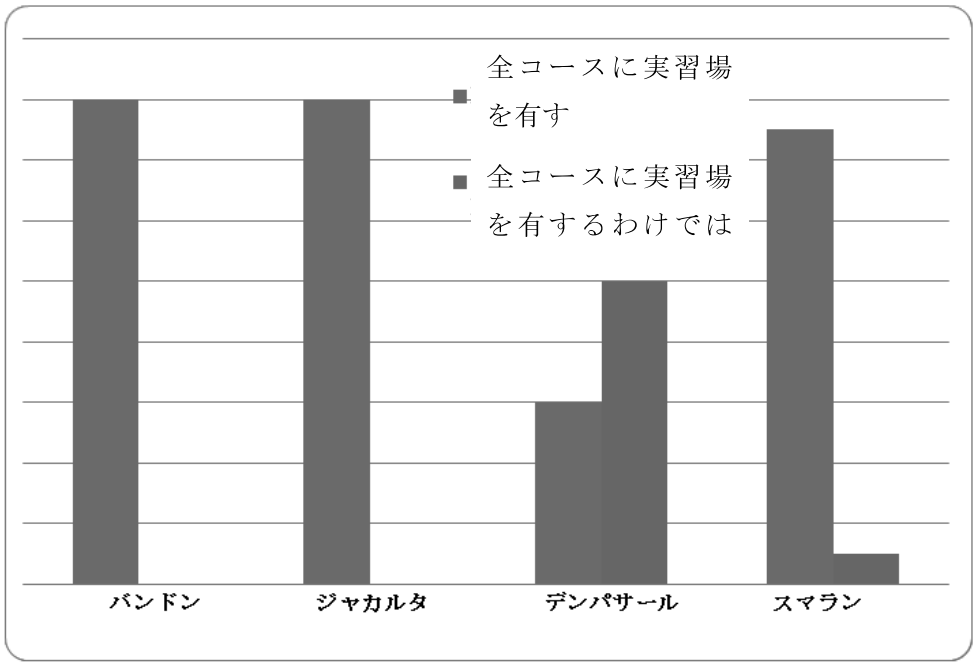


図 10 校内実習場所の有無

バンドゥンとスマランの多くの生徒・学生が、実習場の状況は良好と回答し、次にデンパサールの生徒・学生の 8 名が続く。

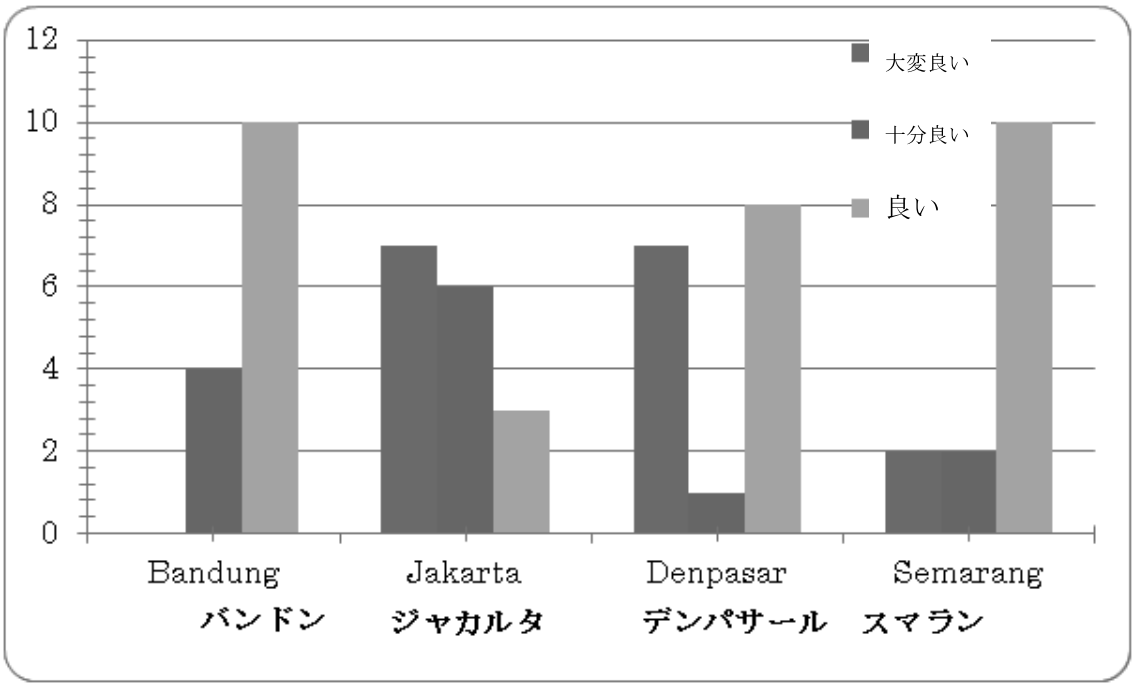


図 11 実習場の状況

2.5.7　実務実習の満足度

ジャカルタの生徒・学生の多くが実習先に満足し、その次にバンドゥン・スマランの生徒・学生も満足している、一方、デンパサールの生徒・学生は良いと回答している。

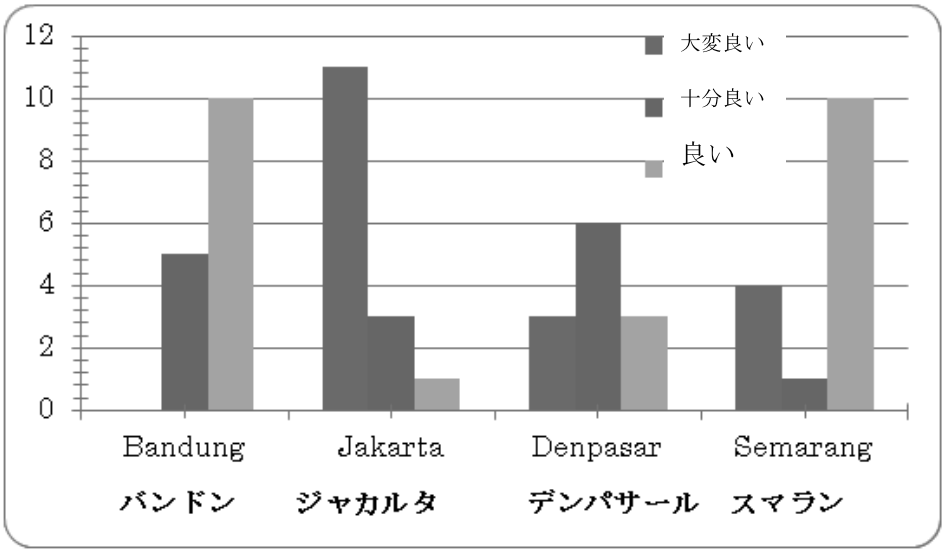


図 12 実務実習

2.5.8　就職斡旋の満足度

ジャカルタの生徒・学生が学校からの就職斡旋について極めて良好と回答したが、バンドゥンの生徒・学生の数多くは良いと回答した。

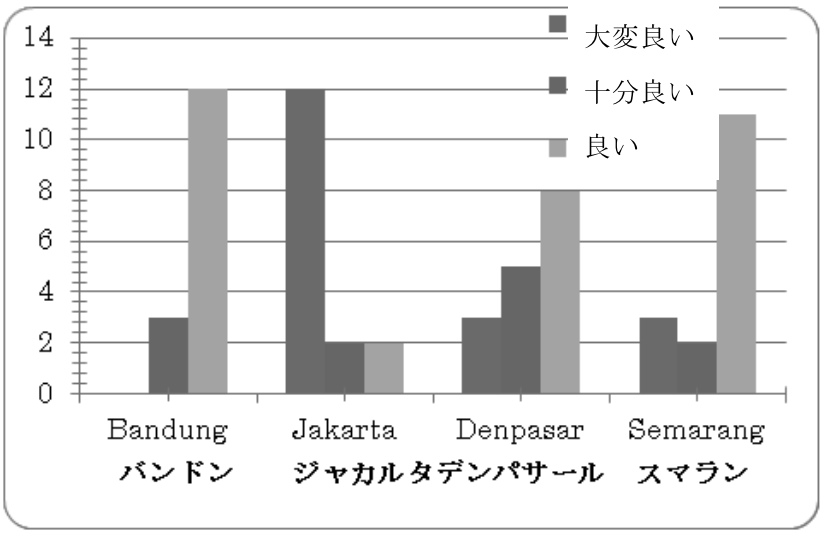


図 13 就職斡旋の満足度

2.5.9　連名学位（ダブル・ディグリー）

ジャカルタのすべての生徒・学生は、学校側が連名学位の制度が整うのであればダブル・ディグリーを希望しているが、デンパサールの生徒・学生は 6 名が、制度があっても応募しないと回答した。

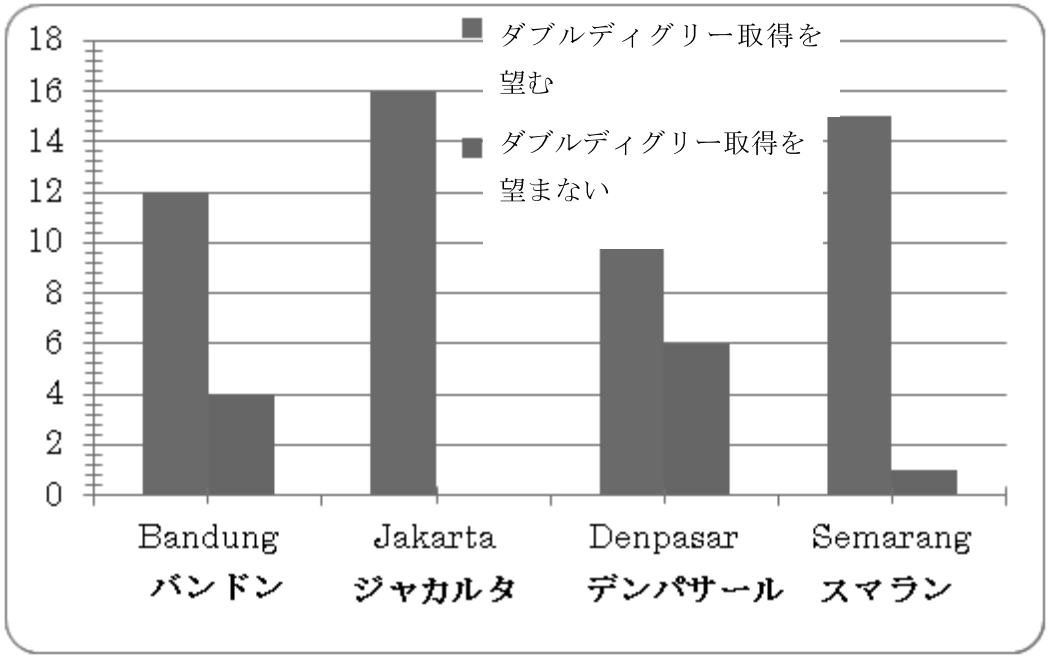


図 14 連名学位希望の有無

バンドゥンの生徒・学生の多くは、連名学位取得希望国に日本を挙げている。同様に、スマランの生徒・学生も日本を希望し、ジャカルタの生徒・学生はヨーロッパ次に台湾を連名学位希望国に挙げている。また、同様にデンパサールの生徒・学生も日本、次に台湾を希望国としている。

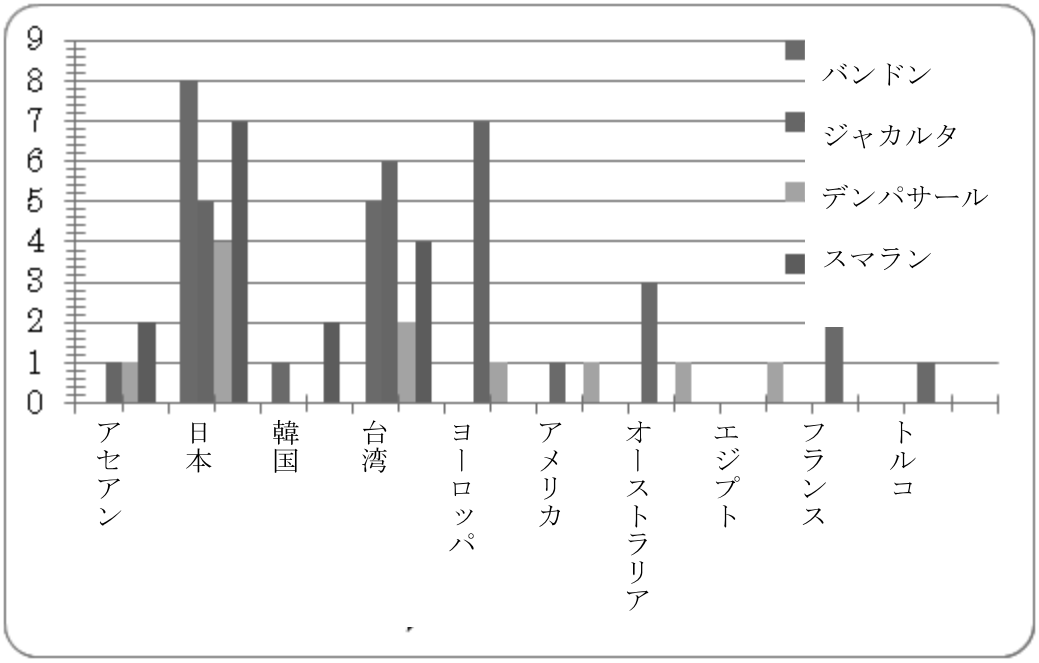


図 15　連名学位希望対象国

デンパサールの生徒・学生は、住居地から遠方で費用が高いことを連名学位取得拒否の理由と回答した。一方、バンドゥンの生徒・学生の拒否理由は、彼らの能力が低いこと、外国語の能力がないこと、費用の高さ、さらに住居地より遠方であることを理由としている。

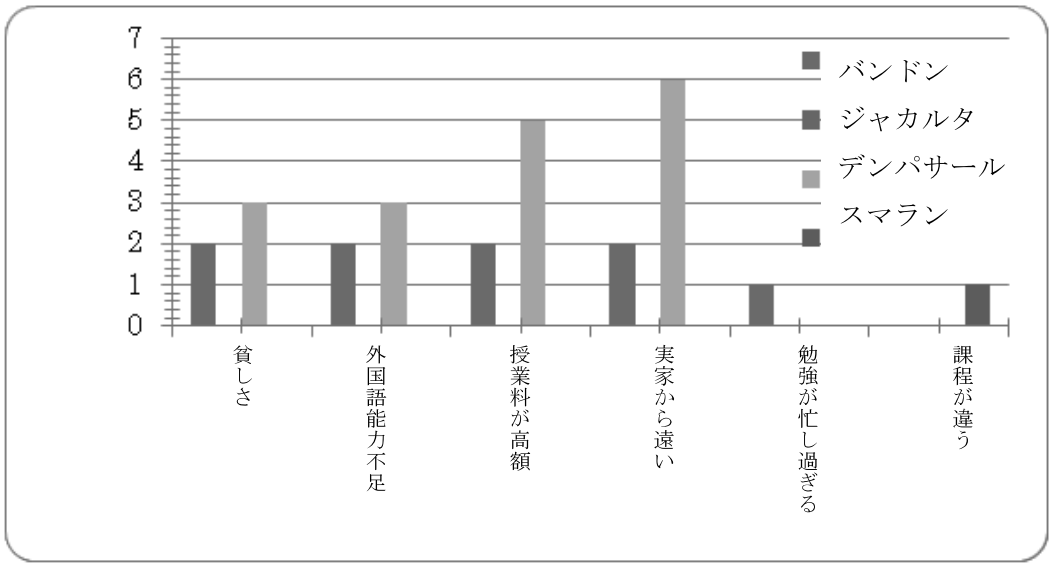


図 16　連名学位拒否理由

2.5.10　就職希望地

4都市の多くの生徒･学生は、国内での就職を希望し、そして自宅から通勤できる事業所を望んでいる。一方、海外就職希望者の多くはスマランとデンパサールの生徒・学生である。さらに、デンパサールのホテル・食品関係選択の生徒・学生は、就職場所へのこだわりなく就職を希望している。

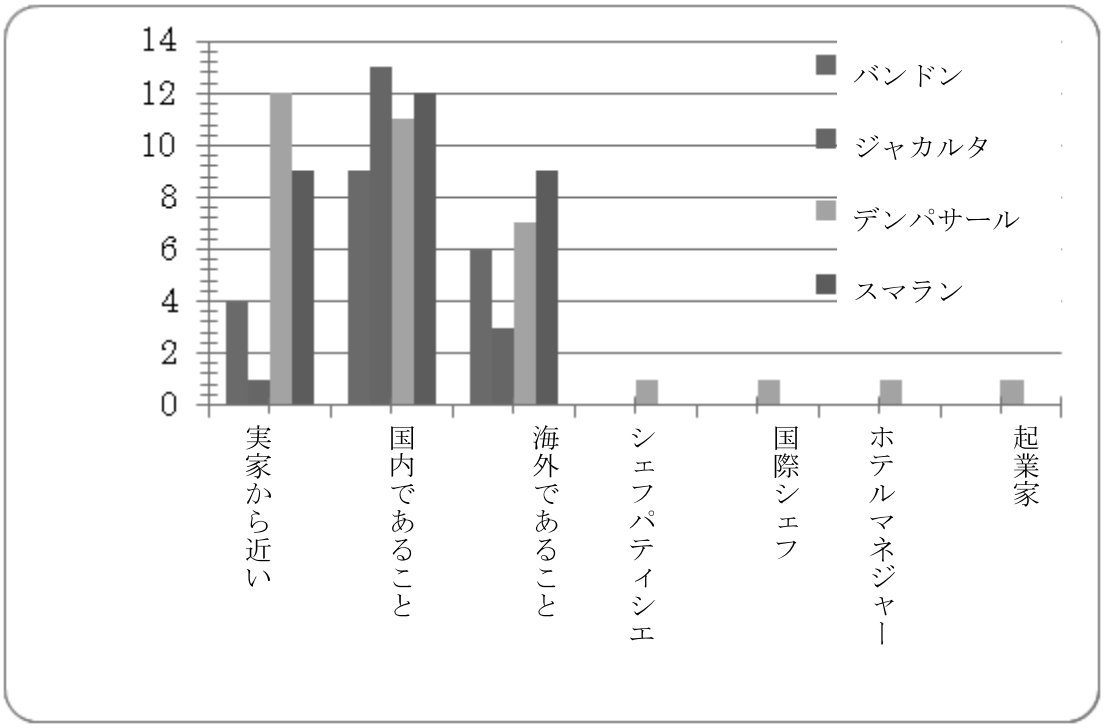


図 17　就職希望先

2.6　タイの専門学校の実態及び学生、教員のニーズ

2.6.1　職業高校、専門学校を対象としたアンケート調査概要

現地調査時、タイでは政情不安が続いていたためバンコク市内に入ることを断念し、バンコク周辺部で電子部品・自動車部品製造企業が多数立地するノンタブリー県とパトゥムタニー県でアンケート調査を実施した。以下、調査結果の概要を取りまとめる。

	タイ
配布対象	ノンタブリー県とパトゥムタニー県内 1）職業高校生 2）専門学校生 3）専門学校生保護者 4）職業高校・専門学校教師
回収数	341 部回収／400 部配布
調査期間	2013 年 12 月から 2014 年 1 月
調査内容	【学生】 ①回答者属性 性別 / 年齢 / 学校種類（公立、私立） ②日本の専門学校への関心、ニーズ又は検討要素 現在通学中の学校選択理由 / 修学年限 / 卒業後の予定 / 日本の専門学校への関心 / 海外留学の重要な検討要素 / 留学時の単位認定 / 就職希望分野 【専門学校保護者】 ①回答者属性 性別 / 年齢 / 保護者学歴 / 子供の数 / 収入 ②日本の専門学校への関心、ニーズ又は検討要素 子供が通学中の学校選択理由 / 修学年限 / 卒業高校の種類 / 日本の専門学校への関心 / 海外留学の重要な検討要素 / 留学時の単位認定 / 子供に期待する就職分野 【職業高校と専門学校の教師】 ①回答者属性 性別/年齢/学歴 ②授業環境及び情報 教授分野 / 教授経験 / 現職以前の勤務経験 / 国際的レベルの学校勤務の関心 / 学生数と労働市場ニーズ / 学生の関心の高い分野とその理由 / 準拠する標準 / 教科書･教材等の適切性 /機械･器具･施設等の適切性 / 単位･授業時

	間等の適切性 / 交換留学生プログラムの有無･留学生出身国 / 教師向け海外研修等の有無 / 研修等で行ったことのある国･訪れたい国

2.6.2　調査対象

タイにおける今回の調査で訪問した職業高校および職業短期大学は、下記の 4 校である。

1.ノンタブリー工業専門学校（ノンタブリー県）
2.ポンサワット工業専門学校（ノンタブリー県）
3.タンヤブリー工業専門学校（パトゥムタニー県）
4.パトゥムタニー工業専門学校（パトゥムタニー県）

各校に 3 年の職業高校課程と 2 年の専門学校課程があり、各課程に在籍する生徒･学生(グループ 1 及び 2)、専門学校生保護者(グループ 3)、教師(グループ 4)を対象にアンケート調査を実施した。各グループへのアンケート配布・回収部数は以下の通り。

対象	配布部数	回収部数	回収率(%)
1.職業高校生徒	100	100	100
2.専門学校生徒	100	100	100
3.専門学校生徒保護者	100	87	87
4.職業高校・専門学校教師	100	54	54
合計	400	341	85.25

2.6.3　アンケート結果

グループ 1. 職業高校生

・学校選択の理由として、64%の回答者が大学より短期間で就職できることを挙げている。一方で、職業高校卒業後は進学を希望する者が多い。専門学校 44%、大学 35%、就職は 21%にとどまる。同一校内の専門学校(2 年間)への進学を前提とし、高校課程とあわせて 5 年で卒業することにより、高校･大学卒業にかかる 7 年よりも短期間で就職できるとの考えに基づくものと推定できる。

・大多数の 93%が日本への留学に関心はあると回答した。内、1 年未満の短期留学希望者が 56%、1 年以上の長期留学希望者が 37%であった。

・海外留学に関する重要な検討要素は費用が 78%と最も多い。続いて言語 11%、生活環境等 7%となっている。

・タイの学校で取得した単位について、大多数の 87%が留学先での単位認定を希望してい

る。

・就職先の希望分野は IT が 43%、続いて電気関連 14%、機械関連 13%となったが、これは回答者の学校での専門分野によると考えられるため、タイの職業高校生全体の傾向を知るためには更なる調査が必要である。

□回答者に関する情報（職業高校生）

	回答者数	%（n＝100 人）
1.性別		
男性	59	59
女性	41	41
2.年齢		
16 歳	22	22
17 歳	64	64
18 歳	14	14
3.学校		
公立	64	64
私立	36	36

□日本の専門学校への関心、ニーズ又は検討要素（職業高校生）

設問	回答者数	% (n=100)
1.現在の学校を選んだ理由	100	100
a. 実践的な職業知識を学べるから	8	8
b. 教師等の勧めがあったから	23	23
c. 大学より短い期間で就職できるから	64	64
d. 自宅に近いから	5	5
e. 授業料を見て	0	0
2..卒業までの在学期間	100	100
a. 2 年	0	0
b. 3 年	100	100

c. 4 年	0	0
d. 5 年	0	0
3.　職業高校卒業後の進路	100	100
a. 就職する	21	21
b. 専門学校に入る	44	44
c. 大学に入る	35	35
4.. 日本の専門学校への関心の有無	100	100
a. ある（短期 1 年未満希望)	56	56
b. ある（長期 1 年以上希望）	37	37
c. なし	7	7
5.海外留学に関する重要な検討要素	100	100
a. 費用	78	78
b. 基礎的な知識	4	4
c.　言語	11	11
d. 生活環境等	7	7
6. 留学に関心がある場合の単位認定の希望	100	100
a. 認めてほしい	87	87
b. 認められなくてもよい	13	13
7.希望する就職先	100	100
a. 自動車関連	12	12
b. 電機関連	14	14
c. 機械関連	13	13
d. ＩＴ	43	43
e. 美容関連	2	2

f. 観光、ホテル関連	12	12
g. 会計等の商業関連	0	0
h. その他	4	4

グループ 2. 専門学校生

・学校選択の理由として、45%の回答者が大学より短期間で就職できることを挙げている。また、「実践的な職業知識を学べるから」が 23%と高校課程の生徒(同 8%)に比べ大幅に増えている。

・ほぼ全員に当たる 98%が日本への留学に関心があると答えている。内、1 年未満の短期留学を希望する者が 37%、1 年以上の長期留学の希望者が 61%となっている。高校課程の生徒に比べ、長期留学の希望者が多かった。

・海外留学に関する重要な検討要素は費用が 48%で一位、続いて基礎的な知識 23%、言語 15%となっている。

・タイの学校で取得した単位について、大多数の 91%が留学先での単位認定を希望している。

・就職先の希望分野は機械関連が 32%、続いて IT23%、自動車関連 11%となったが、これは回答者の学校での専門分野によると考えられるため、タイの専門学校生全体の傾向を知るためには更なる調査が必要である。

□回答者に関する情報（専門学校生）

	回答者数	**%（n＝100 人）**
1.性別		
男性	61	61
女性	39	39
2.年齢		
19 歳	34	34
20 歳	44	44
21 歳以上	22	22
3.学校		
公立	53	53
私立	47	47

□日本の専門学校への関心、ニーズ又は検討要素（専門学校生）

設問	回答者数	% (n=100)
1.現在の学校を選んだ理由	100	100
a. 実践的な職業知識を学べるから	23	23
b. 教師等の勧めがあったから	23	23
c. 大学より短い期間で就職できるから	45	45
d. 自宅に近いから	5	5
e. 授業料を見て	4	4
2.卒業までの在学期間	100	100
a. 2 年	100	100
b. 3 年	0	0
c. 4 年	0	0
d. 5 年	0	0
3.高校レベルの出身校	100	100
a.普通高校	29	29
b.職業高校	71	71
4.. 日本の専門学校留学への関心の有無	100	100
a. ある（短期 1 年未満希望)	37	37
b. ある（長期 1 年以上希望）	61	61
c. なし	2	2
5.海外留学に関する重要な検討要素	100	100
a. 費用	48	48
b. 基礎的な知識	23	23

c. 言語	15	15
d. 生活環境等	14	14
6. 留学に関心がある場合の単位認定の希望	100	100
a. 認めてほしい	91	91
b. 認められなくてもよい	9	9
7.希望する就職先	100	100
a. 自動車関連	22	22
b. 電機関連	11	11
c. 機械関連	32	32
d. ＩＴ	23	23
e. 美容関連	0	0
f. 観光、ホテル関連	12	12
g. 会計等の商業関連	0	0
h. その他	4	4

グループ 3. 専門学校生保護者

・学校選択の理由は、「子供の希望」と「大学より短期間で就職できるから」が 28.7%で並んでおり、続いて「教師等の勧めがあったから」が 26.4%となっている。

・日本の専門学校留学については全員が関心があると回答しており、内、1 年未満の短期の希望が 55.2%、1 年以上の長期の希望が 44.8%となっている。

・海外留学に関する重要な検討要素は費用が 64.4%で一位、続いて基礎的な知識 25.3%、言語 10.3%となっている。

・タイの学校で取得した単位については、大多数の生徒･学生が留学先での単位認定を希望しているのに対し、保護者は 75.9%が単位認定希望、残り 24.1%は単位認定がなくてもよいと回答している。

・就職先の希望分野は IT が 47.1%で最も多く、続いて自動車関連 36.8%、電気関連 13.8%であった。これは回答者の子女の専門分野によると考えられるため、タイの専門学校生全体の傾向を知るためには更なる調査が必要である。

□回答者に関する情報（専門学校生保護者）

1.性別		
男性	16	18.4
女性	71	81.6
2.年齢		
40～50 歳	64	73.6
51 歳以上	23	26.4
3.最終学歴		
小学校卒	38	43.7
中・高校卒	34	39.1
大学	15	17.2
大学院以上	—	—
4.子供の数		
1 人	20	23.0
2 人	64	73.6
3 人	3	3.4
5.収入（バーツ/月）		
～20,000	32	36.8
20,001～40,000	45	51.7
40,001～60,000	10	11.5

□日本の専門学校への関心、ニーズ又は検討要素（専門学校生保護者）

設問	回答者数	% (n=87)
1.現在子供が在籍する学校を選んだ理由	87	100
a. 実践的な職業知識を学べるから	4	4.6
b. 教師等の勧めがあったから	23	26.4
c. 大学より短い期間で就職できるから	25	28.7
d. 自宅に近いから	5	5.7
e. 授業料を見て	5	5.7
f.子供の希望	25	28.7

2.卒業までの在学期間	87	100
a. 2 年	87	100
b. 3 年	0	0
c. 4 年	0	0
d. 5 年	0	0
3.高校レベルの出身校	87	100
a.普通高校	25	28.7
b.職業高校	62	71.3
4.. 日本の専門学校留学への関心の有無	87	100
a. ある（短期 1 年未満希望)	48	55.2
b. ある（長期 1 年以上希望）	39	44.8
c. なし	0	0
5.海外留学に関する重要な検討要素	87	100
a. 費用	56	64.4
b. 基礎的な知識	22	25.3
c. 言語	9	10.3
d. 生活環境等	0	0
6. 留学に関心がある場合の単位認定の希望	87	100
a. 認めてほしい	66	75.9
b. 認められなくてもよい	21	24.1
7.子供に期待する就職先	87	100
a. 自動車関連	32	36.8
b. 電機関連	12	13.8
c. 機械関連	0	0

d. ＩＴ	41	47.1
e. 美容関連	0	0
f. 観光、ホテル関連	2	2.3
g. 会計等の商業関連	0	0
h. その他	0	0

グループ 4. 職業高校・専門学校教師

・労働市場のニーズに対する現在の学生数について、「足りている」との回答が 68.5%を占めた。労働市場ニーズに関しては、今後学生の質についても調査が必要であろう。

・学生の関心が高い分野については、IT(35.2%)、デザイン(31.5%)との回答が多く、次に機械(16.6%)が続く。またその理由としては、「ニーズがあるから」(66.7%)、「就職しやすいから」(31.5%)の二つでほぼ 100%となっている。これについては教師の教授分野や担当する学生の専門分野の影響もあると考えられるため、タイの職業高校生・専門学校生全体の傾向を知るためには更なる調査が必要である。

・教授分野における交換留学生プログラムについては 25.9%が「ある」と回答しており、勤務先（タイの学校）への留学生の出身国はベトナム、インドネシア、中国、欧米などが挙げられた。

・勤務先における教師向け海外研修･視察等プログラムについて、「ある」と回答したのは 40.7%であった。また、研修･視察で行ったことのある国は、ベトナム、インドネシア、中国等となっている。研修･視察先の希望としては、日本が 27.8%で一位、続いて韓国 22.2%、欧米 18.5%との回答が得られた。

□回答者に関する情報（教師）

	回答者数	%（ｎ＝54 人）
1.性別		
男性	50	92.6
女性	4	7.4
2.年齢		
25～35 歳	4	7.4
36～45 歳	23	42.6
46～55 歳	21	38.9
56 歳以上	6	11.1
3.勤務先学校		
公立	33	61.1
私立	21	38.9

4.最終学歴		
大学	11	20.4
大学院	39	72.2
博士号	4	7.4

□ 授業環境及び情報（教師）

設問	回答者数	% (n=54)
1.教授分野	54	100
a. 機械	9	16.7
b. 電子	8	14.8
c. デザイン	15	27.8
d. ＩＴ	9	16.7
e. 美容	5	9.3
f. 旅行、ホテル	8	14.8
2.教授経験	54	100
a. 1～3 年	4	7.4
b. 4～6 年	9	16.7
c. 7～10 年	21	38.9
d. 10 年以上	20	37.0
3.現職以前の勤務経験	54	100
a.なし	25	46.5
b. 他の学校	19	35.2
c. 他の分野	10	18.5
4.国際的レベルの学校で教えることに対する関心	54	100
a. 大変関心がある	9	16.7
b. 関心がある	39	72.2
c. 関心がない	6	11.1
5.教授分野の学生数は労	54	100

働市場のニーズを満たしているか		
a. 足りていない	17	31.5
b. 足りている	37	68.5
6. 学生の関心の高い分野	54	100
1. IT	19	35.2
2. デザイン	17	31.5
3. 機械	9	16.6
4. 観光、ホテル	8	14.8
5. その他	1	1.9
7. 質問 6 で回答した分野について、学生の関心の高い理由	54	100
a. 授業料が安いから	0	0
b. ニーズがあるから	36	66.7
c. カリキュラム内容がよいから	1	1.9
d. 就職しやすいから	17	31.5
e. その他	0	0
8.授業内容が準拠する標準	54	100
a. 国内標準	41	75.9
b. AEC の標準	9	16.7
c. その他の標準	4	7.4
9.教科書や教材等の適切性	54	100
a. 大変適切	29	53.7
b. 適切	22	40.7
c. 適切ではない	3	5.6
10.専門の実験用機械・器	54	100

具、施設等の適切性		
a．大変適切	9	16.7
b．適切	35	64.8
c．適切ではない	10	18.5
11.単位、授業時間等の適切性	54	100
a．大変適切	24	44.4
b．　適切	30	55.6
c．適切ではない	0	
12.教授分野における交換留学生プログラムの有無	54	100
a．ある	14	25.9
b．ない	40	74.1
13.交換留学生の出身国	14	(n=14)
a．ベトナム	8	57.1
b．インドネシア	2	14.3
c．中国	2	14.3
d．韓国	0	0
e．欧米	2	14.3
14.勤務先専門学校における教師向け海外研修･視察等プログラムの有無	54	100
a．ある	22	40.7
b．ない	32	59.3
15.研修・視察に行ったことのある国	12	22.2
a．ベトナム	8	14.8
b．インドネシア	2	3.7
c．中国	2	3.7
d．韓国	0	0

16.研修・視察で訪れたい国	54	100
a．ベトナム	7	13.0
b．インドネシア	1	1.9
c．中国	9	16.7
d．韓国	12	22.2
e．欧米	10	18.5
d．日本	15	27.8

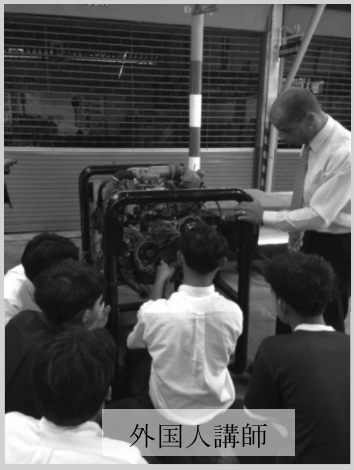
今回調査で実施：

タイ SAP 専門学校見学　　日付：2014 年 1 月 9 日

面会者：学長ほか幹部教職員 13 名

当校は今年創立 77 年目を迎える職業教育を代表する学校である。
2015 年のアセアン共同体発足に向けて、アセアンのスタンダードと言える職業教育校を目指している。
専門教育においては、いすゞ自動車やトヨタ、ホンダなどの協力を得ながら企業の技術者を講師として招へいし、実践的な技術を教えてもらっている。
また、現在すでに欧州の外国人講師がエンジンの構造を英語で教えるといった授業もある。
また、卒業後にこうした日系企業に就職する学生も多い。
働きながら土日に勉強をする Dual System という制度や定時制コースもある。
本校は日本の教育を見習うようにしている。レベルが高いが、日本で通用することは、世界中で通用すると考えられるからである。
重点教育分野はエレクトロニクス、ソフトウエア、観光、自動車部品、商業、ホテル等観光などである。タイ政府としてこの 3 年間で普通教育 62%、職業教育 38%の比率を普通教育 51%、職業教育 49%に変え、職業教育により重点を置いて教育したいと考えている。
また、日本との協力分野で言えば、自動車や電機といった日系企業に縁の深い分野が良いと考える。
学生への教育だけでなく、教師陣へのトレーナーズトレーニングも重要と考える。
そこで、日本の専門学校との協力関係の中で双方の講師の交換制度なども設けると良いと提言したい。

テキスト


外国人講師

2 輪エンジン分解

圧縮比検査

学生への ASEAN 共同体の啓蒙

５Ｓ活動の啓蒙

2.7　その他データ

2.7.1　学校数

(1)インドネシアの職業学校

公立が約２千校、私立が約８千校、あわせて約１万１千校の職業高校が存在する。

表 13　公立・私立の職業高校数

NO	州名	公立	私立	合計
1	PropinsiD.K.IJakarta	63	513	576
2	PropinsiJawa Barat	234	1,794	2,028
3	PropinsiJawa Tengah	216	1,137	1,353
4	PropinsiD.IYogyakarta	49	162	211
5	PropinsiJawa Timur	276	1,260	1,536
6	PropinsiAceh	106	52	158
7	PropinsiSumatera Utara	221	644	865
8	PropinsiSumatera Barat	96	91	187
9	PropinsiRiau	83	132	215
10	PropinsiJambi	72	68	140
11	PropinsiSumatera Selatan	76	150	226
12	PropinsiLampung	70	273	343
13	PropinsiKalimantan Barat	77	82	159
14	PropinsiKalimantan Tengah	71	38	109
15	PropinsiKalimantan Selatan	55	46	101
16	PropinsiKalimantan Timur	88	130	218
17	PropinsiSulawesiUtara	68	84	152
18	PropinsiSulawesiTengah	73	66	139
19	PropinsiSulawesiSelatan	133	255	388
20	PropinsiSulawesiTenggara	77	49	126
21	PropinsiMaluku	56	32	88
22	PropinsiBali	44	113	157
23	PropinsiNusa Tenggara Barat	84	137	221
24	PropinsiNusa Tenggara Timur	93	82	175
25	PropinsiPapua	60	35	95
26	PropinsiBengkulu	54	27	81
27	PropinsiBanten	75	447	522
28	PropinsiBangka Belitung	27	21	48
29	PropinsiGorontalo	34	13	47
30	PropinsiMaluku Utara	50	37	87
31	PropinsiKepulauan Riau	25	47	72
32	PropinsiPapua Barat	24	19	43
33	PropinsiSulawesiBarat	44	47	91
	TOTAL	2,874	8,083	10,957

表 14　分野別州別職業高校数（1/3）

番号	州名	鉄工建築	木造建築	石造建築	建築設計	家具製造	下水道配管技術	測量技術	発電技術	配電技術	送電技術	受電技術	工業自動化技術	冷房技術	機械技術	溶接技術	金属製造技術	鋳鉄技術	機械設計	工業機械保全技術	軽車両製造技術	二輪車製造技術	自動車両修理技術	重機技術	自動車電気設備	圧縮機・発電機技術	航空機エンジン技術	航空機体製造技術	航空機骨組製造技術	航空機電気設備	航空機一般電気設備	電気機器保全修理技術	鋼船建造技術	木船建造技術	FRP船建造技術	船舶機器設置技術	造船溶接	船舶電気設備	船舶製図	船舶調度品
1	ジャカルタ特別州	−	1	1	5	2	−	−	1	−	−	39	2	4	33	2	3	−	−	4	92	8	−	1	2	2	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−
2	西ジャワ	−	4	6	31	3	−	6	1	−	−	94	10	6	138	12	3	1	2	34	616	265	8	2	4	4	−	1	1	2	1	2	−	−	−	2	−	−	−	−
3	中部ジャワ	−	13	29	43	5	−	3	2	−	1	82	11	7	141	28	1	2	−	38	561	199	17	2	10	3	−	−	−	1	−	−	1	−	−	2	1	−	−	−
4	ジョクジャカルタ特別市	−	3	4	11	−	−	1	−	1	−	18	1	−	15	5	2	−	1	−	72	21	2	−	1	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
5	東ジャワ	1	20	18	56	3	−	6	3	−	−	93	12	7	204	25	−	2	−	8	465	160	9	5	7	4	−	−	−	−	−	3	3	−	−	4	1	1	1	2
6	アチェ	−	12	5	17	1	1	3	−	1	−	17	−	5	6	17	1	−	−	−	42	28	2	−	1	1	1	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−	−
7	北スマトラ	−	19	18	27	4	−	2	2	4	−	55	1	1	48	11	3	−	−	1	266	126	7	3	−	2	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
8	西スマトラ	−	12	12	21	−	1	4	−	2	1	26	2	1	17	7	1	−	1	1	68	26	3	3	−	2	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−
9	リアウ	−	3	8	17	1	−	6	−	1	−	19	1	4	10	9	−	−	−	1	71	41	−	3	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
10	ジャンビ	−	2	1	7	−	−	2	−	−	−	9	−	−	2	6	−	−	−	−	36	30	−	2	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
11	南スマトラ	−	4	4	5	−	−	4	−	1	1	22	1	−	10	9	−	−	−	−	87	35	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
12	ランプン	−	4	4	9	2	−	2	1	−	2	20	−	1	19	−	1	−	−	−	127	34	−	−	1	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
13	西カリマンタン	−	5	5	8	−	−	3	−	1	−	5	1	2	4	3	−	−	−	1	21	15	4	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
14	中部カリマンタン	−	3	7	5	3	−	1	−	1	−	2	−	−	−	2	−	−	−	−	13	14	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
15	南カリマンタン	−	1	5	6	−	−	1	−	−	−	10	−	−	10	3	1	−	−	−	31	18	1	5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
16	東カリマンタン	−	4	8	8	−	1	6	−	−	−	13	4	5	11	5	1	−	−	1	60	17	2	28	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	1	−
17	北セレベス	−	2	6	14	−	−	1	−	−	−	16	−	1	5	3	−	−	−	−	27	7	2	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
18	中部セレベス	−	1	8	9	−	−	1	−	1	−	11	−	−	3	3	−	−	−	−	24	10	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
19	南セレベス	−	2	16	23	−	−	2	4	−	2	40	2	1	10	20	−	−	−	1	127	35	3	8	−	3	−	−	−	−	−	2	−	1	−	−	−	−	−	−
20	東南セレベス	1	5	3	8	−	−	1	−	−	−	6	−	−	2	3	−	−	−	−	22	11	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−
21	マルク	−	6	2	4	−	−	−	−	−	2	6	−	−	5	3	−	−	−	−	6	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
22	バリ	−	3	4	7	−	−	−	−	−	−	6	−	1	2	1	−	−	−	−	25	13	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
23	西ヌサ・トゥンガラ	−	4	7	17	−	−	1	2	−	−	7	−	1	9	5	−	−	−	1	47	45	1	4	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
24	東ヌサ・トゥンガラ	−	18	11	11	−	−	2	1	−	1	12	−	−	7	6	−	−	−	−	18	7	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
25	パプア	−	14	6	8	1	1	2	1	−	−	10	−	1	3	4	−	−	−	−	16	5	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	1	−	−	−
26	ブンクル	−	3	4	8	1	−	1	1	1	1	7	−	−	3	7	1	−	−	1	24	21	3	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
27	バンテン	−	1	2	3	−	−	−	1	−	−	26	1	2	30	4	−	−	3	18	117	37	4	−	−	2	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	1	−	−	−
28	バンカ・ブリトゥン	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	4	−	−	−	2	−	−	−	−	10	7	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
29	ゴロンタロ	−	5	2	4	−	−	1	−	1	−	3	−	−	2	2	1	−	−	−	7	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
30	北マルク	−	2	2	4	−	−	1	−	−	−	8	−	−	1	−	−	−	−	−	7	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
31	島嶼部リアウ	−	−	3	2	−	−	−	1	−	−	2	2	1	7	2	−	−	−	−	10	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	2	1	1	1	−
32	西パプア	−	2	2	4	−	−	−	−	−	−	2	−	−	2	3	−	−	−	−	8	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
33	西セレベス	−	1	2	6	−	−	−	−	−	−	4	−	−	−	2	−	−	−	−	13	9	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
小計		2	179	215	409	26	4	63	21	16	11	694	51	51	759	214	19	5	7	110	3,136	1,256	73	77	28	27	1	1	1	5	3	13	6	1	0	17	5	2	3	2

表 15　分野別州別職業高校数（２/３）

番号	州名	紡績糸製造技術	紡績技術	布製造技術	布製品製造技術	衣服製造技術	衣服プリント技術	衣服プリント製造技術	鉱山開発技術	ガラス機器製造技術	金属機器技術	機器自動化技術	機器機械化技術	化学分析	化学工業	漁船航海機器技術	漁船技術	商船航海機器技術	商船技術	製造管理技術	倉庫管理技術	交通管理技術	鉱油生産技術	鉱油掘削技術	鉱油・ガス・石油精製品製造技術	音響・映像技術	工業電気機器技術	機械電子工学技術	電話通信技術	開閉器技術	電話回線アクセス技術	ソフトウェヤー技術	コンピューター回線技術	マルチ・メディア	アニメーション	テレビ放送・製造技術	ラジオ放送・製造技術	看護師	歯科看護師	健康指導
1	ジャカルタ特別州	－	－	－	－	－	3	4	－	－	－	－	－	2	－	3	1	11	5	－	－	－	－	－	－	27	7	2	1	1	1	9	75	58	4	4	2	4	1	4
2	西ジャワ	－	1	－	7	6	10	3	6	－	1	1	2	26	14	14	5	4	2	1	1	－	－	1	1	74	51	7	5	3	1	273	698	189	14	21	1	80	－	12
3	中部ジャワ	1	1	3	3	15	12	6	2	－	－	－	－	3	10	15	12	12	10	－	－	－	1	1	1	126	23	8	1	－	2	91	417	184	12	12	4	41	－	13
4	ジョクジャカルタ特別市	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	3	4	3	2	1	3	－	－	－	－	－	1	24	8	2	1	－	－	17	45	34	4	－	1	9	－	1
5	東ジャワ	－	－	－	－	1	6	6	3	－	－	－	－	10	16	9	8	11	6	－	－	－	－	－	－	70	40	4	2	1	－	126	586	299	13	12	2	63	1	18
6	アチェ	－	－	－	－	－	3	1	3	－	－	－	－	－	1	7	4	1	－	－	－	－	－	－	－	15	3	1	－	－	1	10	45	16	－	－	1	2	－	1
7	北スマトラ	－	－	2	－	1	1	1	1	－	－	－	－	1	2	6	4	7	5	1	－	－	－	－	－	80	3	－	－	1	－	64	298	30	－	－	－	19	－	3
8	西スマトラ	－	－	－	－	－	－	2	1	－	－	－	－	1	1	4	4	3	2	－	－	－	－	－	－	44	8	1	－	－	－	10	65	22	－	3	－	2	－	－
9	リアウ	－	－	－	－	－	1	1	2	－	－	－	－	1	5	1	－	4	3	－	－	－	－	－	－	24	7	1	－	1	－	12	108	17	1	－	－	－	－	1
10	ジャンビ	－	－	－	－	－	－	2	2	－	－	－	－	－	－	2	1	2	1	－	－	－	－	－	－	7	1	－	－	－	－	2	27	41	－	－	－	3	－	－
11	南スマトラ	－	－	－	－	－	－	－	5	－	－	－	－	－	1	－	－	4	2	－	－	－	－	1	－	13	1	3	－	－	－	6	72	8	1	－	－	3	－	－
12	ランプン	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	2	2	1	1	1	－	－	－	－	－	－	17	5	－	－	－	－	4	150	22	2	－	－	11	－	－
13	西カリマンタン	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	3	2	2	2	－	－	－	－	－	－	11	2	－	－	－	－	9	39	18	1	1	1	1	－	－
14	中部カリマンタン	－	－	－	－	－	－	－	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5	－	－	－	－	－	3	19	19	－	－	－	4	－	1
15	南カリマンタン	－	－	－	－	－	－	2	4	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	6	2	－	－	－	1	7	44	17	2	1	－	5	－	1
16	東カリマンタン	－	－	－	－	1	3	－	12	－	－	－	－	2	1	3	3	6	3	－	1	－	－	－	－	5	2	－	－	－	－	9	76	36	－	1	－	14	－	2
17	北セレベス	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	6	4	3	2	－	－	1	－	－	－	10	1	－	－	－	－	4	70	19	－	－	1	11	－	2
18	中部セレベス	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－	1	－	9	－	4	－	－	－	－	－	－	－	3	1	－	－	－	－	10	48	8	－	1	－	12	2	1
19	南セレベス	－	－	－	－	－	1	1	4	－	－	－	－	2	2	14	3	13	9	－	－	－	－	－	－	35	8	1	2	－	－	22	172	29	－	1	－	99	2	8
20	東南セレベス	－	－	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	14	1	9	3	－	－	－	－	－	－	6	2	－	－	－	－	2	45	6	－	－	－	27	2	3
21	マルク	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	19	3	3	2	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	14	8	－	－	－	6	2	1
22	バリ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	8	－	－	－	－	－	9	35	43	－	－	－	11	－	2
23	西ヌサ・トゥンガラ	－	－	－	－	－	－	－	5	－	－	－	－	－	－	7	2	3	－	－	－	－	－	－	－	11	5	－	1	－	－	14	94	48	2	－	－	21	－	－
24	東ヌサ・トゥンガラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	22	1	8	4	－	－	－	－	－	－	5	2	－	－	－	－	8	34	8	－	－	－	13	－	－
25	パプア	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	5	－	4	3	－	－	－	－	－	－	5	1	－	－	－	－	3	25	6	1	－	－	3	－	3
26	ブンクル	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3	2	1	1	－	－	－	－	－	－	7	3	－	1	－	1	1	21	24	－	1	－	1	－	1
27	バンテン	－	－	－	－	－	5	1	2	－	－	－	－	5	5	1	－	5	3	－	－	－	－	－	－	5	12	1	－	－	－	30	159	114	4	2	－	30	－	4
28	バンカ・ブリトゥン	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	11	11	－	－	－	－	－	－
29	ゴロンタロ	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	1	－	4	1	1	1	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	7	22	3	－	－	1	1	－	2
30	北マルク	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	7	2	3	－	－	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	4	21	3	－	－	－	8	－	－
31	島嶼部リアウ	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	1	3	2	－	－	－	－	－	－	5	8	1	－	－	－	14	23	7	2	－	－	7	－	1
32	西パプア	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－	2	2	1	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	15	3	－	－	－	3	－	－
33	西セレベス	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	1	－	3	1	－	－	－	－	－	－	4	1	－	－	－	－	1	38	16	1	－	－	14	－	－
小計		1	2	5	10	26	47	31	75	0	1	1	2	59	66	188	68	136	78	3	2	1	1	3	3	659	210	32	14	7	7	782	3,611	1,366	64	60	14	528	10	85

表 16　分野別州別職業高校数（３/３）

番号	州名	薬局	製薬技術	老人介護	絵画	彫像	宣伝デザイン	インテリアー・環境デザイン	繊維織機デザイン・製造技術	革製品デザイン・製造技術	陶芸品デザイン・製造技術	金属工芸品デザイン・製造技術	木製デザイン・製造技術	クラッシック音楽	近代音楽	舞踊	ガメラン音楽	影絵芝居	演劇	観光業	ホテル業	理容	菓子製造	皮膚美容	美容	ファッション	食用農業・園芸	農園運営	種子育成	反芻動物飼育	鳥類飼育	一般飼育	飼育衛生	養殖魚	海藻	農業機械	農業生産技術	品質管理	農業一般	林業	事務業務	経理	銀行業務	営業	合計
1	ジャカルタ特別州	8	1	1	–	–	1	–	1	–	–	1	1	2	–	1	1	–	1	32	51	17	3	2	2	9	1	–	1	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	275	313	6	146	1,312
2	西ジャワ	159	2	8	–	–	6	–	3	2	1	2	2	–	1	2	3	–	1	28	105	55	5	7	5	64	65	3	9	7	18	–	–	18	–	2	38	1	3	4	514	417	37	349	4,740
3	中部ジャワ	81	9	5	1	–	1	–	7	–	2	3	6	–	2	2	2	1	1	11	30	48	8	11	17	176	28	4	6	10	14	2	1	14	1	4	21	–	–	1	225	431	23	212	3,666
4	ジョクジャカルタ特別市	7	–	2	1	1	5	1	5	2	3	2	9	1	–	1	1	1	1	4	10	13	4	4	4	36	2	2	2	4	3	–	–	1	–	–	6	–	–	–	28	59	2	31	583
5	東ジャワ	49	2	9	1	–	12	1	8	2	1	4	9	1	–	1	1	1	1	28	61	64	9	12	30	159	25	7	7	11	16	1	1	22	2	1	49	2	1	2	204	377	27	230	3,887
6	アチェ	5	–	–	–	–	1	–	2	–	–	1	3	–	–	–	–	–	–	3	10	7	2	2	5	21	15	11	5	7	10	4	1	22	–	4	14	–	1	–	26	28	2	19	509
7	北スマトラ	17	–	1	–	–	1	–	2	–	–	1	3	2	1	–	–	–	–	14	30	14	2	3	10	38	71	22	3	5	4	7	1	16	1	2	17	–	7	–	326	285	3	47	2,088
8	西スマトラ	2	–	1	1	–	4	1	4	–	1	1	4	–	1	1	1	–	1	11	16	11	4	2	2	9	7	7	2	7	3	–	–	3	–	1	8	–	1	–	55	60	9	28	655
9	リアウ	3	–	1	–	–	1	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	4	11	5	1	–	2	8	19	39	7	3	1	2	–	10	–	4	14	–	–	2	50	94	6	18	693
10	ジャンビ	1	–	1	–	–	2	–	2	–	–	1	2	–	–	–	–	–	–	1	4	4	1	1	1	10	10	11	9	3	3	–	–	6	–	–	5	–	2	–	41	46	–	31	387
11	南スマトラ	6	1	–	1	–	1	–	2	–	1	1	2	–	–	–	–	–	–	3	12	10	1	1	3	8	4	8	3	1	1	–	–	1	–	1	1	–	–	–	75	81	1	30	565
12	ランプン	4	–	3	–	–	1	–	1	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	2	8	4	–	1	1	6	7	5	2	2	2	–	–	15	–	1	8	–	–	–	84	148	6	88	849
13	西カリマンタン	–	–	1	–	–	1	–	1	–	1	2	4	–	–	–	–	–	–	8	10	5	–	1	1	5	22	15	5	2	2	–	–	16	–	–	9	1	–	–	27	59	3	40	413
14	中部カリマンタン	4	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	2	2	3	–	–	4	6	34	24	3	–	1	2	–	12	–	2	7	–	–	–	12	19	–	10	258
15	南カリマンタン	10	–	2	–	–	1	–	1	–	1	1	1	–	–	–	–	–	–	4	5	4	1	1	1	9	11	8	1	–	2	–	1	5	1	–	2	–	1	–	23	27	–	17	327
16	東カリマンタン	10	–	1	–	–	1	–	1	–	2	1	1	–	1	–	–	–	–	9	11	8	2	2	3	9	13	19	5	2	7	1	–	14	1	1	7	–	–	1	58	72	6	24	652
17	北セレベス	4	–	9	–	–	1	–	2	–	–	1	2	–	–	–	–	–	–	20	20	7	–	1	1	5	13	–	1	–	1	–	–	6	–	–	4	–	–	–	40	73	2	22	457
18	中部セレベス	4	–	2	–	–	1	–	1	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	4	6	3	1	2	–	8	14	9	9	4	5	–	–	16	4	–	3	–	–	–	36	21	1	8	339
19	南セレベス	21	–	2	–	–	1	–	2	1	1	1	2	1	1	1	1	–	1	10	20	7	2	3	5	21	20	7	5	5	4	–	1	17	2	–	5	1	3	2	74	58	5	23	1,066
20	東南セレベス	10	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	1	6	3	–	1	4	6	18	4	2	4	4	–	–	16	–	–	3	–	–	–	18	19	–	5	316
21	マルク	2	–	3	–	–	–	–	1	–	–	1	1	–	1	–	–	–	–	5	2	2	–	–	1	3	24	5	1	4	1	1	–	22	8	1	2	–	1	–	12	15	–	8	224
22	バリ	8	–	3	3	–	1	–	2	–	2	1	4	–	1	4	3	1	–	8	73	42	–	3	3	6	2	–	–	1	1	–	–	3	–	–	2	–	–	–	19	32	1	18	418
23	西ヌサ・トゥンガラ	6	–	1	–	–	1	–	4	1	1	1	4	–	1	–	–	–	–	18	17	12	–	–	3	24	25	4	5	11	11	1	3	21	1	1	7	–	1	1	17	12	2	7	589
24	東ヌサ・トゥンガラ	5	–	3	–	–	1	1	1	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	18	14	8	–	–	2	6	41	8	8	21	18	1	–	29	7	1	15	–	1	–	23	32	–	27	493
25	パプア	1	–	2	–	–	–	–	1	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	6	5	2	–	–	1	3	26	9	1	10	9	2	1	13	1	–	3	–	–	–	19	15	1	6	277
26	ブンクル	1	–	1	–	–	–	–	1	–	–	–	2	–	1	–	–	–	–	2	4	2	3	1	1	8	5	6	–	1	3	1	–	6	–	–	3	–	3	–	16	17	1	5	250
27	バンテン	23	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	6	27	7	2	1	1	6	9	–	4	1	2	–	–	5	–	1	7	–	–	1	203	200	6	72	1,229
28	バンカ・ブリトゥン	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	6	1	–	–	–	–	2	1	–	–	1	–	–	3	–	–	1	–	–	–	11	21	–	16	117
29	ゴロンタロ	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	3	3	1	1	1	1	3	10	2	–	10	10	2	1	10	3	1	11	–	1	–	7	12	–	4	179
30	北マルク	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	1	–	1	–	1	10	1	1	–	2	–	–	15	1	–	1	–	1	–	7	12	1	4	144
31	島嶼部リアウ	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	10	3	–	1	1	3	2	1	–	1	–	–	–	4	–	1	2	–	–	–	12	39	1	13	218
32	西パプア	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	3	2	–	–	1	2	5	–	–	1	2	–	–	2	1	–	–	–	1	1	10	10	1	3	103
33	西セレベス	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	1	1	–	7	15	7	1	2	–	–	1	3	1	1	8	–	–	–	21	7	–	2	205
小計		457	17	63	8	1	45	4	59	10	17	27	74	8	10	14	13	4	7	275	598	375	53	66	116	685	575	249	108	140	161	27	12	368	35	30	283	5	28	15	2,568	3,111	153	1,563	28,208

表 17　分野別州別職業高校生徒数（1/3）

番号	州名	鉄工建築	木造建築	石造建築	建築設計	家具製造	下水道配管技術	測量技術	発電技術	配電技術	送電技術	受電技術	工業自動化技術	冷房技術	機械技術	溶接技術	金属製造技術	鋳鉄技術	機械設計	工業機械保全技術	軽車両製造技術	二輪車製造技術	自動車車両修理技術	重機技術	自動車電気設備	圧縮機・発電機技術	航空機エンジン技術	航空機機体製造技術	航空機骨組製造技術	航空機電気設備	航空機一般電気設備	電気機器保全修理技術	鋼船建造技術	木船建造技術	FRP船建造技術	船舶機器設置技術	造船溶接	船舶電気設備	船舶製図	船舶調度品
1	ジャカルタ特別州	–	91	82	816	226	–	–	92	–	–	4,727	449	383	5,843	308	424	–	–	370	23,327	1,361	–	103	94	493	–	–	–	–	–	183	–	–	–	355	–	–	–	–
2	西ジャワ	–	269	422	4,965	229	–	1,021	132	–	–	12,132	1,770	1,045	34,037	1,850	278	120	190	9,142	147,576	33,442	1,016	351	650	745	–	185	201	507	191	67	–	–	–	140	–	–	–	–
3	中部ジャワ	–	1,461	2,778	5,589	327	–	293	428	–	24	12,178	1,659	724	37,760	3,226	87	309	–	8,942	159,529	24,783	2,046	135	1,774	1,057	–	–	–	173	–	–	94	–	–	264	110	–	–	–
4	ジョグジャカルタ特別市	–	279	362	1,675	–	–	103	–	64	–	2,764	123	–	3,104	665	325	–	32	–	16,022	2,060	533	–	273	519	–	–	–	–	–	203	–	–	–	–	–	–	–	–
5	東ジャワ	56	1,978	1,648	7,636	373	–	640	317	–	–	15,236	1,358	1,105	45,157	3,471	–	248	–	1,339	106,983	23,027	1,014	558	1,123	1,456	–	–	–	–	–	804	361	–	–	340	135	137	246	169
6	アチェ	–	426	241	1,318	20	41	142	–	70	–	1,129	–	263	573	1,015	73	–	–	–	4,350	2,384	215	–	235	120	49	–	–	–	80	–	–	–	–	33	–	–	–	–
7	北スマトラ	–	1,313	1,663	2,802	216	–	155	144	454	–	6,470	62	115	5,921	725	229	–	–	130	58,964	16,472	490	167	–	97	–	–	–	30	–	–	227	–	–	–	–	–	–	–
8	西スマトラ	–	558	774	1,824	–	32	355	–	136	78	2,676	145	67	2,249	514	116	–	93	101	9,364	1,836	202	156	–	215	–	–	–	–	–	211	–	–	–	–	–	–	–	–
9	リアウ	–	135	499	1,377	–	–	481	–	147	–	1,771	29	425	1,130	785	–	–	–	–	9,125	3,865	–	270	–	47	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
10	ジャンビ	–	162	37	492	–	–	143	–	–	–	789	–	–	368	740	–	–	–	–	5,256	2,666	–	128	–	–	–	–	–	120	–	–	–	–	–	–	–	–	–
11	南スマトラ	–	342	262	670	–	–	412	–	95	–	3,227	35	–	1,960	837	–	–	–	–	17,134	4,852	261	25	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
12	ランプン	–	197	290	990	80	–	200	144	–	66	2,175	–	164	2,678	–	223	–	–	–	22,973	4,081	–	–	15	47	–	–	–	–	–	34	–	–	–	–	–	–	–	–
13	西カリマンタン	–	308	263	594	–	–	203	–	77	–	572	89	134	688	230	–	–	–	127	2,545	1,159	320	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
14	中部カリマンタン	–	149	503	233	100	–	77	–	107	–	144	–	–	–	76	–	–	–	–	1,483	803	–	20	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
15	南カリマンタン	–	35	517	744	–	–	120	–	–	–	1,129	–	–	1,507	286	70	–	–	–	6,145	1,739	78	890	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
16	東カリマンタン	–	288	582	764	–	48	387	–	–	–	1,331	335	354	1,434	491	104	–	–	29	10,167	1,233	79	2,557	73	69	–	–	–	–	–	–	–	–	–	225	–	–	54	–
17	北セレベス	–	66	261	912	–	–	83	–	–	–	1,475	–	41	813	220	–	–	–	–	3,184	610	221	454	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
18	中部セレベス	–	72	411	546	–	–	35	–	60	–	564	–	–	338	210	–	–	–	–	2,320	739	–	15	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
19	南セレベス	–	69	831	2,000	–	–	46	398	–	68	3,295	131	116	1,037	1,682	–	–	–	16	20,212	3,147	184	858	–	419	–	–	–	–	–	203	–	4	–	–	–	–	–	–
20	東南セレベス	61	167	139	538	–	–	72	–	–	–	612	–	–	300	158	–	–	–	–	2,483	784	–	30	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	41	–	–	–	–
21	マルク	–	280	118	311	–	–	–	–	–	141	466	–	–	394	136	–	–	–	–	555	65	–	61	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
22	バリ	–	116	386	724	–	–	–	–	–	–	525	–	82	323	71	–	–	–	–	3,390	2,054	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
23	西ヌサ・トゥンガラ	–	184	299	1,476	–	–	98	227	–	–	674	–	53	742	241	–	–	–	93	4,504	3,357	123	179	134	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
24	東ヌサ・トゥンガラ	–	1,504	1,112	937	–	–	234	190	–	54	1,503	–	–	708	628	–	–	–	–	2,521	530	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
25	パプア	–	1,066	501	655	37	45	82	59	–	–	1,257	–	32	400	257	–	–	–	–	1,900	432	50	280	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	44	5	–	–	–
26	ブンクル	–	144	224	344	22	–	155	52	94	152	599	–	–	447	477	105	–	–	86	2,929	1,968	267	114	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
27	バンテン	–	17	41	233	–	–	–	175	–	–	3,138	131	326	5,746	397	–	–	399	6,214	23,198	3,903	260	–	–	886	–	–	–	–	186	350	–	–	–	19	–	–	–	–
28	バンカ・ブリトゥン	–	–	–	104	–	–	–	–	53	–	460	–	–	–	341	–	–	–	–	1,358	747	69	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
29	ゴロンタロ	–	339	234	455	–	–	100	–	156	–	316	–	–	278	82	26	–	–	–	774	250	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
30	北マルク	–	194	37	211	–	–	131	–	–	–	464	–	–	125	–	–	–	–	–	534	126	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
31	島嶼部リアウ	–	–	252	169	–	–	–	143	–	–	169	430	102	1,014	249	–	–	–	–	1,223	262	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	87	–	–	237	107	161	106	–
32	西パプア	–	53	172	453	–	–	–	–	–	–	395	–	–	258	203	–	–	–	–	726	80	–	63	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
33	西セレベス	–	71	188	418	–	–	–	–	–	–	356	–	–	–	97	–	–	–	–	1,679	746	186	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
小計		117	12,333	16,129	42,975	1,630	166	5,768	2,501	1,513	583	84,718	6,746	5,531	157,332	20,668	2,060	677	714	26,589	674,433	145,563	7,614	7,414	4,371	6,170	49	185	201	830	457	2,055	769	4	0	1,679	376	298	406	169

表 18　分野別州別職業高校生徒数（２/３）

番号	州名	紡績糸製造技術	紡績技術	布製造技術	布製品製造技術	衣服製造技術	衣服プリント技術	衣服プリント製造技術	鉱山開発技術	ガラス機器製造技術	金属機器技術	機器自動化技術	機器機械化技術	化学分析	化学工業	漁船航海機器技術	漁船技術	商船航海機器技術	商船技術	製造管理技術	倉庫管理技術	交通管理技術	鉱油生産技術	鉱油掘削技術	鉱油・ガス・石油精製品製造技術	音響・映像技術	工業電気機器技術	機械電子工学技術	電話通信技術	開閉器技術	電話回線アクセス技術	ソフトウェヤー技術	コンピューター回線技術	マルチ・メディア	アニメーション	テレビ放送・製造技術	ラジオ放送・製造技術	看護師	歯科看護師	健康指導
1	ジャカルタ特別州	-	-	-	-	-	526	709	-	-	-	-	-	437	-	181	97	1,566	586	-	-	-	-	-	-	2,168	961	241	239	236	239	955	10,835	9,142	160	324	209	835	150	1,254
2	西ジャワ	-	174	-	816	479	1,187	586	885	-	106	268	521	5,209	2,134	1,864	595	1,036	450	69	125	-	-	56	72	8,641	9,545	1,117	673	233	53	36,967	107,438	28,481	893	1,978	-	10,384	-	790
3	中部ジャワ	127	154	583	340	1,538	1,412	1,232	130	-	-	-	-	871	1,215	1,815	1,958	1,918	1,602	-	-	-	109	107	249	17,378	4,317	1,050	104	-	324	12,961	60,511	25,322	1,543	843	205	3,586	-	1,930
4	ジョクジャカルタ特別市	-	-	-	-	-	-	-	281	-	-	-	-	529	683	288	229	197	312	-	-	-	-	-	32	2,545	1,126	78	17	-	-	1,875	5,667	3,527	360	-	41	501	-	67
5	東ジャワ	-	-	-	-	99	1,363	1,616	393	-	-	-	-	1,753	3,387	1,250	969	1,164	550	-	-	-	-	-	-	8,092	5,826	488	31	88	-	18,011	84,664	44,675	1,488	1,158	170	5,742	26	1,537
6	アチェ	-	-	-	-	-	296	106	311	-	-	-	-	-	4	290	127	35	-	-	-	-	-	-	-	994	175	31	-	-	8	595	4,580	1,551	-	-	8	212	-	30
7	北スマトラ	-	-	140	-	111	31	30	86	-	-	-	-	608	713	399	323	1,013	569	96	-	-	-	-	-	6,582	277	-	-	277	-	7,731	43,026	3,470	-	-	-	1,510	-	688
8	西スマトラ	-	-	-	-	-	-	103	170	-	-	-	-	577	393	367	278	389	245	-	-	-	-	-	-	3,566	586	44	-	-	-	1,247	7,673	1,962	-	208	-	179	-	-
9	リアウ	-	-	-	-	-	183	2	254	-	-	-	-	69	720	26	-	315	181	-	-	-	-	-	-	1,965	487	160	-	56	-	1,059	12,083	1,213	93	-	-	-	-	535
10	ジャンビ	-	-	-	-	-	-	254	204	-	-	-	-	-	-	98	52	195	109	-	-	-	-	-	-	480	97	-	-	-	-	165	2,334	4,148	-	-	-	156	-	-
11	南スマトラ	-	-	-	-	-	-	-	713	-	-	-	-	-	79	-	-	528	180	-	-	-	-	55	-	1,035	31	312	-	-	-	724	10,572	1,038	110	-	-	405	-	-
12	ランプン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	274	322	304	79	90	63	-	-	-	-	-	-	1,280	275	-	-	-	-	298	16,508	2,144	150	-	-	1,118	-	-
13	西カリマンタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	248	264	205	128	95	-	-	-	-	-	-	909	188	-	-	-	-	895	4,718	1,760	33	72	57	34	-	-
14	中部カリマンタン	-	-	-	-	-	-	-	665	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	221	-	-	-	-	-	344	1,689	1,828	-	-	-	242	-	46
15	南カリマンタン	-	-	-	-	-	-	122	527	-	-	-	-	-	-	-	-	147	-	-	-	-	-	-	-	443	161	-	-	-	185	690	5,869	2,211	79	106	-	718	-	154
16	東カリマンタン	-	-	-	-	23	275	-	1,683	-	-	-	-	239	99	199	258	422	216	-	39	-	-	-	-	726	78	-	-	-	-	857	8,300	3,668	-	29	-	1,912	-	286
17	北セレベス	-	-	-	-	-	-	8	90	-	-	-	-	-	-	438	157	437	255	-	-	86	-	-	-	603	-	-	-	-	-	107	8,556	1,760	-	-	31	1,487	-	113
18	中部セレベス	-	-	-	-	-	-	-	425	-	-	-	-	18	-	449	-	388	-	-	-	-	-	-	-	272	79	-	-	-	-	1,043	5,093	595	-	87	-	935	78	10
19	南セレベス	-	-	-	-	-	484	418	280	-	-	-	-	628	349	1,173	299	1,495	975	-	-	-	-	-	-	2,155	491	95	330	-	-	2,686	20,725	3,412	-	26	-	9,667	164	302
20	東南セレベス	-	-	-	-	-	-	-	530	-	-	-	-	-	-	654	64	389	81	-	-	-	-	-	-	422	113	-	-	-	-	132	4,257	593	-	-	-	2,141	24	49
21	マルク	-	-	-	-	-	32	-	-	-	-	-	-	-	-	1,083	89	195	127	-	-	-	-	-	-	103	-	-	-	-	-	94	1,263	672	-	-	-	850	64	69
22	バリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	592	-	-	-	-	-	1,607	4,001	5,889	-	-	-	2,541	-	136
23	西ヌサ・トゥンガラ	-	-	-	-	-	-	-	134	-	-	-	-	-	-	578	161	147	-	-	-	-	-	-	-	1,076	441	-	33	-	-	1,457	9,560	4,670	131	-	-	2,779	-	-
24	東ヌサ・トゥンガラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,164	21	414	180	-	-	-	-	-	-	591	125	-	-	-	-	949	3,837	858	-	-	-	4,319	-	-
25	パプア	-	-	-	-	-	-	-	233	-	-	-	-	-	-	234	-	243	96	-	-	-	-	-	-	465	39	-	-	-	-	300	3,192	620	47	-	-	527	-	470
26	ブンクル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	139	65	69	43	-	-	-	-	-	-	362	192	-	-	-	135	29	1,861	2,761	-	84	-	39	-	59
27	バンテン	-	-	-	-	-	254	69	234	-	-	-	-	951	814	88	-	283	230	-	-	-	-	-	-	261	1,571	295	-	-	-	4,219	21,430	16,536	515	130	-	4,261	-	288
28	バンカ・ブリトゥン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	108	82	-	-	-	-	-	-	-	-	70	160	-	-	-	-	-	1,566	1,279	-	-	-	-	-	-
29	ゴロンタロ	-	-	-	-	7	130	-	-	-	-	-	-	182	-	244	31	49	37	-	-	-	-	-	-	168	-	-	-	-	-	530	2,691	257	-	-	90	212	-	100
30	北マルク	-	-	-	-	-	-	-	392	-	-	-	-	-	-	402	64	250	-	-	-	-	-	-	-	138	112	-	-	-	-	441	2,550	351	-	-	-	1,168	-	-
31	島嶼部リアウ	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	109	40	37	493	169	-	-	-	-	-	-	194	918	147	-	-	-	1,424	2,118	779	102	-	-	547	-	14
32	西パプア	-	-	-	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	61	-	119	84	40	-	-	-	-	-	277	-	-	-	-	-	-	1,345	254	-	-	-	1,658	-	-
33	西セレベス	-	-	-	-	-	-	-	171	-	-	-	-	-	-	109	-	179	18	-	-	-	-	-	-	300	64	-	-	-	-	31	5,983	1,574	60	-	-	1,571	-	-
小計		127	328	723	1,156	2,278	6,173	5,255	8,821	0	106	268	521	12,345	11,269	14,409	6,240	14,293	7,453	205	164	86	109	218	353	65,074	28,435	4,058	1,427	890	944	100,423	486,495	179,000	5,764	5,045	811	62,236	506	8,927

表 19　分野別州別職業高校生徒数（3/3）

番号	州名	薬局	製薬技術	老人介護	絵画	彫像	宣伝デザイン	インテリアー・環境デザイン	繊維織機デザイン・製造技術	革製品デザイン・製造技術	陶芸品デザイン・製造技術	金属工芸品デザイン・製造技術	木製デザイン・製造技術	クラッシック音楽	近代音楽	舞踊	ガメラン音楽	影絵芝居	演劇	観光業	ホテル業	理容	菓子製造	皮膚美容	美容	ファッション	食用農業・園芸	農園運営	種子育成	反芻動物飼育	鳥類飼育	一般飼育	飼育衛生	養殖魚	海藻	農業機械	農業生産技術	品質管理	農業一般	林業	事務業務	経理	銀行業務	営業	合計
1	ジャカルタ特別州	2,141	85	328	–	–	189	–	181	–	–	174	147	95	–	35	27	–	95	3,506	9,516	3,242	301	98	76	1,017	169	–	82	–	–	–	–	142	–	–	–	–	–	–	55,379	48,310	757	22,698	220,567
2	西ジャワ	23,059	293	834	–	–	1,088	–	511	119	81	351	174	–	174	196	359	–	100	2,947	15,244	7,422	580	493	307	5,184	8,204	189	776	1,093	1,322	–	–	1,573	–	331	3,831	104	235	570	95,685	65,098	2,736	55,817	773,578
3	中部ジャワ	11,341	700	871	66	–	96	–	801	–	244	499	532	–	242	324	312	38	8	1,379	5,488	6,562	717	923	1,259	17,457	2,790	986	663	676	1,553	197	91	1,105	42	656	3,825	–	–	113	42,584	75,962	1,565	29,954	623,805
4	ジョクジャカルタ特別市	617	–	371	160	40	535	87	643	279	326	299	764	420	–	227	147	18	33	464	1,447	2,140	365	420	438	3,932	149	99	359	247	185	–	–	17	–	–	646	–	–	–	4,070	8,338	55	3,480	79,278
5	東ジャワ	6,153	246	971	177	–	1,321	100	754	155	61	521	800	427	–	266	116	15	204	3,226	8,406	10,312	1,066	1,274	2,581	13,749	3,998	609	652	1,468	2,054	29	94	1,742	44	238	4,982	265	36	134	40,070	71,181	2,470	33,269	617,691
6	アチェ	488	–	–	–	–	116	–	147	–	–	67	202	–	–	–	–	–	–	269	573	265	72	70	331	1,671	1,400	1,558	283	440	626	160	63	1,026	–	172	1,100	–	101	–	2,973	3,644	84	1,936	41,967
7	北スマトラ	2,338	–	451	–	–	88	–	326	–	–	128	155	187	149	–	–	–	–	1,919	3,885	1,403	216	197	1,151	3,894	5,945	2,426	170	280	223	845	65	1,268	72	168	1,511	–	675	–	50,318	40,691	320	6,390	292,380
8	西スマトラ	355	–	45	56	–	407	130	276	–	31	143	147	–	92	94	50	–	23	808	2,021	1,480	290	213	147	753	536	675	177	623	266	–	–	171	–	59	573	–	121	–	7,654	8,260	612	5,110	72,087
9	リアウ	583	–	12	–	–	173	–	121	–	–	–	82	–	–	–	–	–	–	353	943	391	98	–	179	703	1,502	2,989	238	68	80	45	–	506	–	353	1,124	–	–	440	6,478	11,799	194	1,861	70,802
10	ジャンビ	84	–	21	–	–	239	–	123	–	–	81	269	–	–	–	–	–	–	103	402	339	114	100	102	635	909	942	663	40	278	–	–	278	–	–	329	–	83	–	4,447	5,138	–	3,232	38,144
11	南スマトラ	509	7	–	175	–	152	–	183	–	32	130	200	–	–	–	–	–	–	309	1,592	853	33	124	312	744	343	1,087	358	88	95	–	–	80	–	76	168	–	–	–	12,963	12,593	57	5,520	84,677
12	ランプン	386	–	142	–	–	54	–	174	–	–	118	126	–	–	–	–	–	–	298	988	444	–	77	66	441	651	354	146	127	178	–	–	1,263	–	83	645	–	–	–	11,321	20,969	530	9,667	106,510
13	西カリマンタン	–	–	43	–	–	161	–	95	–	78	113	198	–	–	–	–	–	–	680	882	537	–	98	196	528	1,491	1,322	262	141	89	–	–	913	–	–	970	98	–	–	3,912	9,760	281	5,455	45,218
14	中部カリマンタン	114	57	–	–	–	–	–	44	–	–	–	31	–	–	–	–	–	–	194	153	145	–	–	110	281	2,371	2,360	432	–	11	43	–	600	–	21	525	–	–	–	2,106	2,896	–	1,172	22,396
15	南カリマンタン	1,782	–	402	–	–	83	–	76	–	72	64	47	–	–	–	–	–	–	496	487	269	193	63	95	554	896	975	216	–	214	–	189	302	56	–	152	–	81	–	3,901	4,070	–	2,261	42,668
16	東カリマンタン	1,674	–	109	–	–	63	–	78	–	59	170	41	–	43	–	–	–	–	1,091	1,128	755	219	156	220	536	1,261	2,029	415	175	312	8	–	908	80	30	552	–	–	226	7,397	8,446	604	3,581	72,279
17	北セレベス	321	–	1,269	–	–	49	–	44	–	–	12	54	–	–	–	–	–	–	1,397	1,788	512	–	69	9	142	1,369	–	59	–	34	–	–	209	–	–	202	–	–	–	6,275	9,137	193	2,305	47,917
18	中部セレベス	453	–	120	–	–	119	–	50	67	–	–	23	–	–	–	–	–	–	348	391	216	23	86	–	431	1,138	737	1,233	245	195	–	–	1,070	282	–	228	–	–	–	5,365	2,358	17	977	30,954
19	南セレベス	1,378	–	205	–	–	166	–	244	134	110	136	184	–	57	95	48	–	67	1,032	2,333	484	123	168	167	1,619	1,215	994	763	196	248	–	139	1,210	86	–	727	181	139	299	12,689	9,694	247	3,068	121,515
20	東南セレベス	489	25	–	–	–	–	–	204	–	–	–	197	–	–	–	–	–	–	5	422	177	–	23	168	513	1,081	283	24	117	169	–	–	704	–	–	142	–	–	–	2,604	2,424	–	944	25,549
21	マルク	83	–	195	–	–	–	–	44	–	–	37	61	–	64	–	–	–	–	304	88	77	–	–	22	97	1,848	297	98	330	47	19	–	1,462	501	36	84	–	59	–	1,538	1,403	–	964	16,926
22	バリ	757	–	340	249	–	75	–	38	–	34	48	132	–	17	363	387	17	–	1,106	24,250	12,115	–	303	181	371	247	–	–	17	99	–	–	290	–	–	218	–	–	–	2,959	5,709	243	3,081	76,183
23	西ヌサ・トゥンガラ	252	–	100	–	–	171	–	327	46	31	67	229	–	28	–	–	–	–	1,550	2,073	1,404	–	–	264	1,255	2,004	189	259	956	1,029	186	289	1,105	108	93	415	–	122	95	2,739	1,728	333	1,038	54,036
24	東ヌサ・トゥンガラ	326	–	421	–	–	98	76	87	–	–	–	74	–	–	–	–	–	–	2,299	2,317	569	–	–	152	499	3,267	369	444	1,566	1,535	24	–	1,311	341	33	954	–	21	–	5,148	6,069	–	4,083	54,462
25	パプア	73	–	215	–	–	–	–	23	–	–	–	123	–	–	–	–	–	–	416	437	86	–	–	11	80	2,314	528	56	285	520	118	25	600	–	–	98	–	–	–	3,488	2,255	51	538	25,908
26	ブンクル	533	–	12	–	–	–	–	91	–	–	–	78	–	–	146	–	–	–	179	420	174	148	72	72	524	587	523	–	87	195	47	–	333	–	–	272	–	52	–	2,208	2,330	49	732	23,881
27	バンテン	2,231	–	18	–	–	–	–	–	64	–	–	–	62	–	–	–	–	–	574	3,779	727	375	91	89	483	915	–	615	32	157	–	–	305	–	–	965	–	–	42	33,348	28,706	761	10,188	182,575
28	バンカ・ブリトゥン	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	99	307	29	–	–	–	–	310	266	–	–	128	–	–	460	–	–	85	–	–	–	1,890	3,165	–	2,263	15,399
29	ゴロンタロ	–	–	–	–	–	–	–	48	–	–	–	45	–	–	–	–	–	–	292	363	59	–	61	–	158	1,711	102	–	808	385	454	19	930	123	26	834	–	80	–	1,554	1,904	–	359	18,053
30	北マルク	292	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	134	27	22	–	5	–	6	1,048	69	32	–	59	–	–	1,091	24	–	76	–	150	–	1,031	1,506	121	797	14,180
31	島嶼部リアウ	124	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	419	927	242	–	69	14	152	47	81	–	65	–	–	–	155	–	98	88	–	–	–	957	3,958	21	1,203	20,443
32	西パプア	80	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	97	169	89	–	–	26	22	231	–	–	6	120	–	–	73	53	–	–	–	65	227	2,238	1,352	56	451	11,626
33	西セレベス	10	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	165	–	11	28	–	351	1,235	680	123	212	–	–	34	189	66	114	615	–	–	–	3,393	1,598	–	424	23,049
小計		59,026	1,413	7,495	883	40	5,443	393	5,733	864	1,159	3,158	5,115	1,191	866	1,746	1,446	88	530	28,293	93,411	53,541	4,944	5,281	8,745	58,782	53,182	23,718	9,598	10,388	12,406	2,175	1,008	23,391	1,878	2,587	26,936	648	2,020	2,146	440,682	482,451	12,357	224,818	3,966,703

(2)インドネシアの専門学校

国立ポリテクニック:

No.	ポリテクニック学校名	都市名
1	Politeknik Bengkalis (POLBENG)	ブンカリス
2	Politeknik Elektronika Negeri Surabaya (PENS)	スラバヤ
3	Politeknik Ilmu Pelayaran (PIP) Makasar	マカッサル
4	Politeknik Ilmu Pelayaran (PIP) Semarang	スマラン
5	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) BandaAceh	バンダアチェ
6	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Bandung	バンドン
7	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Banjarmasin	バンジャルマシン
8	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Denpasar	デンパサール
9	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Jakarta1	ジャカルタ
10	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Jakarta2	ジャカルタ
11	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Jambi	ジャンビ
12	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Lampung	バンダール　ランプン
13	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Makassar	マカッサル
14	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Malang	マラン
15	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Manado	マナド
16	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Medan	メダン
17	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Padang	パダン
18	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Palembang	パレンバン
19	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Semarang	スラマン
20	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Surabaya	スラバヤ
21	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Surakarta	スラカルタ
22	Politeknik Kesehatan (POLTEKKES) Yogyakarta	ジョグジャカルタ
23	Politeknik Manufaktur (POLMAN)Bandung	バンドン
24	Politeknik Negeri Ambon (POLNAM)	アンボン
25	Politeknik Negeri Bali (PNB)	バンドン
26	Politeknik Negeri Bandung (POLBAN)	バンドン
27	Politeknik Negeri Banjarmasin (POLIBAN)	バンジャルマシン
28	Politeknik Negeri Jakarta (PNJ)	デポック
29	Politeknik Negeri Jember (POLIJE)	ジュンベール
30	Politeknik Negeri Kupang (PNK)	クパン

31	Politeknik Negeri Lampung (POLINELA)	バンダールランプン
32	Politeknik Negeri Lhokseumawe (PNL)	ロクセウマエ
33	Politeknik Negeri Malang (POLINEMA)	マラン
34	Politeknik Negeri Manado	マナド
35	Politeknik Negeri Medan (POLMED)	メダン
36	Politeknik Negeri Padang (PNP)	パダン
37	Politeknik Negeri Pontianak (POLNEP)	ポンティアナック
38	Politeknik Negeri Samarinda (POLNES)	サマリンダ
39	Politeknik Negeri Semarang (POLINES)	スマラン
40	Politeknik Negeri Sriwijaya (POLSRI)	パレンバン
41	Politeknik Negeri Ujung Pandang (PNUP)	マカッサル
42	Politeknik Nusa Utara (POLNUSTAR)	クプラウアンサンギ
43	Politeknik Perikanan Negeri Tual	トゥアール
44	Politeknik Perkapalan Negeri Surabaya (PPNS)	スラバヤ
45	Politeknik Pertanian Negeri Jember	ジュンベール
46	Politeknik Pertanian Negeri Kupang	クパン
47	Politeknik Pertanian Negeri Lampung	バンダールランプン
48	Politeknik Pertanian Negeri Pangkep (POLTEKPANGKEP)	パンケップ
49	Politeknik Pertanian Negeri Payakumbuh	パヤクンブー
50	Politeknik Pertanian Negeri Samarinda (POLTANESA)	サマリンダ

私立ポリテニック学校名:

1. Politeknik Gajah Tunggal
2. Politeknik Manufaktur Astra (アストラ教育財団)
3. Politeknik Pratama Mulia Surakarta
4. Politeknik MBP Medan
5. Politeknik Manufaktur Timah
6. Politeknik Sawunggalih Aji Purworejo
7. Politeknik Unggul LP3M Medan
8. Politeknik Swadharma
9. Politeknik Informatika Del
10. Politeknik API Yogyakarta
11. Politeknik Sukabumi

(3)タイの専門学校

No.	地域	県	公立	私立	合計
1		バンコク	21	83	104
2	中部	アーントン	3	1	4
3		カンペーンペット	4	1	5
4		ロッブリー	7	8	15
5		ナコン・サワン	7	7	14
6		ナコン・ナヨック	3	2	5
7		ナコン・パトム	6	6	12
8		ノンタブリー	1	10	11
9		パトゥムタニー	3	6	9
10		ペッチャブーン	5	5	10
11		ピチット	3	2	5
12		ピサヌローク	6	2	8
13		アユタヤ	8	5	13
14		サムットプラカーン	4	7	11
15		サムットサーコーン	3	0	3
16		サムットソンクラーム	3	1	4
17		サラブリー	7	6	13
18		シンブリー	5	3	8
19		スコータイ	6	1	7
20		スパンブリ	6	1	7
21		ウタイタニー	3	1	4
22		チャイナート	3	1	4
23	東部	チャチューンサオ	7	5	12
24		チョンブリ	8	24	32
25		チャンタブリ	4	3	7
26		プラーチンブリ	4	4	8
27		ラヨーン	5	6	11
28		サ・ケーオ	3	2	5
29		トラート	3	0	3
30	西部	カンチャナブリ	6	6	12
31		ペッチャブリ	7	2	9
32		プラチュアプ・キリカン	4	2	6
33		ラチャブリー	7	5	12
34		タク	4	1	5
35	北部	チェンマイ	8	15	23
36		チェンライ	8	6	14
37		ラムパーン	6	3	9
38		ラムプーン	4	1	5
39		メーホーンソーン	2	0	2
40		ナーン	4	0	4
41		パヤオ	5	3	8
42		プレー	6	2	8
43		ウタラディット	4	1	5
44	東北部	アムナートチャルン	2	3	5
45		ブンカーン	0	1	1
46		ブリラム	7	7	14
47		チャイヤプーム	5	5	10
48		カラシン	6	7	13
49		コーンケーン	11	9	20
50		ルーイ	4	1	5
51		マハーサラカーム	6	1	7
52		ムクダハーン	3	3	6
53		ナコン・パノム	3	7	10
54		ナコン・ラチャシマ	12	12	24
55		ノンブアラムプー	2	2	4
56		ノンカーイ	5	9	14
57		ロイ・エット	8	7	15
58		サコン・ナコン	4	13	17
59		シー・サケート	8	8	16
60		スリン	8	2	10
61		ウボンラチャタニー	9	7	16
62		ウドンタニー	9	18	27
63		ヤソトーン	3	4	7
64	南部	チュンポーン	7	1	8
65		クラビ	5	1	6
66		ナコン・シータマラート	11	19	30
67		パタニー	6	1	7
68		パンガー	4	0	4
69		プーケット	4	2	6
70		ラノーン	3	1	4
71		サトゥン	3	1	4
72		ソンクラー	10	14	24
73		スラータニー	7	5	12
74		トラン	7	3	10
75		ヤラ	5	2	7
76		ナラティワート	2	0	2
77		パッタルン	6	1	7
合計			421	427	848

出所：タイ教育省

2.7.2　タイの職業高校及び専門学校を対象とした既存アンケート調査結果

タイ職業高校および専門学校卒業および就職率　2012年度（卒業2013年3月）

2013年9月2日　現在

卒業生	91%	収集データから
職業高校（6年コース）	53%	収集データから
専門学校（2年コース）	41%	収集データから

職業高校卒業生（6年コース）		
就職できた人	13.80%	収集データから
就学できた人	75.86%	収集データから
就職できない人	2.43%	収集データから

職業高校　卒業人数	
最多分野	商業

専門学校（2年コース）		
就職できた人	47.23%	収集データから
就学できた人	34.28%	収集データから
就職できない人	7.21%	収集データから

専門学校（2）卒業人数	
最多分野	商業

職業高校結果

	人数				就職出来ない人		就職できた人					仕事				学んだ知識活かせるかどうか					
分野	受験（人）	卒業（人）	追跡出来た（人）	就学	内定待ち	就職不可	公務員	企業	自営業	その他	合計	分野通り	分野通りではない	回答しない	平均月給	25%	50%	75%	100%	回答しない	学校に就職先を紹介してほしい（人）
職業高校（3） 工業 機械	4,551	4,548	4,021	3,092	44	95	20	426	211	133	790	444	128	85	6,341	69	110	202	551	221	48
職業高校（3） 工業 機械と保全	2,473	2,471	2,212	1,858	10	30	7	158	38	111	314	141	31	31	5,190	15	39	64	169	49	18
職業高校（3） 工業 金属学	812	811	698	567	10	9	7	52	29	24	112	48	24	16	3,361	13	12	28	57	27	7
職業高校（3） 工業 電子とエレクトロニクス	6,878	6,873	6,247	5,425	36	113	20	396	155	102	673	387	102	82	5,827	54	126	241	559	169	54
職業高校（3） 工業 建設	1,951	1,949	1,695	1,528	3	24	13	71	31	25	140	81	23	11	4,347	17	11	35	122	50	15
職業高校（3） 工業 指定しない	66	66	66	64	-	-	-	2	-	-	2	1	1	-	1,200	-	-	1	7	-	-
職業高校（3） 工業 ホテルと観光科	1,242	1,242	1,145	1,024	7	14	2	38	30	30	100	31	30	9	3,783	16	26	84	249	21	12
職業高校（3） 芸術 芸術	1,002	1,001	904	790	18	22	2	41	18	13	74	29	19	13	4,510	42	28	41	234	26	8
職業高校（3） 家庭科 繊維と衣類	217	217	196	148	2	7	1	4	18	16	39	15	6	2	3,040	5	9	10	50	1	8
職業高校（3） 家庭科 食事と栄養	940	940	881	773	2	17	-	47	23	19	89	47	15	8	3,437	23	19	49	255	18	5
職業高校（3） 家庭科 家庭科	443	443	412	336	2	8	1	24	18	23	66	23	13	7	3,383	14	10	40	69	16	1
職業高校（3） 家庭科 指定しない	4	4	4	-	-	-	-	4	-	-	4	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-
職業高校（3） 繊維産業 繊維技術	14	14	14	12	-	-	-	1	1	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-
職業高校（3） 繊維産業 繊維化学	17	17	17	14	-	-	-	3	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-	3	-
職業高校（3） 繊維産業 レディーメード衣類産業	6	6	6	5	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
職業高校（3） 商業 商業	12,955	12,954	12,262	10,056	123	237	69	1,016	343	418	1,846	879	300	249	5,825	280	331	813	2,323	563	110
職業高校（3）漁業 漁業3養殖	23	23	23	18	-	-	-	-	5	-	5	1	2	2	4,125	-	1	1	1	2	-
職業高校（3）農業 農業	1,197	1,197	1,182	705	4	14	20	142	282	15	459	282	100	62	7,142	54	52	99	303	112	1
職業高校（3） 工業 電子専門家	189	189	189	129	-	-	-	2	-	58	60	1	-	1	6,700	-	1	-	-	1	-
職業高校（3） 工業 自動車専門家	107	107	107	78	-	-	-	2	-	27	29	1	-	1	6,500	-	-	1	-	1	-
職業高校（3） 工業 工場専門家	82	82	82	53	-	-	-	-	1	28	29	-	1	-	8,000	1	-	-	-	-	-
職業高校（3） 工業 言説専門家	32	32	32	15	-	-	-	2	-	15	17	-	1	1	6,000	-	1	-	-	1	-
職業高校（3） 工業 金属専門家	12	12	12	10	-	-	-	1	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
職業高校（3） 工業 機械	24	24	24	19	-	-	-	1	2	2	5	3	-	-	-	-	-	-	4	-	-
職業高校（3） 工業 電子とエレクトロニクス	21	21	21	17	-	-	1	1	2	-	4	3	1	-	-	-	-	-	2	2	-
職業高校（3） 工業 ホテルと観光科	13	13	13	8	1	1	-	3	-	-	3	2	1	-	-	-	-	-	-	3	-
職業高校（3） 商業 商業	28	28	28	22	1	3	-	2	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	2	-
合計　職業高校（3））	35,299	35,284	32,493	26,766	263	594	163	2,439	1,208	1,060	4,870	2,424	799	587	3,286	603	776	1,709	4,955	1,296	287

専門学校調査結果（1/2）

	人数				就職出来ない人		就職できた人					仕事				学んだ知識活かせるかどうか					
分野	受験（人）	卒業（人）	追跡出来た（人）	就学	内定待ち	就職不可	公務員	企業	自営業	その他	合計	分野通り	分野通りではない	回答しない	平均月給	25%	50%	75%	100%	回答しない	学校に就職先を紹介してほしい（人）
専門学校（2） 芸術 指定しない	653	653	632	416	15	47	2	93	27	32	154	92	22	8	6,139	10	42	29	420	12	-
専門学校（2） 工業 機械	3,715	3,715	3,223	989	97	235	212	1,092	226	372	1,902	1,112	209	209	7,459	112	177	442	567	479	115
専門学校（2） 工業 生産技術	2,008	2,008	1,696	595	49	129	83	582	67	191	923	500	85	147	8,026	58	93	155	238	225	105
専門学校（2） 工業 金属技術	615	615	540	182	12	34	41	179	33	59	312	166	27	60	7,042	17	29	65	70	94	19
専門学校（2） 工業 電子力	3,164	3,164	2,776	793	121	224	183	1,063	152	240	1,638	961	208	229	7,619	102	175	373	488	419	123
専門学校（2） 工業 エレクトロニクス	2,401	2,401	2,036	753	65	129	75	748	105	161	1,089	692	114	122	7,522	53	98	266	314	302	54
専門学校（2） 工業 建設	1,036	1,036	918	276	22	40	101	345	31	103	580	397	34	46	7,291	17	16	124	182	208	11
専門学校（2） 工業 家具産業とインテリア	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
専門学校（2） 工業 建築	95	95	95	40	-	5	6	34	9	1	50	43	4	2	5,431	2	3	2	31	12	5
専門学校（2） 工業 測定専門家	59	59	38	10	-	-	1	16	4	7	28	12	1	8	7,494	3	5	-	4	9	-
専門学校（2） 工業 機械製図	172	172	149	78	1	25	6	31	6	2	45	15	7	21	8,321	1	7	5	5	25	17
専門学校（2） 工業 工業技術	662	662	618	103	20	38	46	318	32	61	457	266	56	74	8,261	19	40	104	151	133	21
専門学校（2） 工業 通信技術	63	63	60	29	1	-	4	19	7	-	30	20	9	1	7,481	2	4	8	10	6	-
専門学校（2） 工業 測定機器及び管理	54	54	44	10	3	9	1	3	1	17	22	2	1	2	12,250	-	2	2	3	2	10
専門学校（2） 工業 土木	532	532	395	164	26	24	30	112	17	22	181	103	22	34	7,790	15	17	14	68	56	14
専門学校（2） 工業 ゴムおよびポリマー技術	15	15	15	-	-	2	-	9	1	3	13	9	-	1	-	-	-	-	9	1	2
専門学校（2） 工業 工業化学	6	6	6	-	-	-	1	4	1	-	6	3	3	-	12,417	2	-	1	3	-	-
専門学校（2） 工業 メカトロニクス	139	139	134	37	14	13	2	66	1	1	70	53	7	9	10,250	3	14	8	19	26	10
専門学校（2） 工業 コンピュータ技術	329	329	258	135	9	20	10	67	8	9	94	49	20	16	7,113	7	17	18	33	18	6

専門学校調査結果（2/2）

	人数				就職出来ない人		就職できた人					仕事				学んだ知識活かせるかどうか					
分野	受験（人）	卒業（人）	追跡出来た（人）	就学	内定待ち	就職不可	公務員	企業	自営業	その他	合計	分野通り	分野通りではない	回答しない	平均月給	25%	50%	75%	100%	回答しない	学校に就職先を紹介してほしい人
専門学校（2） 工業 ホテル及びサービス	458	458	414	208	6	12	5	151	23	9	188	109	34	36	7,029	17	32	53	153	52	13
専門学校 (2) 観光産業 観光ビジネスマネージメント	133	133	122	75	1	1	1	9	8	27	45	5	9	4	7,029	6	5	41	24	3	-
専門学校（2） 観光産業 **指定しない**	13	13	13	3	-	-	2	6	-	2	10	8	-	-	2,680	-	1	6	1	5	-
専門学校（2） 芸術 ファインアート	14	14	13	4	1	-	1	2	2	3	8	2	2	1	6,917	-	-	5	1	3	-
専門学校（2） 芸術 デザイン	56	56	38	10	1	1	2	20	4	-	26	6	7	13	5,404	3	1	4	4	16	2
専門学校（2） 芸術 工芸技実	6	6	6	-	-	1	-	-	3	2	5	1	2	-	11,542	2	-	-	-	3	1
専門学校（2） 芸術 コンピュータグラフィクス	73	73	49	19	2	4	2	18	4	-	24	14	7	3	10,467	3	6	11	2	2	5
専門学校（2） 芸術 ジュエリー	17	17	17	-	-	-	-	16	-	1	17	16	-	-	-	-	-	1	-	16	-
専門学校 (2) 通信技術＆コミュニケーション	648	648	607	322	11	20	24	161	22	47	254	136	41	30	6,308	18	23	54	86	62	9
専門学校（2） 家庭科 繊維技術及び衣類	36	36	35	18	3	1	2	5	6	-	13	10	2	1	5,587	3	1	3	16	2	4
専門学校（2） 家庭科 衣類工業技術	14	14	14	4	-	-	2	6	-	2	10	3	-	5	4,625	-	-	5	-	5	-
専門学校（2） 家庭科 衣類デザイン技術	7	7	7	2	-	-	-	2	2	1	5	-	3	1	7,500	3	-	-	-	1	-
専門学校（2） 家庭科 食品と栄養	460	460	446	245	18	18	9	89	40	27	165	97	30	11	5,001	15	25	78	105	28	10
専門学校（2） 家庭科 食事と栄養	12	12	12	-	-	-	-	12	-	-	12	12	-	-	7,000	-	-	-	12	-	-
専門学校（2） 家庭科 家庭管理科	156	156	146	72	-	4	7	30	9	24	70	27	17	2	4,379	11	3	47	27	10	3
専門学校（2） 家庭科 家庭製品管理	10	10	5	-	-	-	-	-	2	3	5	2	-	-	5,000	-	-	4	-	1	-
専門学校 (2) 繊維産業 繊維化学	17	17	17	4	-	2	-	5	6	-	11	-	-	11	-	-	-	-	-	11	-
専門学校（2） 商業 会計	4,118	4,118	3,766	2,148	115	159	152	878	169	145	1,344	810	222	167	6,434	147	232	439	735	262	116
専門学校（2） 商業 マーケティング	1,301	1,301	1,151	602	32	54	10	314	76	63	463	299	53	48	5,792	47	43	144	238	115	46
専門学校（2） 商業 秘書科	411	411	396	267	13	9	11	69	22	5	107	70	28	4	7,184	5	30	28	20	31	3
専門学校（2） 商業 ビジネスコンピュータ	3,711	3,711	3,270	1,330	82	172	169	1,026	251	240	1,686	1,055	232	159	6,876	120	248	475	548	561	80
専門学校（2） 商業 人材管理	74	74	55	19	1	-	6	13	5	11	35	17	1	6	3,661	-	2	12	23	5	-
専門学校（2） 商業 医療ビジネス	35	35	35	16	-	-	7	2	3	7	19	8	4	-	11,489	4	-	12	3	-	-
専門学校（2） 商業 小売業管理	222	222	214	32	3	2	-	118	1	58	177	115	3	1	7,183	2	11	137	11	19	3
専門学校（2） 商業 ビジネス外国語	8	8	8	7	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	8,000	-	-	1	-	-	-
専門学校（2） 商業 指定しない	1,317	1,317	1,175	217	4	29	143	483	59	240	925	565	35	85	6,583	12	52	365	107	418	9
専門学校 (2) 漁業 養殖業	94	94	91	44	-	3	12	13	15	4	44	27	10	3	7,288	3	1	10	31	6	-
専門学校（2） 農業 農業	419	419	409	44	4	3	57	80	192	29	358	169	111	49	8,084	35	93	55	72	98	-
専門学校（2） 農業 植物科	256	256	250	122	-	1	25	63	31	8	127	66	26	27	6,982	17	9	17	69	32	1
専門学校（2） 農業 動物科	209	209	207	95	5	1	11	54	32	9	106	60	22	15	6,353	16	14	32	55	28	2
専門学校（2） 農業 獣医看護士	18	18	16	3	-	-	1	10	2	-	13	5	8	-	8,923	8	-	-	5	-	-
専門学校（2） 工業 **機械**	12	12	12	8	3	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
専門学校（2） 工業 電子力	4	4	4	-	-	-	-	-	1	3	4	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-
専門学校（2） 工業 ホテル及びサービス	5	5	5	-	1	-	-	3	-	1	4	1	2	-	-	-	-	-	-	3	-
専門学校（2） 商業 会計	4	4	4	2	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
専門学校（2） 農業 農業機械専門家	29	29	29	9	-	-	8	6	6	-	20	9	4	7	7,765	1	4	3	6	7	-
専門学校（2） 農業 農業ビジネス＆協同組合	25	25	24	5	-	3	1	10	3	2	16	5	6	3	2,892	5	1	-	4	4	3
専門学校（2） 農業 農工業	14	14	14	-	-	-	1	9	1	3	14	5	6	-	5,846	4	4	1	3	2	-
専門学校（2） 農業 ランドスケープ技術	5	5	5	-	-	-	-	2	3	-	5	2	1	2	8,500	-	1	3	1	-	-
合計（専門学校 (2)）	31,457	31,457	27,910	10,783	766	1,503	1,618	8,951	1,790	2,499	14,858	8,798	1,793	1,768	6,234	942	1,633	4,027	5,084	4,258	831
職業高校と専門学校合計	66,756	66,741	60,403	37,549	1,029	2,097	1,781	11,390	2,998	3,559	19,728	11,222	2,592	2,355	4,760	1,545	2,409	5,736	10,039	5,554	1,118

出所：Office of Vocational Education Commission Thailand

2.8　カリキュラム例

2.8.1　自動車

(1)インドネシア職業高校

国立第 2 職業高校カリキュラム

自動車工学

A. 専門技術: 軽車両

N0	分野	**科目**	**期間、時間**		**学期**					
					X		**XI**		**XII**	
Ⅰ	規範	宗教教育		2	2	2	2	2	2	2
		公民教育		2	2	2	2	2	2	2
		インドネシア文学		2	2	2	2	2	2	2
		体育科教育		2	2	2	2	2	2	2
		芸術と文化		1	1	1	1	1	1	1
II	応用	英語		4	4	4	4	4	4	4
		数学		4	4	4	4	4	4	4
		生物		2	2	2	2	2	2	2
		物理学		2	2	2	2	2	2	2
		化学		2	2	2	2	2	2	2
		ＩＰＳ		1	1	1	1	1	1	1
		コンピュータと情報管理能力		2	2	2	2	2	2	2
		起業家精神		2	2	2	2	2	2	2
III	軽車両工学基礎									
	020.DKK.01	コンピューター基礎	10	1	x					
	020.DKK.02	金属成形の基礎	10	1	x					
	020.DKK.03	エネルギー変換機器のプロセス	10	1	x					
	020.DKK.04	エンジニア リング図面の解釈	20	1	x					
	020.DKK.05	工具と機器の使用法	30	1	x					
	020.DKK.06	測定工具/測定ツールの使用法	40	2	x					
	020.DKK.07	安全手順と職場環境および衛生	20	1	x					
IV	軽車両工学（1044 時間）									

		油圧システムと空気圧縮機の修理	40	2	x					
	020 KK. 02	溶接、はんだ付け、熱切断、地球温暖化	40	2	x					
	020 KK. 03	冷却システムとそのコンポーネントのオーバーホール	40	2		x				
	020 KK. 04	ガソリン燃焼システム	60	3		x				
	020 KK. 05	燃料噴射システム修理	60	3		x				
	020 KK. 06	エンジンとそのコンポーネント	40	2			x			
	020 KK. 07	クラッチ ユニットとコンポーネントシステム修正	60	3			x			
	020 KK. 08	トランスミッション	40	2			x			
	020 KK. 09	ファイナルドライブ-車軸ユニッ	40	2			x			
	020 KK. 10	ホイール ドライブ シャフトの修理	40	2			x			
	020 KK. 11	ホイールとタイヤの修理	40	2		x				
	020 KK. 12	ブレーキ システムの修理	80	4				x		
	020 KK. 13	ステアリング システムの修理	80	4				x		
	020 KK. 14	サスペンションの修理	80	4				x		
	020 KK. 15	バッテリメンテナンス	60	3		x				
	020 KK. 16	電気回路システムの修理	60	3					x	
	020 KK. 17	点火システムの修正	40	2					x	
	020 KK. 18	充電システム	40	2						X
	020 KK. 19	エアコンディショナーメンテナンス	40	2					x	

B. 専門技術: オートバイ

N0	分野	科目	期間、時間		学期					
					X		XI		XII	
I	規範	宗教教育		2	2	2	2	2	2	2
		公民教育		2	2	2	2	2	2	2
		インドネシア文学		2	2	2	2	2	2	2
		体育科教育		2	2	2	2	2	2	2
		芸術と文化		1	1	1	1	1	1	1
II	応用	英語		4	4	4	4	4	4	4
		数学		5	5	5	5	5	5	5
		生物		2	2	2	2	2	2	2
		物理学		2	2	2	2	2	2	2
		化学		2	2	2	2	2	2	2
		IPS		2	2	2	2	2	2	2
		コンピュータと情報管理能力		2	2	2	2	2	2	2
		起業家精神		2	2	2	2	2	2	2
III	オートバイ工学の基礎(140 時間)									
	021.DKK.01	コンピューター基礎	10	1	x					
	021.DKK.02	金属成形基礎	10	1	x					
	021.DKK.03	エネルギー変換機器プロセス解説	10	1	x					
	021.DKK.04	エンジニア リング図面解釈	20	1	x					
	021.DKK.05	ツールと機器使用法	30	1	x					
	021.DKK.06	測定工具/測定ツール使用法	40	2	x					
	021.DKK.07	安全手順と職場環境および衛生	20	1	X					
IV	オートバイ工学の専門 (1044 時間)									
	021。 KK.01	油圧オートバイの修理	40	3					x	
	021 KK. 02	排気システムの修理	60	3					x	
	021 KK. 03	バッテリメンテナンス	40	2		x				
	021 KK. 04	オーバー ホール/シリンダー ヘッド	40	2	x					
	021 KK. 05	オーバー ホール/冷却システム								

			60	3				x		
	021 KK. 06	オートバイ燃焼システム修理	60	3		x				
	021 KK. 07	オートバイエンジンとコンポーネント修理	80	4			x			
	021 KK. 08	操作部からクラッチにかけての修理	60	3			x			
	021 KK. 09	マニュアル トランス ミッション修理	80	4				x		
	021 KK. 10	オートマチック トランス ミッション修理	80	4				x		
	021 KK. 11	ブレーキ システム修理	60	3		x				
	021 KK. 12	サスペンション修理	60	3						x
	021 KK. 13	ホイール ・ タイヤ ・ チェーンのメンテナンス	60	3	x					
	021 KK. 14	電気系統および計測器システムの修理	80	4				x		
	021 KK. 15	スターターシステム修理	60	3		x				
	021 KK. 16	充電システム修理	60	3			x			
	021 KK. 17	点火システム修理	60	3			x			

(2)インドネシア専門学校

インドネシア　専門学校　IT Telkom Bandung. A subsidiary of PT Telkom Indonesia

〔学習内容〕**自動車工学**

	コース	時間
I	宗教教育	3
	インドネシア語	3
	英語議論テクニック 1	3
	応用数学	3
	応用物理	3
	応用化学	3
	工業力学	3
	エンジニアリング図面	5
	コンピューターアプリケーションⅠ	4
	作業台とプレート	8
	小計	38
II	市民権の教育	2
	技術英語 II	3
	材料工学	3
	画像エンジン	3
	流体力学	3
	熱力学	3
	コンピュータアプリケーションⅡ	4
	計測工学	3
	基本工作機械	7
	溶接技術	7
	小計	38
III	技術英語 III	3
	雇用法	3
	機械要素 Ⅰ	3
	自動車燃料	3
	エアコン （AC）	5
	電力工学	3
	材料試験の実習	6
	空気圧および油圧の実習	6
	応用統計	3
	品質保証システム	3
	小計	38
IV	力学エンジニアリング	3

	熱伝達	3
	機械要素 II	3
	モーターガソリン	3
	モーターディーゼル	5
	機械設備	3
	自動車電装	7
	自動車シャーシ	5
	メカトロニクス	3
	経営学	3
	小計	38
V	レポート作成	3
	エネルギー変換機器	3
	モーターガソリンの実習	6
	モーターディーゼルの実習	6
	自動車ボディ	6
	エンジンパフォーマンスの実習	4
	自動車メンテナンス工学	6
	ホイールサスペンションシステム	6
	小計	38
VI	フィールドワーク（実習） 卒業プロジェクト	
	小計	
	修得単位数計（120）	

(3)タイ専門学校（自動車技術）

1 年 1 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（8 単位）		
	1.1　基本一般コース（2 単位）		
3000-1201	英語コミュニケーションスキル開発 1	2	3
	1.2　職業系一般コース（6 単位）		
3000-1426	科学 7	3	4
3000-1521	数学 2	3	3
	2. 職業コース（17 単位）		
	2.1　基本職業コース（9 単位）		
3000-0101	品質システムによる開発と生産量増加	3	3
3100-0101	機械工学 1	3	3
3100-0103	流体力学	3	3
	2.2　コア職業コース（8 単位）		
3101-2001	燃料と潤滑剤	2	2
3101-2004	エンジン修理	3	5
3101-2008	自動車用電気学	3	5
	2.3　専門職業コース		
	3.　自由選択コース		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		33
合計単位数		25	単位

1 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（10 単位）		
	1.1　基本一般コース（7 単位）		
3000-1101	タイ語	3	3
3000-1202	英語コミュニケーションスキル開発 2	2	3
3000-1301	タイの生活･文化	1	1
3000-1601	図書館･情報	1	1
	1.2　職業系一般コース（3 単位）		
3000-1525	微分積分 1	3	3
	2. 職業コース（14 単位）		
	2.1　基本職業コース（6 単位）		

3000-0206	設計におけるコンピュータ支援	3	4
3100-0107	材料の強度	3	3
	2.2　コア職業コース（8 単位）		
3100-0106	空気圧と油圧	3	4
3100-0111	熱力学	3	3
3101-2005	自動車トランスミッション	2	3
	2.3　専門職業コース		
	3.　自由選択コース（3 単位）		
3101-2110	ディーゼル工学	3	3
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**33**
合計単位数		**27**	**単位**

2 年 1 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（1 単位）		
	1.1　基本一般コース		
	1.2　職業系一般コース（1 単位）		
3000-1225	英語プロジェクト･ワーク	1	2
	2. 職業コース（15 単位）		
	2.1　基本職業コース		
	2.2　コア職業コース		
	2.3　専門職業コース（15 単位）		
3101-2105	ガソリンエンジン修理	3	5
3101-2106	ディーゼルエンジン修理	3	5
3101-2107	自動車新技術	2	2
3101-2108	エンジン調整	2	3
3101-2109	自動車電子工学	2	3
3101-2116	自動車サービス	3	*
	3.　自由選択コース		
	4.　OJT（1 学期）		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**22**
合計単位数		**16**	**単位**

2 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（5 単位）		
	1.1　基本一般コース（4 単位）		
3000-1304	社会科（政治）	2	2
3000-1602	生活の質向上のためのレクリエーション	2	2
	1.2　職業系一般コース（1 単位）		
3000-1235	求職のための英語	1	2
	2. 職業コース（17 単位）		
	2.1　基本職業コース		
	2.2　コア職業コース（10 単位）		
3101-2002	内燃エンジン	3	3
3101-2003	自動車工学	3	3
3101-2004	機械研究所	2	3
2101-2007	自動車サスペンション	2	3
	2.3　専門職業コース（3 単位）		
3101-2101	電子制御エンジン･システム	3	5
	2.4　プロジェクト（4 単位）		
3101-6001	プロジェクト	4	*
	3.　自由選択コース（3 単位）		
3101-2102	ポンプ･ノズルテスト	3	5
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**30**
合計単位数		**25**	**単位**

2.8.2　IT、通信

(1)インドネシア職業高校

2013 年度教育内容

〔学習内容〕電子通信技術

区分	分野	科目	時間 (hour)
電子通信科	初級補助技術者資格	オーディオ装置運用	
		ビデオ装置運用	
		商用ゲーム機運用	
		オーディオ装置整備	
		ビデオ装置整備	
		商用ゲーム装置整備	
	中級補助技術者資格	オーディオ装置運用	
		ビデオ装置運用	
		商用ゲーム装置運用	
		オーディオ装置実習	
		ビデオ装置実習	
		商用ゲーム装置実習	
	初級技術者資格	オーデオ装置のトラブル・シューティング	
		ビデオ装置のトラブル・シューティング	
		商用ゲーム装置のトラブル･シューティング	
		オーデオ装置の修理	
		ビデオ装置の修理	
		商用ゲーム機の修理	

	中級技術者資格	オーディオ装置動作試験	
		ビデオ装置動作試験	
		商用ゲーム機動作試験	
		オーディオ装置改良	
		ビデオ装置改良	
		商用ゲーム機改良	

(2)インドネシア専門学校　〔学習内容〕**通信**

セメスター１			**クレジット**		**時間**	
号	**コード**	**コース**	**理論**	**実習**	**理論**	**実習**
1	VT031201	英会話	2		2	
2	VT031202	宗教	2		2	
3	VT031203	数学 1	2		2	
4	VT031101	電磁気学 1	2		3	
5	VT031102	電気回路 1	2		3	
6	VT031103	プログラミング基礎 1	2		3	
7	VT031104	電子回路 1	2		3	
8	VT031105	電気測定	2		3	
9	VT031106	インターネットショップの実習		1		3
10	VT031107	基本的なプログラミングの実習 1		1		3
11	VT031108	エレクトロニクスの実習 1		1		3
12	VT031109	電気的測定の実習 1		1		3
		小計	**16**	**4**	**21**	**12**
		合計	**20**		**33**	

セメスター２			**クレジット**		**時間**	
号	**コード**	**コース**	**理論**	**実習**	**理論**	**実習**
1	VT032201	エンジニアのための英語	2		2	
2	VT032202	数学 2	2		2	
3	VT032101	デジタルエレクトロニクス 1	2		3	
4	VT032102	電気回路 2	2		3	
5	VT032103	プログラミング基礎 2	2		3	
6	VT032104	電磁気学 2	2		3	
7	VT032105	電気回路 2	2		3	
8	VT032106	電子工学 2		1		3
9	VT032107	エレクトロニクスシ		1		3

		リーズの実習 2				
10	VT032108	プログラミング基礎の実習　2		1		3
11	VT032109	電磁気学の実習		1		3
12	VT032110	回路の実習		1		3
		小計	**14**	**5**	**19**	**15**
		合計	**19**		**34**	

セメスター 3			**クレジット**		**時間**	
号	**コード**	**コース**	**理論**	**実習**	**理論**	**実習**
1	VT033201	英会話 1	2		2	
2	VT033101	基本的な通信システム	2		3	
3	VT033102	デジタル電子工学 2	2		3	
4	VT033103	送電線	2		3	
5	VT033104	信号とシステム	2		3	
6	VT033105	基本的な通信システムの実習		1		3
7	VT033106	デジタル電子工学の実習 2		1		3
8	VT033107	送電線の実習		1		3
9	VT033108	信号とシステムの実習		1		3
10	VT033109	シェルプログラミングのワークショップ		2		4
11	VT033110	数値法ワークショップ		2		4
12	VT033111	エレクトロニクスのワーク ショップ		2		4
		小計	**10**	**10**	**14**	**24**
		合計	**20**		**38**	

セメスター 4			**クレジット**		**時間**	
号	**コード**	**コース**	**理論**	**実習**	**理論**	**実習**
1	VT034201	英語コミュニケーションのスキル 2	2		2	
2	VT034202	統計学入門	2		3	

3	VT034101	データ通信	2		3	
4	VT034102	アンテナ・伝搬	2		3	
5	VT034103	通信システム 1	2		3	
6	VT034104	基本的な電話	2		3	
7	VT034105	マイクロプロセッサ・インタフェース	2		2	
8	VT034106	データ通信の実習		1		3
9	VT034107	アンテナ･伝搬の実習		1		3
10	VT034108	通信システムの実習 1		1		3
11	VT034109	基本的な電話の実習		1		3
12	VT034110	マイクロプロセッサ・インタフェースの実習		1		3
13	VT034111	ラジオのワークショップ		2		4
		小計	**14**	**7**	**19**	**19**
		合計	**21**		**38**	

セメスター 5			**クレジット**		**時間**	
号	**コード**	**コース**	**理論**	**実習**	**理論**	**実習**
1	VT035201	キャリアのための英語	2		2	
2	VT035202	インドネシア語文法	2		2	
3	VT035101	コンピュータネットワーク	2		3	
4	VT035102	電話ネットワーク	2		3	
5	VT035103	通信システム 2	2		3	
6	VT035104	インターネットプログラミング	2		3	
7	VT035105	デジタル信号処理	2		3	
8	VT035106	コンピューターネットワーク実習		1		3
9	VT035107	電話ネットワークの実習		1		3
10	VT035108	通信システムの実習 2		1		3

11	VT035109	インターネットプログラミングの実習		1		3
12	VT035110	デジタル信号処理の実習		1		3
13	VT035111	KP		1		
14	VT035112	インターンシップ		2		6
		小計	**14**	**8**	**19**	**21**
		合計	**22**		**40**	

セメスター 6			クレジット		時間	
号	**コード**	**コース**	**理論**	**実習**	**理論**	**実習**
1	VT036201	専門家のための英語	2		2	
2	VT036202	自律性	2		2	
3	VT036203	工業経営	2		2	
4	VT036101	応用通信	2		3	
5	VT036102	光通信	2		3	
6	VT036103	応用通信の実習		1		3
7	VT036104	光通信の実習		1		3
8	VT036105	卒業プロジェクト		6		18
		小計	**10**	**8**	**12**	**24**
		合計	**18**		**36**	

(3) インドネシア　専門学校　〔学習内容〕IT

セメスター１

番号	科目名	単位
1	宗教	3
2	英語	2
3	数理論理学	3
4	コンピュータ構築	3
5	アルゴリズムとプログラミング	4
6	情報技術	3
7	アルゴリズムとプログラミング実習	1
8	アプリケーション実習	1
小計		20

セメスター２

番号	科目名	単位
1	情報システム管理	3
2	インドネシア語	3
3	行列	3
4	数理情報	3
5	データ構造	3
6	コンピュータアーキテクチャ	3
7	データ構造　実習	1
8	インターネット基礎　実習	1
小計		20

セメスター3

番号	科目名	単位
1	英語 II	2
2	データベース	4
3	人間の相互作用とコンピュータ	3
4	コンピュータネットワーク	3
5	オペレーティングシステム	3
6	プレゼンテーション技術	2
7	ビジネスコミュニケーション	1
8	データベース　実習	1
9	オペレーティングシステム 1 実習	1
小計		20

セメスター4

番号	科目名	単位
1	オブジェクト指向プログラム	3
2	ソフトウェア工学	4
3	セキュリティシステム	3
4	ウェブプログラム	3
5	イノベーションとアントレプレナーシップ	3
6	ソフトウェア開発　実習	1
7	ドキュメンテーション	2
8	オブジェクト指向プログラミング実習	1
小計		20

セメスター5

番号	科目名	単位
1	ネットワークプログラミング	3
2	マルチメディアアプリケーション	3
3	情報技術プロジェクト管理	3
4	PraktikumPemrograman ネットワーク	1
5	分散系	3
6	オプション 1	3
7	卒業プロジェクト 1	2
小計		20

セメスター6

番号	科目名	単位
1	市民権	3
2	プロ意識	2
3	オプション　II	3
4	リハーサル	2
5	卒業プログラム II	3
小計		20

コース　オプション

番号	科目名	単位
1	意思決定支援プログラム	3
2	管理データベース	2
3	モバイルコンピューティング 3	3
4	モバイルコンピューティング 3	2

(4)タイ専門学校（IT）

1 年 1 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（7 単位）		
	1.1　基本一般コース（7 単位）		
3000-1101	タイ語	3	3
3000-1201	英語コミュニケーションスキル開発 1	2	3
3000-1301	タイの生活･文化	1	1
3000-1601	図書館･情報	1	1
	1.2　職業系一般コース		
	2. 職業コース（18 単位）		
	2.1　基本職業コース（9 単位）		
3901-1001	情報技術	3	4
3901-1002	コンピュータ･プログラミング 1	3	4
3901-1003	データベース･システム	3	4
	2.2　コア職業コース（9 単位）		
3901-2001	コンピュータ･アーキテクチャとオペレーティング･システム	3	4
3901-2005	ウェブ･デザイン、開発	3	4
3901-2009	ウェブ･プログラミング 1	3	4
	2.3　専門職業コース		
	3.　自由選択コース		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		34
合計単位数		25	単位

1 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（4 単位）		
	1.1　基本一般コース（4 単位）		
3000-1202	英語コミュニケーションスキル開発 2	2	3
3000-1606	人文科学	2	2
	1.2　職業系一般コース		
	2. 職業コース（18 単位）		
	2.1　基本職業コース（3 単位）		
3901-1004	コンピュータ･ネットワーキング基礎	3	4

	2.2　コア職業コース（12 単位）		
3901-2002	データ構造とオペレーティング･システム	3	4
3901-2003	オブジェクト指向解析･設計	3	4
3901-2004	データ実装	3	4
3901-2006	オブジェクト指向プログラミング 1	3	4
	2.3　専門職業コース（3 単位）		
3901-2104	オブジェクト指向プログラミング 2	3	4
	3.　自由選択コース（3 単位）		
3901-2010	ウェブ･プログラミング 2	3	4
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**35**
合計単位数		**25**	**単位**

2 年 1 学期			
コード	**コース名**	**単位**	**時間/週**
	1.　一般コース（9 単位）		
	1.1　基本一般コース（2 単位）		
3000-1304	社会科（政治）	2	2
	1.2　職業系一般コース（7 単位）		
3000-1225	英語（プロジェクト）	1	2
3000-1427	科学 8	3	4
3000-1521	数学 2	3	3
	2. 職業コース（16 単位）		
	2.1　基本職業コース（3 単位）		
3000-0101	品質システムによる開発と生産量増加	3	3
	2.2　コア職業コース（3 単位）		
3901-2008	XML を使用したプログラミング	3	4
	2.3　専門職業コース（10 単位）		
3901-2105	オブジェクト指向プログラミング 3	3	4
3901-2106	コンピュータ･プログラミング 2	2	3
3901-2107	コンピュータ･プログラミング 3	2	3
3901-2115	システム分析･設計	3	4
	3.　自由選択コース		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**34**
合計単位数		**25**	**単位**

2 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（4 単位）		
	1.1　基本一般コース		
	1.2　職業系一般コース（4 単位）		
3000-1235	求職のための英語	1	2
3000-1525	微分積分 1	3	3
	2. 職業コース（10 単位）		
	2.1　基本職業コース		
	2.3　専門職業コース		
	2.2　コア職業コース（6 単位）		
3901-2101	上級ドット･ネット･プログラミングとファイル･セキュリティー	3	4
3901-2103	Linux ベーシック	3	4
	2.4　プロジェクト（4 単位）		
3901-6001	プロジェクト	4	*
	3.　自由選択コース（4 単位）		
3901-2114	ウェブ･サービスとの連携	2	3
3901-2120	上級トピック IT2	2	*
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		18
合計単位数		18	単位

(5) タイ専門学校（テレコミュニケーション･システム）

1 年 1 学期			
コード	**コース名**	**単位**	**時間/週**
	1. 一般コース（9 単位）		
	1.1 基本一般コース（6 単位）		
3000-1101	タイ語	3	3
3000-1201	英語コミュニケーションスキル開発 1	2	3
3000-1301	タイの生活･文化	1	1
	1.2 職業系一般コース（3 単位）		
3000-1521	Maths 2	3	3
	2. 職業コース（15 単位）		
	2.1 基本職業コース（9 単位）		
3105-1001	電気回路分析	3	4
3105-1002	電気･電子機器	2	3
3105-1003	電子回路分析	2	3
3105-1004	デジタル技術	2	3
	2.2 コア職業コース（6 単位）		
3105-2002	パルス法	2	3
3105-2004	工業電子機器	2	3
3105-2005	オーディオ･システム	2	3
	2.3 専門職業コース		
	3. 自由選択コース		
	5. 課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**34**
合計単位数		**24**	**単位**

1 年 2 学期			
コード	**コース名**	**単位**	**時間/週**
	1. 一般コース（6 単位）		
	1.1 基本一般コース（3 単位）		
3000-1202	英語コミュニケーションスキル開発 2	2	3
3000-1601	図書館･情報	1	1
	1.2 職業系一般コース（3 単位）		
3000-1525	微分積分 1	3	3
	2. 職業コース（18 単位）		
	2.1 基本職業コース（3 単位）		

3000-0202	コンピュータ･プログラミング	3	4
	2.2　コア職業コース（12 単位）		
3105-2001	高周波電子回路分析	2	3
3105-2003	オペアンプとリニア IC	2	3
3105-2006	ビデオ･システム	2	3
3105-2008	テレコミュニケーション･システム	2	3
3105-2012	マイクロプロセッサ	2	3
3105-2016	アナログ･コミュニケーション･システム	2	3
	2.3　専門職業コース（3 単位）		
3105-2303	マイクロ波通信システム	3	4
	3.　自由選択コース		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**35**
合計単位数		**24**	**単位**

2 年 1 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（1 単位）		
	1.1　基本一般コース		
	1.2　職業系一般コース（1 単位）		
3000-1226		1	2
	2. 職業コース（16 単位）		
	2.1　基本職業コース		
	2.2　コア職業コース（4 単位）		
3105-2007	電波受信･送信技術	2	3
3105-2009	電話システム	2	3
	2.3　専門職業コース（12 単位）		
3105-2301	光ファイバー通信システム	3	4
3105-2302	衛星通信	3	4
3105-2304	伝送回路とアンテナのシステム	3	4
3105-2308	テレコミュニケーション上級トピック 1	3	4
	3.　自由選択コース		
	4.　OJT（1 学期）		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**26**
合計単位数		**17**	**単位**

2 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1. 一般コース（8 単位）		
	1.1 基本一般コース（4 単位）		
300-1304	社会科（政治）	2	2
3000-1606	人文科学	2	2
	1.2 職業系一般コース（4 単位）		
3000-1235	求職のための英語	1	2
3000-1427	科学 8	3	4
	2. 職業コース（13 単位）		
	2.1 基本職業コース（3 単位）		
3000-0101	品質システムによる開発と生産量増加	3	3
	2.2 コア職業コース（6 単位）		
3105-2010	コンピュータ･ネットワーク･システム	2	3
3105-2011	デジタル回路設計	2	3
3105-2017	デジタル通信システム	2	3
	2.2 コア職業コース		
	2.4 プロジェクト（4 単位）		
3105-6001	プロジェクト	4	*
	3. 自由選択コース（6 単位）		
3105-2019	電気･電子数学	3	3
3105-2020	電磁場基礎	3	3
	5. 課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**30**
合計単位数		**27**	**単位**

2.8.3　マルチメディア

(1)インドネシア職業高校

“マルティメディア”高校（コンピューター専攻コース)カリキュラム

区分	分野	科目	時間 (hour)
コンピュター専攻コース	PC 組立	PC の用途と仕様の設定	
		PC の組立	
		組立作業中の作業安全確保	
		ソフトを使用して PC 部品設定 (BIOS を経由して OS を設定する)	
		ソフト用いて周辺機器との接続を行う	
		PC 組立成果の確認と周辺機器接続	
	基本 OS の設定	OS 設定過程の説明	
		ソフト設定指示書に基づく、ソフトの設定	
		設定済み状況を他のソフトにより検証	
		トラブル・シューティングの方法	
	作業安全確保と環境問題解決	作業安全と健康問題概要(K3)	
		K3 問題実習	
		環境問題実習	
		事故発生時の初動救命実習	

(2)インドネシア専門学校　マルチ メディア放送

o	専門科目	取得する能力
セメスター１		
1	マスコミの基本科学	公衆とのコミュニケーションの重要な要因を知る
2	コンピュータ・リテラシー	コンピューターで、ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション、描画、インターネットを使用する
3	電子工学・計測	エレクトロニクスの作業原則の理解し、基本的な測定機器を使用することができる
4	視覚的なプログラミング	視覚的プログラミング手法に基づくシンプルなコンピュータプログラムを作成できる
5	パブリッシング	ソフトウェアを使用して、パンフレット、雑誌、新聞、または他の印刷メディアをレイアウトできる
6	Web 開発	web ツールソフトウェアを使用し、ウェブ開発できる
セメスター２		
1	ストーリーと絵コンテ	ストーリーラインと、特定のテーマの適切なフレームを作ることができる
2	デジタルエレクトロニクス	放送技術を用いた電子回路を組み立てることができる
3	マルチメディアプログラミング	マルチメディアの要素（テキスト、音声、オーディオ、画像、またはビデオ）を処理するためのビジュアルプログラミングを使用できる
4	カメラ＆写真編集	Photoshop 等の画像処理アプリを使用して写真を編集でききる
5	オーディオ　＆ビデオ録画	オーディオ録音やビデオ録画技術を熟知している
6	2 D アニメーション	macromedia flash などのソフトウェアを使用して､2 次元のアニメーションを作できる
セメスター３		
1	放送スタジオ	ラジオおよびテレビのスタジオ機器を知識を有し、機器の各部分の機能を説明できる
2	通信システム	コミュニケーションの成功を決定する一般的で重要な要素に関する知識がある
3	コンピュータ　ネットワーク	コンピュータネットワークの基本的な要素の知識があり、簡単なネットワークとサーバーインストールのインストールを行うことができる
4	スタジオカメラ　＆照明	巧みにスタジオのカメラを使用して、知っている、照明理論を適用する良い画像を生成することができます。

5	3D アニメーション	ソフトウェアを使用して、一定レベルの 3 次元アニメーションを作成することができる
6	オーディオ ＆ ビデオ編集	編集ソフトを使用して、オーディオとビデオを編集できる
セメスター 4		
1	基本的なジャーナリズム	マルチメディアコンテンツを作成するために、基本的なジャーナリズムの理論を知っている
2	マルチメディアネットワーク	最新の技術開発に基づきインターネット経由でマルチメディアの配布の目的のためネットワークのセットアップを実行することができる
3	スタジオアクセサリー	様々なアクセサリーの知識を有し、操作することができる
4	ミキシング ＆スイッチング	ミキシング＆スイッチングの知識を有し、操作できる
5	ゲーム開発	ソフトウェアを使用し、一定レベルまでゲームを作ることができる
6	コミュニケーション ・ ワークショップ	放送業界で広く使用されている基本的な回路の組み立ての知識を有し、組み立てることが可能である
セメスター 5		
1	放送のビジネス知識	世界の放送事業の知識を有し、そのビジネス倫理を知っている
2	特殊効果の AV	AV ソフトウェアを使用し、一定のレベルの特殊効果を創作することができる
3	アンテナ ・伝搬	アンテナ、波の伝播、送電線の実務を知っている
4	インターネット放送	オンラインラジオ、IP テレビなどインターネットを介してマルチメディアを活用できる
セメスター 6		
1	放送の規制	国内および国際放送のビジネスに適用されるルールに関する知識を有する
2	送信機システム	一定レベルのメンテナンス、トラブルシューティングのノウハウを有し、実行できる
3	E ラーニング開発	ソフトウェアを使用し、一定レベルの学習モジュールを創作することができる
4	卒業プロジェクト	独力で、プロジェクトを計画、実行し、それを科学論文の標準的な形式に従って報告書とまとめることができる

(3) タイ専門学校（コンピュータ・マルチメディア）

1 年 1 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1. 一般コース（6 単位）		
	1.1 基本一般コース（6 単位）		
3000-1101	タイ語	3	3
3000-1201	英語コミュニケーションスキル開発 1	2	3
3000-1301	タイの生活･文化	1	1
	1.2 職業系一般コース		
	2. 職業コース（12 単位）		
	2.1 基本職業コース（3 単位）		
3000-0203	情報技術序論	3	4
	2.2 コア職業コース（9 単位）		
3308-2001	グラフィック原則	3	3
3308-2003	デジタル写真原則	3	3
3308-2005	グラフィック描画	3	4
	2.3 専門職業コース		
	3. 自由選択コース		
	5. 課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		23
合計単位数		18	単位

1 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1. 一般コース（10 単位）		
	1.1 基本一般コース（7 単位）		
3000-1202	英語コミュニケーションスキル開発 2	2	3
3000-1302	地域在来の知恵	2	2
3000-1601	図書館･情報	1	1
3000-1603	健康･人格育成のためのスポーツ	2	2
	1.2 職業系一般コース（3 単位）		
3000-1522	数学 3	3	3
	2. 職業コース（14 単位）		
	2.1 基本職業コース（3 単位）		
3300-0101	創造性開発	3	3
	2.2 コア職業コース（9 単位）	3	3

3308-2007	デジタルビデオ原則		
	2.3　専門職業コース		
3308-2205	教育用マルチメディア･プロダクション	3	3
3308-2207	マルチメディア･コンピュータ･システム･マネジメント	3	3
	3.　自由選択コース（3 単位）		
3306-2006	広告用写真撮影	3	5
	4. OJT　320 時間		
	（夏季休暇中）		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**30**
合計単位数		**25**	**単位**

2 年 1 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1.　一般コース（1 単位）		
	1.1　基本一般コース		
	1.2　職業系一般コース（1 単位）		
3000-1234	美術工芸英語	1	2
	2. 職業コース（15 単位）		
	2.1　基本職業コース		
	2.2　コア職業コース（6 単位）		
3308-2002	中小企業とグラフィック･コンピュータ	3	3
3308-2004	上級システム･コンピュータ･グラフィック	3	4
	2.3　専門職業コース（9 単位）		
3308-2105	コンピュータ支援フォトレタッチ	3	4
3308-2202	デジタル編集	3	4
3308-2204	商用マルチメディアプロダクション	3	3
	3.　自由選択コース（3 単位）		
3306-2007	ビデオ制作	3	5
	4.　OJT（1 学期）		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**27**
合計単位数		**19**	**単位**

2 年 2 学期

コード	コース名	単位	時間/週
	1. 一般コース（4 単位）		
	1.1 基本一般コース		
	1.2 職業系一般コース（4 単位）		
3000-1235	求職のための英語	1	2
3000-1422	科学 3	3	4
	2. 職業コース（12 単位）		
	2.1 基本職業コース（3 単位）		
3000-0101	品質システムによる開発と生産量増加	3	3
	2.2 コア職業コース（3 単位）		
3308-2008	コンピュータ･ネットワーク･システム	3	3
	2.3 専門職業コース（6 単位）		
3308-2103	コンピュータ支援による 3D 創作	3	3
3308-2307	情報通信技術のための グラフィックデザイン	3	3
	2.4 プロジェクト（4 単位）		
3301-6001	プロジェクト	4	8
	3. 自由選択コース		
	5. 課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**28**
合計単位数		**20**	**単位**

2.8.4 エレクトロニクス

タイ専門学校（エレクトロニクス）

1 年 1 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1. 一般コース（10 単位）		
	1.1 基本一般コース（7 単位）		
3000-1101	タイ語	3	3
3000-1201	英語コミュニケーションスキル開発 1	2	3
3000-1301	タイの生活･文化	1	1
3000-1601	図書館･情報	1	1
	1.2 職業系一般コース（3 単位）		
3000-1521	数学 2	3	3
	2. 職業コース（15 単位）		
	2.1 基本職業コース（9 単位）		
3105-1001	電気回路分析	3	4
3105-1002	電気･電子機器	2	3
3105-1003	電子回路分析	2	3
3105-1004	デジタル技術	2	3
	2.2 コア職業コース（6 単位）		
3105-2002	パルス法	2	3
3105-2004	工業電子機器	2	3
3105-2005	オーディオ･システム	2	3
	2.3 専門職業コース		
	3. 自由選択コース		
	5. 課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		35
合計単位数		25	単位

1 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1. 一般コース（10 単位）		
	1.1 基本一般コース（4 単位）		
3000-1202	英語コミュニケーションスキル開発 2	2	3
3000-1304	社会科（政治）	2	2
	1.2 職業系一般コース（6 単位）		
3000-1427	科学 8	3	4

3000-1525	微分積分 1	3	3
	2. 職業コース（15 単位）		
	2.1　基本職業コース（3 単位）		
3000-0202	コンピュータ･プログラミング	3	4
	2.2　コア職業コース（12 単位）		
3105-2001	高周波電子回路分析	2	3
3105-2003	オペアンプとリニア IC	2	3
3105-2006	ビデオ･システム	2	3
3105-2008	テレコミュニケーション･システム	2	3
3105-2011	デジタル回路設計	2	3
3105-2012	マイクロプロセッサ	2	3
	2.3　専門職業コース		
	3.　自由選択コース		
	5.　課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**36**
合計単位数		**25**	**単位**

2 年 1 学期			
コード	**コース名**	**単位**	**時間/週**
	1.　一般コース（1 単位）		
	1.1　基本一般コース		
	1.2　職業系一般コース（1 単位）		
3000-1226	英語プロジェクトワーク	1	2
	2. 職業コース（16 単位）		
	2.1　基本職業コース		
	2.2　コア職業コース（4 単位）		
3105-2007	電波受信･送信技術	2	3
3105-2009	電話システム	2	3
	2.3　専門職業コース（12 単位）		
3100-0106	空気圧と油圧	3	4
3105-2101	電力工学	3	4
3105-2102	工業用電子機器	3	4
3105-2107	工業用エレクトロニクス上級トピック	3	4
	3.　自由選択コース		
	4.　OJT（1 学期）		

	5. 課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**26**
合計単位数		**17**	**単位**

2 年 2 学期			
コード	コース名	単位	時間/週
	1. 一般コース（3 単位）		
	1.1 基本一般コース（2 単位）		
3000-1606	人文科学	2	2
	1.2 職業系一般コース（1 単位）		
3000-1235	求職のための英語	1	2
	2. 職業コース（16 単位）		
	2.1 基本職業コース（3 単位）		
3000-0101	品質システムによる開発と生産量増加	3	3
	2.2 コア職業コース（6 単位）		
3105-2010	コンピュータ･ネットワーク･システム	2	3
3105-2013	インターフェース技術	2	3
3105-2014	マイクロコントローラ	2	3
	2.3 専門職業コース（3 単位）		
3105-2103	プログラマブル論理制御	3	4
	2.4 プロジェクト（4 単位）		
3105-6001	プロジェクト	4	*
	3. 自由選択コース（6 単位）		
3105-2019	電気･電子数学	3	3
3105-2020	電磁場基礎	3	3
	5. 課外活動 40 時間	*	2
	合計時間/週		**28**
合計単位数		**25**	**単位**

2.8.5　ホテル・観光

(1)インドネシア専門学校（ホテル観光科）

ホスピタリティ管理コース

コード	コース
HTB015	コンピューター　（MS オフィス。単語）
HTB026, 027	イギリス観光基本言語 1、2
HTB018	日本語
HTB019	マンダリン中国語
HTD054　、HTC041、042	キッチン 1、2、3
HTD057	キャッシャー
HTD051,　064 、065	フロント オフィス 1、2、3
HTD052、067	フード & ビバレッジ サービス 1.2
HTD053 3,938,069	清掃 1、2、3
HTB013	ホテル統計
HTB020	フランス語の言語
HTB025	ホテル会計
29 HTB028	英語（会話 1, 2）
HTC031	起業家精神
HTD059	
HTC038	フロント ・ オフィスのスーパーバイザー
HTC039	食品 & 飲料スーパーバイザー
HTC040	ハウスキーピングのスーパーバイザー
HTC049	イギリスのホテルの対応言語
HTB023	技術的なレポートの書き方
HTC043, 044	プロキッチン 1.2
HTD055　、HTC045	ペストリー & ベーカリー 1.2
HTC046	バー/ジャグリング 1.2
HTD061　、HTC036	専門英語 1, 2
HTD058	アート
HTE071	フィールド作業の実践

⑵タイ職業高校（観光科）

1.一般コース（26 単位以上）

1.1　基本一般コース（18 単位以上）

1.1.1　言語（8 単位以上）

⑴タイ語（4 単位以上）：　学生は 2 単位分として 2000－1101 コースを学習し、さらに以下のコースから一つ（4 単位以上）を選択しなければならない

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1101	職場におけるタイ語　1	2	(2)
2000	1102	職場におけるタイ語　2	2	(2)
2000	1103	職場におけるタイ語　3	2	(2)
2000	1104	コミュニケーションのためのタイ語	2	(2)
2000	1105	タイ語プロジェクトワーク	2	(2)
2000	1106	Speech Arts（訳語不明）	2	(2)

⑵英語、その他の言語（4 単位）

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1201	コミュニケーションのための英語 1	2	(2)
2000	1202	コミュニケーションのための英語 2	2	(2)

1.1.2　社会科（4 単位以上）2000 - 1301 のコースで 2 単位、加えて以下のコースから一つ選択

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1301	タイの倫理観	2	(2)
2000	1302	地理経済学	2	(2)
2000	1303	タイの歴史と行政	2	(2)
2000	1304	地域社会特別プロジェクト	2	(2)
2000	1305	タイ民俗学	2	(2)
2000	1306	生活のための自然地理学	2	(2)
2000	1307	時事問題	2	(2)

1.1.3　科学・数学（4 単位）

⑴科学（2 単位）

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1401	基礎科学	2	(3)

⑵数学（2 単位）

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1501	応用数学　1	2	(2)

1.1.4　保健体育（2 単位以上）

学生は体育科目から 1 単位以上 1 コース、保健科目から 1 単位以上 1 コース、合計 2 単位以上を選択、または保健･体育統合科目を 2 単位以上選択する。

(1)体育科目

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1601	自己開発のための体育	1	(2)
2000	1605	職務に向けた体力育成	1	(2)
2000	1606	自己防衛	1	(2)
2000	1607	身体障害者向け体育	1	(2)

(2)保健科目

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1602	自己開発のための体育	1	(1)
2000	1608	職務に向けた体力育成	1	(1)
2000	1609	自己防衛	1	(1)
2000	1610	身体障害者向け体育	1	(1)
2000	1611	農業における安全	1	(1)

(3)保健･体育統合科目

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1603	生活の質の開発	2	(3)
2000	1604	幸福のための生活の管理	2	(3)

1.2　職業系一般コース（4 単位以上）以下のコースから選択する:

1.2.1　言語

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1220	職場におけるコミュニケーションの英語	1	(2)
2000	1221	英会話　1	1	(2)
2000	1222	英会話　2	1	(2)
2000	1223	産業・貿易英語	1	(2)
2000	1224	ビジネス英語	1	(2)
2000	1225	観光産業の英語	1	(2)
2000	1226	美術英語	1	(2)
2000	1227	家政学の英語	1	(2)

2000	1228	農業の英語	1	(2)
2000	1229	漁業の英語	1	(2)
2000	1230	農業技術の英語	1	(2)
2000	1231	漁業技術の英語	1	(2)
2000	1232	英語補修	1	(2)
2000	1233	インターネット英語	1	(2)
2000	1234	英語プロジェクトワーク	1	(2)
2000	1235	職場の英語	1	(2)
2000	1236	英語自主研究	1	(2)
2000	1237	技術英語	1	(2)
2000	1238	食・栄養の英語	1	(2)

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1239	被服デザインの英語	1	(2)
2000	1240	業務における技術英語	1	(2)
2000	1241	商用通信	1	(2)
2000	1242	商業美術の英語	1	(2)
2000	1243	芸術の英語	1	(2)
2000	1244	新聞を用いた英語学習	1	(2)
2000	1245	ビジネス英会話	1	(2)
2000	1246	宝飾の英語	1	(2)
2000	1247	陶芸の英語	1	(2)
2000	1248	手工芸の英語	1	(2)
2000	1249	皮革細工の英語	1	(2)
2000	1250	基礎中国語　1	1	(2)
2000	1251	基礎中国語　2	1	(2)
2000	1252	基礎日本語　1	1	(2)
2000	1253	基礎日本語　2	1	(2)
2000	1254	基礎仏語　1	1	(2)
2000	1255	基礎仏語　2	1	(2)
2000	1256	基礎独語　1	1	(2)
2000	1257	基礎独語　2	1	(2)

1.2.2 科学（2 単位以上）

(1) 科学（2 単位以上）以下から選択:

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1420	工業科学	2	(3)

2000	1421	応用科学	2	(3)
2000	1422	農業科学	2	(3)
2000	1423	環境科学	2	(3)
2000	1424	科学プロジェクト	4	(*)
2000	1425	生物化学	2	(3)

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1426	基礎化学	2	(3)
2000	1427	基礎物理学　1	2	(3)
2000	1428	基礎物理学　2	2	(3)
2000	1429	基礎物理学　3	2	(3)
2000	1430	基礎生物学	2	(*)

(2)数学（2 単位以上）以下から選択:

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	1520	応用数学　2	2	(2)
2000	1521	応用数学　3	2	(2)
2000	1522	応用数学　4	2	(2)
2000	1523	応用数学　5	2	(2)
2000	1524	応用数学　6	2	(2)
2000	1525	応用数学　7	2	(2)
2000	1526	応用数学　8	2	(2)
2000	1527	応用数学　9	2	(2)

2. 職業コース　66 単位以上

2.1　基本職業コース　8 単位　以下から選択

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2001	0001	業務におけるコンピュータ	2	(3)
2001	0002	基礎ビジネス・マネジメント	2	(3)
2001	0003	品質マネジメントと生産性	2	(3)
2001	0004	基礎環境マネジメント	2	(3)

2.2　コア職業コース　18 単位

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2701	0001	環境産業	3	(3)
2701	0002	人格育成	2	(3)
2701	0003	芸術とタイ文化	3	(3)

2701	0004	サービスの技巧	2	(2)
2701	0005	旅行者の行動	2	(2)
2701	0006	観光産業のマーケティング	2	(2)
2701	0007	キャリアのための情報技術	2	(4)
2201	2306	事務機器	2	(4)

2.3 専門職業コース　36 単位（以上）

学生は全体で 24 単位以上のいずれかの専門職業コースを選択しなければならない。この他、独自の専門かその他の専門からの選択により合計取得単位数を満たすことができる。

2.3.1　ホスピタリティー特定科目

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2701	2101	ホスピタリティ	2	(2)
2701	2102	ホテルの安全	2	(2)
2701	2103	ホテルのマーケティング	2	(3)
2701	2104	ホテル業務のコンピュータ	3	(3)
2701	2105	ホテルフロント・オフィス	2	(3)
2701	2106	ホテルフロント･オフィス業務のコンピュータ	2	(3)
2701	2107	ホテル客室清掃	2	(3)
2701	2108	ランドリー	2	(3)
2701	2109	フラワー･アレンジメント	2	(3)
2701	2110	客室清掃業務のコンピュータ	2	(3)
2701	2111	ホテル厨房と厨房設備	2	(3)

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2701	2112	食品調理	2	(3)
2701	2113	ホテルの料理	2	(4)
2701	2114	食事のデコレーション	2	(3)
2701	2115	栄養と食品衛生	2	(2)
2701	2116	野菜・果物のカービング	2	(3)
2701	2117	飲食サービス	3	(4)
2701	2118	飲料と調合	2	(3)
2701	2119	レストランと宴会	2	(4)
2701	2120	ワインと酒	2	(3)
2701	2121	食品のディスプレイ	2	(3)
2701	2122	食事会場の装飾	2	(2)
2701	2123	ワークショップ運営	2	(3)
2701	2124	展示会運営	2	(3)

2701	2125	ホテル内店舗	2	(2)
2701	2126	ホテル業務の書類と報告書	2	(2)
2701	2127	ベーカリー	2	(4)
2201	1019	エチケットと交友関係	2	(4)
2201	2812	おもてなしのための英語	3	(4)
2201	2815	飲食サービスのための英語	3	(4)
2701	4101	ホスピタリティ　1	*	(*)
2701	4102	ホスピタリティ　2	*	(*)
2701	4103	ホスピタリティ　3	*	(*)
2701	4104	ホスピタリティ　4	*	(*)
2701	4105	ホスピタリティ　5	*	(*)
2701	4106	ホスピタリティ　6	*	(*)

2.3.2 ツーリズム特定科目

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2701	2201	ツーリズム・ビジネス	2	(4)
2701	2202	北部・西部の観光資源	2	(3)
2701	2203	中部・東部の観光資源	2	(3)
2701	2204	北東部の観光資源	2	(3)
2701	2205	南部の観光資源	2	(3)
2701	2206	ツアーガイド	3	(4)
2701	2207	交通ビジネス	2	(2)
2701	2208	タイの芸術	2	(3)
2701	2209	宿泊施設のビジネス	2	(2)
2701	2210	観光産業のための飲食物マネジメント	2	(2)
2701	2211	エコ・ツーリズム	2	(2)
2701	2212	ツーリズムのためのレクリエーション	2	(3)
2701	2213	ツアーのオペレーション	3	(4)
2701	2214	写真撮影の基礎	2	(2)
2701	2215	職業実践　1	3	(4)
2701	2216	職業実践　2	3	(4)
2701	2217	地場製品と土産物	2	(2)
2701	2218	ツーリズムの安全	2	(2)
2701	2219	ツーリズムと農業	2	(2)
2701	2220	ツーリズムと健康	2	(2)
2201	2811	ツーリズムのための英語	3	(4)
2201	2813	ツアーガイドの英語	3	(4)

2701	4201	ツーリズム　1	*	(*)
2701	4202	ツーリズム　2	*	(*)
2701	4203	ツーリズム　3	*	(*)
2701	4204	ツーリズム　4	*	(*)
2701	4205	ツーリズム　5	*	(*)
2701	4206	ツーリズム　6	*	(*)

Dual System (実習)のため、教育機関と雇用者は共同でコース目標と基準を分析し、適切な実施計画の作成、評価手法の策定を行う（40 時間は 1 単位に相当)。

2.4　プロジェクト　4 単位

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2700	5001	プロジェクト	4	(160)

3.　自由選択コース　10 単位以上

学生は適性と関心に基づき、すべての学習領域における 2002 年度職業教育認定カリキュラムのリストより、コースを選択できる。

4.　OJT（1 セメスター以上）

OJT に向け、教育機関は職場で実施される職業コースを選択する。少なくとも 1 セメスター、40 時間以上で 1 単位とする。

5.　課外活動（200 時間）

教育機関はプログラム全体のうち 200 時間以上の課外活動を手配する。

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2202	0001-0002	ローバー･スカウト活動	1-2	(2)
2202	0003-0006	職業協会活動	1-2	(2)
2202	0007-0012	その他の活動（職場／教育機関による）		(2)

⑶タイ職業高校（観光科）　詳細

2002 年度職業教育認定カリキュラム（2003 年度修正版）

学習分野：観光産業

プログラム：ホスピタリティとツーリズム

専門：ホスピタリティ、ツーリズム

Bureau of Vocational Education Standards and Qualifications

Office of the Vocational Education Commission

MINISTRY OF EDUCATION

目次

2002 年度職業教育認定カリキュラム

原則…… a

目標……... b

カリキュラム実施…… c

コーディング・システム…… f

プログラム

目標…… 1

職業教育基準……... 2

プログラム構成…… 3

a

2002 年度職業教育認定カリキュラム

原則

1.当カリキュラムは、前期中等教育後、労働市場と自営業のニーズ、また地域・国の両レベルにおける経済・社会状況を踏まえ、適切なモラル、倫理観、人格、態度、働く能力を備えた特定の職業領域における熟練労働者の排出と開発を目的とする。

1. The curriculum, after the lower secondary education, aims to produce and develop skilled workers in particular occupational areas with appropriate morals, ethics, personality, attitude, and ability to work in accordance with the needs of labor market and self-employment, and also economic and social conditions at both local and national levels.

2.当カリキュラムは特定のスキルと実践に焦点を当て、学習者により多くの学習モードと学習への入り口を提供する。学習者は自身の能力、関心、可能性、時間に合わせて学習モードを選択することができる。成績は累積・移行可能、また過去の学業・職業から得られた知識・経験も認定される。

2. The curriculum offers the learners more learning modes and entries to study focusing on specific skills and real practice. Learners are able to choose their learning modes according to their abilities, interests, potentialities, and time. The results of study can be accumulated and transferred, and their prior knowledge and experience from academic sources and workplaces can be accredited.

3.当カリキュラムは教育の管理･運営（？educational management）における学習公・民の機関・団体の協力を重視する。

3. The curriculum emphasizes the cooperation of public and private agencies and organizations in educational management.

4.当カリキュラムはまた、教育機関や地域社会に、地域社会のニーズや状況に応じたカリキュラム開発への参加の機会を提供する。

4. The curriculum also provides opportunity for educational institutes and local communities to take part in curriculum development in accordance with the needs of local communities and conditions.

b

目標

Objectives

1.職業教育基準に則り職業的知識、スキル、経験を提供すること。（学習者が）それらを業

務で効率的に実践できるようになること、また国・地域のニーズに沿う形で自分に合った人生やキャリアを選択できるようになること。
1. To provide the occupational knowledge, skills and experience according to the vocational education standards; to be able to put them into practice at work efficiently; and to be able to choose their own ways of life and careers appropriate to themselves and in accordance with the needs of local and national communities.

2.知性と創造的思考を促進すること。学習者の人生とキャリアの質を向上させること。職業におけるマネジメントと能力開発のためのスキルを向上させること。
2. To promote intelligence and creative thinking; to develop their quality of life and career; and to promote skills for their professional management and development.

3.キャリアに対する前向きな態度、自身、仕事への誇り、仕事と組織への愛着、他者と共にグループで働く能力、自他の権利と義務の尊重の精神を促進すること。
3. To promote positive attitude toward a career, self-confidence and pride of work, love about work and organization, ability to work with others in groups, and respect to rights and duties of oneself and others.

4.良き社会的行動、業務慣行、チームワークのスキル、家族・地域・国への責任を持った市民を育てること。社会に奉仕する人材を育てること。タイの芸術、文化、地域に根ざした叡智を理解しその価値を見出せる人材を育てること。環境問題とその重要性を認識する人材を育てること。
4. To produce citizens with good social behavior, good work habits, group work skills, responsibility towards their families, local organizations and the country; who devote oneself to society; who understand and see the value of Thai arts, culture, and local wisdom; and who have awareness of environmental issues and importance.

5.良き人格、人間関係、モラル、倫理観、自己統制、健全な心身を育むこと。
5. To promote good personalities, human relations, morals, ethics, self-disciplines, and good health and mind.

6.国家・世界の栄財、社会、政治問題とその解決に対する認識と関与を促進すること。タイ国家、公共への奉仕、国家安全、国家保全、宗教と王室の制度、国家元首としての国王を冠する民主主義体制に関する個人の自覚を確立すること。
6. To promote an awareness and involvement in national and world economic, social and political issues and solutions; and to build personal consciousness about Thai nation, devotion to the public, national security, maintenance of nation, religion and Royal Family institutions, and the democratic regime with the King as the head of the country.

c

カリキュラムの実施

Curriculum Implementation

2002 年度職業教育認定カリキュラム

2002 Curriculum for the Certificate of Vocational Education

1.学習-教育

1. Learning-Teaching

1.1 当カリキュラムの学習と教育により、学習者は提供される学習モードを選択し組み合わせることができる。学習者は多様なモード間での単位の移行や、過去の学習・経験についても単位として正式なコースに移行することができる。

1.1 According to the learning and teaching in this curriculum, learners are able to enroll in any modes of learning offered and to combine them. Learners can transfer credits between various modes and also from prior learning and experience to their formal courses.

1.2 学習と教育の運営は､少なくとも 1 セメスターで職場での実践･訓練のコースを提供し、実践を重視する。

1.2 Learning and teaching management emphasizes actual practice by offering courses to practice or train in the workplace, for not less than 1 semester.

2.期間

2. Time Duration

2.1 一学年は 2 学期（各 20 週間）で構成され、それぞれ出席時間と単位数が指定される。これに加え、各教育機関の必要に応じて約 5 週間の夏季セメスターを提供することもできる。

2.1 The academic year is divided into 2 regular semesters (20 weeks each) with class contact hours and credits as determined. An additional summer semester can be provided according to the requirements of each institute for about 5 weeks.

2.2 教室内学習システムのため、教育機関は週に 5 日以上営業する。各授業時間は 60 分（1 時間）とする。

2.2 For in-class learning system, the institute opens for not less than 5 days a week. Each period is 60 minutes (1 hour).

3.単位

3. Credits

プログラムは最低 102 単位で構成される。これに関する計算方法は以下の通り：

Program has a minimum of 102 credits. The relevant calculations are as follows:

3.1 理論のコース：週 1 時間、各学期で合計 20 時間以上をもって 1 単位とする。
3.1 Courses with theory: 1 credit is made up of 1 hour per week, with a total of not less than 20 hours per semester.

3.2 理論・実践コース：週 2～3 時間、合計 40～60 時間以上をもって 1 単位とする。
3.2 Courses with theory and practice: 1 credit is 2-3 hours per week, with a total of minimum 40-60 hours.

3.3 職場での実践・訓練コース：合計 40 時間が 1 単位に相当する。
3.3 Courses to be practiced or trained at the workplace: The total hour of not less than 40 hours is equivalent to 1 credit.

3.4 Dual Vocational Training (DVT) プログラムにおける OJT : 最低 40 時間をもって 1 単位とする。
3.4 On-the-job training in a Dual Vocational Training (DVT) Program: Minimum 40 hours is equivalent to 1 credit.

3.5 プロジェクト：カリキュラムに記載の規則に従う。
3.5 Project: It follows the regulations stated in the curriculum.

d

4.構成

4. Structure

2002 年度職業教育認定カリキュラム（2003 年度修正版）は、以下の通り 3 つのコース群、OJT、課外活動で構成される。
The structure of the 2002 Curriculum for the Certificate of Vocational Education (2003 Revised Edition) consists of 3 course groups, on-the-job training, and extracurricular activities as follows:

4.1 一般コース
4.1 General courses

4.1.1 基本一般コースは日常生活に適用可能なコースである。
4.1.1 Basic general courses are courses applicable for everyday life.

4.1.2 職務系一般コースは職場に特化したコースである。
4.1.2 Vocational-based general courses are specific to the workplace.

4.2 職業コースは次の通り分類される。
4.2 Vocational courses which are divided into

4.2.1 基本職業コースは特定分野の学習に必要な関連する基本コース群である。
4.2.1 Basic vocational courses are those basic related courses groups necessary for particular areas of study.

4.2.2 コア職業コースは特定のプログラムに向けた職業訓練コースである。
4.2.2 Core vocational courses are those vocational courses for specific programs.

4.2.3 専門職業コースは、学習者の能力と関心に応じ、キャリアにおける特定の知識と専門スキルを提供することを目的とした職業訓練コースである。
4.2.3 Specialized vocational courses are those vocational courses aiming to provide learners specific knowledge and specialized skills in careers according to their abilities and interests.

4.2.4 プロジェクト
4.2.4 Project

4.3 自由選択コース
4.3 Free elective courses

4.4OJT
4.4 On-the-job training

4.5 課外活動
4.5 Extracurricular activities
プログラム全体における各コース群の単位数・コース数は、各学習分野・プログラムの構成に記載の規則に従う。各コース群におけるコースについて、教育機関はカリキュラムの指定や地域の状況に適したコースを編成することができる。但し、教育機関はコースの規約、カリキュラムに記載の規則に沿った授業・単位数を提出しなければならない。
The number of credits and courses of each group of courses throughout the program follow the regulations stated in the structure of each area and program of study. For courses in each course group, the institutes can organize courses as determined in the curriculum or appropriate to the local conditions. However, the institutes must provide courses codes, and numbers of periods and credits according to the regulations stated in the curriculum.

5.プロジェクト

5. Project

5.1 教育機関は学習者がプロジェクトを実施する時間を設けなければならない。6 学期目に 160 時間以上、4 単位相当とする。

5.1 The institutes must organize time for learners to carry out their projects in the sixth semester for not less than 160 hours which is equivalent to 4 credits.

5.2 評価と採点は他のコースと同様に行う。

5.2 Evaluation and grading is done the same as other courses.

6.OJT

6. On-the-job Training

6.1 教育機関は、学生の職場での実践・訓練を目的とした職業訓練コースを少なくとも 1 セメスター実施する。

6.1 The institutes select vocational courses for students to practice or train in the workplaces for at least 1 semester.

6.2 評価と採点は他のコースと同様に行う。

6.2 Evaluation and grading is done the same as other courses.

e

7.資格

7. Qualifications

学習者は、2002 年度職業教育認定カリキュラム（2003 年度修正版）の教育マネジメントの節に基づき、背景知識と初期能力を有する必要がある。

The learner needs to have background knowledge and entrance qualifications according to the educational management section of the 2002 Curriculum for the Certificate of Vocational Education, 2003.

8.評価

8. Evaluation

評価については教育省により、2002 年度職業教育認定カリキュラム（2003 年度修正版）の評価の節にて既に定められている。

The evaluation has already determined by the Ministry of Education according to the evaluation section of the 2002 Curriculum for the Certificate of Vocational Education, 2003.

9.課外活動

9. Extracurricular Activities

教育機関はモラル、倫理観、価値観、自己統制、レクリエーション、チームによる業務慣行

を促進する活動を企画しなければならない。これらは地域社会への貢献、貴重な伝統と習慣の保持を目的とする。課外活動は企画、実施、評価、作業改善で構成される。
The institutes must organize activities to promote morals, ethics, values, self-disciplines, recreations, and work habits by using group process; to contribute to the community; and to maintain valuable traditions and customs. The activities comprise planning, practice, evaluations, and work improvements.

10.卒業

10. Graduation

卒業の条件
Students must have:
10.1 各学習領域・プログラムで定められた基準に従い一般・職業・自由選択コースに合格すること。
10.1 Passed general, vocational and free elective courses according to the standards stated in each area and program of study.

10.2 各学習領域・プログラムのカリキュラム構成に従い合計単位数を取得すること。
10.2 Achieved the total number of credits according to the curriculum structure of each area and program of study.

10.3 平均の成績が 2.0 を下回らないこと。
10.3 Obtained a grade point average of not less than 2.00.

10.4 指定の課外活動に参加し合格すること。
10.4 Participated the extracurricular activities and passed them as determined.

11.カリキュラムの調整

11. Adjustment of Curriculum

11.1 職業教育委員会事務局長は 2002 年度職業教育認定カリキュラムについて、学習領域、プログラム、仕様、コース、構成の追加、変更、中止の権限を有する。
11.1 The Secretary-General of the Office of Vocational Education Commission has the authority to add, change or cancel any areas, programs, specifications, courses and structures in the 2002 Curriculum for the Certificate of Vocational Education.

11.2 教育機関は 2002 年度職業教育認定カリキュラムにおいてコースを追加、修正、変更する権限を有し、職業教育委員会事務局にこれらを報告する義務がある。
11.2 The institutes have the authority to add, correct, and change courses in the 2002 Curriculum for the Certificate of Vocational Education, and these must be reported to the Office of Vocational Education Commission.

2002 年度職業教育認定カリキュラム
(2003 年度修正版)
コーディングシステム

1

ホスピタリティとツーリズム　プログラム

目標

Hospitality and Tourism Program

Objectives

1.キャリアと自身の能力開発のためのタイ語、英語、社会科、科学、数学、保健体育の知識の理解と応用能力の育成

1. To provide the understanding and ability to apply the knowledge of Thai, English, Social Studies, Science, Mathematics, Health Education and Physical Education in a career and for self development.

2.選択したキャリアに関連する原則と業務プロセスの理解の促進

2. To provide the understanding of the principles and processes of tasks related to the career selected.

3.選択した学習領域で指定された原則、方法、プロセスの理解促進

3. To provide the understanding of the principles, methods and processes in the specifications areas of study selected.

4.選択したプログラムで規定された役割、職務、職務遂行能力に関する知識の提供

4. To provide knowledge of roles, duties and ability to work in the specifications selected.

5. 選択したプログラムで規定されたコミュニケーションスキルの開発

5. To develop communication skills in the specifications selected.

6.良い人格、発話・記述能力、チームワーク力の育成

6. To promote good personality, speaking and writing skills, and team working.

7.観光資源と環境の保全に関する意識を高めること

7. To promote awareness in the conservation of tourism resources and the environment.

8.知識と能力に見合った職務遂行能力の育成

8. To promote the ability to work appropriate to the knowledge and ability.

9.モラル、倫理観、キャリアに対する積極的態度の育成

9. To promote morals, ethics and positive altitude towards career.

2

職業教育基準

Vocational Education Standards

学生は以下の能力を有すること:

Students should be able to:

1.タイ語、英語またはその他の言語により日常生活と業務上のコミュニケーションができる

1. Communicate using Thai, English and other languages in daily life and career.

2.宗教、人権、文化、経済の原則に則り自身と社会を発展させることができる

2. Develop oneself and society according to the principles of religions, human rights, culture and economics.

3.科学的・数学的プロセスを用いて問題解決できるよう自身とキャリアを発展させることができる

3. Develop oneself and career solve problems by using the scientific and processes mathematics.

4.保健体育のプロセスを用いて自身の人格を育て健康を促進できる

4. Develop personality and health by using the process of health and physical education.

5.コンピュータと情報技術システムを用いて事業を開発できる

5. Use the computer package and information technology system to develop the business.

6.品質経営システムと組織における生産性を活かしてビジネスにおけるキャリアを計画できる

6. Plan for career in business by using quality management system and productivity in organizations.

7.環境、職業衛生、組織と地域社会の安全を管理できる

7. Manage the environment, vocational hygiene, and security in organizations and community

8.ビジネスの基本原則を業務と日常生活に応用できる

8. Apply the basic business principle work and daily life.

科目別仕様: ホスピタリティ

Specification : Hospitality

9.ホテルのフロント、清掃、厨房、飲食サービスの原則と業務プロセスを理解できる

9. Understand the principles and work processes of hotel front office, housekeeping, kitchen, and

food
& beverage services.

10. ホテルのフロントサービス、コミュニケーションための言語、客室･共用スペースの清掃、リネンや花の管理、厨房設備の使用、飲食物の準備とサービスのスキルを開発できる
10. Develop skills in hotel front office service, using language for communication, cleaning rooms and public areas, linen and florist, using kitchen equipment, and food & beverage preparation and service.

11.良い人格、発話･記述スキル、チームワーク力を向上できる
11. Promote good personality, spoken and written skills, and team working.

12.効率的・近代的なホテル業務の発展のため先進技術を理解しその知識を応用することができる
12. Be able to follow the advanced technology and to apply the knowledge to develop hotel work efficiently and modernly.

科目別仕様: ツーリズム
Specification : Tourism
9.サービス提供者の原則とプロセスを理解できる
9. Understand the principles and processes of people offering services.

10.タイの工芸品と文化、旅行者の文化を理解できる
10 Understand Thai arts & culture and culture of tourists.

11.事務機器使用の知識とスキルがある
11. Understand and have skills in the use of office equipment.

12.サービスにおけるコミュニケーションのための外国語運用能力を向上できる
12. Promote skills in using foreign language for communication in service.

13.観光産業に関連する外部組織間の調整ができる
13. Co-ordinate other organizations related to tourism.

14.市場ニーズに適合するツアースケジュールの編成ができる
14. Organize tour schedules suitable for and in relation to the market needs.

15.ガイドの補助として機材準備やサービススキルの活用ができる
15. Prepare equipment and use service skills as guide assistant.

3

2003 年度職業教育認定カリキュラム

2003 Curriculum for the Certificate of Vocational Education

学習領域:　観光産業

Area of study : Tourism Industry

ホスピタリティとツーリズム　プログラム

Hospitality and Tourism Program

2002 年度職業教育認定カリキュラムでホスピタリティとツーリズムのプログラムを卒業した学生は、コースの学習と以下の通り 102 単位以上の課外活動への参加が必要である。

Students who have graduated the Certificate of Vocational Education 2002 in Hospitality and Tourism Program must study courses and get involved in extracurricular activities not less than 102 credits as follows :

1.一般コース　26 単位以上

1.1　基本一般コース　28 単位

1.2　職業系一般コース 8 単位（以上）

1. General Courses (not less than) 26 credits

1.1 Basic General Courses 18 credits

1.2 Vocational - based General Courses (not less than) 8 credits

2.職業コース　66 単位以上

2.1　基本職業コース　8 単位

2.2　コア職業コース　18 単位

2.3　専門職業コース　36 単位以上

2.4　プロジェクト　4 単位

2. Vocational Courses (not less than) 66 credits

2.1 Basic Vocational Courses 8 credits

2.2 Core Vocational Courses 18 credits

2.3 Specialized Vocational Courses (not less than) 36 credits

2.4 Project 4 credits

3.自由選択コース　10 単位以上

3. Free Elective Courses (not less than) 10 credits

4.OJT（1 セメスター以上）

4. On-the-job Training (not less than 1 semester)

5.課外活動（200 時間以上）

5. Extracurricular Activities (not less than 200 hours)

合計 **102** 単位

Total 102 credits

4

1.一般コース（26 単位以上）

1.1　基本一般コース（18 単位以上）

1.1.1　言語（8 単位以上）

(1)タイ語（4 単位以上）：　学生は **2** 単位分として **2000－1101** コースを学習し、さらに以下のコースから一つ（**4** 単位以上）を選択しなければならない

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2000	**1101**	職場におけるタイ語　**1**	**2**	**(2)**
2000	**1102**	職場におけるタイ語　**2**	**2**	**(2)**
2000	**1103**	職場におけるタイ語　**3**	**2**	**(2)**
2000	**1104**	コミュニケーションのためのタイ語	**2**	**(2)**
2000	**1105**	タイ語プロジェクトワーク	**2**	**(2)**
2000	**1106**	**Speech Arts**（訳語不明）	**2**	**(2)**

1. General Courses (not less than 26 credits)

1.1 Basic General Courses (not less than 18 credits)

1.1.1 Languages (not less than 8 credits)

(1) Thai Language (not less than 4 credits): students have to study the course 2000 – 1101 for 2 credits and select one of the courses below (not less than 4 credits)

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1101 Thai for the Workplace 1 2 (2)

2000 – 1102 Thai for the Workplace 2 2 (2)

2000 – 1103 Thai for the Workplace 3 2 (2)

2000 – 1104 Thai for communication 2 (2)

2000 – 1105 Thai Project Work 2 (2)

2000 – 1106 Speech Arts 2 (2)

(2)英語、その他の言語（4 単位）

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1201**	コミュニケーションのための英語　1	**2**	**(2)**
2000	**1202**	コミュニケーションのための英語　2	**2**	**(2)**

(2) English and other languages (4 credits)

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1201 English for communication 1 2 (2)

2000 – 1202 English for communication 2 2 (2)

1.1.2　社会科（4 単位以上）2000 - 1301 のコースで 2 単位、加えて以下のコースから一つ選択

1.1.2 Social Studies (not less than 4 credits) study the course of 2000 – 1301 for 2 credits and select one of the courses below

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1301**	タイの倫理観	**2**	**(2)**
2000	**1302**	地理経済学	**2**	**(2)**
2000	**1303**	タイの歴史と行政	**2**	**(2)**
2000	**1304**	地域社会特別プロジェクト	**2**	**(2)**
2000	**1305**	タイ民俗学	**2**	**(2)**
2000	**1306**	生活のための自然地理学	**2**	**(2)**
2000	**1307**	時事問題	**2**	**(2)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1301 Thai way of Thai Ethics 2 (2)

2000 – 1302 Geo-Economics 2 (2)

2000 – 1303 Thai History and Administration 2 (2)

2000 – 1304 Special Community Project 2 (2)

2000 – 1305 Thai Folklore 2 (2)

2000 – 1306 Physical Geography for Living 2 (2)

2000 – 1307 Current Affairs 2 (2)

5

1.1.3　科学・数学（4 単位）

1.1.3 Science and Mathematics (4 credits)

(1)科学（2 単位）

(1) Science (2 credits)

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1401**	基礎科学	**2**	**(3)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1401 Basic Science 2 (3)

(2)数学（2 単位）

(2) Mathematics (2 credits)

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1501**	応用数学　**1**	**2**	**(2)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1501 Applied Mathematics 1 2 (2)

1.1.4　保健体育（2 単位以上）

学生は体育科目から 1 単位以上 1 コース、保健科目から 1 単位以上 1 コース、合計 2 単位以上を選択、または保健･体育統合科目を 2 単位以上選択する。

1.1.4 Health Education and Physical Education (not less than 2 credits)

The Student select one course from the Physical Education group not less than 1 credit and select one course from the Health Education group not less than 1 credit totally not less than 2 credits or select a course from the integration of health education and physical education not less than 2 credits

(1)体育科目

(1) Physical Education Subjects

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1601**	自己開発のための体育	**1**	**(2)**
2000	**1605**	職務に向けた体力育成	**1**	**(2)**
2000	**1606**	自己防衛	**1**	**(2)**
2000	**1607**	身体障害者向け体育	**1**	**(2)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1601 Physical Education for Personal Development 1 (2)

2000 – 1605 Physical Fitness for Work 1 (2)

2000 – 1606 Self Defense 1 (2)

2000 – 1607 Physical for Disabled 1 (2)

(2)保健科目

(2) Hygiene Subjects

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1602**	自己開発のための体育	**1**	**(1)**

2000	**1608**	職務に向けた体力育成	**1**	**(1)**
2000	**1609**	自己防衛	**1**	**(1)**
2000	**1610**	身体障害者向け体育	**1**	**(1)**
2000	**1611**	農業における安全	**1**	**(1)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1602 Physical Education for Personal Development 1 (1)

2000 – 1608 Physical Fitness for Work 1 (1)

2000 – 1609 Self Defense 1 (1)

2000 – 1610 Physical for Disabled 1 (1)

2000 – 1611 Safety in Agriculture 1 (1)

6

(3)保健･体育統合科目

(3) Integration of Health Education and Physical Education

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2000	**1603**	生活の質の開発	**2**	**(3)**
2000	**1604**	幸福のための生活の管理	**2**	**(3)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1603 Life Quality Development 2 (3)

2000 – 1604 Life Management for Happiness 2 (3)

1.2　職業系一般コース（4 単位以上）以下のコースから選択する:

1.2 Vocational-based General Courses (not less than 4 credits) select from the following courses:

1.2.1　言語

1.2.1 Languages

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2000	**1220**	職場におけるコミュニケーションのための英語	**1**	**(2)**
2000	**1221**	英会話　**1**	**1**	**(2)**
2000	**1222**	英会話　**2**	**1**	**(2)**
2000	**1223**	産業・貿易英語	**1**	**(2)**
2000	**1224**	ビジネス英語	**1**	**(2)**
2000	**1225**	観光産業の英語	**1**	**(2)**
2000	**1226**	美術英語	**1**	**(2)**
2000	**1227**	家政学の英語	**1**	**(2)**
2000	**1228**	農業の英語	**1**	**(2)**
2000	**1229**	漁業の英語	**1**	**(2)**

2000	**1230**	農業技術の英語	**1**	**(2)**
2000	**1231**	漁業技術の英語	**1**	**(2)**
2000	**1232**	英語補修	**1**	**(2)**
2000	**1233**	インターネット英語	**1**	**(2)**
2000	**1234**	英語プロジェクトワーク	**1**	**(2)**
2000	**1235**	職場の英語	**1**	**(2)**
2000	**1236**	英語自主研究	**1**	**(2)**
2000	**1237**	技術英語	**1**	**(2)**
2000	**1238**	食・栄養の英語	**1**	**(2)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1220 English for communication in the Workplace 1 (2)

2000 – 1221 English conversation 1 1 (2)

2000 – 1222 English Conversation 2 1 (2)

2000 – 1223 English for Industrial Trades 1 (2)

2000 – 1224 Business English 1 (2)

2000 – 1225 English for the Tourism Industry 1 (2)

2000 – 1226 English for Arts 1 (2)

2000 – 1227 English for Home Economics 1 (2)

2000 – 1228 English for Agriculture 1 (2)

2000 – 1229 English for Fishery Industry 1 (2)

2000 – 1230 English for Agriculture Technology 1 (2)

2000 – 1231 English for Fishery Technolo 1 (2)

2000 – 1232 Supplementary English 1 (2)

2000 – 1233 Internet English 1 (2)

2000 – 1234 English Project Work 1 (2)

2000 – 1235 English for Workplace 1 (2)

2000 – 1236 Independent Study in English 1 (2)

2000 – 1237 English Technical 1 (2)

2000 – 1238 English for food and Nutrition 1 (2)

7

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2000	**1239**	被服デザインの英語	**1**	**(2)**
2000	**1240**	業務における技術英語	**1**	**(2)**
2000	**1241**	商用通信	**1**	**(2)**
2000	**1242**	商業美術の英語	**1**	**(2)**
2000	**1243**	芸術の英語	**1**	**(2)**
2000	**1244**	新聞を用いた英語学習	**1**	**(2)**

2000	**1245**	ビジネス英会話	**1**	**(2)**
2000	**1246**	宝飾の英語	**1**	**(2)**
2000	**1247**	陶芸の英語	**1**	**(2)**
2000	**1248**	手工芸の英語	**1**	**(2)**
2000	**1249**	皮革細工の英語	**1**	**(2)**
2000	**1250**	基礎中国語　**1**	**1**	**(2)**
2000	**1251**	基礎中国語　**2**	**1**	**(2)**
2000	**1252**	基礎日本語　**1**	**1**	**(2)**
2000	**1253**	基礎日本語　**2**	**1**	**(2)**
2000	**1254**	基礎仏語　**1**	**1**	**(2)**
2000	**1255**	基礎仏語　**2**	**1**	**(2)**
2000	**1256**	基礎独語　**1**	**1**	**(2)**
2000	**1257**	基礎独語　**2**	**1**	**(2)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1239 English for Clothing Design 1 (2)

2000 – 1240 Technical English on the Job 1 (2)

2000 – 1241 Commercial Correspondence 1 (2)

2000 – 1242 English for Commercial Arts 1 (2)

2000 – 1243 English for Fine Arts 1 (2)

2000 – 1244 English Through Newspaper 1 (2)

2000 – 1245 Business English Conversation 1 (2)

2000 – 1246 English for Jewelry 1 (2)

2000 – 1247 English for Ceramics 1 (2)

2000 – 1248 English for Handicrafts 1 (2)

2000 – 1249 English for Leather Work 1 (2)

2000 – 1250 Fundamental Chinese 1 1 (2)

2000 – 1251 Fundamental Chinese 2 1 (2)

2000 – 1252 Fundamental Japanese 1 1 (2)

2000 – 1253 Fundamental Japanese 2 1 (2)

2000 – 1254 Fundamental French 1 1 (2)

2000 – 1255 Fundamental French 2 1 (2)

2000 – 1256 Fundamental Germans 1 1 (2)

2000 – 1257 Fundamental Germans 2 1 (2)

1.2.2 科学（2 単位以上）

1.2.2 Science (not less than 2 credits)

(1) 科学（2 単位以上）以下から選択:

(1) Science (not less than 2 credits) select from the followings:

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1420**	工業科学	**2**	**(3)**
2000	**1421**	応用科学	**2**	**(3)**
2000	**1422**	農業科学	**2**	**(3)**
2000	**1423**	環境科学	**2**	**(3)**
2000	**1424**	科学プロジェクト	**4**	**(*)**
2000	**1425**	生物化学	**2**	**(3)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1420 Industrial Science 2 (3)

2000 – 1421 Applied Science 2 (3)

2000 – 1422 Agro-Science 2 (3)

2000 – 1423 Environmental Science 2 (3)

2000 – 1424 Science Project 4 (*)

2000 – 1425 Biochemistry 2 (3)

8

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1426**	基礎化学	**2**	**(3)**
2000	**1427**	基礎物理学　**1**	**2**	**(3)**
2000	**1428**	基礎物理学　**2**	**2**	**(3)**
2000	**1429**	基礎物理学　**3**	**2**	**(3)**
2000	**1430**	基礎生物学	**2**	**(*)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1426 Basic Chemistry 2 (3)

2000 – 1427 Basic Physics 1 2 (3)

2000 – 1428 Basic Physics 2 2 (3)

2000 – 1429 Basic Physics 3 2 (3)

2000 – 1430 Basic Biology 2 (3)

(2)数学（2 単位以上）以下から選択:

(2) Mathematics (not less than 2 credits) select from the following:

コード	コース No.	コース名	単位	時間
2000	**1520**	応用数学　**2**	**2**	**(2)**
2000	**1521**	応用数学　**3**	**2**	**(2)**
2000	**1522**	応用数学　**4**	**2**	**(2)**
2000	**1523**	応用数学　**5**	**2**	**(2)**
2000	**1524**	応用数学　**6**	**2**	**(2)**

2000	**1525**	応用数学　**7**	**2**	**(2)**
2000	**1526**	応用数学　**8**	**2**	**(2)**
2000	**1527**	応用数学　**9**	**2**	**(2)**

Code Course Title Credits Hours

2000 – 1520 Applied Mathematics 2 2 (2)

2000 – 1521 Applied Mathematics 3 2 (2)

2000 – 1522 Applied Mathematics 4 2 (2)

2000 – 1523 Applied Mathematics 5 2 (2)

2000 – 1524 Applied Mathematics 6 2 (2)

2000 – 1525 Applied Mathematics 7 2 (2)

2000 – 1526 Applied Mathematics 8 2 (2)

2000 – 1527 Applied Mathematics 9 2 (2)

2. 職業コース　66 単位以上

2.1　基本職業コース　8 単位　以下から選択

2. Vocational Courses not less than 66 credits

2.1 Basic vocational Courses 8 credits select from the followings:

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2001	**0001**	業務におけるコンピュータ	**2**	**(3)**
2001	**0002**	基礎ビジネス・マネジメント	**2**	**(3)**
2001	**0003**	品質マネジメントと生産性	**2**	**(3)**
2001	**0004**	基礎環境マネジメント	**2**	**(3)**

Code Course Title Credits Hours

2001 – 0001 Computer at Work 2 (3)

2001 – 0002 Basic Business Management 2 (3)

2001 – 0003 Quality Management and Productivity 2 (3)

2001 – 0004 Basic Environment Management 2 (3)

9

2.2　コア職業コース　18 単位

2.2 Core Vocational Courses 18 credits

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2701	**0001**	環境産業	**3**	**(3)**
2701	**0002**	人格育成	**2**	**(3)**
2701	**0003**	芸術とタイ文化	**3**	**(3)**
2701	**0004**	サービスの技巧	**2**	**(2)**
2701	**0005**	旅行者の行動	**2**	**(2)**

2701	**0006**	観光産業のマーケティング	**2**	**(2)**
2701	**0007**	キャリアのための情報技術	**2**	**(4)**
2201	**2306**	事務機器	**2**	**(4)**

Code Course Title Credits Hours

2701 – 1001 Tourism Industry 3 (3)

2701 – 1002 Personality Development 2 (3)

2701 – 1003 Arts and Thai Culture 3 (3)

2701 – 1004 Arts of Service 2 (2)

2701 – 1005 Tourist Behavior 2 (2)

2701 – 1006 Marketing for Tourism 2 (2)

2701 – 1007 Information Technology for Career 2 (4)

2201 – 2306 Office Equipment 2 (4)

2.3 専門職業コース　36 単位（以上）

2.3 Specialized Vocational Courses (not less than) **36 credits**

学生は全体で 24 単位以上のいずれかの専門職業コースを選択しなければならない。この他、独自の専門かその他の専門からの選択により合計取得単位数を満たすことができる。

The students are required to select conforms to any specialized vocational coures totally not less than 24 credit. The rest may be selected within the original or other specializations or any other specializations to

meet the total credit requirements.

2.3.1　ホスピタリティー特定科目

2.3.1 Hospitality Specification

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2701	**2101**	ホスピタリティ	**2**	**(2)**
2701	**2102**	ホテルの安全	**2**	**(2)**
2701	**2103**	ホテルのマーケティング	**2**	**(3)**
2701	**2104**	ホテル業務のコンピュータ	**3**	**(3)**
2701	**2105**	ホテルフロント・オフィス	**2**	**(3)**
2701	**2106**	ホテルフロント･オフィス業務のコンピュータ	**2**	**(3)**
2701	**2107**	ホテル客室清掃	**2**	**(3)**
2701	**2108**	ランドリー	**2**	**(3)**
2701	**2109**	フラワー･アレンジメント	**2**	**(3)**
2701	**2110**	客室清掃業務のコンピュータ	**2**	**(3)**
2701	**2111**	ホテル厨房と厨房設備	**2**	**(3)**

Code Course Title Credits Hours

2701 – 2101 Hospitality 2 (2)

2701 – 2102 Hotel Security 2 (2)

2701 – 2103 Marketing for Hotel 2 (3)

2701 – 2104 Computer for Hotel 3 (3)

2701 – 2105 Hotel Front Office 2 (3)

2701 – 2106 Computer for Hotel front Office 2 (3)

2701 – 2107 Hotel Housekeeping 2 (3)

2701 – 2108 Laundry 2 (3)

2701 – 2109 Flower Arrangement 2 (3)

2701 – 2110 Computer for Housekeeping 2 (3)

2701 – 2111 Hotel Kitchen and Kitchen Equipment 2 (3)

10

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2701	**2112**	食品調理	**2**	**(3)**
2701	**2113**	ホテルの料理	**2**	**(4)**
2701	**2114**	食事のデコレーション	**2**	**(3)**
2701	**2115**	栄養と食品衛生	**2**	**(2)**
2701	**2116**	野菜・果物のカービング	**2**	**(3)**
2701	**2117**	飲食サービス	**3**	**(4)**
2701	**2118**	飲料と調合	**2**	**(3)**
2701	**2119**	レストランと宴会	**2**	**(4)**
2701	**2120**	ワインと酒	**2**	**(3)**
2701	**2121**	食品のディスプレイ	**2**	**(3)**
2701	**2122**	食事会場の装飾	**2**	**(2)**
2701	**2123**	ワークショップ運営	**2**	**(3)**
2701	**2124**	展示会運営	**2**	**(3)**
2701	**2125**	ホテル内店舗	**2**	**(2)**
2701	**2126**	ホテル業務の書類と報告書	**2**	**(2)**
2701	**2127**	ベーカリー	**2**	**(4)**
2201	**1019**	エチケットと交友関係	**2**	**(4)**
2201	**2812**	おもてなしのための英語	**3**	**(4)**
2201	**2815**	飲食サービスのための英語	**3**	**(4)**
2701	**4101**	ホスピタリティ　**1**	*	**(*)**
2701	**4102**	ホスピタリティ　**2**	*	**(*)**
2701	**4103**	ホスピタリティ　**3**	*	**(*)**

2701	**4104**	ホスピタリティ　**4**	*	**(*)**
2701	**4105**	ホスピタリティ　**5**	*	**(*)**
2701	**4106**	ホスピタリティ　**6**	*	**(*)**

Code Course Title Credits Hours

2701 – 2112 Food Preparation 2 (3)

2701 – 2113 Hotel Cooking 2 (4)

2701 – 2114 Arts for Food Decoration 2 (3)

2701 – 2115 Nutrition and Food Hygiene 2 (2)

2701 – 2116 Vegetable and Fruit Carving 2 (3)

2701 – 2117 Food and Beverage Service 3 (4)

2701 – 2118 Beverage and Mixing 2 (3)

2701 – 2119 Restaurant and Banquet 2 (4)

2701 – 2120 Wine and Liquor 2 (3)

2701 – 2121 Food Display 2 (3)

2701 – 2122 Venue Decoration 2 (2)

2701 – 2123 Workshop Management 2 (3)

2701 – 2124 Exhibition Management 2 (3)

2701 – 2125 Hotel Stores 2 (2)

2701 – 2126 Hotel Documents and Reports 2 (2)

2701 – 2127 Bakery 2 (4)

2201 – 1019 Etiquettes and Association 2 (4)

2201 – 2812 English for Hospitality 3 (4)

2201 – 2815 English for Food and Beverage Services 3 (4)

2701 – 4101 Hospitality 1 * (*)

2701 – 4102 Hospitality 2 * (*)

2701 – 4103 Hospitality 3 * (*)

2701 – 4104 Hospitality 4 * (*)

2701 – 4105 Hospitality 5 * (*)

2701 – 4106 Hospitality 6 * (*)

11

2.3.2 ツーリズム特定科目

2.3.2 Tourism Specification

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2701	**2201**	ツーリズム・ビジネス	**2**	**(4)**
2701	**2202**	北部・西部の観光資源	**2**	**(3)**
2701	**2203**	中部・東部の観光資源	**2**	**(3)**
2701	**2204**	北東部の観光資源	**2**	**(3)**

2701	**2205**	南部の観光資源	**2**	**(3)**
2701	**2206**	ツアーガイド	**3**	**(4)**
2701	**2207**	交通ビジネス	**2**	**(2)**
2701	**2208**	タイの芸術	**2**	**(3)**
2701	**2209**	宿泊施設のビジネス	**2**	**(2)**
2701	**2210**	観光産業のための飲食物マネジメント	**2**	**(2)**
2701	**2211**	エコ・ツーリズム	**2**	**(2)**
2701	**2212**	ツーリズムのためのレクリエーション	**2**	**(3)**
2701	**2213**	ツアーのオペレーション	**3**	**(4)**
2701	**2214**	写真撮影の基礎	**2**	**(2)**
2701	**2215**	職業実践　**1**	**3**	**(4)**
2701	**2216**	職業実践　**2**	**3**	**(4)**
2701	**2217**	地場製品と土産物	**2**	**(2)**
2701	**2218**	ツーリズムの安全	**2**	**(2)**
2701	**2219**	ツーリズムと農業	**2**	**(2)**
2701	**2220**	ツーリズムと健康	**2**	**(2)**
2201	**2811**	ツーリズムのための英語	**3**	**(4)**
2201	**2813**	ツアーガイドの英語	**3**	**(4)**
2701	**4201**	ツーリズム　**1**	*	**(*)**
2701	**4202**	ツーリズム　**2**	*	**(*)**
2701	**4203**	ツーリズム　**3**	*	**(*)**
2701	**4204**	ツーリズム　**4**	*	**(*)**
2701	**4205**	ツーリズム　**5**	*	**(*)**
2701	**4206**	ツーリズム　**6**	*	**(*)**

Code Course Title Credits Hours

2701 – 2201 Tourism Business 2 (4)

2701 – 2202 Northern and Western Tourism Resources 2 (3)

2701 – 2203 Central and Eastern Tourism Resources 2 (3)

2701 – 2204 North-Eastern Tourism Resources 2 (3)

2701 – 2205 Southern Tourism Resources 2 (3)

2701 – 2206 Tour Guide 3 (4)

2701 – 2207 Transport Business 2 (2)

2701 – 2208 Thai Art 2 (3)

2701 – 2209 Accommodation Business 2 (2)

2701 – 2210 Food and Beverage Management for Tourism 2 (2)

2701 – 2211 Eco-Tourism 2 (2)

2701 – 2212 Recreations for Tourism 2 (3)

2701 – 2213 Tour Operation 3 (4)

2701 – 2214 Basic Photography 2 (2)

2701 – 2215 Vocational Practice 1 3 (4)

2701 – 2216 Vocational Practice 2 3 (4)

2701 – 2217 Local Products and Souvenirs 2 (2)

2701 – 2218 Safety for Tourism 2 (2)

2701 – 2219 Tourism for Agriculture 2 (2)

2701 – 2220 Tourism for Health 2 (2)

2201 – 2811 English for Tourism 3 (4)

2201 – 2813 English for Tour Guides 3 (4)

2701 – 4201 Tourism 1 * (*)

2701 – 4202 Tourism 2 * (*)

2701 – 4203 Tourism 3 * (*)

2701 – 4204 Tourism 4 * (*)

2701 – 4205 Tourism 5 * (*)

2701 – 4206 Tourism 6 * (*)

12

Dual System (実習)のため、教育機関と雇用者は共同でコース目標と基準を分析し、適切な実施計画の作成、評価手法の策定を行う（40 時間は 1 単位に相当）。

For the Dual System (apprenticeships), the college and the employer together analyse the course objectives and course standards, to produce an appropriate work plan and design a method of evaluation (40 hours is equivalent 1 credit).

2.4　プロジェクト　4 単位

2.4 Project 4 Credits

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2700	**5001**	プロジェクト	**4**	**(160)**

Code Course Title Credits Hours

2700 – 5001 Projects 4 (160)

3.　自由選択コース　10 単位以上

3. Free Elective Courses not less than 10 credits

学生は適性と関心に基づき、すべての学習領域における 2002 年度職業教育認定カリキュラムのリストより、コースを選択できる。

Students can select courses from the list of the courses in the 2002 curriculum for the Certificate of Vocational Education in all areas of study according to their aptitude and interest.

4.　OJT（1 セメスター以上）

4. On-the-job Training (not less than 1 semester)

OJT に向け、教育機関は職場で実施される職業コースを選択する。少なくとも 1 セメスター、40 時間以上で 1 単位とする。

For On- the-job Training, the college selects Vocational Courses which are undertaken at the workplace, for at least 1 semester, not less than 40 hours is equivalent to 1 credit.

5.　課外活動（200 時間）

5. Extracurricular Activities (200 hours)

教育機関はプログラム全体のうち 200 時間以上の課外活動を手配する。

The college arranges extracurricular activities for not less than 200 hours for the entire program.

コード	コース **No.**	コース名	単位	時間
2202	**0001-0002**	ローバー・スカウト活動	**1-2**	**(2)**
2202	**0003-0006**	職業協会活動	**1-2**	**(2)**
2202	**0007-0012**	その他の活動（職場／教育機関による）		**(2)**

Code Course Title Credits Hours

2002-0001-0002 Activities for Rover Scouts 1-2 **-** (2)

2002-0003-0006 Vocational Organisation Activities 1-4 **-** (2)

2002-0007-0012 Other Activities (by the workplace/ Colleges) - (2)

2.9　接続カリキュラムの参考となる取組み（AMEICC-COE 支援）

アセアン各国と日本との間で職業教育の連携を図る場合に、AMEICC（AEM-METI Economic and Industrial Cooperation Committee（日 ASEAN 経済産業協力委員会））における COE（Center of Excellence：中核的人材育成機関）の能力向上支援が参考になろう。AMEICC は、1997 年の日アセアン首脳会議での合意に基づき、1998 年に日アセアン経済産業大臣会合（AEM-METI）の下部組織として設立した。AMEICC は ASEAN の経済統合支援を掲げており、以下の 3 点を目的としている。

- ASEAN の競争力強化
- 産業協力の推進
- ASEAN 新規加盟国への開発協力である。

AMEICC の下には１．人材育成ワーキンググループ、２．中小企業ワーキンググループ、３．東西回廊ワーキンググループ、４．自動車産業ワーキンググループ、５．化学産業ワーキンググループ、６．家電ワーキンググループ、７．繊維縫製ワーキンググループといった各種ワーキンググループがある。

これらワーキンググループの中で本事業の参考になるものが人材育成ワーキンググループである。

その主な活動として、2000 年度より ASEAN 諸国の COE を対象とした産業人材育成プログラムを実施している。

これらのプログラムは、ASEAN 各国の COE を含む人材育成機関の①機能強化、②連携強化を目的としている

　具体的には、アセアン 10 カ国（タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ブルネイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）に対し、日本の旧財団法人海外技術者研修協会（AOTS)と旧財団法人海外貿易開発協会（JODC)（2 団体は 2012 年に合併し、現名称は一般財団法人海外産業人材育成協会（HIDA)となる）が各国 6 COE に対し、中核的人材育成機関としてその能力をより強化する支援であった。

その支援は各国 COE を組織の経営レベル、組織の運営レベルそして講師陣のレベルの３つにわけ、それぞれに対し、来日研修や専門家派遣で各国の COE のレベル向上を図り、そこで得た知識を元にそれぞれの COE がオーガナーザーとなって他国の COE を自国に招へいし、ケーススタディを行った。

この支援はこれまで独自に人材育成を行ってきた各教育機関の視野を広め､アセアン間で指導者を交換派遣するなど日本とその国だけの１対１の支援ではなく､日本とアセアン各国が協力し合うマルチの支援であり、それぞれが切磋琢磨し、レベルアップを図る支援である。

タイの COE

１．International Trade Training Institute（ITTI）（モデル COE)

２．National Electronics and Computer Technology Center（NECTEC）（モデル COE)

３．Department of Industrial Promotion, Ministry of Industry

４．Institute for Training Personnel Development, Department of Skill Development (DSD)
５．Mekong Region Law Center (MRLC)
６．泰日経済技術振興協会(TPA)

インドネシアの COE
１．松下教育財団（モデル COE)
２．Indonesia Export Training Center(IETC)（モデル COE)
３．アストラ教育財団
４．セラミック研修所
５．テキスタイル研修所
６．パルプ研修所

2.10　日本企業との連携好事例紹介（泰日工業大学）

泰日工業大学（TNI）のキャッチコピーは「日本的ものづくり精神で時代を切り拓く」である。

その名前の示す通り、泰（タイ国）と日（日本国）の英知を併せ持った工業大学である。

その流れは、元留学生ならびにAOTS（現HIDA）の帰国研修生の同窓会から始まる。

同窓会は、日本で学んだ知識や企業内実習の経験を帰国後に母国の産業発展に役立てようと泰日経済技術振興協会（TPA）を設立した。

TPAは、 1970 年代当時の泰日経済摩擦収支の悪化による対日感情の悪化を憂いた、元日本留学生・研修生が中心となり、1973 年 1 月 24 日、タイ国の経済発展のため、日本からタイへの最新技術と知識の移転・普及、人材育成を行うことを目的に設立された公益法人である。AMEICC の COE 機関の一つであり、技術セミナーや政府の認可を受けた測定器の校正事業、日本の技術に関する書籍の翻訳販売を行っている。そして、日系企業駐在員やその家族にとってはタイ語教室として名が知られている。

こうした活動が実を結び、ついに2006年のTNI設立につながった。TNIは現地日系企業のニーズにあった、日本語でのコミュニケーション能力を有する産業人材を育成することなどを通じて、タイと日本の経済連携と友好関係の発展を目指している。設立に当たっては、多くの現地日系企業が奨学金や実習機材を提供するなどして協力し、優秀な技術者を大学と民間企業とで育て、卒業後はその多くが日系企業への就職を果たしている。

TNIのホームページにあるように、履修課程には大きな特徴がある。

それは専門の技術だけでなく、語学教育も専門と同様に重視している点である。取得した技術を就職後に生かすには、単に技術の知識だけでは足りない。企業で求められるコミュニケーション力も在学中に十分つけさせようとしている。

クリサダ学長は「当大学の学生は、タイ語はもとより、日本語と英語のトリリンガルで技術を理解できる人材を育てています。」と胸をはる。タイの産業は多くの外国企業、特に日系企業によって支えられており、企業のニーズは日本人との円滑なコミュニケーション力のある人材である。通常、日本語の上手なタイ学生は文科系学生であるが、企業が必要とする技術のわかる理科系の学生で日本語が流暢な学生は貴重な存在である。

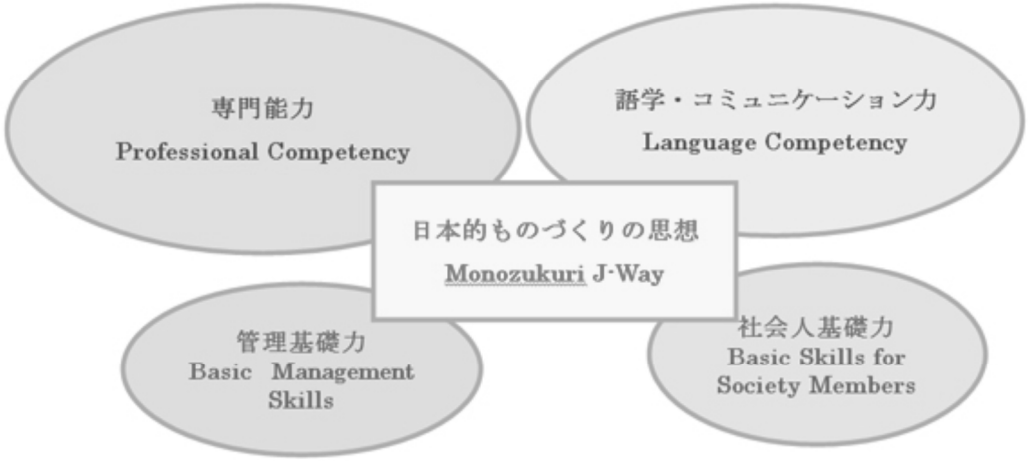
さらには、企業内インターンシップ制度も取り入れており、企業内で実践的な技術を学べるだけでなく、企業側も優秀な学生を確保できる。

こうした、企業ニーズを理解した本大学の履修課程は進出日系企業にとって大変助かるものであり、だからこそ奨学金や機材提供もなされる。就職率が高いことは、進学希望の高校生たちにとって魅力的な大学であり、学生、大学、企業がそれぞれメリットを感じている。

日本とアセアン諸国との職業教育の連携において、TNIの事例は大変参考になると思われる。すなわち、進出日系企業へのメリットを配慮することにより、企業の実践的な技術を学ぶ機会が得られるだけでなく、就職率向上に役立ち、企業側も良い人材を確保できるがゆえに、奨学金提供をしてもらえるなど学校や学生の持続的な関係を築ける。よく言われるWin-Winの関係である。アンケートの結果にも学費の問題や外国語への適用力が問題として挙げられているが、こうした問題を解決するにもTNI方式は大変効果的である。

泰日工業大学　履修課程の特長

- グローバル時代を迎えたタイ産業、とりわけ日系企業のニーズに対応して日本的ものづくり思想のもと、専門能力、語学(英語・日本語)
- コミュニケーション力、管理基礎力、ビジネス実務の基となる社会人基礎力に焦点を当てて学生を育成し、産業界から 高い評価を得ています。



- タイ産業界で需要の高い分野（特に自動車、電機・電子、ICT、生産技術）を重視。
- 日本のものづくりに直結する、実務かつ実践的な技術と知識を兼ね備えた学生を育成。
- 産業界、またタイ国内外の各種日本機関との強い協力関係を活かして、現場のインターンシップ教育を重視。
- 短大・高専卒等からの編入者や、社会人に対する土日、平日夜間の教育課程を用意。
- 日本語および英語でのコミュニケーション能力を有する学生を育成。

（出所：泰日工業大学ホームページ）

泰日工業大学の過程は次の通りである。

泰日工業大学　学部と大学院課程

履修課程(コース)			略称	英文名称
学部	工学部	自動車工学	AE	Automotive Engineering
		生産工学	PE	Production Engineering
		コンピュータ工学	CE	Computer Engineering
		経営・ロジスティックス工学	IE	Industrial & Logistics Engineering
		電気電子工学*	EE	Electrical & Electronic Engineering
	情報学部	情報技術学	IT	Information Technology
		マルチメディア技術学	MT	Multimedia Technology
		ビジネス情報技術学	BI	Business Information Technology
	経営学部	工業経営学	IM	Industrial Management
		日本語・経営学	BJ	Business Administration (Japanese)
		ビジネス・工業経営学 （社会人用）	BM	Business & Industrial Management
		国際経営学	IB	International Business Management
		会計学	AC	Accounting
大学院	工学技術学		MET	Engineering Technology
	情報技術学		MIT	Information Technology
	工業経営学		MIM	Industrial Management
	上級企業経営学		EEM	Executive Enterprise Management

工学部自動車工学コース（AE）課目例（144 単位）

工学部を代表して、自動車工学コースの履修課程を紹介します。主なテーマは以下の 3 点で、履修単位は下記表のようになります。

1. 自動車工学、製造工程、材料技術、生産管理、設計・開発の知識付与

2. 自動車産業で、工学知識を使い、諸課題を総合、分析、解決する能力を付与

3. 英語・日本語コミュニケーション力を付与

<table>
<tr><td>語学・教養課程
44 単位</td><td colspan="3">専門課程 94 単位　＋　自由選択 6 単位</td></tr>
<tr><td>人文学 3 単位：
哲学、倫理学、
タイ文明、日本と東アジア文明、西洋文明</td><td rowspan="3">基礎工学 46 単位：
製図、コンピュータ・
プログラミング、
工学物理および実
習、機械工学 1・2、
工学数学、基礎工
学ワークショップ、
材料学、熱力学、
流体力学、電気工
学および実習、
機械工学実習、
材料力学、</td><td rowspan="2">自動車工学必須 29
単位：
自動車工学 1・2 および実習 1・2、
自動車工学計測、
機械振動、
車輪構造、
機械設計、
開発と生産工程、
自動制御、
内燃機関と動力伝達機構</td><td rowspan="3">自動車工学選択 12
単位：
排気と騒音制御、
CAD/CAM/CAE、
部品設計、ゴム加工、
シートメタル加工、
車体組立、車体技術、
金型設計、
樹脂成型機械と加工、
自動車とエレクトロニクス　、
産業ロボット、
製品設計、
材料工学、熱伝導、
エアコンシステム、
ロジスティックス、
設備保全、鋳造技術、
品質管理、工学日本</td></tr>
<tr><td>社会学 3 単位：
心理学、政治・経済、商法</td></tr>
<tr><td>基礎数学・科学 14
単位：
物理学および実習、
化学および実習、
微積分学</td><td>技術実習選択 7 単位：
企業協同教育
（事前教育＋インターンシップ研修）</td></tr>
</table>

語学 24 単位： ビジネス日本語、英語コミュニケーション	工学統計、製造工程、工学経済学	**プロジェクト選択 7 単位：** AE プロジェクト (工学実習、AE プロジェクト 1・2)	語 1･2、特別テーマ

・指導方法

変速機実習

テーマにより座学、実験･演習があり、宿題やプロジェクトもあり、かなり厳しい内容です。さらに 4 ヶ月のインターンシップ企業内訓練で、より実際的実務的な指導を受けます。主な研究室・研修室・演習室は下記のテーマで、日系企業他に機器等をご寄贈･ご協力いただいて充実した指導を受けています。 (*テーマ：自動車工学、製造工学、工学･工作機械、工学測定、電気工学研究室、CAD/CAM/CAE、化学、物理、コンピュータ･プログラミング、コンピュータ･ネットワーク、組み込みシステム、マルチメディア･コンピュータグラフィックス、TPS、語学)

TNI 情報学部　Faculty of Information Technology

企業の経営効率を高め迅速かつ正確な意思決定とリスク低減の支援ツールとして、情報通信技術（ICT）は大変重要な役割を担っています。ICT は組織の長期的な競争のための戦略手段とも言えます。また ICT システムは情報の伝達、広報、商品・サービスのインターネット販売、人材開発、知識管理などにも活用されています。

TNI の情報学部は履修者がコンピュータ・プロムラミング、データベースとコンピュータ・ネットワークの設計・管理、マルチメディア技術、コンピュータ・グラフィック、経営データ処理、ERP、業務統合ソフト、企業資源計画、顧客管理、ウェブサイト上のサービスなど、さまざまな方面に活用する能力を身につけることに重きを置いています。本学部の履修者は ICT がなくてはならぬ今日の企業の即戦力になります。

履修課程(コース)		略称	英文名称
情報学部	**情報技術学**	**IT**	Information Technology
	マルチメディア技術学	**MT**	Multimedia Technology

	ビジネス情報技術学	BI	Business Information Technology

情報学部　情報技術学コース（IT）課目例(135 単位)

情報学部を代表して、情報技術学コースの履修課程を紹介します。主なテーマは以下の 2 点で、履修単位は下記表のようになります。

1. **企業で ICT 活用の知識と効率を付与**
2. **ICT システムを効果・効率的に設計、実施、分析、管理する能力を付与。**

語学・教養課程 36 単位	専門課程 93 単位　＋　自由選択6単位		
人文学 3 単位： 哲学、倫理学、タイ文明、 日本と東アジア文明、西洋文明	IT 基礎過程 37 単位： コンピュータ数学、 統計と確率、 コンピュータ・プログラミング 1・2、 対象別プログラミングおよび実習、 インターネット技術、 コンピュータ組織、 ネットワークと通信 システムおよび実習、 情報システム分析・ 設計、 データベースシ	IT 専門課程 31 単位： コンピュータシステム管理、 ウエブ・サービス 技術および実習、 ネットワークと通信システムおよび実習、 ウエブ設計・開発および実習、 IT センター経営、 経営情報システム、 ソフトウエア・プロジェクト管理、 マルチメディア技術、 IT セミナー、 電子コマース	IT 選択課程（IT 企業 協同教育 18 単位ま たは IT プロジェクト 21 単位）： ・大企業の IT: 顧客管理、ERP、業務統合ソフト、サプライチェーン管理（SCM）、 製造資源計画、事業シミュレーション、 地域情報システム（GIS） ・ネットワークシステム・セキュリティ、ネットワーク設計 ・無線通信、データベース管理
社会学 3 単位： 心理学、 政治・経済、 商法			
基礎数学・科学 6 単位： 数学、IT 科学			
語学 24 単位： ビジネス日本語、 英語コミュニケーション			

	ス テムおよび実習、 ソフトウェア工学	IT 実習－選択①・7 単位： 企業協同教育（事前教育＋インターンシップ研修）	シ ステム最新情報、 データ・ウエアハウスとマイニング、 知識管理 ・コンピュータ・アニメ、 携帯電話応用開発、 コンピュータ・グラフィック設計、 ゲーム開発、 3D アニメ、 IT 日本語、 マルチメディア設計、 データ圧縮 ・特別講座： IT 特別講座 1・2
		IT 実習－選択②・4 単位： IT 実習、IT プロジェクト 1・2	

泰日工業大学と日本の連携

前述したとおり、本大学は「日本」をキーワードにしている。これをまとめたものが次の図である。

設備の概要(2)

コンピュータ・センター:最新コンピュータでインターネット検索が出来ます。講義やコンピュータ技術研修、さまざまなプログラム研修なども可能です。さらにインターネット経由で、履修登録、時間割確認、欠席した講義で使用された補助教材のダウンロードなども可能です。TNIは講義に出席できない社会人学生に便宜を図るため、ビデオ・コンファレンス・システムを取り入れています。また講義棟・事務棟は高速Wi-Fiを設置しています。

図書室:学問分野での情報技術サービスの中心であり、タイ国内外の書物、新聞、雑誌の閲覧ができ、勉学の質・効率を高めるのに役立っています。さらに履修過程に沿った学習内容が収められたビデオ、CDR、DVDなども充実しています。またコンピュータ検索プログラムにより資料を迅速に探すことができ、他機関の図書館から本を借りることもできるようになっています。

泰日工業大学 9

このネットワークは今後職業学校の連携を図る上で貴重な参考となろう。

また、泰日工業大学は次の通り多くの日本の教育機関との提携を行っている。

No.	Name1 (E)	Name2 (J)	URL
1	Shibaura Institute of Technology	芝浦工業大学	http://www.shibaura-it.ac.jp/
2	Kyushu University	九州大学	http://www.kyushu-u.ac.jp/
3	Osaka Institute of Technology	大阪工業大学	http://www.oit.ac.jp/
4	Tokyo University of Agriculture and Technology	東京農工大学	http://www.tuat.ac.jp/
5	Tohoku University (Graduate School of Economics and Mangement)	東北大学大学院 経済学研究科	http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/graduate/
6	Tohoku Institute of Technology	東北工業大学	http://www.tohtech.ac.jp/
7	Nagoya Institute of Technology	名古屋工業大学	http://www.nitech.ac.jp/
8	Daido University	大同大学	http://www.daido-it.ac.jp/
9	Institute of Technologists	ものつくり大学	http://www.iot.ac.jp/
10	Toyota Technological Institute	豊田工業大学	http://www.toyota-ti.ac.jp/
11	Ritsumeikan University	立命館大学	http://www.ritsumei.jp/
12	Ritsukeikan Asia Pacific University	立命館アジア太平洋大学	
13	Tohoku Gakuin University	東北学院大学	http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/
14	Tohoku University, School of Engineering	東北大学 工学研究科・工学部	http://www.eng.tohoku.ac.jp/
15	Tokai University	東海大学	http://www.u-tokai.ac.jp/
16	Chiba Institute of Technology (Faculty of Social Systems Science)	千葉工業大学 社会システム科学部	http://www.it-chiba.ac.jp/faculty/social/l
17	Aso Juku	麻生塾	http://www.asojuku.ac.jp/
18	Tokyo University of Foreign Studies	東京外国語大学	http://www.tufs.ac.jp/
19	Gunma University (Graduate School of Engineering)	群馬大学 大学院工学研究科	http://www.gunma-u.ac.jp/
20	National Institute of Information and Communications Technology	情報通信機構	http://www.nict.go.jp/en/about/index.html
21	Chiba University	千葉大学	http://www.chiba-u.ac.jp/
22	Osaka Prefecture University	大阪府立大学	http://www.osakafu-u.ac.jp/
23	Shinshu University (Faculty of Textile Science and Technology)	信州大学 繊維学部	http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/
24	Shiga University	滋賀大学	http://www.shiga-u.ac.jp/
25	Muroran Institute of Technology	室蘭工業大学	http://www.muroran-it.ac.jp/
26	Osaka University (Graduate School of Engineering Science, School of Engineering Science)	大阪大学 基礎工学部/大学院 基礎工学研究科	http://www.es.osaka-u.ac.jp/ESnew/
27	Kanazawa Institute of Technology	金沢工業大学	http://www.kanazawa-it.ac.jp/
28	Kaetsu University	嘉悦大学	http://www.kaetsu.ac.jp/
29	Aomori Chuo Gakuin University	青森中央学院大学	http://www.aomoricgu.ac.jp/
30	Nagaoka University of Technology	長岡技術科学大学	http://www.nagaokaut.ac.jp/j/index.html
31	University of Hyogo (Graduate School of Engineering)	兵庫県立大学 大学院工学研究科	http://www.u-hyogo.ac.jp/
32	Laos-Japan human resource development institute of national university of laos	ラオス国立大学 ラオス日本センター	http://japancenter.jica.go.jp/country/laos/laos
33	Kake Educational Institution	加計学園	http://www.kake.ac.jp/
34	Meiji University	明治大学	http://www.meiji.ac.jp/
35	Kochi University of Technology	高知工科大学	http://www.kochi-tech.ac.jp/
36	Nagaoka National College of Technology	長岡工業高等専門学校	http://www.nagaoka-ct.ac.jp/
37	Yamagata University (Faculty of Engineer)	山形大学 工学部	http://www.yamagata-u.ac.jp/
38	Josai University	城西大学	http://www.josai.jp/
39	Kinki University	近畿大学	http://www.kindai.ac.jp/
40	Yokohama National University (The College of Business Administration)	横浜国立大学 経営学部	http://www.ynu.ac.jp/
41	NSG Group	NSG グループ	http://www.nsg.gr.jp/

2013.12 現在

こうした日本の教育機関との連携から国際交流も盛んである。

こうした活動を支えるのが、次の図にある 341 機関（2012 年 7 月現在）の支援機関である。

TNI支援機関リスト

（会社および団体名。アルファベット順：奨学金、設備・機材などのご協力を頂く）

(A)
- A.L.M.T. (T) Co., Ltd.
- A.P. Honda Co., Ltd.
- Advics Asia Pacific Co., Ltd.
- AEON (T) Co., Ltd.
- AGC Automotive (T) Co., Ltd.
- AGC Chemicals (T) Co., Ltd.
- AGC Flat Glass (T) PCL
- Aisin AI (T) Co., Ltd.
- Aisin Asia Pacific Co., Ltd.
- AOTS Bangkok Office (→presently HIDA)
- Aoyama Thai Co., Ltd.
- Aqua Nishihara Corp. Ltd.
- Architects and Associates Co., Ltd.
- Arrk Corp. (T) Ltd.
- Asahi Tec Aluminium (T) Co., Ltd.
- Asia Cultural & Technological Promotion Foundation (Hozumi)
- Asia Yamashita Works Co., Ltd.
- Asian Honda Motor Co., Ltd.
- Asian Marine Services PCL
- Asno Horie (T) Co., Ltd.
- Atsumitec (T) Co., Ltd.
- Auto Alliance (T) Co., Ltd.
- Auto Technic Co., Ltd.
- Azbil (T) Co., Ltd.

(B)
- Bangkok Expressway PCL
- Bangkok Metro PCL
- Bangkok Pacific Steel Co., Ltd.
- Bangkok Taiyo Springs Co., Ltd.
- Bedazzles Co., Ltd.
- Betagro PCL
- Big Daishowa Seiki Co., Ltd.
- Bookbridges Co., Ltd.
- Boss Printing Co., Ltd.
- Business Online PCL
- BYK Engg. Co., Ltd.

(C)
- Calbee Tanawat Co., Ltd.
- Canon Hi-Tech (T) Ltd.
- Cataler (T) Co., Ltd.
- Central Motor Wheel (T) Co., Ltd.
- CH. Karnchang PCL
- CH. Karnchang-Tokyu Construction Co., Ltd.
- Citizen Mfg. Asia Co., Ltd.
- Comfort Intl. Co., Ltd.
- Control Component Co., Ltd.
- Core Tech System Co., Ltd.
- CT Industry Co., Ltd.

(D)
- Daicel Safety Systems (T) Co., Ltd.
- Daido Sittipol Co., Ltd.
- Daihen Electric Co., Ltd.
- Daikin Industries (T) Co., Ltd.
- Dainichi Color (T) Ltd.
- Daisho (T) Co., Ltd.
- DENSO (T) Co., Ltd.
- DENSO Intl. (T) Co., Ltd.
- DENSO Intl. Asia Co., Ltd.
- Dia Resibon (T) Co., Ltd.
- Dyna Metal Co., Ltd.

(E)
- Ebara (T) Ltd.
- Enkei Thai Co., Ltd.
- ESSOM Co., Ltd.
- European Bakery Co., Ltd.

(F)
- FCC (T) Co., Ltd.
- February Thirty Co., Ltd.
- FMOT Ltd.
- Fujikasui (T) Co., Ltd.
- Fujitsu (T) Co., Ltd.
- Fujitsu General (T) Co., Ltd.
- Fujitsu Systems Business (T) Ltd.
- Fujitsu Ten (T) Co., Ltd.

(G)
- Grand Siam Composites Co., Ltd.

(H)
- Hayshi Telempu (T) Co., Ltd.
- Hino Motors Mfg. (T) Ltd.
- Hino Motors Sales (T) Ltd.
- Hitachi Asia (T) Co., Ltd.
- Hitachi Asia Ltd.
- Hitachi Chemical Asia-Pacific Pte. Ltd. (Bangkok Rep. Office)
- Hitachi Chemical Automotive Products (T) Co., Ltd.
- Hitachi Construction Machinery (T) Co., Ltd.
- Hitachi Global Storage Technologies (T) Ltd.
- Hitachi High-Technologies (T) Ltd.
- Hitachi Metals (T) Ltd.
- Hitachi Power Tools (T) Co., Ltd.
- Hitachi Rolls (T) Ltd.
- Hitachi Transport System (T) Ltd.
- Honda Automobile (T) Co., Ltd.
- H-One Parts (T) Co., Ltd.
- HYMOLD (T) Ltd.

(I)
- Ikura Seiki Co., Ltd.
- Inabata Thai Co., Ltd.
- Internet Foundation for the Development of Thailand
- Isuzu Engine Mfg. (T) Co., Ltd.
- Isuzu Group Foundation
- Isuzu Motor Co., (T) Ltd.
- Itochu (T) Ltd.
- Itochu Management (T) Co., Ltd.
- Iwatani Corp. (T) Ltd.

(J)
- JAC Personnel Recruitment Ltd.
- Japanese Chamber of Commerce, Bangkok
- JETRO Bangkok
- JFE Engg. & Construction (T) Co., Ltd.
- JFE Shoji Trade (T) Ltd.
- JFE Steel Corp.
- JICA (Japan Intl. Cooperation Agency)
- JODC (→presently HIDA)
- Jibuhin (T) Co., Ltd.
- JTEKT (T) Co., Ltd.
- JVC Mfg. (T) Co., Ltd.

(K)
- K Line (T) Ltd.
- K&U Enterprise Co., Ltd.
- Kawasaki Motors Enterprise (T) Co., Ltd.
- Kingfisher Holdings Ltd.
- Kobe Electronics Material (T) Co., Ltd.
- Kobe Mig Wire (T) Co., Ltd.
- Kobe Steel Ltd. (Bangkok Rep. Office)
- Kobelco Machinery Asia Pte. Co., Ltd.
- Korat Matsushita Co., Ltd.
- Kyocera Asia Pacific (T) Co., Ltd.
- Kyodo Die-Works (T) Co., Ltd.
- Kyoto Electric Wire (T) Co., Ltd.

(L)
- Limpanich Ltd.

(M)
- Mahle Siam Filter Systems Co., Ltd.
- Makino Milling Machine Co., Ltd.
- Marubeni Thailand Co., Ltd.
- Marubeni-Itochu Steel Pte. Ltd., Bangkok Branch
- Max Value Technology Co., Ltd.
- Meiwa Enterprise (T) Co., Ltd.
- Mikuni (T) Co., Ltd.
- Minebea Thai Ltd.
- Mitsubishi Co., (T) Ltd.
- Mitsubishi Electric Automation (T) Co., Ltd.
- Mitsubishi Electric Corp. Regional Office
- Mitsubishi Fuso Truck (T) Co., Ltd.
- Mitsubishi Heavy Industries (T) Ltd.
- Mitsubishi Motors (T) Co., Ltd.
- Mitsu & Co., (T) Ltd.
- Mitsui O.S.K. Lines (T) Co., Ltd.
- Mitsui Siam Components Co., Ltd.
- Mitsui Sumitomo Insurance Co., Ltd.
- Mitsumi (T) Co., Ltd.
- Mitutoyo (T) Co., Ltd.
- Mizuho Corporate Bank Ltd.
- Molten Asia Polymer Products Co., Ltd.
- Moresco (T) Co., Ltd.
- Mori Seiki Mfg. (T) Co., Ltd.
- Moriroku (T) Co., Ltd.
- Muang-Max (T) Co., Ltd.
- Muramoto Electron (T) PCL

(N)
- N.T.N. Bearing Thailand Co., Ltd.
- N.Y.K. (T) Co., Ltd.
- NDR Co., Ltd.
- NEC Corp. (T) Ltd.
- NEC Tokin Electronics (T) Co., Ltd.
- NESIC (T) Ltd.
- Netmarks (T) Co., Ltd.
- NHK Spring (T) Co., Ltd.
- Nihon Superior (T) Co., Ltd.
- Nikkei Siam Aluminium Ltd.
- Nikon (T) Co., Ltd.
- Nile (Thailand) Co., Ltd.
- Nippon Steel (T) Co., Ltd.
- NIPRO (T) Corp. Ltd.
- Nissan Diesel (T) Co., Ltd.
- Nissan Motor (T) Co., Ltd.
- Nissen Chemitec (T) Ltd.
- Nissin Electric (T) Co., Ltd.
- Nissin Mfg. (T) Co., Ltd.
- Nitto Denko Material (T) Co., Ltd.
- NOK Precision Component (T) Ltd.
- NSK Asia Pacific Technology Centre (T) Co., Ltd.
- NSK Bearings (T) Co., Ltd.
- NSK Bearings Mfg. (T) Co., Ltd.
- NTT Communication (T) Co., Ltd.

(O)
- Ocean Life Insurance Co., Ltd.
- Office of the Higher Education Commission
- Ohgitani Kogyo (T) Co., Ltd.
- Oji Paper (T) Ltd.
- Okamoto (T) Co., Ltd.
- Oki Data Mfg. (T) Co., Ltd.
- Omni Systems Co., Ltd.
- Ooh Alai Bangkok Co., Ltd.
- OSG (T) Co., Ltd.

(P)
- Panasonic (T) Co., Ltd.
- Panasonic Management (T) Co., Ltd.
- Pasona Employment Agency (T) Co., Ltd.
- Personnel Consultant Manpower (T) Co., Ltd
- Pioneer Mfg. (T) Co., Ltd.
- Pollard Co., Ltd.
- Professionals' Network in Advanced Instrument Society (PAI-NET)

(R)
- Ray Business (T) Co., Ltd.
- Rohm Integrated Systems (T) Co., Ltd.
- Rondex (T) Co., Ltd.
- Rotary Club of Bangrak
- Ryoei Engg. Co., Ltd.

(S)
- SAEILO (T) Co., Ltd.
- S.E.I. Group CSR Foundation
- S.E.I. Thai Holding Co., Ltd.
- Sanno R & D Co., Ltd.
- Satake (T) Co., Ltd.
- SBCS Co., Ltd.
- SEI Break Systems (T) Co., Ltd.
- SEI Interconnect Products (T) Ltd.
- Seiko Precision (T) Co., Ltd.
- Sews Asia Technical Center Ltd.
- Sews Components (T) Ltd.
- Sharp Appliances (T) Ltd.
- Sharp Mfg. (T) Co., Ltd.
- Sharp Thai Co., Ltd.
- Shizuki Electric (T) Co., Ltd.
- Siam Aisin Co., Ltd.
- Siam Cosmos Service Co., Ltd.
- Siam Electric Industries Co., Ltd.
- Siam Fresh Co., Ltd.
- Siam Goshi Mfg. Co., Ltd.
- Siam HPM Co., Ltd.
- Siam Mitsu PTA Co., Ltd.
- Siam Nissan Automobile Co., Ltd.
- Siam NSK Steering Systems Co., Ltd.
- Siam Toyodensan Co., Ltd.
- SKB Tech. (T) Co., Ltd.
- SMCC (T) Co., Ltd.

- SMFL Leasing (T) Co., Ltd.
- Sodick (T) Co., Ltd.
- Sojitz (T) Co., Ltd.
- Sompo Japan Insurance (T) Co., Ltd.
- Sony Device Technology (T) Co., Ltd.
- Sritong Nameplate Co., Ltd.
- Sum Hitechs Co., Ltd.
- Sumiden Hyosung Steel Cord (T) Co., Ltd.
- Sumiden Intl. Trading (T) Co., Ltd.
- Sumiden Shoji (T) Co., Ltd.
- Sumipol Co., Ltd.
- Sumitomo Corp. Thailand Ltd.
- Sumitomo Electric (T) Ltd.
- Sumitomo Electric Hardmetal Mfg. (T) Ltd.
- Sumitomo Electric Industries, Ltd.
- Sumitomo Electric Sintered Components (T) Co., Ltd.
- Sumitomo Electric Wintec (T) Co., Ltd
- Sumitomo Electric Wiring Systems (T) Ltd.
- Sumitomo Metal Industries, Ltd.
- Sumitomo Mitsui Banking Corp.
- Summit Auto Body Industry Co., Ltd.
- Suncall High Precision (T) Ltd.
- Sylvac Asia Co., Ltd.
- SWS Logistics & Marketing (T) Co., Ltd.

(T)
- T&J Earth Mechatronics Co., Ltd.
- T. Rad (T) Co., Ltd.
- T.S.B. Products Ltd. Partnership
- Taisei (T) Co., Ltd.
- Takao (T) Co., Ltd.
- Takata-Toa Co., Ltd.
- TBTS (T) Co., Ltd.
- Techno Associe (T) Co., Ltd.
- Technology Promotion Association (Thailand-Japan)
- Technology Promotion Institute Foundation
- Teijin Polyester (T) Ltd.
- Textile Prestige PCL
- Thai Asahi Denki Co., Ltd.
- Thai Asahi Glass PCL
- Thai Bridgestone Co., Ltd.
- Thai Chemical Copr. Ltd.
- Thai Honda Mfg. Co., Ltd.
- Thai International Die Making Co., Ltd.
- Thai Kajima Co., Ltd.
- Thai Kamaya Co., Ltd.

- Thai Kikuwa Industries Co., Ltd.
- Thai Koito Co., Ltd.
- Thai Kurabo Co., Ltd.
- Thai Long Distance Telecommunication Co., Ltd.
- Thai Mitchi Corp. Ltd.
- Thai MMA Co., Ltd.
- Thai Nippon Seiki Co., Ltd.
- Thai NISCA Co., Ltd.
- Thai Nishimatsu Construction Co., Ltd.
- Thai Nissei Lamination Co., Ltd.
- Thai Obayashi Corp. Ltd.
- Thai Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.
- Thai PET Resin Co., Ltd.
- Thai Polyacetal Co., Ltd.
- Thai Polycarbonate Co., Ltd.
- Thai Secom Pitakkij Co., Ltd.

- Thai Semcon Co., Ltd.
- Thai Seng Trading Co., Ltd.
- Thai Shimizu Co., Ltd.
- Thai Sintered Products Co., Ltd.
- Thai Sintokogio Co., Ltd.
- Thai Stanley Electric PCL
- Thai Steel Pipe Industry Co., Ltd.
- Thai Summit Mitsuba Electric Mfg. Co., Ltd.
- Thai Takeda Lace Co., Ltd.
- Thai Takenaka Intl. Ltd.
- Thai Tinplate Mfg. Co., Ltd.
- Thai Toshiba Electric Industries Co., Ltd.
- Thai Toshiba Lighting Co., Ltd.
- Thai Wacoal PCL
- Thai Yamaha Motor Co., Ltd.
- Thai Yazaki Corp. Ltd.
- Thai-Kobe Welding Co., Ltd.
- Thailand Automotive Institute
- Thaioil PCL
- Thanachart Bank PCL

- The Bank of Thailand
- The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.
- The Siam United Steel (1995) Co., Ltd.
- The Srimuang Insurance Co., Ltd.
- Thumrongwat Co.
- TIPS Ltd.
- TJ Prannarai Communication Co., Ltd.
- Togo Seisakusyo (T) Co., Ltd.
- Tokai Eastern Rubber (T) Ltd.
- Topy Fasteners (T) Ltd.
- Toray Industries (T) Co., Ltd.
- Toshiba Asia Pacific Pte. Ltd. (Bangkok Office)
- Toshiba Carrier (T) Co., Ltd.
- Toshiba Consumer Products (T) Co., Ltd.
- Toshiba Hokuto Electronic Device (T) Co., Ltd.
- Toshiba Lighting Components (T) Ltd.
- Toshiba Semiconductor (T) Co., Ltd.
- Toshiba Storage Devicen (T) Co., Ltd.
- Tostem Thai Co., Ltd.
- Toyo Roki (T) Co., Ltd.
- Toyoda Gosei Rubber (T) Co., Ltd.
- Toyota Motor Asia Pacific Engg. & Mfg. Co., Ltd.
- Toyota Motor Thailand Co., Ltd.
- Toyota Technical Center Asia Pacific (T) Co., Ltd.
- Toyota Tsusho (T) Co., Ltd.
- Transtron (T) Co., Ltd.
- TRD Asia Co., Ltd.
- Tripech Isuzu Sales (T) Ltd.
- Tsubakimoto Automotive (T) Co., Ltd.

(U)
- UEL Asian Co., Ltd.
- Union Chojirushi Co., Ltd.
- Unisia JECS (T) Co., Ltd.
- Univance Corp.
- Utility Business Alliance Co., Ltd.

(W)
- We-Ef Lighting Co., Ltd.

(Y)
- Y S PUND Co., Ltd.
- Y.M.P. (T) Co., Ltd.
- Yamasei Thai Co., Ltd.
- Yamatake (T) Co., Ltd.
- Yanmar S.P. Co., Ltd.
- Yorozu (T) Co., Ltd.

注：2012.7現在 341機関。
読みやすくするため名称の一部を略称：
Co. = Company, Corp. = Corporation,
Engg. = Engineering, Intl. = International,
Ltd. = Limited, Mfg. = Manufacturing,
PCL= Public Company Limited,
Rep. = Representative, (T) = Thai/Thailand

泰日工業大学 15

（出所：泰日工業大学大学案内）

以上のように、泰日工業大学の成功は産学連携で日本のものづくり精神に支えられた日系企業のニーズに即した日本語のわかる技術者の育成にあるといえよう。

第3章　進出日本企業の人材需要

3.1　インドネシアの人材需要

3.1.1　進出企業の実態

進出日本企業は1,266社(2012 年3月23日)であり、業種別では「製造業」692 社(54.7%)で過半数、次いで「卸売業」(275 社、21.7%)、「サービス業」(87 社、6.9%) の順に多い。業種細分類では、自動車関連業種が多い。

表 20　インドネシア進出企業の実態

業種別	社数	構成比(%)
建設業	59	4.7
製造業	692	54.7
卸売業	275	21.7
小売業	20	1.6
運輸・通信業	63	5.0
サービス業	87	6.9
不動産業	7	0.6
その他	63	5.0
合計	1,266	100.0

※四捨五入のため各構成比の合計は100とならない

順位	業種細分類	社数	構成比(%)
1	自動車部品製造	35	2.8
1	自動車操縦装置製造	35	2.8
3	その他の投資業	31	2.4
4	各種商品卸	26	2.1
5	産業用電気機器卸	25	2.0
6	一般土木建築工事業	20	1.6
7	工業用樹脂製品製造	19	1.5
7	鉄鋼・同加工品卸	19	1.5
9	自動車内燃機関製造	17	1.3
9	化学製品卸	17	1.3

出所：帝国データバンク「インドネシア進出企業の実態調査」(2012 年 3 月 26 日)

3.1.2　背景

・日本企業のインドネシア進出が本格化したのは 1960 年代から。中小企業は主に 1997 年の通貨危機以前から進出している企業と、2010 年以降進出した企業がある。前者では既に現地の高度人材が活躍し始めている。後者では採用・育成・登用がこれから課題になろうとしている [2)]。

・インドネシアの高等教育進学率は 18%。大卒者はエリートであり、国家公務員、財閥、外資の大企業のオフィスワーカーを目指すケースが多い [2)]

・企業は 6 か月間の試用期間 2 期を経てから正式採用を決めることができる。高卒人材を仮採用し、試用期間中に優秀な人材を見極め、必要な人材を本採用し、あとは現場で育てているというのが日系企業の現地オペレーションの実態である [2)]

・ポリテクニク出身者がインドネシアのものづくりを支えている [2)]

・ここ数年でインドネシアでは最低賃金が大幅に引き上げられている。ジャカルタでは 2013 年の最低賃金が前年比 44%の上昇している [2)]。安い賃金による単純労働ではコストと付加価値が見合わなくなる。今後は、より付加価値の高いオペレーションを実現していくことが求められるようになると考えられる [2)]。人件費が急速に上昇している中で、事業の付加価値を高めるためには、今後高度人材の採用が必要になってくる可能性がある [2)]。賃金に見合った技術やノウハウをもつ実践的な産業人材の育成は緊急課題といえる [1)]。

3.1.3　人材ニーズ

・工場での高度人材採用は、エリート意識がつよくものづくりの現場に入ることに抵抗のある大卒者よりもポリテクニク出身者が求められる可能性が高い。高専等の卒業に加え、日本語や日本文化を理解できる人材の需要もある[2)]。

・工業団地での研修ニーズはある程度ある。５S、改善、段取りなどを教えてもらえると良い。

・品質管理、生産管理の方法については、外部の教育機関の Certificate を得られるのであれば、受講者にとってはものすごいインセンティブになるであろう。

・現地の企業インタビューで、ものづくりの現場に入って現場をリードするような人材が必要であるとの指摘[2)]

・高等教育機関の中でもより現場感覚を持つポリテクニク出身者が（日系中小企業に）最も必要とされる人材に近いと考えられる[2)]。

・会社はどうあるべきかと考えられる人材、生産性の向上を目指す人材が必要[1)]

・製造コストが上昇するなか、優秀な作業員を育てて生産効率を上げていくことが不可欠[1)]

・費用がかさむ為、（人材育成は）内製化で対応しているが、予算の問題をクリアしてポリテクから社員を確保出来るのであれば、スタッフクラスで 5～10 名を雇用したい[1)]。

・5S や生産管理等の内容を月に１回は全員に受講させている[1)]。

・人材育成は OJT を通じて行うのが基本。企業文化、５S、三現主義、３C 等を学ばせている[1)]。

・理論だけでは無く、例えば成型機の運転、メンテナンス、組み立て等の技能も必要である。現実から無駄を探すことも大切[1)]。

・インドネシア金型工業会（IMDIA）が実施している講習、試験、資格のスキームは実践的で評価出来る[1)]。

・社内研修としては 5S、安全管理、コミュニケーション等の分野で 2 週間に一度、10 名 1 クラスで実施している[1)]。

・スーパーバイザークラスの人材を年に 2 名、日本で研修させている[1)]

・５S（2 ヶ月に１回）、カイゼン、QC（毎月）等の社内研修を 2 年のローテーションで実施している[1)]。

・人材育成は OJT が基本。（過去の経験から）リーダーシップ研修のようなものは身につきにくいが、機械操作等の実践的なトレーニングは有益である[1)]。

・日本研修の経験者がコア社員として生産現場を支えている[1)]。

・社内研修は品質管理、５S 等を実施している[1)]。

インドネシア日系企業の現地人材に対する声

A 社　技術系は 10 大有名大学からの採用とともに、ポリテク数校の先生経由で優秀な学生を紹介してもらっていた。分野は、機械、電気、電子、ソフトウエア系である。専攻が何であれ実際には、基礎力を持った人材という見方をし、社内教育で叩き上げて 3 年程度時間をかけて育てている。

B 社　有名一流校卒業生はなかなか現場になじまないため、現場には高卒もしくはポリテク出身者が適している。

C 社　当社は社内コミュニケーションを英語で行っており、高学歴者を採用している。

D 社　当社は立ち上げ直後であり、日本人駐在員も赴任したばかりで、立ち上げ要員としては日本で技能実習生として 3 年間当社の日本工場で経験を積んだ人を採用した。
日本語も理解し、業務内容も日本で理解しているため即戦力となっている。

E 社　ロボットコンテストではスラバヤのポリテクが優勝常連校であるように、バンドン工科大にも引けを取らない能力に期待している。

3.2　タイの人材需要

3.2.1　進出企業の実態

進出日本企業は 3,133 社（2011 年 10 月 31 日）であり、業種別では「製造業」1735 社（55.4%）で過半数、次いで「卸売業」（739 社、23.6%）、「サービス業」（234 社、7.5%）の順位に多い。業種細分類では、自動車関連業種が多い。

表 21　タイ進出企業の実態

業種別	社数	構成比(%)
建設業	108	3.4
製造業	1,735	55.4
卸売業	739	23.6
小売業	63	2.0
運輸・通信業	137	4.4
サービス業	234	7.5
不動産業	23	0.7
その他	94	3.0
合計	3,133	100.0

順位	業種細分類	社数	構成比(%)
1	産業用電気機器卸	95	3.0
2	自動車部分品製造	94	3.0
3	その他の投資業	58	1.9
3	金型・同部品等製造	58	1.9
5	工業用樹脂製品製造	57	1.8
5	自動車操縦装置製造	57	1.8
7	金属プレス製品製造	54	1.7
8	各種商品卸	40	1.3
9	ソフト受託開発	38	1.2
9	工業用ゴム製品製造	38	1.2

出所：帝国データバンク「タイ進出企業の実態調査」（2011 年 11 月 24 日）

3.2.2　背景

・古くから日系企業が進出し現地人材も高度化してきている[6)]。
・低い失業率（1%以下）[6)]
・堅調な景気。農業保護政策のため、工業への労働力移動が進まない。[6)]
・売り手市場と高い転職率[6)]
・技術者の採用は困難[6)]
・質の高い技能者の不足[6)]
・技能者の社会的地位は低い□高専卒・職業訓練校卒と高卒の給与はさほどかわらない。[6)]
・ただ、熟練労働者もある程度は育ってきている□デンソータイ技能者の技能五輪での金メダル獲得。[6)]
・大卒と高専卒の給与差が大きい[6)]
・高専（もしくは大きな職業訓練校）の出身者でも有名企業志向で、学生の中小企業の認知度は低い。高卒を採用して育てるという動きも。ただ、高卒をゼロから訓練するのは容易ではない。[6)]
・中小企業による高専卒の需要は高い。しかし離職率が高く、従業員の能力向上に投資することに積極的になれない[6)]

3.2.3　人材ニーズ

・製造業の技能ニーズ：　高等教育（理工学）42%、職業訓練（機械、金属加工）36%、初等中等教育（理数）32%、 職業訓練（電気・化学）29%[6) 3)]、タイ進出製造業のアンケート調査対象のうちの回答割合。非製造業では語学のニーズが比較的高い
・日系の中小企業にとり、技術管理職、生産管理職等の高度人材のニーズは極めて高い（資料資料[2)]。日系方式の生産管理・品質管理、及び金型等の設計ができる人材を採ることはきわめて困難な状況[2)]
・タイがアジアの中でも特に重要な拠点となる中で、高度な製造拠点を支えるエンジニアに対するニーズが高まっている[2)]
・現地高度人材を求めており、将来的に管理職を現地人材にもっと任せたい[2)]。
・必要性の高い人材育成プログラム：インターンシップと日本企業理解講座[2)]
・（中小企業の現地インタビューによると）必ずしもトップ校の優秀なエンジニアよりも、むしろ現場の経験が重視される。理論と実践のバランスのとれた、実践的な教育を行っている教育機関の出身で、ものづくりの現場で活躍できる高度人材が必要とされている[2)]
・日系中小企業の魅力を引き出す・理解してもらうような講座・プログラムの策定が望まれている[2)]
・学校と連携した継続的なジョブフェアの実施[2)]
・日本語能力を強みとして 採用されるタイ人従業員に対して企業が求める性格、能力、資質：　責任感が群を抜いて一番、次に日本語能力、誠実さの順[4)]。

表 3　企業が求める性格、能力、資質

項目	平均値
1　規則やルールを守る。	3.76
2　時間を守る。	3.57
3　勤勉で、真面目に仕事をする。	3.54
4　健康である。	3.38
5　会社の一員としての責任感を持っている。	3.37
6　報告、連絡、相談をまめにする。	3.33
7　最後まで仕事をやり遂げる忍耐力がある。	3.29
7　仕事をすぐにやめない。	3.29
8　公私の区別がある。	3.24
9　チームワークがとれる。	3.22

「1 考慮しない」「 2 あまり重視しない」「 3 重視する」「 4 必須である」の 4 件法で評定[4)]

・自由記述回答で 多く見られたのは、「日本企業文化」や「日本人の働き方」を理解してほしいという意見[4)]

参考資料：

1）日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部「ASEAN の産業人材育成ビジネスに関わる進出日系企業のニーズと人材育成事例」（2013 年 7 月）

2）野村総合研究所　「平成 24 年度アジア産業基盤強化等事業　中小企業の海外における高度人材確保に向けた施策の効果的な実施のための基礎調査」（2013 年 2 月 28 日）

3）バンコク日本人商工会議所　JCC 調査会「2013 年度上期タイ国日系企業景気動向調査」（2013 年 7 月 30 日記者発表）

4）前野文康、勝田千絵、Nida LARPSRISAWAD「在タイ日系企業が求める日本語人材―アンケート調査より」『日本語教育紀要 第 10 号（2013 年)』国際交流基金バンコク日本文化センター

5）三菱東京 UFJ 銀行　国際業務部「アジアの最低賃金動向（2013 年 1 月)」（2013 年 1 月 10 日）

6）森 純一「タイとベトナムにおける 産業人材育成・獲得の状況： 日系中小企業振興の視点から」（2013 年 12 月 19 日）

インドネシア、タイにおいて文献調査、アンケート調査を行った。それらの結果をまとめる。

（1）インドネシア、タイの職業教育強化は、日本を含めた産官学それぞれに重要な課題

これまでの調査で分かったのは、インドネシアやタイといったアセアン 10 カ国の中でも自動車、電機といった製造業への日系企業の進出が盛んな国において、2015 年のアセアン共同体発足はヒト、モノ、カネが大きく動き、両国にとっては CLMV からの低賃金技術者の流入で自国の競争力が失われる危機感を持つ。そこで、より付加価値の高い人材育成が強く求められている。これは政府の職業教育強化に対する共通の認識である。

当然、日系企業をはじめとする産業界もより優秀な人材、特に日本のものづくり精神を理解する人材を強く求めている。

こうした官民の動きに対し、学である職業教育学校は企業ニーズに合ったカリキュラムを充実させ、さらには日本的ものづくり精神や語学力をもった学生を輩出することで大いに喜ばれ、運営面でも奨学金や機材供与といったチャンスも増えてくる。ここに、日本の専門学校が共通カリキュラムを共に作成することで、相互の能力向上が図れるほか、講師陣、学生の国際交流も盛んになる。

日本への留学生も増えることで、よりグローバルな専門学校として成長が見込まれる。

その場合、泰日工業大学のように現地で日本語教育が行われているように、日本側も少なくとも英語で授業を行えるような体制作りが必要であろう。

（2）製造業、IT 等、日本の強みを活かせる分野から接続プログラム開発から着手すべき

職業高校、専門学校の学生数をみると、工業分野、特に自動車産業、マルチメディアや電子、ＩＴ・通信産業が多いことがわかる。これらの分野は日本が強みを持つ分野であり、日本の専門学校では高度な技術を学習する機会を提供しており、即戦力の人材を企業へ供給している。さらに、自動車産業は日系企業が数多く進出しており、簡単な日本語、日本文化を理解していることはこれらの企業での採用面で優位に働くと考えられる。成功が期待されるこれらの分野での接続プログラムを先行的に開発することが望まれる。また、一方、長期的には ASEAN 経済共同体が発足して、経済が自由化されれば、一定の技術力を持つより安い労働力を求めて企業は製造拠点を探すことが容易に想像されるため、各国内だけでなく、ASEAN エリア内、さらにはグローバルに活躍できる人材育成が必要となるため ASEAN 統一カリキュラム開発し、それに答えることがのぞまれる。インドネシア、タイでは国内市場として小さい介護分野などについては、比較的市場規模の大きい日本でのサービス提供を視野にいれて、先行的に職業教育分野から仕掛けることも考えられる。

まずは、インドネシア、タイで人材需要の高い自動車をはじめとした製造業、IT 産業、さらには各国の市場は小さいが日本市場でのサービス提供が期待される介護等の分野に着目して接続を検討することが望まれる。

（3）同じ修業年限の学校制度を適用しており、統一カリキュラムを開発しやすいインドネシア、タイ

インドネシア、タイともに、6-3-3 の修業年限の学校制度を適用しており、統一カリキュラム開発にあたり修業年限の調整をする必要がない。専門学校の修業年限は、インドネシアが D1、D2、D３、D4 と１年から４年まで１年ごとである。タイも同様であるが、２年、４年が基本となっている。３カ国の統一カリキュラムを検討する際は、修業年限２年、4 年のコースでモデル的に検討すると効率的に接続プログラムを開発できると考えられる。

（4）国内の第三者による評価、ISO による職業教育の品質管理への対応

各国、第三者機関から職業教育のカリキュラムの評価を受けることにより、品質を管理している。接続プログラム開発は、これらの評価機関による評価を意識して検討を進める必要がある。また、インドネシア、タイでは ISO 取得も行われており、日本との接続の際も何らかの影響が受けることが考えられるため配慮が必要である。

（5）進む海外との協力関係、協力で求められる要素

今回のインドネシアでの調査では、バンドン、ジャカルタ、スマラン、デンパサールでは海外の教育機関との協力体制を構築しており、バンドンでは日本との協力体制を築いていることがわかった。そのほかでは、台湾、韓国、シンガポールなどの国々と協力関係を構築していることが判明した。また、タイでの調査では、中国の学校から協力関係構築の強い誘いがあることがわかっている。中国、台湾、韓国、シンガポールなどは専門学校レベルにおいても新興国との関係構築を積極的に進めているようである。IT など特に日本語が必要とならない分野では、難しい日本語ではなく英語での学習環境が得られる韓国企業でのインターンシップを望むなどの意見もあげられた。進出している日系企業で働きたい学生にとっては日本語環境で学べることは学校を選ぶ重要な要素となるが、そうでない場合は、世界に通用する技術を学べることが志望校選択の重要な要素となる。

（6）学生、保護者が寄せる日本への期待

今回のインドネシアでの調査では、ジャカルタ、バンドン、デンパサール、スマランの各都市では海外学校とのダブルディグリーへの関心は高いことが分かった。ただし、ジャカルタの学生の回答では、ダブルディグリー取得希望国はヨーロッパ、台湾、日本の順に多い。バンドン、スマラン、デンパサールは日本が最も多く希望国として挙げられた。このように、日本に寄せる期待は概ね大きいものの、同一国内であっても日本に寄せる期待は地域によって異なる。統一プログラム開発では、日本以外国との接続を望んでいる可能性があり、実は日本よりも高いかもしれないということを意識しながら、謙虚さを持って交渉に臨むことがよりよい結果を生むと考えられる。

また、タイの調査では、日本の専門学校への留学については職業高校レベルでは 56%が短期１年未満の留学に興味ありと回答、専門学校レベルの 61%が長期１年以上の留学へ興味ありと回答した。日本への関心は非常に高い。留学の最大のネックは費用。学校の選択理

由として、大学より短い期間で就職できるからとの回答が多いことを考えると、日本への留学のために現在の修業年限を増やすことは得策ではない。まずは、修業年限を増やさない接続方法を模索することが必要である。修業年限を増やす場合は、追加的な費用ならびに働いたら得られたであろう収入についての配慮が必要となる。

（7）急がれる日本主導の職業教育の標準化・体系化

今回のタイの調査において、観光分野における ASEAN 統一カリキュラムが開発済みであることが明らかとなった。これは、2015 年 ASEAN 経済共同体発足に向けた取り組みの一つであり、ASEAN 各国の職業資格の相互認証による雇用流動化、観光産業のサービス品質向上を目的としている。協定の Key は ASEAN 諸国のツーリズムのスキルと資格の認証である。参加国は、ASEAN10 カ国、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム。

他国のツーリズム産業で就業するためには ASEAN 統一観光科カリキュラムで定められた特定のツーリズム職の tourism competency certificate（ツーリズム能力証明書）が必要であり、証明書は ASEAN 加盟国内の TPCB（ツーリズム専門人材認定委員会）が発行する。32Job Titles があり、具体的には客室清掃、フロント、飲食サービス、旅行代理店、ツアーオペレーターなどがある。タイで入手した観光分野の ASEAN 統一カリキュラムの資料（下写真参照）では、見開きの片側がタイ語、他方が英語で説明が掲載されており、共通言語として英語が用いられている。

学位と職業資格の相互認証と一体的に進められており、本プロジェクトで実施しようとしていたことを先行的に取り組んでいるものである。先行事例として深く研究して参考にしていく必要がある。

高度な技術を学ぶ環境を提供できる日本の職業教育の素晴らしさ、日本がアジアのリーダーであることを示すためにも、職業教育の標準化、体系化をリードしていかねばならない。

（8）日系企業への高度人材提供を通じた日本、さらにはアジアの成長へ貢献するという視座に立ったプログラムの開発

進出日本企業の人材需要で整理したように、日系企業は高度な専門を持ち、かつ日本語、日本文化に一定の理解を持つ人材を欲しがっている。専門学校はこれらの企業に条件を満たす高度な人材を提供し、日本の成長に貢献するとともに、これから飛躍的な成長が期待されるアジア諸国へ優秀な人材を提供し、それらの成長へ貢献する存在となることを意識して接続プログラムを開発することが望まれる。

現地調査をもとに、分科会にて検討した結果、現地の動向として、現状学歴社会ながらも職業教育へシフトしようとしていることが判明した。
その結果、本年度は、日本での職業教育、カリキュラムが現地でどのように活かされうるかに着眼し、多様な日本の職業教育分野の中で、現地ではどのように対応していけるのか。その際、日本と現地での接続はどのようにすれば良いのか、日本の専門教育の「国際通用性」を発揮できる分野・制度を発見・提案することとした。

第1章　領域性の検証

接続プログラム開発に取りかかる分野の選定です。近年、日本の優位性ある分野として、マンガやアニメ、その他ポップカルチャー系が考えられるところである。実際、インドネシアの日本へのインドネシアからの留学生にインタビューしたところ、人気は突出しているようである。しかしながら、職業教育として展開を図った場合に問題があるとのことであった。なぜんら、アニメ、マンガなどは日本にしかない。つまり、学んでもそれらの分野では帰国しての就職は難しい（会社が少ない）のだ。
また、第３部で後述するが、語学の問題が出てくる。技術系分野と異なり、日本独自の読みをもつ分野なだけに、日本語は必須である。インタビューをした留学生によると、日本の専門学校でも英語で授業をすれば、留学希望者は増えるだろうとのことであるが、最初の取り組みとして広く展開を目指すには障がいとなろう。

このように、日本にとっては強みで、東南アジアには関心のある分野であっても、その先の運用や現地の発展（産業界への貢献）という観点に立った時、最初の取り組みとしては難点があることがあるわけである。

ゆえに、本年度の取り組みの方向性は、まず「領域性」（現地のマーケット性＝現地に雇用のあるフィールドと日本の専門学校へのメリットのあるフィールド)に絞っていくことを目指した活動にするものとするにいたった。
そして、東南アジアにとってだけでなく、日本産業界および日本教育界にとってもプラスとなるような「相互認証」は、この領域性をクリアにした上で、仕込み、次年度まとめていくものとする。

それでは、そのために、まず本年度は、現地で学んで、現地で就職できる（現地完結型）市場＝現地で需要のある分野はどこにあるだろうか。また、その分野について、日本から提案する意味の有無を考察することとする。
その観点で、両国にメリットの有る分野・制度を第２章にて提案し、次年度の具体的な接続プログラムとして、日本と東南アジアで共通化できるカリキュラムと、日本独自のカリキュ

ラムの設定・開発に活かすこととする。

そこで注目したいのは、インドネシア、タイで人材需要の高い自動車をはじめとした製造業やマルチメディアや電気、IT・通信産業である。

今回、タイで行った調査では、就職先の希望分野は IT が 43%、続いて電気関連 14%、機械関連 13%となった。第 1 部では回答者の学校での専門分野によるとの但し書きをつけたが、これはタイにおける今回の調査で訪問した工業系の職業高校および職業短期大学での調査であるためである。しかし、実際に東南アジアでの自動車や IT 分野の学校数や学生数を見ると、その需要の高さには注目に値するものがある。

まずは、インドネシアにおける職業高校の分野別学校数を見てみたい。

順位	分野	学校数
1	コンピューター回線技術	3611
2	軽車両製造技術	3136
3	経理	3111
4	事務業務	2568
5	営業	1563
6	マルチ・メディア	1366
7	二輪車製造技術	1256
8	ソフトウェヤー技術	782
9	機械技術	759
10	受電技術	694
11	ファッション	685
12	音響・映像技術	659
13	ホテル業	598
14	食用農業・園芸	575
15	看護師	528
16	薬局	457
17	建築設計	409
18	理容	375
19	養殖魚	368
20	農業生産技術	283
21	観光業	275
22	農園運営	249
23	石造建築	215
24	溶接技術	214
25	工業電気機器技術	210

26	漁船航海機器技術	188
27	木造建築	179
28	鳥類飼育	161
29	銀行業務	153
30	反芻動物飼育	140
31	商船航海機器技術	136
32	美容	116
33	工業機械保全技術	110
34	種子育成	108
35	健康指導	85
36	商船技術	78
37	重機技術	77
38	鉱山開発技術	75
39	木製デザイン・製造技術	74
40	自動車車両修理技術	73
41	漁船技術	68
42	化学工業	66
43	皮膚美容	66
44	アニメーション	64
45	測量技術	63
46	老人介護	63
47	テレビ放送・製造技術	60
48	化学分析	59
49	繊維織機デザイン・製造技術	59
50	菓子製造	53
51	工業自動化技術	51
52	冷房技術	51
53	衣服プリント技術	47
54	宣伝デザイン	45
55	海藻	35
56	機械電子工学技術	32
57	衣服プリント製造技術	31
58	農業機械	30
59	自動車電気設備	28
60	農業一般	28
61	圧縮機・発電機技術	27
62	金属工芸品デザイン・製造技術	27
63	一般飼育	27

64	家具製造	26
65	衣服製造技術	26
66	発電技術	21
67	金属製造技術	19
68	船舶機器設置技術	17
69	製薬技術	17
70	陶芸品デザイン・製造技術	17
71	配電技術	16
72	林業	15
73	電話通信技術	14
74	ラジオ放送・製造技術	14
75	舞踊	14
76	電気機器保全修理技術	13
77	ガメラン音楽	13
78	飼育衛生	12
79	送電技術	11
80	布製品製造技術	10
81	歯科看護師	10
82	革製品デザイン・製造技術	10
83	近代音楽	10
84	絵画	8
85	クラッシック音楽	8
86	機械設計	7
87	開閉器技術	7
88	電話回線アクセス技術	7
89	演劇	7
90	鋼船建造技術	6
91	鋳鉄技術	5
92	航空機電気設備	5
93	造船溶接	5
94	布製造技術	5
95	品質管理	5
96	下水道配管技術	4
97	インテリアー・環境デザイン	4
98	影絵芝居	4
99	航空機一般電気設備	3
100	船舶製図	3
101	製造管理技術	3

102	鉱油掘削技術	3
103	鉱油･ガス･石油精製品製造技術	3
104	鉄工建築	2
105	船舶電気設備	2
106	船舶調度品	2
107	紡績技術	2
108	機器機械化技術	2
109	倉庫管理技術	2
110	航空機エンジン技術	1
111	航空機機体製造技術	1
112	航空機骨組製造技術	1
113	木船建造技術	1
114	紡績糸製造技術	1
115	金属機器技術	1
116	機器自動化技術	1
117	交通管理技術	1
118	鉱油生産技術	1
119	彫像	1
120	FRP 船建造技術	0
121	ガラス機器製造技術	0

第１位が「コンピュータ回線技術」、第２位は「軽車両製造技術」であった。さらに上位項目を見ると第６位に「マルチメディア」、第７位に「二輪車製造技術」、第８位に「ソフトウェア技術」が見られる。
これらをあわせてみるに、日本の産業界や専門学校が得意とするＩＴ系や自動車の分野で連携を図ることが可能そうである。

さらに、インドネシアの職業高校学生数も見てみることとする。

順位	分野	生徒数
1	軽車両製造技術	674433
2	コンピューター回線技術	486495
3	経理	482451
4	事務業務	440682
5	営業	224818
6	マルチ･メディア	179000
7	機械技術	157332

8	二輪車製造技術	145563
9	ソフトウェヤー技術	100423
10	ホテル業	93411
11	受電技術	84718
12	音響・映像技術	65074
13	看護師	62236
14	薬局	59026
15	ファッション	58782
16	理容	53541
17	食用農業・園芸	53182
18	建築設計	42975
19	工業電気機器技術	28435
20	観光業	28293
21	農業生産技術	26936
22	工業機械保全技術	26589
23	農園運営	23718
24	養殖魚	23391
25	溶接技術	20668
26	石造建築	16129
27	漁船航海機器技術	14409
28	商船航海機器技術	14293
29	鳥類飼育	12406
30	銀行業務	12357
31	化学分析	12345
32	木造建築	12333
33	化学工業	11269
34	反芻動物飼育	10388
35	種子育成	9598
36	健康指導	8927
37	鉱山開発技術	8821
38	美容	8745
39	自動車車両修理技術	7614
40	老人介護	7495
41	商船技術	7453
42	重機技術	7414
43	工業自動化技術	6746
44	漁船技術	6240
45	衣服プリント技術	6173

46	圧縮機・発電機技術	6170
47	測量技術	5768
48	アニメーション	5764
49	繊維織機デザイン・製造技術	5733
50	冷房技術	5531
51	宣伝デザイン	5443
52	皮膚美容	5281
53	衣服プリント製造技術	5255
54	木製デザイン・製造技術	5115
55	テレビ放送・製造技術	5045
56	菓子製造	4944
57	自動車電気設備	4371
58	機械電子工学技術	4058
59	金属工芸品デザイン・製造技術	3158
60	農業機械	2587
61	発電技術	2501
62	衣服製造技術	2278
63	一般飼育	2175
64	林業	2146
65	金属製造技術	2060
66	電気機器保全修理技術	2055
67	農業一般	2020
68	海藻	1878
69	舞踊	1746
70	船舶機器設置技術	1679
71	家具製造	1630
72	配電技術	1513
73	ガメラン音楽	1446
74	電話通信技術	1427
75	製薬技術	1413
76	クラッシック音楽	1191
77	陶芸品デザイン・製造技術	1159
78	布製品製造技術	1156
79	飼育衛生	1008
80	電話回線アクセス技術	944
81	開閉器技術	890
82	絵画	883
83	近代音楽	866

84	革製品デザイン･製造技術	864
85	航空機電気設備	830
86	ラジオ放送･製造技術	811
87	鋼船建造技術	769
88	布製造技術	723
89	機械設計	714
90	鋳鉄技術	677
91	品質管理	648
92	送電技術	583
93	演劇	530
94	機器機械化技術	521
95	歯科看護師	506
96	航空機一般電気設備	457
97	船舶製図	406
98	インテリアー･環境デザイン	393
99	造船溶接	376
100	鉱油･ガス･石油精製品製造技術	353
101	紡績技術	328
102	船舶電気設備	298
103	機器自動化技術	268
104	鉱油掘削技術	218
105	製造管理技術	205
106	航空機骨組製造技術	201
107	航空機機体製造技術	185
108	船舶調度品	169
109	下水道配管技術	166
110	倉庫管理技術	164
111	紡績糸製造技術	127
112	鉄工建築	117
113	鉱油生産技術	109
114	金属機器技術	106
115	影絵芝居	88
116	交通管理技術	86
117	航空機エンジン技術	49
118	彫像	40
119	木船建造技術	4
120	FRP 船建造技術	0
121	ガラス機器製造技術	0

第１位が「軽車両製造技術」、第２位は「コンピュータ回線技術」であった。さらに上位項目を見ると第６位に「マルチメディア」、第７～９位に「機械技術」「二輪車製造技術」「ソフトウェア技術」が見られる。
やはり、ＩＴ系や自動車製造において、東南アジアと日本の双方にとってプラスの連携の出来る領域であるようである。

次に、タイの職業高校学生数を見てみよう（２０１２年度卒業生数)。

順位	分野	学生数
1	商業	12955
2	電子とエレクトロニクス	6878
3	機械	4551
4	機械と保全	2473
5	建設	1951
6	ホテルと観光科	1242
7	農業	1197
8	芸術	1002
9	食事と栄養	940
10	金属学	812
11	家庭科	443
12	繊維と衣類	217
13	電子専門科	189
14	自動車専門科	107
15	工業専門科	82
16	工業他	66
17	建設専門科	32
18	商業専門科	28
19	機械専門科	24
20	漁業3養殖	23
21	電子とエレクトロニクス専門科	21
22	繊維化学	17
23	繊維技術	14
24	ホテルと観光専門科	13
25	金属専門科	12
26	レディーメード繊維産業	6
27	家庭科他	4

ここでは、自動車系は多くはないが、第２位に「電子とエレクトロニクス」が見られる。Ｉ

Ｔ系は日本と連携できる分野の可能性が見出される。

マルチメディアや電子分野を含むIT産業や自動車をはじめとした製造業は東南アジアで人材需要が高いだけでなく、教育に対する需要も高い。そして、当該分野を産業として強みとしており、その産業界を背景に高度な教育プログラムが組まれている日本の専門学校教育界にとっては、当該分野は連携が可能でありる。よってこれらの領域が、日本と東南アジアにとってメリットが見込める領域と本分科会では着目し、接続を検討することとしたが、その詳細は次章に記す。

第2章　東南アジアの職業教育カリキュラムと日本のカリキュラムの接続性について

2.1　職業高校マルチメディア科コンピュータ専攻コース

2.1.1　マルチメディア科コンピュータ専攻の教育内容

No.	目的	教育内容
1	PC 組立	１．１　PC の用途と仕様の設定 １．２　PC の組立 １．３　組立作業中の作業安全確保 １．４　ソフトを使用して PC 部品設定 （BIOS を経由して OS を設定する） １．５　ソフトを用いて周辺機器との接続を行う １．６　PC 組立成果の確認と周辺機器接続
2	基本 OS の設定	２．１　OS 設定課程の説明 ２．２　ソフト設定指示書に基づく、ソフトの設定 ２．３　設定済み状況を他のソフトにより検証 ２．４　トラブル・シューティングの方法
3	作業安全確保と環境問題解決（	３．１　作業安全と健康問題概要（K3） ３．２　K3 問題実習 ３．３　環境問題実習 ３．４　事故発生時の初動救命実習

2.1.2　教育内容の発展と専門学校との接続について

マルチメディアとは、コンピュータ上で「文字・動画・静止画・音声・グラフィックスなど、多様な表現を統合的に用いる情報媒体。」(出典:デジタル大辞林)のことを示す用語である。その技術を学んだ人材に期待されることは、実写（動画、静止画）や CG などの多様な表現を組み合わせたデジタルコンテンツを制作できる能力である。

そうした人材を日本では、単に情報技術者（IT エンジニア）と呼ぶのではなく、表現方法を創造する点を重視してクリエイターと呼んでいる。

マルチメディアの活用範囲は広く、デジタルコンテンツ全域に渡るため、日本では Web デザイン、グラフィックデザイン、ゲームクリエイターなどの職種に細分化され、いずれもコンピュータのハードウエアやソフトウエアを基礎として、それぞれの職種に応じた育成カリキュラムが構成され、人材育成が行われている。

インドネシ職業教育カリキュラムでは、コースの目的として「PC 組立」「基本 OS の設定」及び「作業安全確保と環境問題解決」とカテゴリー分けがなされている。マルチメディアのクリエイター育成を目的とし、基礎から応用までを体系立てたカリキュラムとはいい難いも

のだ。

「PC 組立」は、CPU ボード、メモリ、ハードディスク、電源などにより PC を組立て、さらに BIOS 設定や周辺機器との接続を行っているようだ。おそらく何かの指導書をもとに組み立てを行う実習であろう。そうした内容は、情報系専門学校のカリキュラムの中心にして学ぶほどの内容ではない。学校で学ばなくてもマニア向けのムック（書籍と雑誌の中間的な本）などにより、趣味の範囲でできるものでもある。

「基本 OS の設定」もおそらくマニュアルをもとにした、インストールや設定の仕方の操作であろう。トラブル・シューティングにしても、特に高度な内容ではないと考えられる。

「作業安全確保と環境問題解決」について、しっかりと教育されている。この点は情報系専門学校のマルチメディア分野の教育内容にはあまり見受けられない。見習う点でもあるが、日本におけるマルチメディアのクリエイターは、PC の組み立てを専ら業務で行うことはなく、基本は組立てられた（既に購入の段階で組み上がっている）PC を使ったデスクワーク（キーボード操作が）主であるため、特に作業場の安全確保を学習する必要は低い。

インドネシア職業高校のマルチメディア科コンピュータ専攻コースの内容から考えると、マルチメディアのクリエイター育成カリキュラムというより、パソコンショップの店員や企業内でのパソコンメンテナンス要員程度の内容と思われる。

職業高校のこのコースに入学する生徒は、少なくとも PC やデジタルコンテンツに関心があるのであろうから、ここから発展させて、クリエイターとして活躍できる人材にするためには、デジタルコンテンツの開発に必須な、Photoshop、Flash、Illustrator といった Adobe 系のソフトの使い方を学ぶ必要は高い。また、こうしたクリエイターの仕事は Web 開発の占める割合が増してきており、専用の Web 開発ツールや HTML、Java といったプログラミング言語の内容も学ぶべきであろう。

以上より、現状のインドネシアの職業学校での教育内容では、日本の同分野専門学校のカリキュラムの一部を代替するものとはいえず、他の学生と同様にカリキュラムの最初から全てを学習することが望ましい。

参考までに、日本電子専門学校の Web デザイン科とグラフィックデザイン科のカリキュラムを示す。

日本電子専門学校　Web デザイン科　カリキュラム

必修 選択	科　　目	履 修 時 期				単位	時間数	内実習
		1　年		2　年				
		前期	後期	前期	後期			
必修	就職活動リテラシー	＊				2	30	
必修	情報リテラシー	＊				1	30	30
必修	企画書制作&プレゼンテーション	＊				2	30	
必修	Web デザイン基礎	＊				2	30	
必修	Flash 入門	＊				1	30	30
必修	HTML&CSS 実習	＊				4	120	120
必修	デザイン概論	＊				2	30	
必修	色彩演習	＊				2	30	
必修	グラフィック実習	＊	＊			3	90	90
必修	JavaScript&Ajax 実習	＊	＊			2	60	60
必修	イラストレーション	＊	＊			8	120	
必修	Web デザイン発想法Ⅰ		＊			4	60	
必修	サイト設計		＊			2	30	
必修	Web プログラミングⅠ		＊			1	30	30

必修	情報デザインⅠ		＊			5	90	30
必修	進級制作		＊			6	120	60
必修	Web デザイン発想法Ⅱ			＊		4	60	
必修	Web ライティング技法			＊		2	30	
必修	モバイルコンテンツ制作			＊		3	90	90
必修	情報デザインⅡ			＊		3	60	30
必修	ユーザビリティ＆アクセシビリティ			＊		6	120	60
必修	Web プログラミングⅡ			＊		2	60	60
必修	卒業制作				＊	6	150	120
必修	写真撮影・映像演出技法				＊	4	60	
必修	関連法規				＊	2	30	
必修	Web マーケティング				＊	2	30	
必修	Web ディレクション				＊	2	30	
必修	広告デザイン				＊	2	30	
必修	Web アクセス解析				＊	2	30	
必修	Web プログラミングⅢ				＊	2	60	60
必修	Ｈ・Ｒ	＊	＊	＊	＊		120	
						89	1890	870

卒業に必要な単位数・時間数	89	1890	870

日本電子専門学校　グラフィックデザイン科　カリキュラム

必修 選択	科　　目	履修時期				単位	時間数	内実習
		1　年		2　年				
		前期	後期	前期	後期			
必修	コンピュータリテラシー	＊				1	30	30
必修	デッサンⅠ	＊				4	60	
必修	デザイン概論	＊				2	30	
必修	色彩演習	＊				2	30	
必修	写真入門	＊				2	30	
必修	レイアウト概論	＊				2	30	
必修	フィールドサーベイ	＊				2	30	
必修	基礎デザイン演習	＊				2	30	
必修	視覚デザイン発想法Ⅰ	＊				2	30	
必修	グラフィック実習Ⅰ	＊				4	120	120
必修	Ｗｅｂデザイン制作Ⅰ	＊				1	30	30
必修	就職活動リテラシー		＊			2	30	
必修	デッサンⅡ		＊			4	60	

必修	広告デザイン概論		＊			2	30	
必修	情報デザインⅠ		＊			2	30	
必修	視覚デザイン発想法Ⅱ		＊			2	30	
必修	デザイン設計・プレゼンテーション		＊			2	30	
必修	グラフィック実習Ⅱ		＊			1	30	30
必修	進級制作		＊			6	120	60
必修	ＤＴＰ実習		＊			2	60	60
必修	Ｗｅｂデザイン制作Ⅱ		＊			1	30	30
必修	イラストレーションⅠ			＊		4	60	
必修	情報デザインⅡ			＊		3	60	30
必修	グラフィック実習Ⅲ			＊		4	120	120
必修	エディトリアルデザインⅠ			＊		2	60	60
必修	ＤＴＰ概論Ⅰ			＊		2	30	
必修	電子書籍制作実習			＊		2	60	60
必修	イラストレーションⅡ				＊	4	60	
必修	デザイン法規				＊	2	30	
必修	業界研究				＊	2	30	
必修	ＤＴＰ概論Ⅱ				＊	2	30	
必修	卒業制作				＊	6	150	120
必修	エディトリアルデザインⅡ				＊	2	60	60

必修	デジタルコンテンツ制作				＊	2	60	60
必修	Ｈ・Ｒ	＊	＊	＊	＊		120	
						85	1830	870

卒業に必要な単位数・時間数	85	1830	870

2.2　スマラン第 7 職業高校電子通信科

2.2.1　電子通信科の教育内容

No.	資格	教育内容
1	初級補助技術者資格	ａ．オーディオ装置運用 ｂ．ビデオ装置運用 ｃ．商用ゲーム装置運用 ｄ．オーディオ装置整備 ｅ．ビデオ装置整備 ｆ．商用ゲーム装置整備
2	中級補助技術者資格	ａ．オーディオ装置運用 ｂ．ビデオ装置運用 ｃ．商用ゲーム装置運用 ｄ．オーディオ装置実習 ｅ．ビデオ装置実習 ｆ．商用ゲーム装置実習
3	初級技術者資格	ａ．オーディオ装置のトラブル・シューティング ｂ．ビデオ装置のトラブル・シューティング ｃ．商用ゲーム装置のトラブル・シューティング ｄ．オーディオ装置の修理 ｅ．ビデオ装置の修理 ｆ．商用ゲーム装置の修理
4	中級技術者資格	ａ．オーディオ装置動作試験 ｂ．ビデオ装置動作試験

		c．商用ゲーム装置動作試験 d．オーディオ装置改良 e．ビデオ装置改良 f．商用ゲーム装置改良

2.2.2　教育内容の発展と専門学校との接続について

初級および中級の補助技術者資格および技術者資格の取得が目的となって、まとめられている。内容は、オーディオ装置、ビデオ装置、商用ゲーム装置に絞られている。それぞれの機器の運用や修理、改良ができる技術が求められている様だ。電子通信科の教育内容ではあるが、そうした分野の基礎科目である「電気回路」、「電子回路」、「電磁気学」などといった基礎理論科目的な内容はまったくない。各装置の運用や修理に関する内容は、おそらくその製品のメーカーのマニュアルにそって、運用や修理ができる程度の表面的なであると思われる。そうした装置の販売元の技術者かそれを購入した企業の保守・メンテナンス要員向けの内容と思われる。

中級技術者の装置の改良の程度は不明であるが、技術者が独自に考案して改良するというよりも、メーカーの改良マニュアルにそったものであると思われる。

日本では電子技術者に求められるものは、新たな製品の電子回路の設計・開発が主である。学校でそうした技術者を育成するカリキュラムは、電子工学や電気工学の表面的な理解ではなく、原理原則をしっかり身につけることに主眼がおかれている。普遍的な理論科目やそうした理論を確認するための実験により基礎を固めた上で、増幅回路や発信回路といった応用回路の学習を行っていくのが一般的である。また、現在ではマイクロコンピュータの普及により、デジタル回路やソフトウエアといった内容も必須となっている。

電子技術者の育成として、特定のメーカーの製品をカリキュラムの中心にすることはほとんどない。特定の製品の運用や保守・修理はメンテナンス要員によって行われている。そうした要員はそれぞれのメーカーが比較的短期のトレーニングを行って養成している。

以上より、現状のインドネシアの職業学校での教育内容では、日本の同分野専門学校のカリキュラムの一部を代替するものとはいえず、他の学生と同様にカリキュラムの最初から全てを学習することが望ましい。
参考までに、日本電子専門学校の電子応用工学科のカリキュラムを示す。

必修 選択	科　　目	履修時期				単位	時間数	内実習
		1　年		2　年				
		前期	後期	前期	後期			
必修	電気数学Ⅰ	＊				2	30	
必修	電磁気学Ⅰ	＊				2	30	
必修	電気回路基礎	＊				2	30	
必修	電子回路基礎	＊				3	60	30
必修	ディジタル回路基礎	＊				3	60	30
必修	アナログIC回路基礎	＊				3	60	30
必修	CAD・シミュレーション技術Ⅰ	＊				1	30	30
必修	C言語プログラミング基礎	＊				1	30	30
必修	コンピュータ・アーキテクチャⅠ	＊				2	30	
必修	マイコン基礎Ⅰ	＊				1	30	30
必修	組込みマイコン設計Ⅰ	＊				3	60	30
必修	就職活動リテラシー		＊			2	30	
必修	電気数学Ⅱ		＊			2	30	
必修	電磁気学Ⅱ		＊			2	30	
必修	電気回路		＊			2	30	
必修	電子回路		＊			3	60	30

必修	ディジタル回路		＊			3	60	30
必修	アナログ IC 回路		＊			3	60	30
必修	CAD・シミュレーション技術Ⅱ		＊			1	30	30
必修	C 言語プログラミング		＊			1	30	30
必修	コンピュータ・アーキテクチャⅡ		＊			2	30	
必修	マイコン基礎Ⅱ		＊			1	30	30
必修	組込みマイコン設計Ⅱ		＊			3	60	30
必修	FPGA 設計Ⅰ			＊		2	30	
必修	ディジタル・データ処理Ⅰ			＊		1	30	30
必修	インターフェースⅠ			＊		1	30	30
必修	応用電気回路Ⅰ			＊		2	30	
必修	センサⅠ			＊		2	30	
必修	応用電子回路Ⅰ			＊		2	30	
必修	応用研究			＊	＊	20	480	360
必修	FPGA 設計Ⅱ				＊	2	30	
必修	ディジタル・データ処理Ⅱ				＊	1	30	30
必修	インターフェースⅡ				＊	1	30	30
必修	応用電気回路Ⅱ				＊	2	30	
必修	センサⅡ				＊	2	30	
必修	応用電子回路Ⅱ				＊	2	30	

必修	H・R	*	*	*	*		120	
						88	1890	900

卒業に必要な単位数・時間数	88	1890	900

2.3　国立第 2 職業高校自動車工学科カリキュラム

2.3.1　自動車工学（専門技術：軽車両）の教育内容

N0	分野	科目	期間、時間		学期					
					X		XI		XII	
I	規範	宗教教育		2	2	2	2	2	2	2
		公民教育		2	2	2	2	2	2	2
		インドネシア文学		2	2	2	2	2	2	2
		体育科教育		2	2	2	2	2	2	2
		芸術と文化		1	1	1	1	1	1	1
II	応用	英語		4	4	4	4	4	4	4
		数学		4	4	4	4	4	4	4
		生物		2	2	2	2	2	2	2
		物理学		2	2	2	2	2	2	2
		化学		2	2	2	2	2	2	2
		ＩＰＳ		1	1	1	1	1	1	1
		コンピュータと情報管理能力		2	2	2	2	2	2	2
		起業家精神		2	2	2	2	2	2	2
III	軽車両工学基礎									
	020.DKK.01	コンピューター基礎	10	1	x					
	020.DKK.02	金属成形の基礎	10	1	x					
	020.DKK.03	エネルギー変換機器のプロセス	10	1	x					
	020.DKK.04	エンジニア リング図面の解釈	20	1	x					

	020.DKK.05	工具と機器の使用法	30	1	x					
	020.DKK.06	測定工具/測定ツールの使用法	40	2	x					
	020.DKK.07	安全手順と職場環境および衛生	20	1	x					
IV	軽車両工学（1044 時間）									
		油圧システムと空気圧縮機の修理	40	2	x					
	020 KK. 02	溶接、はんだ付け、熱切断、地球温暖化	40	2	x					
	020 KK. 03	冷却システムとそのコンポーネントのオーバーホール	40	2		x				
	020 KK. 04	ガソリン燃焼システム	60	3		x				
	020 KK. 05	燃料噴射システム修理	60	3		x				
	020 KK. 06	エンジンとそのコンポーネント	40	2			x			
	020 KK. 07	クラッチ ユニットとコンポーネントシステム修正	60	3			x			
	020 KK. 08	トランスミッション	40	2			x			
	020 KK. 09	ファイナルドライブ-車軸ユニッ	40	2			x			
	020 KK. 10	ホイール ドライブ シャフトの修理	40	2			x			
	020 KK. 11	ホイールとタイヤの修理	40	2		x				
	020 KK. 12	ブレーキ システムの修理	80	4				x		
	020 KK. 13	ステアリング システムの修理	80	4				x		
	020 KK. 14	サスペンションの修理	80	4				x		
	020 KK. 15	バッテリメンテナンス	60	3		x				
	020 KK. 16	電気回路システムの修理	60	3					x	
	020 KK. 17	点火システムの修正	40	2					x	
	020 KK. 18	充電システム	40	2						X
	020 KK. 19	エアコンディショナーメンテナンス	40	2					x	

2.3.2　教育内容の発展と専門学校との接続について

カリキュラム構成を見ると、軽車両工学基礎に 140 時間、軽車両工学に 1044 時間の計 1184 時間で構成されている。

軽車両工学基礎カリキュラムのうち、コンピューター基礎、金属成形の基礎、エネルギー変換機器のプロセス、エンジニア リング図面の解釈は、国交省基準科目の「自動車工学」に該当（３級 180、２級 360）するものと思われるが、工学的要素が少ないものである。

一方、工具と機器の使用法、測定工具/測定ツールの使用法、安全手順と職場環境および衛生については国交省基準科目の「危機の構造、取扱い」に該当（３級 15、２級 30）するものと考えるが、こちらはボリュームが多くなっている。

以上のように、カリキュラムを考察する限り、基礎科目のバランスは日本と異なるようだが、「軽車両工学」1044 時間についても科目内における授業内容項目のバランスはさらに考証が必要となろう。

例えば、「溶接、はんだ付け、熱切断、地球温暖化」という科目があるが、「地球温暖化」という項目が「溶接、はんだ付け、熱切断」という実践的な項目と並んで含まれている。それに対して、東京工科自動車大学校のカリキュラムを例にとると、「地球環境」は「エアコンディショナー（フロン)」と組み合わせている。次年度、より具体的にモデルカリキュラムを構成するときには、科目のシラバスをあわせて分析を加え、時間数と内容のバランスを考慮に入れて、より接続性と補完性の高いカリキュラムを成立させるべきと考えるにいたった。

また、実習と講義の割合についてもさらに一歩深めた検討の上、モデルカリキュラムを作成したい。実習科目と判断されるクラッチ ユニットとコンポーネントシステム修正、トランスミッション，ファイナルドライブ-車軸ユニット，ホイール ドライブ シャフトの修理，ホイールとタイヤの修理，ブレーキ システムの修理，ステアリング システムの修理，サスペンションの修理，バッテリメンテナンス、電気回路システムの修理，点火システムの修正，充電システム，エアコンディショナーメンテナンスという各科目は、実習時間が多く感じ、作業を意識した内容と伺える。講義・実習の配分はわからないが、かなり実践的なカリキュラムといえよう。

このように実践的な科目も伺われる一方で、全体としては 3 級整備士程度の（整備作業に最低限な）レベルに抑えられたカリキュラムとなっていることが特徴である。

原動機はガソリンエンジンに限っており、ジーゼルやモータ等が見当たらない。　又、新技術や高度技術も同様で，今後の事を考えると弱点になっている。

また、検査業務等が皆無の為、職業訓練の位置づけが強く感じられる。自動車の管理業務、検査法規、関係法規に該当するものが見当たらない。
つまり、日本の高等学校自動車整備科よりは自動車専門時間が多く、充実している。どちらかと言うと、職業訓練校に近いカリキュラムではないか。一種養成施設の 3 級整備士程度より実習は充実していると考えられるが、2 級レベルと比べると内容の不足が認められるのである。

以上より、現状の現地職業学校での教育内容では、新技術や高度技術についての学習が見当たらず、原動機もガソリンエンジンのみである。また、３級整備士レベルと比べて実践的カリキュラムであろうことは評価するものの、不足部分・弱点も同時にもっており、その部分を補完したカリキュラムによる接続が望ましい。

参考までに、国土交通省基準の自動車養成施設必要教育（訓練）時間と、一般養成施設の自動車整備士施設の教育内容及び標準教育時間を示す。

【国交省基準】 自動車養成施設　必要教育(訓練)時間		
	3級	2級
講義	300	600
実習	600	1200
	900	1800

１．国内の整備士資格級は大きく分けて、３級、２級、１級整備士と３分類になる。
２．各々の級に、「ガソリン」「ジーゼル」「２輪」「車体」整備士資格を有する（但し、１級は現在「小型自動車整備士」のみ）
３．国土交通省の訓練時間は、１時間を５０分としている。
４．「３級自動車整備士」は、営利目的で自動車の分解・整備を行う事が可能な資格である。
５．「２級自動車整備士」は、分解・整備・故障探究の知識を持ち合わせ、その作業に対して、公道で走れる検査業務が出来る。（整備主任（届出）、検査員）

一般養成施設の自動車整備士養成課程の教育内容及び標準教育時間

教育科目		養成課程別教育内容				標準時間	
		教育内容		二級	三級	車体	二級	三級
学科	自動車工学(01)	自動車の構造/性能		○	○	○	350	180
		自動車の力学/数学		○	○	○		
		電気/電子理論		○	○	○		
		材料		○	○	－		
		燃料/潤滑剤		○	○	○		
		図面		○	－	○		
	自動車整備	エンジン		○	○	○	180	90
		シャシ		○	○	○		
		電装		○	○	○		
		故障原因探究		○	－	－		
	危機の構造/取扱い	整備作業機器		○	○	○	30	15
		測定機器		○	○	○		
		検査機器		○	○	○		
	車わく及び車体の構造	材料/力学/構造/機能		－	－	○	－	-
	車わく及び車体の整備	整備/板金/塗装/損傷診断		－	－	○	－	-
	自動車検査			○	－	○	20	-
	自動車整備に関する法規			○	○	○	20	15
	小計						600	300
実習	工作作業	手仕上げ工作		○	○	○	20	20
		機械工作		○	○	○		
	測定作業	基本計測		○	○	○	40	20
	自動車整備作業	エンジン	点検、分解、組み立て、調整、検査	○	○	－	1090	560
		シャシ	点検、分解、組み立て、調整、検査	○	○	○		
		電装	点検、分解、組み立て、調整、検査	○	○	○		
		故障原因探究		○	－	－		
	車わく及び車体の整備作業	点検、分解、組み立て、調整、検査、板金、塗装、故障診断		－	－	○	－	-
	自動車検査作業			○	－	○	50	-
	小計						1200	600
	合計						1800	900

アジアにおいてもヨーロッパにおいて進行している学位･資格枠組みの検討が始まりつつある（ユネスコ「アジア・太平洋地域における高等教育の資格の認定に関する地域条約」１９１１年条約改正会合)。背景には、この地域の経済の著しい発展がある。東南アジア諸国では､様々な産業分野で一定の技術と知識を持った人材が大量に求められているにもかかわらず、人材育成基盤が未整備のため発展に産業発展に対応する人材の不足が問題化している。

日本においては､専門学校の実効性のある高度なカリキュラムによる教育実践がありながら、これらの諸分野の職業教育を体系化し、それぞれのカリキュラムを標準化する動きは、これまでその必要性を認められてこなかった。

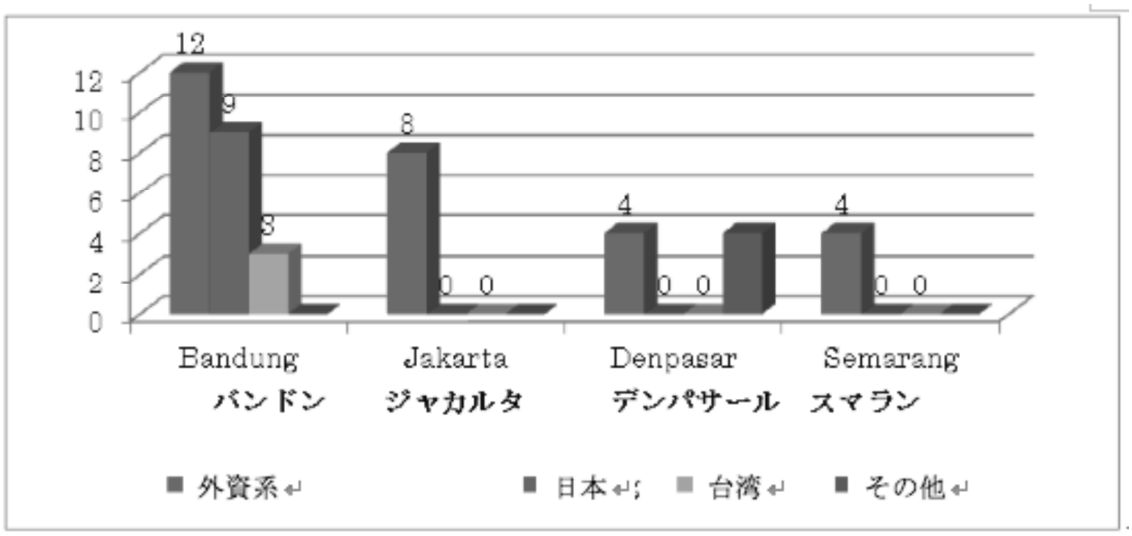
しかし､職業教育の位置づけをめぐって制度整備やこれに求められる質保証が論じられる過程で、海外とも共通する職業教育の標準化と体系化が意識されるにいたっている。
そのために必要なことは、日本の優れた職業教育を、東南アジア諸国の職業教育体系整備のモデルとし、東南アジア諸国の職業教育体系確立を支援すること、そのためにまず個別分野において日本の専門学校教育に接続可能な東南アジアにおける基礎教育カリキュラムを開発することとなる。

そこで本部会では、基礎的な研究として、東南アジア現地の職業教育の現状と取り組みを調査研究するところからはじめ、現地の多様性把握を把握した上で、職業教育拡大の現地方針に対して、日本ができる支援と日本のメリットのある分野を発見、提案し、その分野のカリキュラム分析と日本の教育カリキュラムとの接続性に関する報告を本年度分科会活動の着地点とした。そして、現地国家だけでなく日本産業界と日本教育界にプラスとなる「相互認証」は、本年度に領域性（現地のマーケット性＝現地に雇用のあるフィールドと日本の専門学校へのメリットのあるフィールド）を調査・提案し、カリキュラム接続の可能性を考慮した上で、次年度の目標としてまとめていくこととし、その過程で具体的なカリキュラム・方法論の開発を行うこととした。

こうした具体的な作業を積み重ねていくことは、東南アジアにおける学位・資格枠組みに対して、高い職業教育レベルを有する日本の参画の道筋を示すことにもつながるであろう。
また東南アジア地域の留学生が、日本モデルの下に開発された現地での基礎学習を経て、日本の専門学校でその学習を継続する形で入学してくることは､留学生の安定的な確保と高い質の保持へとつながることも期待する。

中国、台湾、韓国、シンガポールなどは専門学校レベルにおいても新興国との関係構築を積極的に進めているようである。IT など特に日本語が必要とならない分野では、難しい日本語ではなく英語での学習環境が得られる韓国企業でのインターンシップを望むなどの意見もあげられた。

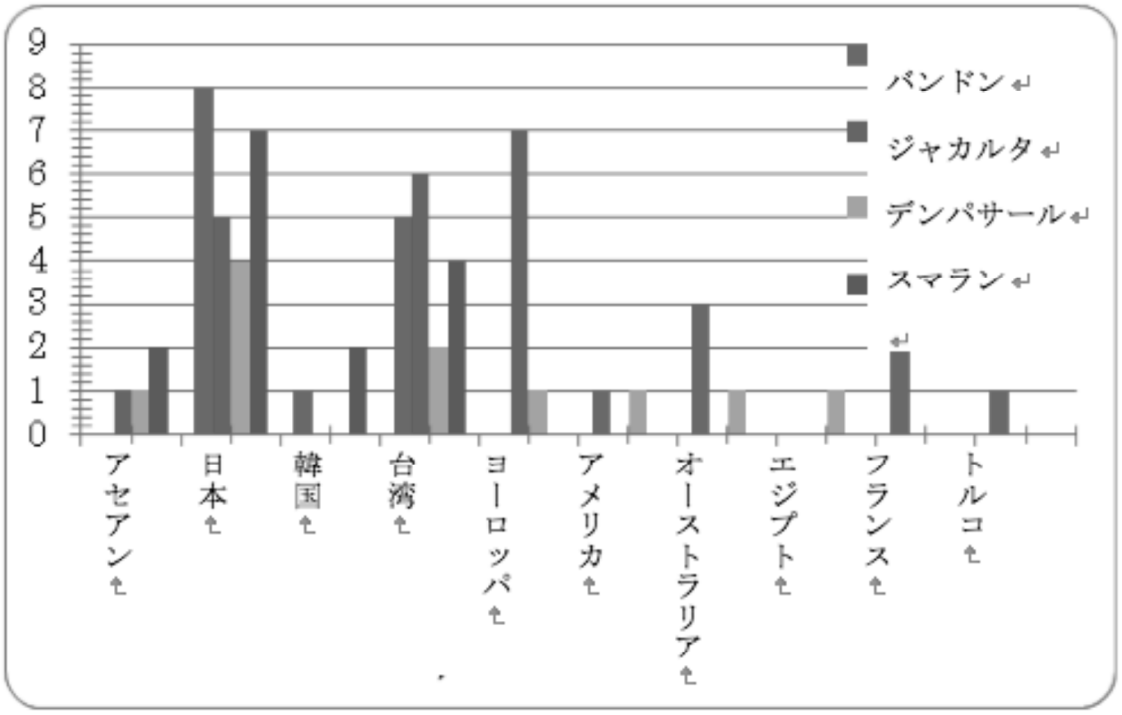
但し、現状においては、下図のバンドンのように、日本と現地との協力関係は他国をリードしているのもまた事実である。



海外協力関係先（バンドン、ジャカルタ、スマラン、デンパサール市の 25 校の職業高校、2 校の職業大学／各校の学生４名、教員４名への調査）

しかし、タイでの調査では、中国の学校から協力関係構築の強い誘いがあることがわかっているし、台湾、韓国、シンガポールなどの国々と協力関係を構築しているのもまた事実である。よって、他国にリードしている現状の連携状況を地域的にも数量的にもさらに発展的に展開することの意義は大きい。他国の東南アジアにおける進出は、日本の産学両方にとっても機会の損失につながりうるものであり、日本の教育機関としてもさらに積極的に取り組むべきものと考える。

また、実際、現地学生もダブルディグリー（連名学位）取得希望国に日本を挙げている。バンドゥンの生徒・学生の多くは、連名学位取得希望国に日本を挙げている。同様に、スマランの生徒・学生も日本を希望し、デンパサールの生徒・学生も日本を希望国としている。日本との連携は求められているのである。



一方、日系企業にとっても、高度な専門性を持ち、かつ日本語、日本文化に一定の理解を持つ人材を欲しがっていることもわかり、日本の教育プログラムが現地人材の育成に貢献することのメリットは大きい。
専門学校はこれらの企業に条件を満たす高度な人材を提供し、日本の成長に貢献するとともに、これから飛躍的な成長が期待されるアジア諸国へ優秀な人材を提供し、それらの成長へ貢献する存在となることを目指したい。

また、あわせて、この取り組みが進むことは南アジア地域の留学生が、日本モデルの下に開発された現地での基礎学習を経て、日本の専門学校でその学習を継続する形で入学してくることは、留学生の安定的な確保と高い質の保持が可能となり、日本の専門学校にとってのメリットも見込める。

このように、東南アジアと日本の双方にメリットの見込める教育連携だが、さらに日本で確立された実績ある教育プログラムと接続できて、しかも現地で需要の高さが見込める領域はなんであろうか。

そこで、東南アジアでのニーズの高い教育分野をインドネシアやタイの職業高校、専門学校の学生数から見てみる。

順位	分野	学校数
1	コンピューター回線技術	3611
2	軽車両製造技術	3136
3	経理	3111
4	事務業務	2568
5	営業	1563
6	マルチ・メディア	1366
7	二輪車製造技術	1256
8	ソフトウェヤー技術	782
9	機械技術	759
10	受電技術	694
11	ファッション	685
12	音響・映像技術	659
13	ホテル業	598
14	食用農業・園芸	575
15	看護師	528
16	薬局	457
17	建築設計	409
18	理容	375
19	養殖魚	368
20	農業生産技術	283
21	観光業	275
22	農園運営	249
23	石造建築	215
24	溶接技術	214
25	工業電気機器技術	210
26	漁船航海機器技術	188
27	木造建築	179
28	鳥類飼育	161
29	銀行業務	153
30	反芻動物飼育	140

インドネシアの分野別職業高校数上位３０

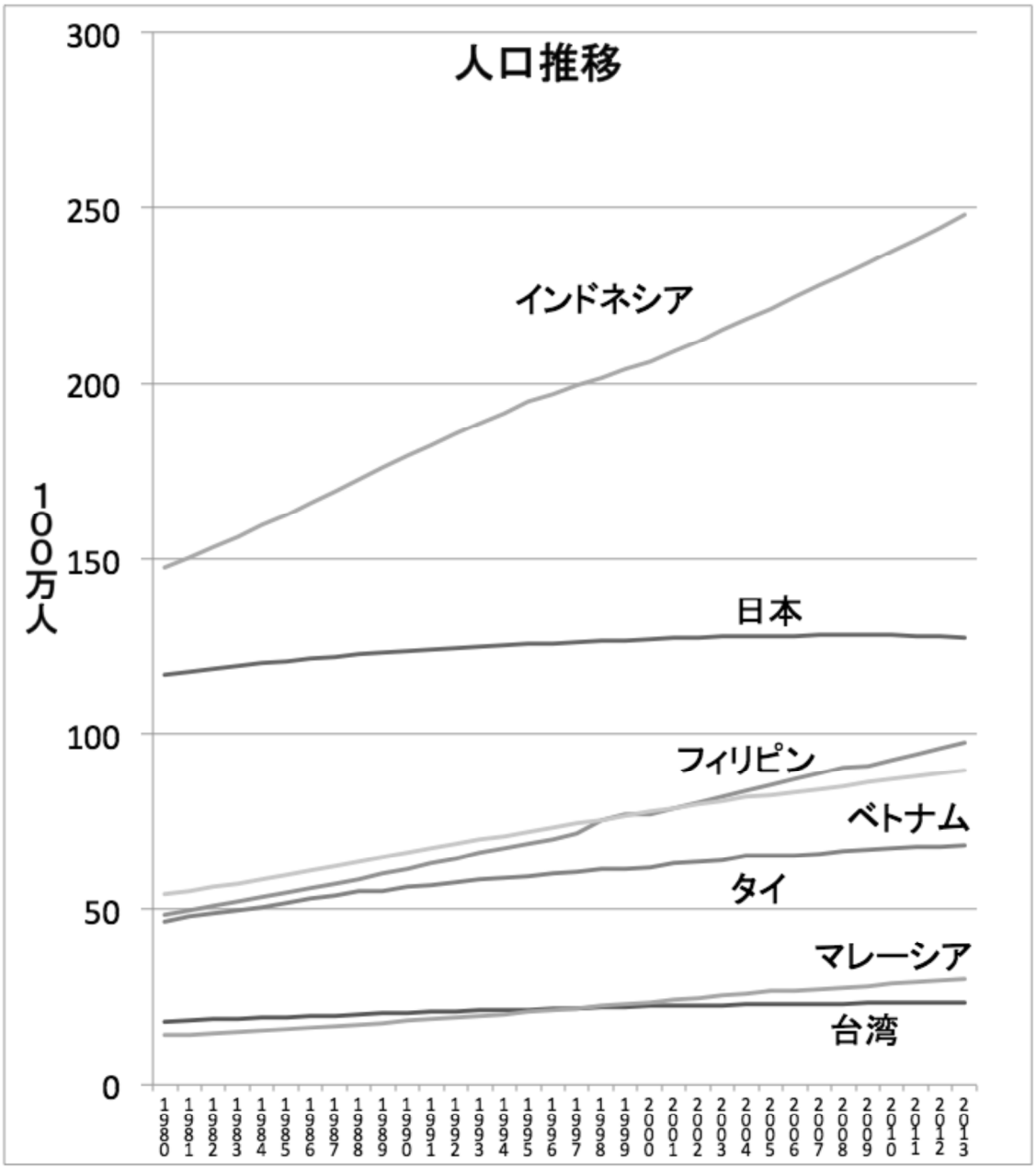
順位	分野	生徒数
1	軽車両製造技術	674433
2	コンピューター回線技術	486495
3	経理	482451
4	事務業務	440682
5	営業	224818
6	マルチ・メディア	179000
7	機械技術	157332
8	二輪車製造技術	145563
9	ソフトウェヤー技術	100423
10	ホテル業	93411
11	受電技術	84718
12	音響・映像技術	65074
13	看護師	62236
14	薬局	59026
15	ファッション	58782
16	理容	53541
17	食用農業・園芸	53182
18	建築設計	42975
19	工業電気機器技術	28435
20	観光業	28293
21	農業生産技術	26936
22	工業機械保全技術	26589
23	農園運営	23718
24	養殖魚	23391
25	溶接技術	20668
26	石造建築	16129
27	漁船航海機器技術	14409
28	商船航海機器技術	14293
29	鳥類飼育	12406
30	銀行業務	12357

インドネシアの分野別生徒数上位２０

順位	分野	生徒数
1	商業	12955
2	電子とエレクトロニクス	6878
3	機械	4551
4	機械と保全	2473
5	建設	1951
6	ホテルと観光科	1242
7	農業	1197
8	芸術	1002
9	食事と栄養	940
10	金属学	812
11	家庭科	443
12	繊維と衣類	217
13	電子専門科	189
14	自動車専門科	107
15	工業専門科	82
16	工業他	66
17	建設専門科	32
18	商業専門科	28
19	機械専門科	24
20	漁業3養殖	23
21	電子とエレクトロニクス専門科	21
22	繊維化学	17
23	繊維技術	14
24	ホテルと観光専門科	13
25	金属専門科	12
26	レディーメード繊維産業	6
27	家庭科他	4

タイの分野別生徒数

国によって違いはあるものの、工業分野、特に自動車産業と、マルチメディアや電子などのＩＴ・通信産業、が多いことがわかった。特に人口推移（次ページ）を見ると、効率性を考慮しても、その将来への影響力の大きなインドネシアにおけるこの傾向は無視できないものがある。



自動車整備やマルチメディア、電子などのＩＴ・通信といったこれらの分野は産学ともに日本が強みを持つ分野である。
既に、この分野については、日本国内においても、高度な技術を学習する機会を日本の専門学校では提供しており、即戦力の人材を企業へ供給している。
さらに、自動車産業は日系企業が現地にも数多く進出しており、簡単な日本語、日本文化を理解していることはこれらの企業での採用面で優位に働くと考えられる。成功が期待されるこれらの分野での接続プログラムを先行的に開発することは望まれるものである。

それゆえ、これらの分野を意識して接続プログラムを開発していくことが必要である。本年度の取り組みとしては、その妥当な領域として、自動車整備と、マルチメディアや電子などのＩＴ・通信系分野を提案する次第である。

それでは、それらの分野について、東南アジアの諸国の職業高校からの留学生を受け入れる際に、接続する日本の専門学校で提供すべきカリキュラムについて独自に開発すべきことはあるだろうか。
そこで、現地の職業高校と接続プログラムを考えるにあたり、代表してインドネシアの職業高校を分析したところ、マルチメディアや電子通信系分野におけるその教育内容は日本の同分野専門学校のカリキュラムの一部を代替するものとはいえず、他の学生と同様にカリキュラムの最初から全てを学習することが望ましいものと考察するにいたった。

ゆえに、東南アジア諸国からの留学生受け入れによる接続を行う場合のマルチメディアや通信系の教育カリキュラムは、現状の日本専門学校の教育カリキュラムにて実践するものと結論づけるにいたった。
（参考として、日本電子専門学校の当該カリキュラム例は本稿第２部に記載した）

また、自動車整備士分野においても、検査業務等が皆無の為、職業訓練の位置づけが強く感じられた。その内容は実践的なカリキュラムである一方で、自動車の管理業務、検査法規、関係法規に該当するものが見当たらない。どちらかと言うと、職業訓練校に近いカリキュラムであると分析した。それゆえ、日本に留学して日本の専門学校で学び、卒業後に日本にて職を求めたり、キャリアアップを望めたりするのであれば、現状の日本の専門学校のカリキュラムを基礎から抜けなく広く学ぶことが望ましいだろう。

自動車整備の資格なら、日本での資格が通用するので（２級取得が前提)、前章に記した通り、日本の専門学校カリキュラムを学ぶことで留学生の母国での就職は可能である。しかも、多くの留学生は日本での就職が狙い。帰国しての就職についても、日本法人就職での現地勤務（日本企業レベル待遇)。
しかし、日本の専門学校にて学習後、母国に戻ってから、いっそう高位のキャリアアップをするためには、日本の自動車整備に関する制度が母国に移植されることがより望ましい。
そして、その移植の実現は、留学生の未来にとってプラスに働くだけでなく、日本企業にとってのプラスも大きく働くことになることが期待できる。なぜなら、自動車規格がおなじになることで、ビジネス規模が東南アジアにまで広がるからである。

但し、日本水準にあわせた東南アジア諸外国の制度化推進には当該諸国での法律化が前提になり、ことは教育界だけでなく、産官学全体での取り組みが必要となるので、本分科会だけでの力の及ぶところではなく、本稿ではその取り組みが実現したときの影響力を言及するにとどめることとする。

とはいえども、本取り組みが日本企業のビジネス拡大につながり、日本産業界へのプラスの影響力を持つ可能性を秘めているのは期待すべきことであり、そのためにもまずは日本の職業教育水準をもとにした教育カリキュラムの国際展開を行うことは、産学における日本水準にあわせたアジアの標準化の流れの先駆けとなりうるものとして、研究・開発の意義は大きい。

そこで、東南アジア諸国に対する日本の教育界の先駆け的な取り組みとして、本分科会が将来的な最終目標とする当該諸国との「相互認証」を実現させることの意味は大きなものとなる。実現した時、アジアの教育における ISO は日本水準でつくるということになり、ひいては日本の職業教育界にとってもプラス効果を与えるものとなるだろう。

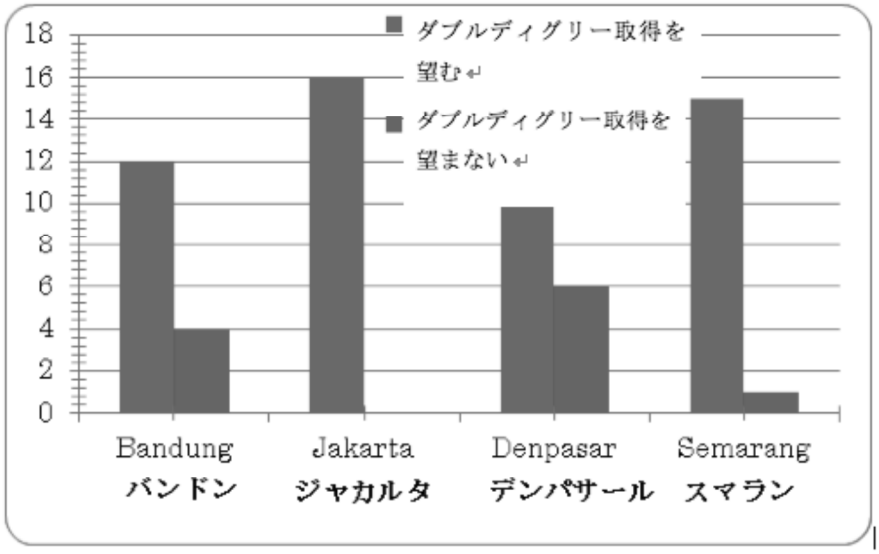
但し、相互認証のためには、認証団体が必要である。日本では、高等専門学校評価基準に基づき独立行政法人大学評価・学位授与機構が大学等の評価に関する事業及び学位授与に関する事業の実施機関として存在している。また、特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構は、専門学校での「自己点検・評価」「第３者評価」の唯一の組織として存在している。インドネシア、タイではどうか。インドネシアでは ISO を取得している学校も多くあり、本レポートでのアンケート調査によると 41.8%が ISO を取得していると回答した。

			4 つの主要な都市				
			バンドン	ジャカルタ	デンパサール	スマラン	合計
Iso を取得しているか？。	はい	回答数	16	3	8	16	43
		%	100 %	18.8%	50.0%	100 %	41.8%
	いいえ	回答数	0	13	8	0	21
	-	%	0%	81.3%	50.0%	0%	32.8 %
合計		回答数	16	16	16	16	64
		%	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %

インドネシア職業高校での ISO の取得状況（本レポートでのアンケート調査）

タイも日本と同様に、外部機関である ONESQA（Office for National Education Standards and Quality Assessment）により、評価基準の設定、それに基づく教育機関の評価が実施されている。また、インドネシアと同様に、ISO 取得を行っている学校もある。
よって、接続プログラムとその運用法を開発後、実際に展開する際には、東南アジア諸国内の外部評価、ならびに ISO への配慮が必要となる。あるいは接続プログラムに関する日本国内での認証方法と諸国での認証との擦り合わせは将来的に必要であろうことは将来への課題として記すものとする。
次に、今回の調査および分科会での取り組みにおいて、ダブルディグリー制度（連名学位）、（サンドイッチプログラム）の必要性があげられた。よって、次年度取り組みではダブルディグリーも視野に入れたカリキュラム整理に取り組むものとする。

インドネシアにおいて、ダブルディグリーを望む者の比率は高く、過半数を大きく超えている。特に、ジャカルタのすべての生徒・学生は、学校側がダブルディグリーの制度が整うのであればダブル・ディグリーを希望していた。



ダブルディグリー希望の有無

そして、インドネシアの多くの生徒がダブルディグリーの希望国に日本をあげているのは第１章に記した通りである。
但し、ジャカルタの生徒はダブルディグリーの希望国にヨーロッパ、次に台湾をあげていた。ジャカルタは州別生徒数ではインドネシア第５位の多さであり、無視できる状況ではない。

順位	州名	生徒数
1	西ジャワ	773578
2	中部ジャワ	623805
3	東ジャワ	617691
4	北スマトラ	292380
5	ジャカルタ特別州	220567
6	バンテン	182575
7	南セレベス	121515
8	ランプン	106510
9	南スマトラ	84677
10	ジョクジャカルタ特別市	79278
11	バリ	76183
12	東カリマンタン	72279
13	西スマトラ	72087
14	リァウ	70802
15	東ヌサ・トゥンガラ	54462
16	西ヌサ・トゥンガラ	54036
17	北セレベス	47917
18	西カリマンタン	45218
19	南カリマンタン	42668
20	アチェ	41967
21	ジャンビ	38144
22	中部セレベス	30954
23	パプア	25908
24	東南セレベス	25549
25	ブンクル	23881

26	西セレベス	23049
27	中部カリマンタン	22396
28	島嶼部リァウ	20443
29	ゴロンタロ	18053
30	マルク	16926
31	バンカ･ブリトゥン	15399
32	北マルク	14180
33	西パプア	11626

ジャカルタの分野別生徒数は１位２位こそ業務事務や経理であるが、第３位に「軽車両製造技術」、５位に「コンピュータ回線技術」、７位に「マルチメディア」があり、日本への留学を魅力的に伝えたいものである。

順位	ジャカルタ特別州	生徒数
1	事務業務	55379
2	経理	48310
3	軽車両製造技術	23327
4	営業	22698
5	コンピューター回線技術	10835
6	ホテル業	9516
7	マルチ･メディア	9142
8	機械技術	5843
9	受電技術	4727
10	観光業	3506
11	理容	3242
12	音響･映像技術	2168
13	薬局	2141
14	商船航海機器技術	1566
15	二輪車製造技術	1361
16	健康指導	1254
17	ファッション	1017

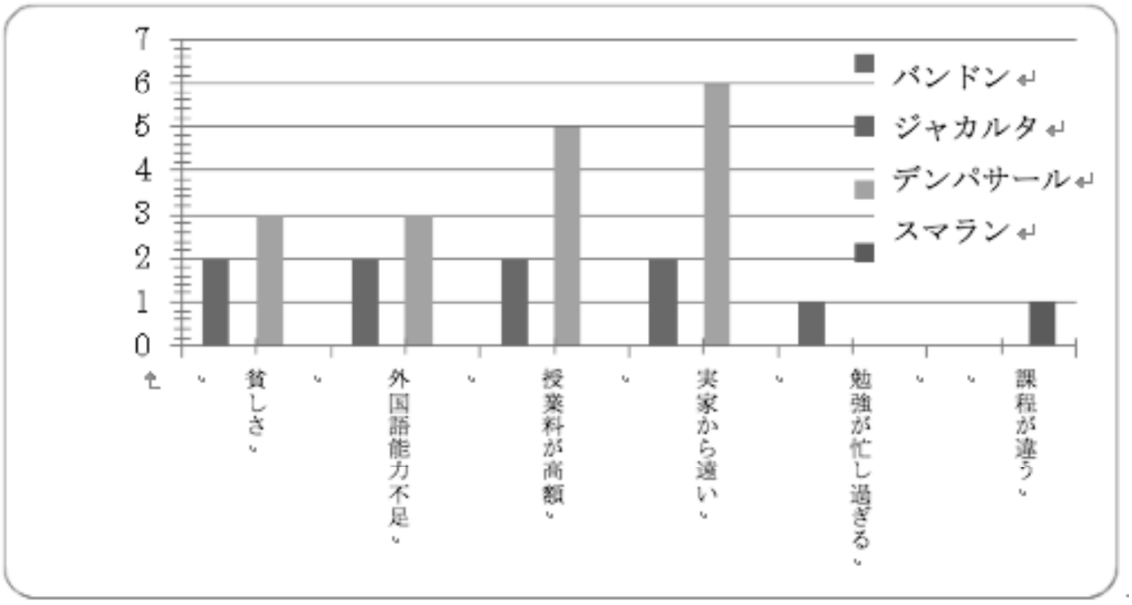
18	工業電気機器技術	961
19	ソフトウェヤー技術	955
20	看護師	835
21	建築設計	816
22	銀行業務	757
23	衣服プリント製造技術	709
24	商船技術	586
25	衣服プリント技術	526
26	圧縮機・発電機技術	493
27	工業自動化技術	449
28	化学分析	437
29	金属製造技術	424
30	冷房技術	383
31	工業機械保全技術	370
32	船舶機器設置技術	355
33	老人介護	328
34	テレビ放送・製造技術	324
35	溶接技術	308
36	菓子製造	301
37	機械電子工学技術	241
38	電話通信技術	239
39	電話回線アクセス技術	239
40	開閉器技術	236
41	家具製造	226
42	ラジオ放送・製造技術	209
43	宣伝デザイン	189
44	電気機器保全修理技術	183
45	漁船航海機器技術	181
46	繊維織機デザイン・製造技術	181
47	金属工芸品デザイン・製造技術	174
48	食用農業・園芸	169

49	アニメーション	160
50	歯科看護師	150
51	木製デザイン・製造技術	147
52	養殖魚	142
53	重機技術	103
54	皮膚美容	98
55	漁船技術	97
56	クラッシック音楽	95
57	演劇	95
58	自動車電気設備	94
59	発電技術	92
60	木造建築	91
61	製薬技術	85
62	石造建築	82
63	種子育成	82
64	美容	76
65	舞踊	35
66	ガメラン音楽	27

以上のように、ダブルディグリー制度に対する希望者は多く、その多くは日本を希望国としていることから、この期待に応えることは両国にとってメリットのあることである。あわせて、他国への希望の多いジャカルタに対しても日本への留学がキャリアとしてメリットになることを伝えたい。

そのためにも、次年度の取り組みとして、東南アジア諸国、特にインドネシアの専門学校カリキュラムとの共通性と、日本独自のカリキュラムのより具体的な抽出は、東南アジア諸国との教育プログラムの接続性を確立するためでなく、ダブルディグリーを成り立たせるための共通基盤を明確化させるためにも重要であると認識し、取り組むものとする。
本分科会による接続プログラム開発によって、日本専門学校と東南アジア諸国との間であらたなダブルディグリーが確立できる可能性が見出されることも、次年度取り組みの副次的成果として期待するところである。

なお、ここで、ダブルディグリーを拒否する現地学生の理由も確認しておきたい。



連名学位拒否理由

※デンパサールはバリ州の州都で人口は約２６万人。バリの政治経済の中心地である。バリ最大の街で島全体のおよそ１０％の人たちがここに住んでいる

すると、「実家から遠い」「授業料が高額」が目立つ。「貧しさ」という回答もあわせると、家庭環境の影響が非常に大きいようだ。経済発展と並行して貧富の差の拡大、中央と地方の経済格差の拡大もあり、切実な問題でもあろう。授業料の奨学金制度は別途解決すべき問題として、実際に運用する際には注意する必要性があることは、接続プログラム開発の本テーマから外れることではあるが、実地に向かった場合、記憶しておく必要があろう。

また、「外国語能力不足」という問題は、多くはないが、本調査での学生からの聴取では見られた。日本留学を望むが、日本語がネック。授業で日本語を学ぶが、そこで時間を使ってしまい、専門教育に進めない、とのことである。

今回分科会において、推進委員校の日本電子専門学校に在学している留学生にインタビューする機会を得たが、本人は日本語での会話を流暢にこなしていた。インドネシア国内の普通高校出身（なお家庭は階級的には普通）で、オーストラリアの大学で３年間コンピュータを学んだが、その後、ゲームの勉強のためと、日本への興味で日本語学校へ（半年）通い、その上での日本電子専門学校入学だそうである。日本への進学を考えるならこの留学生と異なり、直接、普通高校から直接留学もあるだろうが、その場合、日本語の問題がでてくるだろうということであった（漢字が難しい）。

幸い、今回提案した分野は技術分野であり、専門用語さえクリアできれば克服は可能と考え

る。なお、参考事例として日本の自動車デザインの専門学校でも、先端の事項を学ぶための共通言語として英語での授業を実践し、TOEIC 平均 550 を取得できていることがあげられたことをここに記しておく。

第3章　今後のプログラム開発

前章にて、東南アジアでの職業教育体系・制度と、それに接続できるように標準化・体系化された日本の専門学校のカリキュラム間での相互認証は必要である。そのことで、高度な技術を学ぶ環境を提供できる日本の職業教育の素晴らしさ、日本がアジアのリーダーであることを示すことにもつながることとなる。我々は本取り組みを通じて、職業教育の標準化、体系化をリードしていくことを将来的な使命と考える。

そこで、本年度は基礎調査からはじめ、最終的には接続することで日本と東南アジアにメリットのある領域を分析。その領域を自動車整備やマルチメディア、電子などのＩＴ・通信と定めるにいたった。その上で、さらに東南アジアからの留学生を迎えるにあたり、ISO 制度も充実し、人口増加も多いインドネシアのカリキュラムを例にとって、接続する日本の専門学校の教育プログラムのあり方を分析した。その結果として、日本の教育として重視する部分のカリキュラムが現地職業高校のカリキュラムには不足しており、留学生を迎える場合、日本の既存の専門学校教育カリキュラムを根底から学ぶことを提案するにいたった次第である。

次年度は、相互認証に向けて、そして、ダブルディグリー制度の可能性を見出すためにも、あらためて東南アジア諸国の（日本でいうところの）専門学校のカリキュラムをより深く分析し、日本の専門学校との間で置き換え可能なカリキュラム（共通化できるカリキュラム）を示し、あわせて日本だからこそ提供できるカリキュラムを抽出し、接続プログラムの具体的なモデルケースを作成するとともに、その運用法を検討・提案するものとする。

巻末資料集

第1章　インドネシア　アンケート調査

1.1　調査票

1.1.1　教員用

RAHASIA	NO IDRT: [ ]. [ ][ ]
PEWAWANCARA:	KOTA NO URUT

SURVEI KOMPETENSI SMK DAN POLITEKNIK

RESPONDEN:
1. **GURU BIDANG STUDI, SMK**
2. **DOSEN POLITEKNIK**

HARI DAN TANGGAL : _____

JAM : _____

CATATAN :
1. WAWANCARA SELESAI
2. WAWANCARA BELUM SELESAI DAN BERJANJI MENGULANGI
3. RESPONDEN MENOLAK

KETERANGAN LOKASI

KL01	Kabupaten/kota 1. Bandung 2. Jakarta 3. Semarang 4. Denpasar	[ ]
KL02	Nama SMK/politeknik	
KL03	Program studi a. Elektronika b. Otomotive c. Tata rambut d. Tata busana e. Teknologiinformasi f. Akuntansi g. Pariwisata h. Gizi i. Bahasa	a. 1. Ya. 2. Tidak b. 1. Ya. 2. Tidak c. 1. Ya. 2. Tidak d. 1. Ya. 2. Tidak e. 1. Ya. 2. Tidak f. 1. Ya. 2. Tidak g. 1. Ya. 2. Tidak h. 1. Ya. 2. Tidak i. 1. Ya. 2. Tidak

KL04	Jenis Sekolah/politeknik 1. Negeri 2. Swasta	[ ]
KL05	Sekolah/politeknik ini terakreditasi 1. A 2. B 3. C	[ ]
KL06	Alamat sekolah/politeknik	

KETERANGAN RESPONDEN

KR01	Nama	
KR02	Jeniskelamin 1. Laki-laki 2. Perempuan	[ ]
KR03	Umur I/B/S	[ ][ ]tahun
KR04	Sejak kapan menjadi guru/dosen di SMK/Politeknik ini	[ ][ ][ ][ ]
KR05	Sebelummengajar di sekolah/politeknikinidimanakah I/B/S bekerja? 1. Belum bekerja 2. Di SMK/Politeknik lain 3. Bekerja di bidang lain	[ ]
KR06	Bidangstudi yang diampu, sebutkan _____ 1. 2. 3. 4. 5.	
KR07	Sepanjang pengetahuan I/B/S bagaimana dengan animo masyarakat untuk sekolah di SMK? a. Sangat tinggi b. Cukup tinggi c. Tinggi d. Cukup rendah e. Rendah	[ ]
KR08	Apakah jumlah siswa sudah memenuhi kapasitas kelas?? 1. Ya 2. Tidak	[ ]

KR09a	Jurusan/program studi apa s aja yang banyak diminati masyarakat? Urutkandari yang tertinggi ke yang terrendah? a. _____ b. _____ c. _____ d. _____ e. _____	KR09b. Mengapa jurusan ini paling banyakd iminati? a. 1 2 3 4 5 b. 1 2 3 4 5 c. 1 2 3 4 5 d. 1 2 3 4 5 e. 1 2 3 4 5
	KODE KR09b. 1. Paling murah 2. Banyakdibutuhkanduniausaha 3. Kualitasnyalebihbaik 4. Paling siapkerja 5. Lainnyasebutkan _____	

KR10	Apakah kurikulum disini mengikuti: a. Standar local b. Standarnasional c. Standarinternasional	KR10b. Kurikulum bidang studi yang mengikuti standar a. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 b. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 c. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
		KODE KR10b 1. Elektronika 2. Otomotive 3. Tata rambut 4. Tata busana 5. Teknologiinformasi 6. Akuntansi 7. Pariwisata 8. Gizi 9. Bahasa 10. Pariwisata

KR11	Apakah masih perlu ditingkatkan? **1.** Ya 2. Tidak → **KR 13**	[ ]
KR12	Apasaja yang harus ditingkatkan?Sebutkan! 1. 2. 3. 4.	[ ]

KR13	Menurut I/B/S apakah lulusan lembaga pendidikan ini sudah memenuhi kebutuhan dunia usaha ??? 1. Ya → KR 15 2. Belum 3. TidakTahu →KR15	
KR14	Jika tidak upaya apa saja yang telah dilakukan oleh lembaga pendidikan ini?	
KR15	Bagaimana dengan Bahan ajar? 1. Sangat memadai 2. Cukup memadai 3. Memadai 4. Kurang memadai 5. Tidak memadai	
KR16	Apakah SMK/Politeknik ini mempunya iBengkel Kerja? 1. Ya 2. Tidak →ke KR18	
KR17	Bengkel kerja apa saja? Sebutkan a._____ b. _____ c. _____ d. _____ e. _____	
KR18	Jika tidak memiliki bengkel kerja, kemana siswa/mahasiswa praktek?*(pww mencatat program studi yang tidak memiliki bengkel kerja)* a. b. c. d. e.	a. 1 2 3 b. 1 2 3 c. 1 2 3 d. 1 2 3 e. 1 2 3
		Kode KR18 1. Sewa 2. Numpang 3. Tidakadapraktek

KR19	Apakah untuk menggunakan bengkelkerja, siswa/mahasiswa dipungut biaya ?	1. Ya 2. Tidak →KR 21
KR20	Berapa biayanya?	Rp. [ ][ ][ ][ ][ ][ ]
KR21	Bagaimana kondisi bengkel kerja tersebut?	
KR22	Apakah memiliki Laboratorium 1. Ya 2. Tidak → KR25	[ ]
KR23	Laboratorium apa aja? a. Bahasa b. Kimia c. Fisika/mekanika d. Salon e. Dapur f. Lainnya, sebutkan_____	a. 1. Ya 2. Tidak b. 1. Ya 2. Tidak c. 1. Ya 2. Tidak d. 1. Ya 2. Tidak e. 1. Ya 2. Tidak f. 1. Ya 2. Tidak
KR24	Bagaimana kondisi laboratorium tersebut 1. Sangat baik 2. Cukup baik 3. baik 4. kurang baik 5. kurang	[ ]
KR25	Apakah SMK/Politeknik ini sudah mempunyai ISO? 1. Ya 2. Tidak → KR 27	[ ]
KR26	Jurusan apa saja yang sudah memiliki ISO a. Elektronika b. Otomotive c. Tata rambut d. Tata busana e. Teknologiinformasi f. Akuntansi g. Pariwisata h. Gizi i. Bahasa j. Pariwisata	a. 1 Ya 2. Tidak b. 1 Ya 2. Tidak c. 1 Ya 2. Tidak d. 1 Ya 2. Tidak e. 1 Ya 2. Tidak f. 1 Ya 2. Tidak g. 1 Ya 2. Tidak h. 1 Ya 2. Tidak i. 1 Ya 2. Tidak j. 1 Ya 2. tidak
KR27	Apakah SMK/politeknik ini sudah mampu mengeluarkan sertifikasi kompetensi? 1. Ya 2. Tidak → KR29	[ ]

KR28	Apakah SMK/Politeknik ini sudah mempunyai lembaga sertifikasi profesi (LSP) 1. Ya→ke KR 30 2. Tidak	[ ]
KR29	Jika Tidak, dimanakah lulusan memperoleh sertifikat profesi? 1. Di LSP lainnya 2. Perusahaan 3. Lainnya,_____	[ ]
KR30	Jika tidak apakah terdapat kesenjangan antara kurikulum dengan standar kompetensi lulusan sekolah ini? 1. Ya 2. Tidak →KR32	[ ]
KR31	Apa saja kesenjangan antara kurikulum dengan standar kompetensi? Sebutkan a. _____ b. _____ c. _____ d. _____ e. _____	
KR32	Bagaimana dengan lulusan SMK/Politeknik ini? 1. Banyak yang terserap di pasarkerja 2. Sudah dipesan sebelum lulus 3. Belum jelas 4. Tidak tahu 5. Lainnya, sebutkan	[ ]
KR33	Apakah sudah membuka kerjasama dengan dunia usaha 1. Ya 2. Tidak →KR35	[ ]
KR34	Kerjasama apa saja yang dilakukan 1. Pemagangan 2. Bantuan alat-alat bengkel 3. Instruktur bidang 4. Menampung Lulusan 5. Pertukaran siswa/mahasiswa 6. Lainnya, sebutkan _____	[ ]
KR35	Apakah sudah pernah menjajaki kerjasama dengan lembaga pendidikan lain di luar negeri 1. Sudah 2. Belum→KR39	[ ]

KR36	Dengan Negara mana saja kerjasama ini pernah dilakukan? 1. Jepang 2. Taiwan 3. Korea Selatan 4. Singapura 5. Lainnya, sebutkan _____	[ ]
KR37	Bagaimana bentuk kerjasama yang pernah atau sedang dirintis 1. Pertukaran siswa/mahasiswa 2. Double degree→ke KR 39 3. Pengembangan kurikulum→ke KR 42 4. Pelatihan guru/dosen→ke KR 42 5. Lainnya, sebutkan→ke KR 42	[ ]
KR38	Berapa banyaksiswa/mahasiswa yang sudah ikut serta dalam pertukaran tersebut selama 5 tahun terakhir?? [ ][ ][ ]orang	KR37b. Ke Negara mana saja pertukaran telah dilakukan 1. Jepang 2. Taiwan 3. Korea Selatan 4. Singapura 5. Lainnya, sebutkan _____
KR39	Jika ada peluang untuk membuat *double degree* dengan lembaga pendidikan di luarnegeri apakah I/B/S setuju? 1. Ya 2. Tidak →KR41	[ ]
KR40	Jika setuju bagaimana bentuk kerjasamanya?Jelaskan dengan singkat	
KR41	Jika tidak mengapa?	
KR42	Apakah SMK/Politeknik ini menyediakan beasiswa? 1. Ya 2. Tidak →KR44	[ ]
KR43	Jika tidak menyediakan, apakah ada siswa/mahasiswa memperoleh bantuan beasiswa? 1. Ya 2. Tidak→KR44	[ ]
KR44	Jikaya, darimana beasiswa tersebut? 1. Pemerintah 2. Swasta 3. Lainnya, sebutkan	[ ]

CATATAN PEWAWANCARA

1.1.2　学生用

RAHASIA	NO IDRT: [ ]. [ ][ ]
PEWAWANCARA:	KOTA NO URUT

SURVEI KOMPETENSI SMK DAN POLITEKNIK

RESPONDEN:
1. **MURID SMK**
2. **MAHASISWA POLITEKNIK**

HARI DAN TANGGAL : _____

JAM : _____

CATATAN :
1. WAWANCARA SELESAI
2. WAWANCARA BELUM SELESAI DAN BERJANJI MENGULANGI
3. RESPONDEN MENOLAK

KETERANGAN LOKASI

KL01	Kabupaten/kota 1. Bandung 2. Jakarta 3. Semarang 4. Denpasar	[ ]
KL02	NamaSMK/Politeknik	
KL03	Program studi a. Elektronika b. Otomotive c. Tata rias d. Tata busana e. Teknologiinformasi f. Akuntansi g. Bahasaasing h. Pariwisata	a. 1. Ya. 2. Tidak b. 1. Ya. 2. Tidak c. 1.Ya. 2. Tidak d. 1. Ya. 2. Tidak e. 1. Ya. 2. Tidak f. 1. Ya. 2. Tidak g. 1. Ya. 2. Tidak h. 1. Ya. 2. Tidak

KL04	Jenis Sekolah/politeknik 1. Negeri 2. Swasta	[ ]
KL05	Sekolah/politeknik ini terakreditasi 1. A 2. B 3. C	[ ]
KL06	Alamat sekolah/politeknik	

KETERANGAN RESPONDEN

KR01	Nama	[ ]
KR02	Jenis kelamin 1. Laki-laki 2. Perempuan	[ ]
KR03	A. Umur B. Tanggallahir	A. [ ][ ] TAHUN B.[ ][ ][ ][ ][ ][ ] TGL BLN TH
KR04	Nama orang tua	
KR05	A. UMUR AYAH B. UMUR IBU	C. [ ][ ] TAHUN A. [ ][ ] TAHUN
KR06	A. Pendidikan ayah yg ditamatkan B. Pendidikan ibu yang ditamatkan	A. 1 2 3 4 5 6 7 B. 1 2 3 4 5 6 7
		Kode jawaban kr06 1. TIDAK SEKOLAH 2. TIDAK TAMAT SD 3. TAMAT SD 4. TAMAT SMP 5. TAMAT SMA 6. TAMAT D1-3 7. TAMAT S1 LEBIH

KR07a	KEGIATAN UTAMA		KODE JAWABAN KR07A DAN KR07B 1. TIDAK BEKERJA→KR10 2. BEKERJA 3. MENGURUS RUMAH TANGGA→KR10
	Kr07a. Ayah [ ]	Kr07b. Ibu [ ]	
KR08	A. Jenispekerjaan Ayah, sebutkan _____	B. Jenispekerjaanibusebutkan _____	
KR09	A. PENGHASILAN AYAH B. PENGHASILAN IBU	A. [ ][ ].[ ][ ][ ].[ ][ ][ ] B. [ ][ ].[ ][ ][ ].[ ][ ][ ]	
KR10	Respondentinggalbersama 1. Orang tua 2. Kost 3. Numpang 4. Asrama		[ ]
KR11	ApakahSMK/Politeknikinisesuaidengancitacitasaudara? 1. Ya 2. Tidak		[ ]
KR12	Siapa yang mendorongsdrmasukke SMK/Politeknikini A. Orang tua B. Keinginansendiri C. Teman D. Keluarga E. Tetangga F. Lainnya,sebutkan_____		[ ]

KETERANGAN PENDIDIKAN

KP01	Klas yang didudukisaatini 1. Klas 2 2. Klas 3	[ ]
KP02	Jurusan yang diambil 1. Elektronika 2. Otomotive 3. Tata rambut 4. Tata busana 5. Teknolog iinformasi 6. Akuntansi 7. Pariwisata 8. Gizi 9. Bahasa	[ ]

KP03	Sebutkan apasaja matapelajaran/kuliah program keahlian yang telah diberikan? _____ b._____ c._____ d._____ e._____ f._____	
KP04	Apa saja pelajaran/kuliah yang disukai, sebutkan: a._____ b._____ c._____ d._____ e._____ f._____	
KP05	Menurut Sdr, apakah selama belajar ini, sdr memperoleh ketrampilan yang memadai?	1. ya 2. Tidak 3. Tidaktahu
KP06	Menurut sdr, apakah ketrampilan yang Sdr peroleh telah memenuhi standar kompetensi yang diperlukan	2. ya 2. Tidak 3. Tidaktahu
KP07	Menurut sdr apakah matapelajaran/kuliah inimencukupi untuk ketrampilan yang diperlukan?	3. ya 2. Tidak 3. Tidaktahu
KP08	Apakah sekolah/politeknik ini sudah memperoleh ISO? a. Elektro b. Otomotive c. Tata rias d. Tata busana e. Teknologiinformasi f. Akuntansi g. BahasaAsing h. Pariwisata i. Lainnya, sebutkan _____	a. 1. Ya 2. Tidak b. 1. Ya 2. Tidak c. 1. Ya 2. Tidak d. 1. Ya 2. Tidak e. 1. Ya 2. Tidak f. 1. Ya 2. Tidak g. 1. Ya 2. Tidak h. 1. Ya 2 .Tidak i. 1. Ya 2 .Tidak
KP09	Apakah sekolah/politeknik ini mempunyai kerjasama dengan sekolah di luarnegeri	1. ya 2. Tidak →KP11

KP10	Dengan Negara mana saja bekerjasama? 1. Jepang 2. Taiwan 3. Korea Selatan 4. Singapura 5. Lainnya, sebutkan _____	[ ]
KP11	Bentuk kerjasama dengan luarnegeri 1. Pertukaran siswa/mahasiswa 2. *Double degree* 3. Pengembangan kurikulum 4. Pelatihan guru/dosen 5. Lainnya, sebutkan	
KP12	Apakahsekolah/politeknik ini bekerjasama dengan perusahaan di dalam negeri?	1. ya 2. Tidak →KP14
KP13	Dalam bentuk apa kerjasamanya a. Kerjasama pengembangan sekolah/politeknik b. Pengajar/instruktur paruh waktu c. Memberikan bantuan bengkel kerja d. Memberikan beasiswa e. Memberikanpeluang untuk bekerja di perusahaan tersebut f. Lainnya, sebutkan _____	a. 1. Ya 2. Tidak b. 1. Ya 2. Tidak c. 1. Ya 2. Tidak d. 1. Ya 2. Tidak e. 1. Ya 2. Tidak f. 1. Ya 2. Tidak
KP14	Apakah ada program: a. Magang/PKL b. Pertukaran pelajar/mahasiswa c. Roadshow keperusahaan d. Lainnya sebutkan	a. 1. Ya 2. Tidak b. 1. Ya 2. Tidak c. 1. Ya 2. Tidak d. 1. Ya 2. Tidak
KP15a	Jika ada program pertukaran pelajar/mahasiswa, apakah sdr bersedia untuk ikut? 1. Ya→KP15b dan KP17 2. Tidak↓	KP15b. ke Negara mana yang anda inginkan? 1. Jepang 2. Taiwan 3. Korea Selatan 4. Singapura 5. Lainnya, sebutkan _____
KP16	Jika Tidak mengapa? a. Tidak berani b. Merasa kurang mampu c. Tidak ingin jauh dari rumah d. Takut tidak ada biaya e. Lainnya, sebutkan _____	a. 1. Ya 2. Tidak b. 1. Ya 2. Tidak c. 1. Ya 2. Tidak d. 1. Ya 2. Tidak e. 1. Ya 2. Tidak

KP17	Berapa biaya pendidikan yang harus dikeluarkan setiap bulan? a. SPP b. Kegiatan praktikum c. Magang/PKL	Rupiah/bulan a. [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ] b. [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ] c. [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ]
KP18	Siapa yang membayar pendidikan sdr? 1. Orang tua 2. Sendiri 3. keluarga lain 4. beasiswa 5. lainnya,sebutkan	[ ]
KP19	Darimana beasiswa yang sdr peroleh? 1. Sekolah 2. Perusahaan 3. Pemerintah 4. Lainnya, sebutkan	[ ]
KP20	Fasilitas apa saja yang dimiliki sekolah/politeknik ini a. Bengkel kerja semua jurusan b. Tidak semua jurusan punya bengkel kerja c. Fasilitas TI d. Studio penyiaran radio/tv local sekolah e. Kantin sekolah f. Koperasi g. Lainnya, sebutkan _____	a. 1. Ya 2. Tidak b. 1. Ya 2. Tidak c. 1. Ya 2. Tidak d. 1. Ya 2. Tidak e. 1. Ya 2. Tidak f. 1. Ya 2. Tidak g. 1. Ya 2. Tidak
KP21	Bengkel kerja apa saja yang dimiliki oleh SMK/politeknik ini a. Bengkel kerja elektro b. Bengkel kerja Mesin c. Bengkel kerja TI d. Bengkel kerja tataboga e. Bengkel kerja tatarias f. Bengkel kerja akutansi g. Laboratorium Bahasa	a. 1. Ya 2. Tidak b. 1. Ya 2. Tidak c. 1. Ya 2. Tidak d. 1. Ya 2. Tidak e. 1. Ya 2. Tidak f. 1. Ya 2. Tidak g. 1. Ya 2. Tidak

KP22	Bagaimana pendapat Sdr tentang: a. Gedung sekolah b. Kondisi meja dan kursi c. Kondisi perpustakaan d. Bengkel kerja e. Program Magang/PKL f. Penempatan Kerja	a. 1 2 3 4 5 b. 1 2 3 4 5 c. 1 2 3 4 5 d. 1 2 3 4 5 e. 1 2 3 4 5 f. 1 2 3 4 5 g. 1 2 3 4 5
		KODE KP16: 1. Sangatbaik 2. Cukupbaik 3. Baik 4. KurangBaik 5. jelek
KP23	Jika sekolah ini ada program pendidikan dobel (*program double degree*) dengan Negara lain, apakahSdrbersediamenerimanya?	a. 1. Ya 2. Tidak → KP 25
KP24	Jika sdr menerima, kenegara mana pendidikan ini dilakukan? 1. ASEAN 2. Jepang 3. Korea, 4. Taiwan 5. Eropa 6. AmerikaSerikat 7. Australia 8. Lainnya, sebutkan	[ ]
KP25	Jika tidak mengapa? a. Merasa tidak mampu b. Tidak bias berbahasa Asing c. Takut biaya tinggi d. Takut jauh dari rumah e. Lainnya, sebutkan	a. 1 2 3 4 5 b. 1 2 3 4 5 c. 1 2 3 4 5 d. 1 2 3 4 5 e. 1 2 3 4 5
KP26	Jika sdr bekerja, dimana Sdr ingin bekerja a. Di kota dekat dengan rumah b. Di dalam negeri c. Diluar negeri d. Lainnya, sebutkan _____	a. 1 2 3 4 5 b. 1 2 3 4 5 c. 1 2 3 4 5 d. 1 2 3 4 5

KP27	Pekerjaan seperti apa yang diinginkan? 1. Sesuai dengan ketrampilan yang dimiliki 2. Di perusahaan internasional 3. Bekerja dimana saja	
KP25	Apa harapan Sdr kedepan?	

CATATAN PEWAWANCARA

第2章　タイ　アンケート調査

2.1　調査票

2.1.1　職業高校生・専門学校生対象

①回答者に関する情報（職業高校生）

設問
1.性別
男性
女性
2.年齢
16 歳
17 歳
18 歳
3.学校
公立
私立

□回答者に関する情報（専門学校生）

設問
1.性別
男性
女性
2.年齢
19 歳
20 歳
21 歳以上
3.学校
公立
私立

□日本の専門学校への関心、ニーズ又は検討要素（職業高校生・専門学校生共通）

設問
1.現在の学校を選んだ理由
a. 実践的な職業知識を学べるから
b. 教師等の勧めがあったから
c. 大学より短い期間で就職できるから

d. 自宅に近いから
e. 授業料を見て
2..卒業までの在学期間
a. 2 年
b. 3 年
c. 4 年
d. 5 年
3.　職業高校卒業後の進路
a. 就職する
b. 専門学校に入る
c. 大学に入る
4.. 日本の専門学校への関心の有無
a. ある（短期 1 年未満希望)
b. ある　（長期 1 年以上希望）
c. なし
5.海外留学に関する重要な検討要素
a. 費用
b. 基礎的な知識
c.　言語
d. 生活環境等
6. 留学に関心がある場合の単位認定の希望
a. 認めてほしい
b. 認められなくてもよい
7.希望する就職先
a. 自動車関連
b. 電機関連
c. 機械関連
d. ＩＴ
e. 美容関連

f. 観光、ホテル関連
g. 会計等の商業関連
h. その他

2.1.2　専門学校生保護者対象

□回答者に関する情報（専門学校生保護者）

設問
1.性別
男性
女性
2.年齢
40～50 歳
51 歳以上
3.最終学歴
小学校卒
中・高校卒
大学
大学院以上
4.子供の数
1 人
2 人
3 人
5.収入（バーツ/月）
～20,000
20,001～40,000
40,001～60,000

□日本の専門学校への関心、ニーズ又は検討要素（専門学校生保護者）

設問
1.現在子供が在籍する学校を選んだ理由
a. 実践的な職業知識を学べるから
b. 教師等の勧めがあったから
c. 大学より短い期間で就職できるから

d. 自宅に近いから
e. 授業料を見て
f.子供の希望
2.卒業までの在学期間
a. 2 年
b. 3 年
c. 4 年
d. 5 年
3.高校レベルの出身校
a.普通高校
b.職業高校
4.. 日本の専門学校留学への関心の有無
a. ある（短期 1 年未満希望）
b. ある （長期 1 年以上希望）
c. なし
5.海外留学に関する重要な検討要素
a. 費用
b. 基礎的な知識
c. 言語
d. 生活環境等
6. 留学に関心がある場合の単位認定の希望
a. 認めてほしい
b. 認められなくてもよい
7.子供に期待する就職先
a. 自動車関連
b. 電機関連
c. 機械関連
d. ＩＴ
e. 美容関連

f. 観光、ホテル関連
g. 会計等の商業関連
h. その他

2.1.3　教師対象

□回答者に関する情報（教師）

設問
1.性別
男性
女性
2.年齢
25～35 歳
36～45 歳
46～55 歳
56 歳以上
3.勤務先学校
公立
私立
4.最終学歴
大学
大学院
博士号

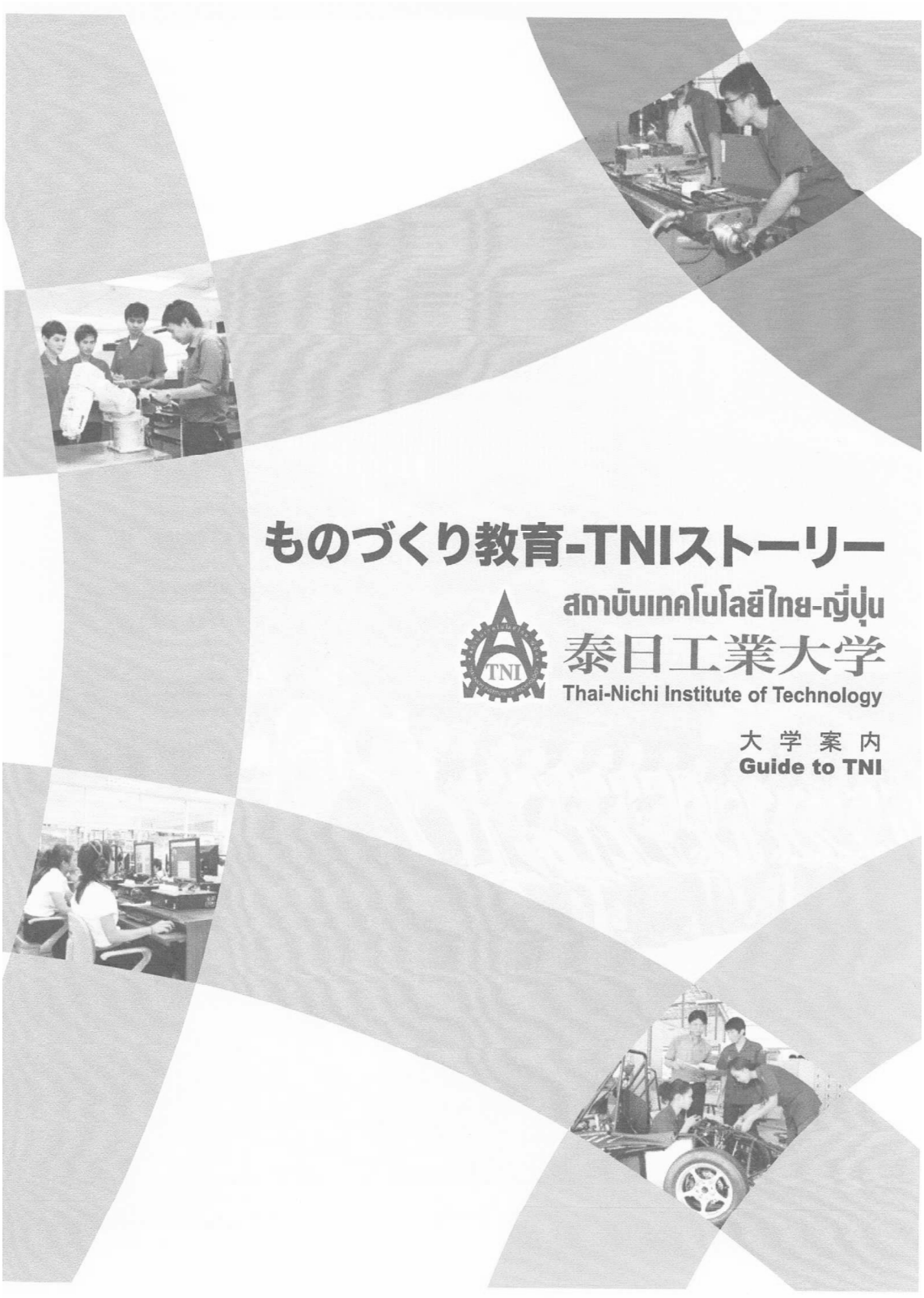
□　授業環境及び情報（教師）

設問
1.教授分野
a. 機械
b. 電子
c. デザイン
d. ＩＴ
e.　美容
f. 旅行、ホテル
2.教授経験

a. 1～3 年
b. 4～6 年
c. 7～10 年
d. 10 年以上
3.現職以前の勤務経験
a.なし
b. 他の学校
c. 他の分野
4.国際的レベルの学校で教えることに対する関心
a. 大変関心がある
b. 関心がある
c. 関心がない
5.教授分野の学生数は労働市場のニーズを満たしているか
a. 足りていない
b. 足りている
6. 学生の関心の高い分野
1. IT
2. デザイン
3. 機械
4. 観光、ホテル
5. その他
7. 質問 6 で回答した分野について、学生の関心の高い理由
a. 授業料が安いから
b. ニーズがあるから
c. カリキュラム内容がよいから
d. 就職しやすいから
e. その他
8.授業内容が準拠する標準
a. 国内標準

b. AEC の標準
c. その他の標準
9.教科書や教材等の適切性
a. 大変適切
b. 適切
c. 適切ではない
10.専門の実験用機械･器具、施設等の適切性
a. 大変適切
b. 適切
c. 適切ではない
11.単位、授業時間等の適切性
a. 大変適切
b.　適切
c. 適切ではない
12.教授分野における交換留学生プログラムの有無
a. ある
b. ない
13.交換留学生の出身国
a. ベトナム
b. インドネシア
c. 中国
d. 韓国
e. 欧米
14.勤務先専門学校における教師向け海外研修・視察等プログラムの有無
a. ある
b. ない
15.研修・視察に行ったことのある国
a. ベトナム

b．インドネシア
c．中国
d．韓国
16.研修･視察で訪れたい国
a．ベトナム
b．インドネシア
c．中国
d．韓国
e．欧米
d．日本


ものづくり教育-TNIストーリー
สถาบันเทคโนโลยีไทย-ญี่ปุ่น
泰日工業大学
Thai-Nichi Institute of Technology
大学案内
Guide to TNI

開学式でのシリントーン王女殿下　2007.8.2

安部元首相のTNI訪問と図書寄贈　2010.11.10

中川文部科学大臣（前列中央）のTNI視察　2012.1.10

学長メッセージ

ものづくり文化の継承と世界貢献を

TNI学長　クリサダー・ヴィサワティーラノン

泰日工業大学（TNI）は、アジア・大洋州の生産拠点になりつつある、タイ国の産業発展のために優秀な技術者、中核産業人材を育成する目的で2007年に開学しました。TNIは日本のものづくりに基づいて技術知識、技能、魂を学生に伝授します。そして自動車組立・部品産業、電機・電子産業、機械産業、情報産業などの人材ニーズに応えます。

ものづくり教育へのTNIのユニークなアプローチを紹介します。まずTNIでは、英語と日本語を全学生に課してグローバルに通用するコミュニケーション能力を付与します。日本語は、現場で分かる・通じる日本語を目指して指導しています。毎週全学生に日本語授業を課すのはタイ国の中で、TNIにしかない特長です。

第2の特長は、日本の様々な機関との強力なネットワークです。特に日本の多くの大学・教育機関と学術交流をして毎年大勢の学生と教員を交換しています。「日本から学ぶ、日本の大学から技術を学ぶ、共同研究する」ことによって大学の学術レベルも上がります。

第3のアプローチは、タイ国の産業界、特に日系企業との連携です。多くの企業から優秀な学生への奨学金のご提供、教育設備機材のご寄贈、産業技術専門家の派遣など、ヒト・モノ・カネを大学に支援して頂いています。さらに工場見学や長期インターンシップ研修で企業実務とビジネス倫理を学ばせて頂きます。卒業生の就職では、TNI学生が100%就職率を達成するように心がけています。

タイの大学はこれまで実践をあまり重んじてきませんでしたが、TNIでは理論と実践は一体と考え、「考えたことを実際にやる」力を重視します。タイ語では「キット・ペン・タム・ペン」と言い、TNIの履修過程の大きな骨格をなしています。

こうしてTNIはタイ国と日本の架け橋として両国の相互理解と親善向上に努めます。

TPAとTNI（設立の経緯）

- 泰日工業大学（タイ語名称：サターバン・テクノロジー・タイージープン、英語名称：Thai-Nichi Institute of Technology（略称TNI））は、タイ-日友好とタイ産業界の人材育成を目的として設立された泰日経済技術振興協会（タイ語名称：サマーコム・ソンサーム・テクノロジー・タイージープン（略称ソーソートー）、英語名称：Technology Promotion Association (Thailand-Japan)（略称TPA））を母体としています。
- TPAは、元大蔵大臣ソンマーイ・フントラクーン氏を代表とし、（社）日・タイ経済協力協会（JTECS）の初代理事長 穂積五一氏の献身的な支援を受けて1973年1月24日に元日本留学生および元研修生によって 設立された非営利団体です。今日TPAの事業は日本語・タイ語などの語学学校、出版、産業セミナー・研修、計測機器校正・環境分析サービス、コンサルティングなどの各事業や産業・社会貢献活動において、タイ国で有数の機関です。
- TPAは2003年の創立30周年を契機に、産業界への多岐にわたる研修事業の経験、実績を踏まえ、TPA内外の専門家ネットワークを活用することで、優秀な産業人の育成とタイ産業界への人材供給のために大学設立を目指すに至りました。
- 特にこの事業は日本企業と連携することにより、『タイにおける日本型ものづくり実践教育』を中核とする、これまでにない特色ある画期的な大学設立を目指したものです。
- 2003-4年大学設立に向けてさまざまな調査が行われ、2005年のTPA総会決議を経て、2006年9月29日教育省所管の高等教育委員会から学校設立認可が下り、ここタイ国で、タイ-日両国友好の象徴ともいえるTNI が誕生しました。
- TNIは、現地日系企業のニーズにあった、日本語でのコミュニケーション能力を有する産業人材を育成することなどを通じて、タイと日本のいっそうの経済連携と友好関係の発展を目指しています。

TNI建学の理念

学問を発展させ、産業の振興に寄与し、経済・社会に貢献する

TNIは、高度な学問と職業教育のなる教育機関となり、産業技術面および経営管理面での人材育成を目指し、卓越した学力、応用力、 知識を社会に供給することで、社会に貢献することを宣誓します。

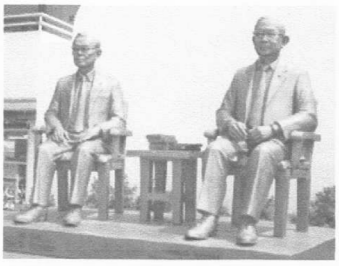
TNI設立の目的と社会における役割

設立目的は、工学、社会学、人文学を重視した教育機関として、学生を教育することです。TNIの使命は、有識者を育て、研究活動をし、学術分野で社会に貢献し、またタイと日本の芸術文化の保全・振興に努めることです。

そして社会における具体的役割を次の通り設定します。

1. 工学、理学、経営学分野の学士および修士レベルの実践的な技術と理論的な知識の修得を重視した教育を行う。
2. 研究・開発の先駆者となり、常に最先端の知識を創造する教育機関となるように努める。
3. タイ国における有能な学術者の中核的存在になり、社会のアドバイザー役を担い、企業と産業創出のために、高度な研究協力を推進し、研究者の役割の拡大に努める。
4. 日本および他国からの技術移転を図り、海外の教育機関、さまざまな公的・私的機関とのネットワークを築いて学術・教育面での協力、専門家の交流、研究と開発、海外研修を推進する。
5. 短期講習、研修、企業経営者へのコンサルティング、経営者・管理者・技術者・技能者に対し先進技術の知識付与・交流を行い、学術分野で社会貢献する。
6. タイおよび日本の文化芸術保全活動を推進する。

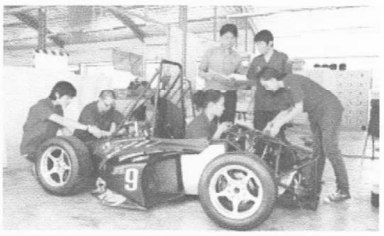
TPA-TNI 創設貢献者の 穂積五一氏（左）とソムマーイ・フントラクーン氏のブロンズ像（TNIキャンパス中庭に2012年7月建立）



目次 CONTENTS

- 学長メッセージ TPAとTNI（設立の経緯） ②
- TNI建学の理念・目的 TNIと関連機関の歩み ③
- 教育方針 履修課程の特長 TNI卒業生の声 ④
- 学部・大学院 一覧 学生数 ⑤
- 工学部 情報学部 ⑥
- 経営学部 大学院 ⑦
- TNI組織 施設の概要 設備の概要（1） ⑧
- TNI協力ネットワーク 設備の概要（2） ⑨
- 産学連携 奨学金 インターンシップ ⑩
- 入学者選考 就職 TNI生の日本語力 ⑪
- TNI年間スケジュール キャンパス・ハイライト ⑫
- 国際交流 協力提携機関 国際学術交流 ⑬
- 支援機関リスト ⑭
- 支援機関リスト ⑮
- 大学アクセス （裏表紙） ⑯

TNI生（エンジ服着用は工学部生）



工学部自動車工学コース（AE）

TNIと関連機関の歩み

- ○ 穂積五一氏が、アジア諸国からの留学生と日本人学生が生活を共にし、意見交換する場として『至軒寮』を再興。同寮は戦後『新星学寮』に改称。考え方は、後のABKに引き継がれる。
- ○ （財）アジア学生文化協会（ASCA）設立（1957年9月）
- ○ （財）海外技術者研修協会（AOTS→現（財）海外産業人材育成協会（HIDA））設立（1959年8月）
- ○ ABK（アジア文化会館、京都文京区）竣工（1960年。ASCA、AOTS、JTECSの本部が置かれる。AOTSは1982年本部移転）
- ○ タイ国アジア文化同窓会（現ABK-AOTS同窓会＝ABK & AOTS Alumni Association （Thailand））設立（1964年11月）
- ○ （社）日・タイ経済協力協会 （JTECS）設立（1972年7月）
- ○ タイ国法人 泰日経済技術振興協会（TPA、ソーソートー）設立（1973年1月）
- ○ TPAパッタナカーンセンター開設（1998年2月）
- ○ TPA総会で泰日工業大学（TNI）設立を決議（2005年5月）
- ○ 盤谷日本人商工会議所（JCCB）がTNI委員会設置（2005年9月）
- ○ TNI定礎式・建築工事開始（2006年1月）
- ○ タイ教育省による大学設立認可（2006年9月）
- ○ TNI学部・大学院授業開始（2007年6月）
- ○ マハ・チャクリー・シリントーン王女殿下による開学式（2007年8月）
- ○ 森元首相、安部元首相、中川文部科学大臣、石原都知事他、日本政府・自治体等要人、企業経営者多数来訪（2007-2012年）
- ○ C棟工学実験室完成（2009年）
- ○ 第一期大学院・社会人学部生卒業式（2010年9月）
- ○ 第一期学部生卒業式（2011年9月）

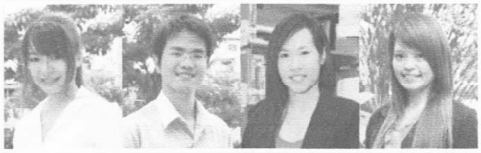
教育方針–ものづくり教育TNI方式

- 今日テクノロジーの発達は目覚しく、その変化に応じた能力を有する人材育成が重要課題となっています。TNIのすべての教育課程は、現場のニーズを柱とし、能力育成主義（Competency-based Education）の教育方針に基づいて設計されています。すべての履修者が次の能力を身につけ、現場のニーズに対応した即戦力となるように努めます。
- 技術力（Technical Competency）：TNIで提供するすべての学部（大学院）コースで、専門別に付与する技術力です。すべてのコースは、履修者が理論・原理・考え方、技術を、実際に活用できる裏づけのある実務家、専門家になるように計画されています。そのためにワークショップでの実習、プロジェクト実施、企業見学と実務研修、タイおよび日本の専門家を招いての学習、日本への研修旅行など、さまざまなプログラムを準備しています。
- 経営力（Managerial Competency）：学習者は、経営管理の知識と基本的な技術を身に付け、個人レベル、グループレベル、さらには組織レベルにも対応できるように育成します。よって履修者は高い能力と職務に対する自己開発精神を有することができます。
- 語学力（Language Competency）：TNIは、今日の情報化社会の中で、境界のない知識とテクノロジーの交流に着目し、聞く、話す、読む、書くの語学4技能を重視します。英語と日本語に必修課目および選択課目を設定し、卒業時に英語と日本語でビジネスレベルのコミュニケーションができるように配慮しています。これはまた就職に有利になるばかりでなく、日本や外国へ進学する際にも有効です。
- 規律と対人関係能力（Ethics and Interpersonal Relations Competency）：すべての履修過程にチームワークと規律（倫理観）を取り入れ、学習者は、組織で働くということを意識し、公正と正義に則って物事を判断し意思決定できる、判断力を身に付けます。

履修課程の特長

- タイ産業界で需要の高い分野（特に自動車、電機・電子、ICT、生産技術）を重視。
- 日本のものづくりに直結する、実務かつ実践的な技術と知識を兼ね備えた学生を育成。
- 産業界、またタイ国内外の各種日本機関との強い協力関係を活かして、現場のインターンシップ教育を重視。
- 短大・高専卒等からの編入者や、社会人に対する土日、平日夜間の教育課程を用意。
- 日本語および英語でのコミュニケーション能力を有する学生を育成。

TNI卒業生の声（写真は、左から紹介順）



スパットラーさん：AE卒。LA自転車タイでコンサル助手。日本語と自動車工学に関心がありTNIで勉強。自動車産業は成長が見込まれる。TNIはTPAや有名日本機関の支援があり、信頼性が高く、就職も容易。日本の短期留学もでき、工学関係の競技にも参加、個人の能力向上と社会で有用な経験を得た。

ピティさん：IM卒。トヨタTMAP-EM社購買担当。TNI卒業に誇り。日本の知識を増やしてくれ、日本の会社に就職できた。学んだことと仕事が完全に一致し、効果的な応用力も身についた。

ワティニーさん：IM卒。ホンダ自動車国際部勤務。TNIでは色々な奨学制度を利用でき、教育機会も恵まれている。日本短期留学も貴重な経験で、キャリア向上になった。学んだ知識経験は社会で大変役立っている。TNIを卒業し、良い会社に就職し満足。

ナトワラさん：IT卒。A-ホストで、プログラミング担当。TNIでの日本語学習必須は、良い仕事をたやすく見つけてくれた。また学内の暖かい雰囲気も良かった。先生も真剣に注意を傾けて頂き、課外活動も豊かな人生経験となった。TNIは学校だけでなく、大きな家族であった。

パンヤーさん：AE卒。NSK-APTC社勤務。仕事は、先輩が教えてくれる。TNIでは、広く教えてもらい、全体イメージをもらったが、経験を積んで一人前になりたい。これから日本研修だが、勤めて1年半で有難い。寺田社長：TNIの工学と語学、特に日本が分かり、コミニケーションできる学生をつくることに賛同、是非これを目指し、充実してほしい。彼は、真面目で、昼間の休憩時にもベアリングの洋書を読み、積極的に新しいことを勉強する意欲がある。試験機のトラブルなど解決策を提案してくれた。

寺田社長（左）とパンヤーさん　左からナルドンさん、ケテリア人事部長補佐、新井戦略企画部長、スラポン人事部次長

ナルドンさん：IM卒。東京三菱UFJ銀行外国送金課勤務。会社の企業文化、チームワークなどが気に入っている。大学で学んだ現場のQC、カイゼン、TPMなどが、今の仕事に役立っている。新井部長ほかの意見：TNIの考え方に最初から賛同、TNIの良いところは①事業の拡大基調、②日本語スキル習得、③ITシステムなど技術が分かる3点で、今後も協力したい。社内のコミュニケーションは英語だが、日本語ができるということは意味ある。また勤続3年で実績を見て、東京やシンガポール派遣を含めジョブローテーションがある。

学部・大学院一覧

- TNIが提供する学部・大学院のコースは下記表の通りです。
- 開学時は学生433人でスタートしましたが、2011年度から3,000人を超える規模になりました。
- 学部・大学院のコース数も2012年度現在3学部11コース、大学院4コースになりました。
- 一部のコースは土日や平日夜間履修など、社会人にあった設定がなされています。
- 大学院では、日本の大学院との交換留学による単位取得も可能です。
- 学生は、履修課程以外にも夏期休暇などに交換留学生制度を利用し、日本で日本語や日本文化等を学習する機会に参加できます。

工学部実習：数値制御

計測

自動車工学

工学部実習：自動化

CAD/CAM/CAE

変速機

経営学部実習 ：TPS

経営学部日本語授業

情報学部実習：マルチメディア

表：TNI学部・大学院登録時の学生数

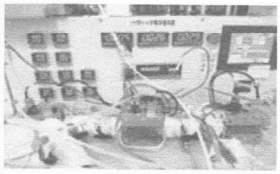
	学部/大学院	コース	略称	英文名称	年度					
					2007	2008	2009	2010	2011	2012
学部	工学部	自動車工学	AE	Automotive Engineering	77	157	125	149	185	148
		生産工学	PE	Production Engineering		52	73	70	81	57
		コンピュータ工学	CE	Computer Engineering		90	116	133	107	92
		経営・ロジスティックス工学	IE	Industrial & Logistics Engineering						29
	情報学部	情報技術学	IT	Information Technology	89	136	187	90	113	78
		マルチメディア技術学	MT	Multimedia Technology				87	129	106
		ビジネス情報技術学	BI	Business Information Technology				73	32	37
	経営学部	工業経営学	IM	Industrial Management	93	114	158	110	134	105
		日本語・経営学	BJ	Business Administration (Japanese)		148	203	218	242	194
		ビジネス・工業経営学（社会人用）	BM	Business & Industrial Management	37	31	33	-	19	14
		国際経営学	IB	International Business Management						104
	学部入学時の 学生数				296	728	895	930	1,042	964
大学院	工学技術学		MET	Engineering Technology					20	30
	情報技術学		MIT	Information Technology					16	23
	工業経営学		MIM	Industrial Management	137	41	38	30	31	81
	上級企業経営学		EEM	Executive Enterprise Management		43	35	28	26	30
	大学院入学時の 学生数				137	84	73	58	93	164
合計					433	812	968	988	1,135	1,128

注：入学時の登録学生数であり、在籍学生数・卒業学生数とは異なる。年度は6月1日―翌年3月31日の学年度。

工学部：タイにおける自動車組立・部品産業、電機・電子産業は、成長著しいアジア・大洋州の生産拠点として日本企業を始め世界有数の会社が生産基盤を設けています。金型の設計・製作、各種部品の製造、生産ラインの管理、さらには工場全般の経営に長けた中核人材の必要性が叫ばれています。

工学部生産工学コース（PE）

測定評価装置を大同大学から協力いただき、燃料電池開発を研究するナッタポン先生



☞TNIの工学部は、上記産業のものづくり教育に焦点を置き、さらに制御系の専門的知識や知恵を有する技術者の育成に力を入れています。金型・各種部品の設計・製造、組立ラインシステム管理、品質管理など履修者が工業製品とこれらを支える産業のものづくり現場での即戦力になるように教育しています。

・工学部自動車工学コース（AE）課目例（144単位）

目的：(1) 自動車工学、製造工程、材料技術、生産管理、設計・開発の知識付与。
(2) 自動車産業で、工学知識を使い、諸課題を総合、分析、解決する能力を付与。(3) 英語・日本語コミュニケーション力を付与。

語学・教養課程44単位	専門課程94単位 ＋ 自由選択 6単位		
人文学3単位： 哲学、倫理学、タイ文明、日本と東アジア文明、西洋文明	基礎工学46単位： 製図、コンピュータ・プログラミング、工学物理および実習、機械工学1・2、工学数学、基礎工学ワークショップ、材料学、熱力学、流体力学、電気工学および実習、機械工学実習、材料力学、工学統計、製造工程、工学経済学	自動車工学必須29単位： 自動車工学1・2および実習1・2、自動車工学計測、機械振動、車軸構造、機械設計、開発と生産工程、自動制御、内燃機関と動力伝達機構	自動車工学選択 12単位： 排気と騒音制御、CAD/CAM/CAE、部品設計、ゴム加工、シートメタル加工、車体組立、車体技術、金型設計、樹脂成型機械と加工、自動車とエレクトロニクス、産業ロボット、製品設計、材料工学、熱伝導、エアコンシステム、ロジスティックス、設備保全、鋳造技術、品質管理、工学日本語1・2、特別テーマ、
社会学3単位： 心理学、政治・経済、商法		技術実習選択 7単位： 企業協同教育（事前教育＋インターンシップ研修）	
基礎数学・科学14単位： 物理学および実習、化学および実習、微積分学		プロジェクト選択7単位： AEプロジェクト （工学実習、AEプロジェクト1・2）	
語学24単位： ビジネス日本語、英語コミュニケーション			

情報学部：企業の経営効率を高め迅速かつ正確な意思決定とリスク低減の支援ツールとして、情報通信技術（ICT）は大変重要な役割を担っています。ICTは組織の長期的な競争のための戦略手段とも言えます。またICTシステムは情報の伝達、広報、商品・サービスのインターネット販売、人材開発、知識管理などにも活用されています。

情報学部情報技術学コース（IT）

☞TNIの情報学部は履修者がコンピュータ・プロムラミング、データベースとコンピュータ・ネットワークの設計・管理、マルチメディア技術、コンピュータ・グラフィック、経営データ処理、ERP、業務統合ソフト、企業資源計画、顧客管理、ウェブサイト上のサービスなど、さまざまな方面に活用する能力を身につけることに重きを置いています。本学部の履修者はICTがなくてはならぬ今日の企業の即戦力になります。

・情報学部　情報技術学コース（IT）課目例(135単位)

目的：(1) 企業でICT活用の知識と効率を付与。 (2) ICTシステムを効果・効率的に設計、実施、分析、管理する能力を付与。

語学・教養課程36単位	専門課程93単位 ＋ 自由選択6単位		
人文学3単位： 哲学、倫理学、タイ文明、日本と東アジア文明、西洋文明	IT基礎過程 37単位： コンピュータ数学、統計と確率、コンピュータ・プログラミング1・2、対象別プログラミングおよび実習、インターネット技術、コンピュータ組織、ネットワークと通信システムおよび実習、情報システム分析・設計、データベースシステムおよび実習、ソフトウェア工学	IT専門課程31単位： コンピュータシステム管理、ウエブ・サービス技術および実習、ネットワークと通信システムおよび実習、ウエブ設計・開発および実習、ITセンター経営、経営情報システム、ソフトウエア・プロジェクト管理、マルチメディア技術、ITセミナー、電子コマース	IT選択課程（IT企業協同教育18単位またはITプロジェクト21単位）： ・大企業のIT：顧客管理、ERP、業務統合ソフト、サプライチェーン管理（SCM）、製造資源計画、事業シミュレーション、地域情報システム（GIS） ・ネットワークシステム・セキュリティ、ネットワーク設計 ・無線通信、データベース管理システム最新情報、データ・ウエアハウスとマイニング、知識管理 ・コンピュータ・アニメ、携帯電話応用開発、コンピュータ・グラフィック設計、ゲーム開発、3Dアニメ、IT日本語、マルチメディア設計、データ圧縮 ・特別講座：IT特別講座1・2
社会学3単位： 心理学、政治・経済、商法		IT実習ー選択①・7単位： 企業協同教育（事前教育＋インターンシップ研修）	
基礎数学・科学6単位： 数学、IT科学		IT実習ー選択②・4単位： IT実習、ITプロジェクト1・2	
語学24単位： ビジネス日本語、英語コミュニケーション			

学内日本語スピーチ大会(左)

経営学部工業経営学コース(IM)

経営学部:今日の企業はグローバル競争に直面し、特に価格(C)、品質(Q)、納期(D)の全ての面で、厳しい要求を突きつけられています。企業幹部にとって、各種システムを効果的・効率的に管理すること、自己変革とカイゼン能力を内的に持つ組織と環境整備、不断に商品・サービス価値を向上すること、さらには社員能力の向上に努める必要があります。

☞TNI履修課程では、学習者に生産管理、品質管理、資本運用、人材開発・管理、流通管理、サプライチェーン管理、企業診断など、さまざまな分野の管理能力を身につけることを目標にしています。

◎また日本語・経営学コース(BJ)では、特に日本語学習に重きを置き、会計、財務、人事、マーケティング、ロジスティックス、国際経営など、日本企業、日系合弁企業、日系企業のサプライヤーなどに必要な課目を多数取り入れ、これからの企業になくてはならない知識と技能を修得します。

・工業経営学コース(IM)課目例(133単位)

目的:(1) 工場の経営・製造に関し、知識および理論・実務両面の能力を付与。
(2) 学んだ知識を現場に効果的に応用できる能力を付与。(3) 英語・日本語のコミュニケーションスキルを付与。

語学・教養課程42単位	専門課程85単位 ＋ 自由選択6単位		
人文学3単位: 哲学、倫理学、タイ文明、日本と東アジア文明、西洋文明 社会学3単位: 心理学、政治・経済、商法 基礎数学・科学6単位: 数学、科学 語学24単位: ビジネス日本語1・2・3・4・5、英語コミュニケーション1・2・3 語学選択6単位: ビジネス日本語、日本語コミュニケーション、経営管理日本語、日本事情、英語コミュニケーション、キャリア英語、英語プレゼン、経営管理英語	IM基礎過程 30単位: 統計と確率、基礎経済学、ビジネスコンピュータ、マーケティング、オペレーションズ・マネジメント、人的資源・組織管理、基礎会計学、定量的方法、商法と税務、企業財務、戦略経営、経営情報システム(MIS)	IM専門課程30単位: 動作研究、在庫管理、製造コスト管理、安全と環境管理、品質管理、生産計画と管理、サプライチェーン・ロジスティクス(物流)管理、企業倫理、企業診断と事業計画、ものづくり製造 IM実習ー選択①・7単位: 企業協同教育(インターンシップ前教育と実地研修) IM実習ー選択②・1単位: IM実習	IM選択課程 IM企業協同教育18単位またはIM実習24単位: ・IM:TQM、企業心理、サプライチェーン管理(SCM)、生産システムへのコンピュータ活用、IMの社会的課題、IMセミナー、トヨタ生産システム(TPS)、エネルギー管理(省エネ)、保全管理、FS(可能性調査)とプロジェクト管理、製造工程 ・人材資源開発:人材訓練と開発、労働法と労務、リーダーシップとチーム管理、組織開発と変化管理、監督技術、比較人材管理 ・経営一般:国際ビジネス、組織コミュニケーション、小企業経営、

大学院:今日の企業が抱える大きな課題の1つは、中堅管理者が、専門的な知識しか持っていなく、より広い視点で組織全体のシステムを見ることができないことです。それが原因で、バランスの取れない、非効率な経営になることがしばしば見られます。

☞TNIの教育課程は、柔軟性ある、変化に対応できる組織を作るため、知識・スキル付与のほか、組織全体を見渡す力を兼ね備え、企業および企業環境診断ができ、オペレーションレベル、工程、プロジェクト、部署および組織の改善案と戦略が立てられる工業経営者の育成を目指しています。

◎履修内容は、組織診断、戦略計画、バランスの取れた組織経営に必要な知識と技能として経営手法と診断手法を活用できるようにする。また生産管理、経理、マーケティング、人材管理の面において最新の問題解決法を使いこなす能力が身に付けられるように配慮されています。

・工学技術学コース(MET)課目例(36単位)

目的:(1) 工学知識を技術領域に実用的、効率的、効果的に応用する能力を付与。
(2) 問題解決・研究能力、工学的課題を企画・管理する能力を付与し、革新的創造力と自律的持続的に知識習得する力を付与。

ポンデート・デートナティー氏(MET)(左)生産関係コンサルタント:TNIを選んだのは、自分の学んだことの延長で、先生も日本での実務経験も踏まえた指導など、実際行動に移せる魅力ある内容。

ソンポーン・チャンテート氏(EEM)TTCモーター社代表:タイ日技術移転・発展で有名なTPAの支援があり、私の事業の自動車産業の成功事例を日本経験豊かな講師から教えてもらい、今後の指針・方向性を確認したかった。

第1年度	上級英語、上級工学数学、工学研究方法論、工学技術論、日本製造業経営、MOT、論文課題
第2年度	論文1・2、選択(日本の提携大学との交換留学生は、日本の論文課題に関連した研究課題を選択)

TNI組織

- TNIの最高意思決定機関は理事会で、スポン・チャユッサハキット理事長以下17人の役員と事務局長から成ります。
- TNIの常勤幹部は、クリサダー・ヴィサワティーラノン学長以下写真の通りです。
- 教職員数は2012年6月現在 合計230人です。(教員158人＋職員72人)

スポン・チャユッサハキット理事長(左)
Dr. Supong Chayutsahakij (東京大学)
(バンコク高速道路副会長)

プラユーン・シオワッタナ理事
Asst. Prof. Prayoon Shiowattana(電気通信大学・大阪大学)
(泰日経済技術振興協会(TPA)会長)

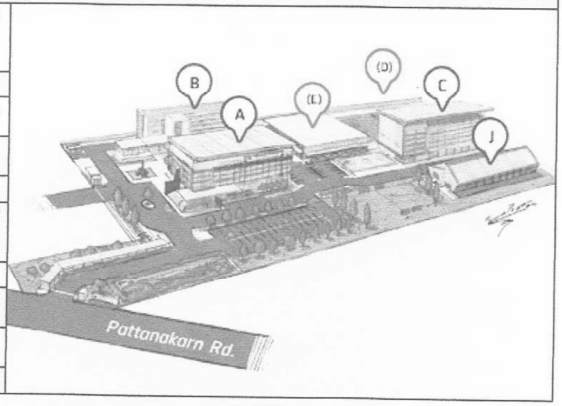
○ 教員幹部(カッコ内は日本留学歴)
学長:クリサダー・ヴィサワティーラノン Assoc. Prof. Dr. Krisada Visavateeranon (京都大学)
副学長:
・ボーンアノン・ニヨムカ・ホリカワ Ms. Pornanong Niyomka Horikawa (東北大学・一橋大学)
国際・広報担当
・バンディット・ローッアラヤノン Assoc. Prof. Dr. Bandhit Rojarayanont
(東京工業大学) 研究・産学連携担当
・ピチット・スクチャルーンポン Assoc. Prof. Dr. Pichit Sukcharoenpong
学術担当・大学院長
・プーンポーン・セーンバンプラ Assoc. Prof. Phulporn Saengbangpla 学生部担当

工学部長:レーキアット・ウォンサーンピグーン Assoc. Prof. Dr. Lerkiat Vongsarnpigoon
情報技術学部長:スラ・レカクン Prof. Dr. Sura Lekhakul
経営学部長:ランサン・ラートナイサット Mr. Rungsun Lertnaisat (京都大学)
語学・教養課程部長:ペンケー・プラチョンパチャヌック
Assoc. Prof. Dr. Penkhae Prachonpachanuk (東京大学)

TNI教職員幹部

施設の概要

所在地	タイ国バンコク首都スァンルァン区パタナカーン通り1771/1 バンコク都心から東へ約25キロ、バンコク国際飛行場から西へ10キロの所に位置します。(裏表紙の地図参照)
敷地面積	約15ライ(約7,500坪＝24,000㎡)
総床面積(建坪)	約17,000㎡で、下記D棟および一部はこれから建設します。
A 棟	図書室、講堂、語学視聴覚室、大学院教室、管理部門、学長室、教員室
B 棟	一般教室
C 棟	工学実習室、計測工学実習室、CNC実習室、CAD/CAM実W習室、自動車工学実習室、研究室など (金型設備などはタイ国有数の施設です)
D 棟	主として教室 (計画段階です)
E 棟	多目的ホール、食堂、体育館、図書室、学生活動室など (現在 食堂のみです)
J 棟	実習棟別館(1) エンジンテスト・エコカーなどのワークショップ、工作機械、工房
K 棟	実習棟別館(2) (計画段階です)

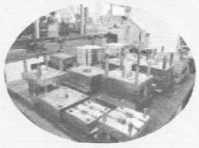


設備の概要(1)

教室:TNIの教室はすべてマルチメディア・サポートのエアコン付きです。履修課程にあった設計がなされ、講師と学習者の間で学習しやすい環境作りを心がけています。
実習室:工学部には、化学、物理学、基礎工学、電子工学、自動車工学、熱力学、工業デザイン、部品設計・製造、材料学の実験のための実習室があります。また情報技術実習室として、コンピュータ・プログラミング学習者用のコンピュータルーム、データベース管理、ウェブサイト経由サービス、通信およびコンピュータ・ネットワーク、コンピュータ・グラフィックのための実習室があります。
語学実習センター:学習者の英語・日本語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を養います。センターには、日本人講師が常駐し、能力測定テストを行ったり、語学能力証明書を発行したりするサービスも行います。

語学チャットルーム

金型製作実習室

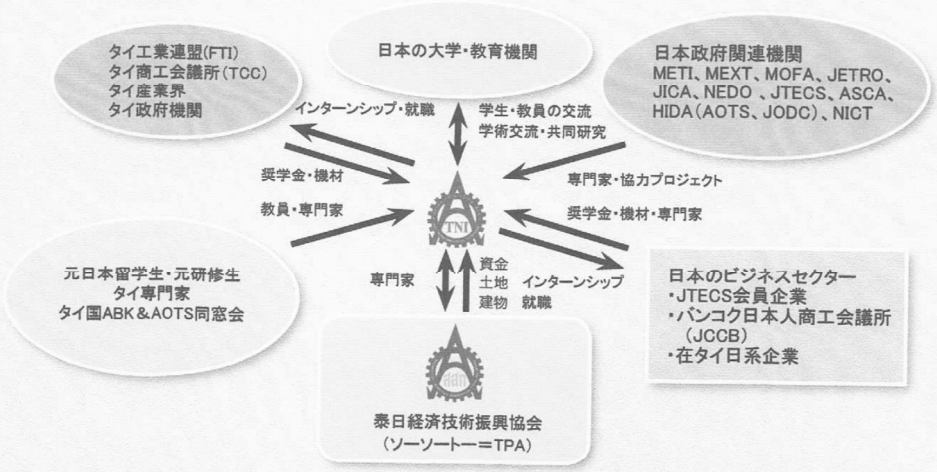


TNI協力ネットワーク

- TNIは日本とタイ両国のさまざまな機関と連携して、教育充実の実現を目指しており、このネットワークは、世界でもこれまでに例のない画期的な大学を実現しました。
- またTNIは日系企業を中心としたタイ産業界との密接な連携による実践的な教育を通し、実務的なエンジニア育成を実現することで、タイ産業の課題である中核産業人材の質的・量的不足の問題解消に貢献するとともに、今後のタイ日友好協力の更なる強化に向けた象徴として発展し貢献できることを目指しています。
- 日本の多くの大学・教育機関と提携し、共同研究、交換留学および講師の交換ほか、学生奨学金などでご支援・ご協力を頂いています。
- バンコク日本人商工会議所(JCCB)では、TNI開学前からTNI委員会を組織し、奨学金、機材、専門家、インターンシップ、学生就職のアドバイスをして頂いています。
- 日・タイ経済協力協会(JTECS)も同様の協力を頂いています。

TPAバッタナカーンセンター

JCCBご寄贈エンジン訓練セット



- 英文名称の簡略説明:METI=経済産業省、MEXT=科学技術文部省、MOFA=外務省(以上日本政府)、JETRO=日本貿易振興機構、JICA=国際協力機構、JTECS=日・タイ経済協力協会、ASCA=アジア学生文化協会、HIDA=海外産業人材育成協会(AOTS、JODC)、NEDO=新エネルギー・産業技術総合開発機構、NICT=情報通信研究機構

図書室

設備の概要(2)

コンピュータ・センター:最新コンピュータでインターネット検索が出来ます。講義やコンピュータ技術研修、さまざまなプログラム研修なども可能です。さらにインターネット経由で、履修登録、時間割確認、欠席した講義で使用された補助教材のダウンロードなども可能です。TNIは講義に出席できない社会人学生に便宜を図るため、ビデオ・コンファレンス・システムを取り入れています。また講義棟・事務棟は高速Wi-Fiを設置しています。

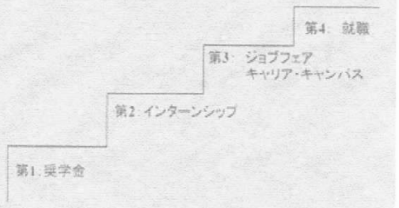
図書室:学問分野での情報技術サービスの中心であり、タイ国内外の書物、新聞、雑誌の閲覧ができ、勉学の質・効率を高めるのに役立っています。さらに履修過程に沿った学習内容が収められたビデオ、CDR、DVDなども充実しています。またコンピュータ検索プログラムにより資料を迅速に探すことができ、他機関の図書館から本を借りることもできるようになっています。

産学連携

世界の企業がグローバル時代に直面する中、TNIは「日系企業等に時代を担う産業人材を育成する」という使命を持ち、そのための重要手段として日系企業との4段階の協力があります。(右図参照)

- 最終的に就職で企業の具体的なニーズに合った学生を提供するのが狙いですが、それには、第1の奨学金の支援で、良い「素材」(資質)の学生に入学してもらい、企業の「日本語や英語や技術面など実際のニーズに応える能力者に理論面実践面で磨き上げ」ます。
- そして実践面で最も意義のあるのが第2のインターンシップです。
- 第3はジョブフェアとキャリア・キャンパスで学生への就職指導と会社説明会の開催です。
- そして第4は就職です。第一期生は100 %の就職率でした。
- TNIでは、タイの他大学に例を見ない学生のサポートを行い、父兄からも良い評価を受けています。

TNIと日系企業協力 4段階



奨 学 金

TNIでは学生に対し、以下の5種類の奨学金を用意しています。いずれも支給するにふさわしい学生であるかどうかを審査し、決定します。

1. TNI奨学金:日・タイ企業、公益団体などからのご支援で優秀な200人の学生に支給します。
2. 困窮学生向け奨学金:経済的理由で学費を納めることが困難な学生に支給されます。
3. 学資ローン:政府からの財政援助を受け、教育省大学委員会を介して支給されます。
4. 海外研修のための奨学金:TNIが国内外の機関と協力し支給します。
5. 海外留学のための奨学金と交換留学:TNIが国内外の機関または大学と協力し支給します。

日本企業から奨学金贈呈

TNI奨学金基金へのご協力のお願い

泰日工業大学(TNI)では、現在、『TNI奨学金基金』を募集しています。TNIはお陰さまで開学6年目を迎え、年間1000人を超える学部生入学規模になりました。開学趣旨の日系企業を始め、タイ産業界に貢献できる人材育成、とりわけ日系企業に通用するコミュニケーション能力と日本型ものづくり教育を通じて将来の産業中核人材を供出できる状況になりました。

奨学金は、日本の生産文化に関心を持つ優秀な学生をタイ全土から広く募集し、産業界のグローバルニーズに合致した人材に育てるため、全学部生の5%にあたる年間200人の意欲を持った優秀な学生に供します。

ご理解・ご協力・ご賛同をお願い申し上げます。

詳細はTNI奨学金募集要項をご参照ください。

インターンシップ

TNIは、国内外の先駆的企業350社と連携し、各専門分野に合致した現場でのインターンシップを実施しています。インターンシップを実施していただく多くの企業は日系企業で、またタイだけでなく、日本での実施もあります。

TNIでは通常でも、産業ニーズに合わせた実践的なカリキュラムを重視しており、その上での、このインターンシップによる日本の企業文化や企業実務体験は、その後の学生の就職観と人生に大きな影響を与えます。

アッカデート君(AE) トヨタTMAP一EM社で研修:
塗装タクトタイム(工程作業時間)短縮。(1)工程時間短縮では関連工程速度配慮などの課題も解決するなど現場で実際の仕事を習った。(2)個人の向上(責任感、安全帽・靴着用の重要性、グループで仕事をすること)に繋がった。(3)有名なトヨタ方式を習えた。

ティティラットさん(PE) フジ・アジア社で研修:
治具・取付具装着。(1)規律。(2)プロジェクト管理。(3)治具・取付具装着の知識。(4)会社の人と仲間付き合いができた。(5)金型や治具装着などは自動車産業に重要でもっと勉強したい。

いまなぜ奨学金?

TNIは、開学6年目の若い大学です。上記のようにグローバルな企業競争時代の産業人材養成という、明確な社会貢献の意図がありますが、まだ6年目で、それほど有名とは言えず、この奨学金は、タイ全国から意欲あって日-タイ関係に関心を持つ、優秀な学生を集める有力な動機になります。特に、これまでの国立有名大学などに互し、学費面などで経済力のない家庭からも募集できると考えます。なお頂戴する奨学金はすべて奨学金として使い(奨学生の学費・生活費に充当)、運営費には当てません。

TNIインターンシップは2種類あり、技術系はタイ語でサハキット=産学協同教育・企業研修と言い、事務系はタイ語でフクガーン=職業教育と言っています。

技術系学生は、4年生の4カ月間、ホスト企業で生産性向上、品質向上、ライン改善、治具装着段取り改善などのプロジェクトに取り組みます。一方、事務系学生は、3-5月の2カ月間、ホスト企業で会社全体の業務を把握し、レポートを提出します。

入学者選考

学生選抜は次の5通りで、前年10月から選考が始まります。

- 教育省高等教育委員会の定める、大学入学センター試験(CUAS)、またはGAT/PAT制度を利用し、10%が入学します。(数字は概数)
- 推薦入学制度を利用し、指定200の高等学校から30%が入学します。
- 学生が直接TNI独自作成の入学試験を受ける方法で60%が入学します。
- 理科、文化、音楽、スポーツに秀でている者を対象に若干名が入学します。
- 全国高校ロボコン大会で優勝したチーム。

新入生オリエンテーション

就職指導と求職ご相談

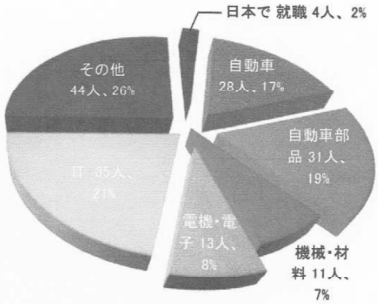
TNIは、10頁の産学協力例に見られるように、さまざまな産学連携・学生支援・サポートを行っています。

- インターンシップ・就職サポートセンター:卒業と同時にスムーズな就職を支援します。また企業研修相談指導を行っています。
  電話02-763-2750/2770 Fax02-763-2754
  Email: coopedu@tni.ac.th
- 日系企業専用就職・求職ウェブサイトを2012年に設置し、企業と学生の出会いを促進しています。www.JOBTNI.comをご参照ください。
  電話02-763-2752 Fax 02-763-2754
  Email: research@tni.ac.th

第一期卒業生の就職

- 2011年度はTNIで初めて学部卒業生が誕生。同年8月現在、卒業生225人中、就職希望者は179人、進学29人、単位未取得者17人でした。就職希望者のうち、兵役中の1人を除くと99%の就職率です。進学者のうちタイ国内が19人、海外が10人です。
- 第一期の卒業生は、人数自体が少なく、3倍近い求人需要に応えられませんでした。一方2012年度以降、卒業生が増大します。特に経営学部の日本語・経営学コース(BJ)専攻者が卒業し、ものづくり産業以外のニーズにも、より積極的に対応できる状況です。
- 右図で、166人の就職卒業生の内訳を見ると、自動車業界(組立・部品)就職者が多く、続いてITソフト、その他(その他製造業、流通業、金融機関等)の順になります。日系企業就職は全体の54%です。また4人が日本で就職していますが、彼らは、人材会社を経由し、日本語訓練をさらに受けるー方、日本で日本のやり方を体得したいという希望を聞きました。
- グローバル化を反映し、2012年度は日本本社の直接雇用が増えています。

第一期卒業生業種別就職者数



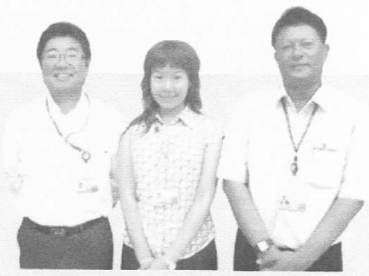
TNI生の日本語力

多くの日系企業の学生への関心の1つは、日本語がどの程度通じるかです。TNIの卒業生は、個人差がありますが、基本的な会話力を身につけています。

TNIでは、日本語能力検定試験の3・4級を目標に、日本語教育を週2回少なくとも3年の前期までに合計225時間(+自習はこの2倍。日本語・経営学コース(BJ)は720時間、いずれも選択時間を含まない時間)指導しています。なおTNIでは、小さいときに親と一緒に日本に滞在した者や高校から学習していた者を含み、1級・2級合格者もいます。

なお2010年に日本語能力試験は改定され、5段階になり、TNIが目標にしている平均等級は次の通りです。

- N3級=日常使われる日本語を理解(就労の日本語、場面に応じたやりとりも可能、漢字700字・語彙3,500語程度を習得)
- N4級=基本的な日本語を理解(ゆっくりした会話でのやり取りが可能、漢字300字・語彙1,500語程度を習得



カンラヤアさん:IM卒(豊田合成(T)社 総務課勤務)
富山県の大学で2年勉強したが十分でなく、2008年TNI・IMに編入し、社会人学生として金曜の夜、土日の2年半勉強した。「統計解析などの貴重な経験は今の仕事に役立っている」。杉山副社長:彼女は日本語1級資格を持ち、最初は通訳的な仕事を考えたが、資料のグラフ提案などの能力を見て、会社にとってより有用な存在と認識。
(杉山副社長(左)とアヌチャー人事部長を挟んで)

TNI年間スケジュール

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
前期				休み	後期				試験	夏休み 夏季講習 短期日本留学	
・4年生インターンシップ（通常4ヶ月）					・IMコースインターンシップ（4ヶ月）				・企業研修2カ月		
・新年度開始（6月初旬） ・学位授与式（9月中旬）					キャリア・キャンパス（11ー2月） ジョブフェア（2月中旬）					卒業・就職	
・TNI DAY＝創立記念祭（7月下旬）					・スポーツ祭						

2012.2.15学生の就職説明会に80社以上がTNIでブース紹介頂きました。

「TNIは学び舎だけでなく大家族」:
TNI大学校舎と隣接するアパート群に居住する学生も多い。

（団体競技）

ティーラタム元TNI学生会長：**入学前、学内を自分で調べ、綺麗で生活しやすい環境と、学習が理論・実践両面充実に好印象を持ちました。また先生は各分野で優れ、学生に的確・有益なアドバイスをしてくれます。さらに色々な奨学金制度も有難いことです。**

キャンパス・ハイライト

ロボット・コンテスト

世界エコカー大会

マングローブ植樹運動

JSTA全日本学生フォーミュラ大会に参加：
学生自ら自動車を設計製作し、構想提案・設計・コストから、走行・燃費生態までの「ものづくりの総合力」を競います。
国際競技会にTNIチームは積極参加：
TNI創造的ミニロボット大会など独自なものを含め、ものづくり・からくり大会、ロボコン（ロボット・コンテスト）大会、ロボットデザイン大会、インターネット・トレーディング大会、エコカー大会など国際的に頭脳と体力を養う競技に積極的に参加して入賞しています。

バンコク津波洪水チャリティーマラソン大会での「TNIよさこいクラブ」2012.3.11：
同チームはTNI外のイベントでも、よさこいぶしなどを紹介する人気グループです。
・他に大学間スポーツ大会、タイ舞踊会などに参加するサークルなどがあります。

- TNIの学期は6月に始まり、5月に終わります。
- 卒業が決定するのは通常4月初めの理事会以後になります。（学生は4-6月に卒業します。なお卒業式は9月に行われます）
- 3-5月は夏休み時期ですが、単位が取れる夏季講習があり、単位不足の学生も参加します。この時期、短期日本留学する学生も多くいます。なおこの単位の取り方によっては、10月に卒業する学生もいます。
- 学生は、キャンパスに隣接するアパートに居住し、日中の履修課程のほか、夜間・休日も課題・宿題・サークル活動に従事する場合が多く見られます。
- 4頁の「卒業生の声」に見られるよう、TNIは単なる学び舎だけでなく大家族という言葉が聞かれます。

国際交流

- 協力提携機関：日本の31の大学等（右図）と協力協定を結んでいます。（2012年7月現在）
- 2012年度は、約200名のTNI生が日本に1-2ヶ月から1年の留学をします。短期留学では、語学・文化・ホームステイ・各地見学が内容です。「短期だったが、日本語力向上はもちろん、新幹線の秒単位の運行など、タイでは勉強できない貴重な経験だった」との声が多く聞かれます。
- このほか静岡県や日本企業がスポンサーになって頂く日本研修の機会もあります。
- 日本人交換留学生も4日-10日間の研修旅行、1-2カ月の企業研修、半年の留学などがあります。
- またラオス国立大学経営大学院LJIと協力協定を結び、留学生を受け入れています。

タイ⇒日本

嘉悦大学主催（大田区産業振興協会等協力）TNI経営学部学生のための日本企業訪問研修プログラム（2012.3.12-5.21）に参加したタンヤナートさんとアシターさん（左から4・5人目）の報告会

国際学術交流 （*2011年度は東北大地震・津波の影響で参加学生が減りました）

年度	2007	2008	2009	2010	2011
協約提携数（累計数字）	12	18	26	27	32
TNIから日本の大学への交換留学生数		24	59	140	*135
日本の大学からTNIへの交換留学生数			17	32	67
ASEAN大学からTNIへの留学者（ラオス）					1
TNI教員の日本の大学への研究生派遣		4	5	11	17

ものつくり大学と兵庫県立大学からの学生（TNIで）

日本⇒タイ

東北工業大学学生

日本人学生の声：

寺院やタイ文化、工場見学など色々勉強できた。
タイ語の勉強もできたが、TNI生の日本語が上手だったことで、より交流できた。日本の大震災体験も伝えることができた。
会社研修は大変貴重で将来の社会準備となった。
（2012.3地震フォーラムに参加した東北工業大学学生4人の感想から）

ICBIR（TNIビジネス・産業研究国際会議）

ICBIRはTNIの全学部・大学院と日本など学術研究機関との学術交流会議で、隔年1回開催。
2012年5月の会議では、アセアン共同体（AEC）構想、工学、情報技術、経営学、語学・教養・文化をテーマに発表と意見交換が行われました。(1) 最新研究についての学術発表と意見交換、(2)タイ内外の学術機関の研究者の研究協力ネットワーク構築、(3) TNIの研究活動向上、(4) 最新の知見・研究成果の一般普及が目的です。

またTNIは2012年6-9月「アセアン共同体創生に向けてのアセアン経済共同体の産業協力」講座をバンコク・プノンペン・ホーチミン市の3都市で開催。
タイ・日本・カンボジア・ベトナムの講師と学生が主として参加し、バングラデシュ・インドネシア・シンガポールの講師のほか、各地の社会人参加も呼びかけます。
（写真：ベトナムのフィン・ムイ・タンロン技術学院長がTNI生と意見交換）

TNI支援機関リスト

（会社および団体名。アルファベット順．奨学金、設備・機材などのご協力を頂く）

(A)
- A.L.M.T. (T) Co., Ltd.
- A.P. Honda Co., Ltd.
- Advics Asia Pacific Co., Ltd.
- AEON (T) Co., Ltd.
- AGC Automotive (T) Co., Ltd.
- AGC Chemicals (T) Co., Ltd.
- AGC Flat Glass (T) PCL
- Aisin AI (T) Co., Ltd.
- Aisin Asia Pacific Co., Ltd.
- AOTS Bangkok Office (→presently HIDA)
- Aoyama Thai Co., Ltd.
- Aqua Nishihara Corp. Ltd.
- Architects and Associates Co., Ltd.
- Arrk Corp. (T) Ltd.
- Asahi Tec Aluminium (T) Co., Ltd.
- Asia Cultural & Technological Promotion Foundation (Hozumi)
- Asia Yamashita Works Co., Ltd.
- Asian Honda Motor Co., Ltd.
- Asian Marine Services PCL
- Asno Horie (T) Co., Ltd.
- Atsumitec (T) Co., Ltd.
- Auto Alliance (T) Co., Ltd.
- Auto Technic Co., Ltd.
- Azbil (T) Co., Ltd.

(B)
- Bangkok Expressway PCL
- Bangkok Metro PCL
- Bangkok Pacific Steel Co., Ltd.
- Bangkok Taiyo Springs Co., Ltd.
- Bedazzles Co., Ltd.
- Betagro PCL
- Big Daishowa Seiki Co., Ltd.
- Bookbridges Co., Ltd.
- Boss Printing Co., Ltd.
- Business Online PCL
- BYK Engg. Co., Ltd.

(C)
- Calbee Tanawat Co., Ltd.
- Canon Hi-Tech (T) Ltd.
- Cataler (T) Co., Ltd.
- Central Motor Wheel (T) Co., Ltd.
- CH. Karnchang PCL
- CH. Karnchang-Tokyu Construction Co., Ltd.
- Citizen Mfg. Asia Co., Ltd.
- Comfort Intl. Co., Ltd.
- Control Component Co., Ltd.
- Core Tech System Co., Ltd.
- CT Industry Co., Ltd.

(D)
- Daicel Safety Systems (T) Co., Ltd.
- Daido Sittipol Co., Ltd.
- Daihen Electric Co., Ltd.
- Daikin Industries (T) Co., Ltd.
- Dainichi Color (T) Ltd.
- Daisho (T) Co., Ltd.
- DENSO (T) Co., Ltd.
- DENSO Intl. (T) Co., Ltd.
- DENSO Intl. Asia Co., Ltd.
- Dia Resibon (T) Co., Ltd.
- Dyna Metal Co., Ltd.

(E)
- Ebara (T) Ltd.
- Enkei Thai Co., Ltd.
- ESSOM Co., Ltd.
- European Bakery Co., Ltd.

(F)
- FCC (T) Co., Ltd.
- February Thirty Co., Ltd.
- FMOT Ltd.
- Fujikasui (T) Co., Ltd.
- Fujitsu (T) Co., Ltd.
- Fujitsu General (T) Co., Ltd.
- Fujitsu Systems Business (T) Ltd.
- Fujitsu Ten (T) Co., Ltd.

(G)
- Grand Siam Composites Co., Ltd.

(H)
- Hayshi Telempu (T) Co., Ltd.
- Hino Motors Mfg. (T) Ltd.
- Hino Motors Sales (T) Ltd.
- Hitachi Asia (T) Co., Ltd.
- Hitachi Asia Ltd.
- Hitachi Chemical Asia-Pacific Pte. Ltd. (Bangkok Rep. Office)
- Hitachi Chemical Automotive Products (T) Co., Ltd.
- Hitachi Construction Machinery (T) Co., Ltd.
- Hitachi Global Storage Technologies (T) Ltd.
- Hitachi High-Technologies (T) Ltd.
- Hitachi Metals (T) Ltd.
- Hitachi Power Tools (T) Co., Ltd.
- Hitachi Rolls (T) Ltd.
- Hitachi Transport System (T) Ltd.
- Honda Automobile (T) Co., Ltd.
- H-One Parts (T) Co., Ltd.
- HYMOLD (T) Ltd.

(I)
- Ikura Seiki Co., Ltd.
- Inabata Thai Co., Ltd.
- Internet Foundation for the Development of Thailand
- Isuzu Engine Mfg. (T) Co., Ltd.
- Isuzu Group Foundation
- Isuzu Motor Co., (T) Ltd.
- Itochu (T) Ltd.
- Itochu Management (T) Co., Ltd.
- Iwatani Corp. (T) Ltd.

(J)
- JAC Personnel Recruitment Ltd.
- Japanese Chamber of Commerce, Bangkok
- JETRO Bangkok
- JFE Engg. & Construction (T) Co., Ltd.
- JFE Shoji Trade (T) Ltd.
- JFE Steel Corp.
- JICA (Japan Intl. Cooperation Agency)
- JODC (→presently HIDA)
- Jibuhin (T) Co., Ltd.
- JTEKT (T) Co., Ltd.
- JVC Mfg. (T) Co., Ltd.

(K)
- K Line (T) Ltd.
- K&U Enterprise Co., Ltd.
- Kawasaki Motors Enterprise (T) Co., Ltd.
- Kingfisher Holdings Ltd.
- Kobe Electronics Material (T) Co., Ltd.
- Kobe Mig Wire (T) Co., Ltd.
- Kobe Steel Ltd. (Bangkok Rep. Office)
- Kobelco Machinery Asia Pte. Co., Ltd.
- Korat Matsushita Co., Ltd.
- Kyocera Asia Pacific (T) Co., Ltd.
- Kyodo Die-Works (T) Co., Ltd.
- Kyoto Electric Wire (T) Co., Ltd.

(L)
- Limpanich Ltd.

(M)
- Mahle Siam Filter Systems Co., Ltd.
- Makino Milling Machine Co., Ltd.
- Marubeni Thailand Co., Ltd.
- Marubeni-Itochu Steel Pte. Ltd., Bangkok Branch
- Max Value Technology Co., Ltd.
- Meiwa Enterprise (T) Co., Ltd.
- Mikuni (T) Co., Ltd.
- Minebea Thai Ltd.
- Mitsubishi Co., (T) Ltd.
- Mitsubishi Electric Automation (T) Co., Ltd.
- Mitsubishi Electric Corp. Regional Office
- Mitsubishi Fuso Truck (T) Co., Ltd.
- Mitsubishi Heavy Industries (T) Ltd.
- Mitsubishi Motors (T) Co., Ltd.
- Mitsu & Co., (T) Ltd.
- Mitsui O.S.K. Lines (T) Co., Ltd.
- Mitsui Siam Components Co., Ltd.
- Mitsui Sumitomo Insurance Co., Ltd.
- Mitsumi (T) Co., Ltd.
- Mitutoyo (T) Co., Ltd.
- Mizuho Corporate Bank Ltd.
- Molten Asia Polymer Products Co., Ltd.
- Moresco (T) Co., Ltd.
- Mori Seiki Mfg. (T) Co., Ltd.
- Moriroku (T) Co., Ltd.
- Muang-Max (T) Co., Ltd.
- Muramoto Electron (T) PCL

(N)
- N.T.N. Bearing Thailand Co., Ltd.
- N.Y.K. (T) Co., Ltd.
- NDR Co., Ltd.
- NEC Corp. (T) Ltd.
- NEC Tokin Electronics (T) Co., Ltd.
- NESIC (T) Ltd.
- Netmarks (T) Co., Ltd.
- NHK Spring (T) Co., Ltd.
- Nihon Superior (T) Co., Ltd.
- Nikkei Siam Aluminium Ltd.
- Nikon (T) Co., Ltd.
- Nile (Thailand) Co., Ltd.
- Nippon Steel (T) Co., Ltd.
- NIPRO (T) Corp. Ltd.
- Nissan Diesel (T) Co., Ltd.
- Nissan Motor (T) Co., Ltd.
- Nissen Chemitec (T) Ltd.
- Nissin Electric (T) Co., Ltd.
- Nissin Mfg. (T) Co., Ltd.
- Nitto Denko Material (T) Co., Ltd.
- NOK Precision Component (T) Ltd.
- NSK Asia Pacific Technology Centre (T) Co., Ltd.
- NSK Bearings (T) Co., Ltd.
- NSK Bearings Mfg. (T) Co., Ltd.
- NTT Communication (T) Co., Ltd.

(O)
- Ocean Life Insurance Co., Ltd.
- Office of the Higher Education Commission
- Ohgitani Kogyo (T) Co., Ltd.
- Oji Paper (T) Ltd.
- Okamoto (T) Co., Ltd.
- Oki Data Mfg. (T) Co., Ltd.
- Omni Systems Co., Ltd.
- Ooh Alai Bangkok Co., Ltd.
- OSG (T) Co., Ltd.

(P)
- Panasonic (T) Co., Ltd.
- Panasonic Management (T) Co., Ltd.
- Pasona Employment Agency (T) Co., Ltd.
- Personnel Consultant Manpower (T) Co., Ltd
- Pioneer Mfg. (T) Co., Ltd.
- Pollard Co., Ltd.
- Professionals' Network in Advanced Instrument Society (PAI-NET)

(R)
- Ray Business (T) Co., Ltd.
- Rohm Integrated Systems (T) Co., Ltd.
- Rondex (T) Co., Ltd.
- Rotary Club of Bangrak
- Ryoei Engg. Co., Ltd.

(S)
- SAEILO (T) Co., Ltd.
- S.E.I. Group CSR Foundation
- S.E.I. Thai Holding Co., Ltd.
- Sanno R & D Co., Ltd.
- Satake (T) Co., Ltd.
- SBCS Co., Ltd.
- SEI Break Systems (T) Co., Ltd.
- SEI Interconnect Products (T) Ltd.
- Seiko Precision (T) Co., Ltd.
- Sews Asia Technical Center Ltd.
- Sews Components (T) Ltd.
- Sharp Appliances (T) Ltd.
- Sharp Mfg. (T) Co., Ltd.
- Sharp Thai Co., Ltd.
- Shizuki Electric (T) Co., Ltd.
- Siam Aisin Co., Ltd.
- Siam Cosmos Service Co., Ltd.
- Siam Electric Industries Co., Ltd.
- Siam Fresh Co., Ltd.
- Siam Goshi Mfg. Co., Ltd.
- Siam HPM Co., Ltd.
- Siam Mitsu PTA Co., Ltd.
- Siam Nissan Automobile Co., Ltd.
- Siam NSK Steering Systems Co., Ltd.
- Siam Toyodensan Co., Ltd.
- SKB Tech. (T) Co., Ltd.
- SMCC (T) Co., Ltd.

- SMFL Leasing (T) Co., Ltd.
- Sodick (T) Co., Ltd.
- Sojitz (T) Co., Ltd.
- Sompo Japan Insurance (T) Co., Ltd.
- Sony Device Technology (T) Co., Ltd.
- Sritong Nameplate Co., Ltd.
- Sum Hitechs Co., Ltd.
- Sumiden Hyosung Steel Cord (T) Co., Ltd.
- Sumiden Intl. Trading (T) Co., Ltd.
- Sumiden Shoji (T) Co., Ltd.
- Sumipol Co., Ltd.
- Sumitomo Corp. Thailand Ltd.
- Sumitomo Electric (T) Ltd.
- Sumitomo Electric Hardmetal Mfg. (T) Ltd.
- Sumitomo Electric Industries, Ltd.
- Sumitomo Electric Sintered Components (T) Co., Ltd.
- Sumitomo Electric Wintec (T) Co., Ltd
- Sumitomo Electric Wiring Systems (T) Ltd.
- Sumitomo Metal Industries, Ltd.
- Sumitomo Mitsui Banking Corp.
- Summit Auto Body Industry Co., Ltd.
- Suncall High Precision (T) Ltd.
- Sylvac Asia Co., Ltd.
- SWS Logistics & Marketing (T) Co., Ltd.

(T)
- T&J Earth Mechatronics Co., Ltd.
- T. Rad (T) Co., Ltd.
- T.S.B. Products Ltd. Partnership
- Taisei (T) Co., Ltd.
- Takao (T) Co., Ltd.
- Takata-Toa Co., Ltd.
- TBTS (T) Co., Ltd.
- Techno Associe (T) Co., Ltd.
- Technology Promotion Association (Thailand-Japan)
- Technology Promotion Institute Foundation
- Teijin Polyester (T) Ltd.
- Textile Prestige PCL
- Thai Asahi Denki Co., Ltd.
- Thai Asahi Glass PCL
- Thai Bridgestone Co., Ltd.
- Thai Chemical Copr. Ltd.
- Thai Honda Mfg. Co., Ltd.
- Thai International Die Making Co., Ltd.
- Thai Kajima Co., Ltd.
- Thai Kamaya Co., Ltd.

- Thai Kikuwa Industries Co., Ltd.
- Thai Koito Co., Ltd.
- Thai Kurabo Co., Ltd.
- Thai Long Distance Telecommunication Co., Ltd.
- Thai Mitchi Corp. Ltd.
- Thai MMA Co., Ltd.
- Thai Nippon Seiki Co., Ltd.
- Thai NISCA Co., Ltd.
- Thai Nishimatsu Construction Co., Ltd.
- Thai Nissei Lamination Co., Ltd.
- Thai Obayashi Corp. Ltd.
- Thai Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.
- Thai PET Resin Co., Ltd.
- Thai Polyacetal Co., Ltd.
- Thai Polycarbonate Co., Ltd.
- Thai Secom Pitakkij Co., Ltd.

- Thai Semcon Co., Ltd.
- Thai Seng Trading Co., Ltd.
- Thai Shimizu Co., Ltd.
- Thai Sintered Products Co., Ltd.
- Thai Sintokogio Co., Ltd.
- Thai Stanley Electric PCL
- Thai Steel Pipe Industry Co., Ltd.
- Thai Summit Mitsuba Electric Mfg. Co., Ltd.
- Thai Takeda Lace Co., Ltd.
- Thai Takenaka Intl. Ltd.
- Thai Tinplate Mfg. Co., Ltd.
- Thai Toshiba Electric Industries Co., Ltd.
- Thai Toshiba Lighting Co., Ltd.
- Thai Wacoal PCL
- Thai Yamaha Motor Co., Ltd.
- Thai Yazaki Corp. Ltd.
- Thai-Kobe Welding Co., Ltd.
- Thailand Automotive Institute
- Thaioil PCL
- Thanachart Bank PCL

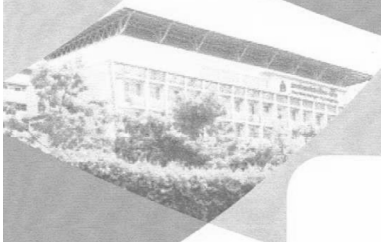
- The Bank of Thailand
- The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.
- The Siam United Steel (1995) Co., Ltd.
- The Srimuang Insurance Co., Ltd.
- Thumrongwat Co.
- TIPS Ltd.
- TJ Prannarai Communication Co., Ltd.
- Togo Seisakusyo (T) Co., Ltd.
- Tokai Eastern Rubber (T) Ltd.
- Topy Fasteners (T) Ltd.
- Toray Industries (T) Co., Ltd.
- Toshiba Asia Pacific Pte. Ltd. (Bangkok Office)
- Toshiba Carrier (T) Co., Ltd.
- Toshiba Consumer Products (T) Co., Ltd.
- Toshiba Hokuto Electronic Device (T) Co., Ltd.
- Toshiba Lighting Components (T) Ltd.
- Toshiba Semiconductor (T) Co., Ltd.
- Toshiba Storage Devicen (T) Co., Ltd.
- Tostem Thai Co., Ltd.
- Toyo Roki (T) Co., Ltd.
- Toyoda Gosei Rubber (T) Co., Ltd.
- Toyota Motor Asia Pacific Engg. & Mfg. Co., Ltd.
- Toyota Motor Thailand Co., Ltd.
- Toyota Technical Center Asia Pacific (T) Co., Ltd.
- Toyota Tsusho (T) Co., Ltd.
- Transtron (T) Co., Ltd.
- TRD Asia Co., Ltd.
- Tripech Isuzu Sales (T) Ltd.
- Tsubakimoto Automotive (T) Co., Ltd.

(U)
- UEL Asian Co., Ltd.
- Union Chojirushi Co., Ltd.
- Unisia JECS (T) Co., Ltd.
- Univance Corp.
- Utility Business Alliance Co., Ltd.

(W)
- We-Ef Lighting Co., Ltd.

(Y)
- Y S PUND Co., Ltd.
- Y.M.P. (T) Co., Ltd.
- Yamasei Thai Co., Ltd.
- Yamatake (T) Co., Ltd.
- Yanmar S.P. Co., Ltd.
- Yorozu (T) Co., Ltd.

注：2012.7現在 341機関。
読みやすくするため名称の一部を略称：
Co. = Company, Corp. = Corporation,
Engg. = Engineering, Intl. = International,
Ltd. = Limited, Mfg. = Manufacturing,
PCL= Public Company Limited,
Rep. = Representative, (T) = Thai/Thailand



สถาบันเทคโนโลยีไทย-ญี่ปุ่น
泰日工業大学
Thai-Nichi Institute of Technology

1771/1Pattanakarn Rd., Suan Luang, Bangkok 10250 Thailand
電話(02)763-2600 Fax(02)763-2754 www.tni.ac.th
Email連絡先: 国際関係 international@tni.ac.th
広報関係 pr@tni.ac.th
インターンシップ coopedu@tni.ac.th
JOBTNI research@tni.ac.th

バンコク都心から東へ約25キロ、スワンナプーム国際空港から西へ約10キロ
公共バスNos.11・92・133・206・517でパッタナカーン通り・ソイ37とソイ39の中間で下車

2012年7月発行

水産分野における
技能実習生の来日前研修

ヌガラ国立第２職業高校

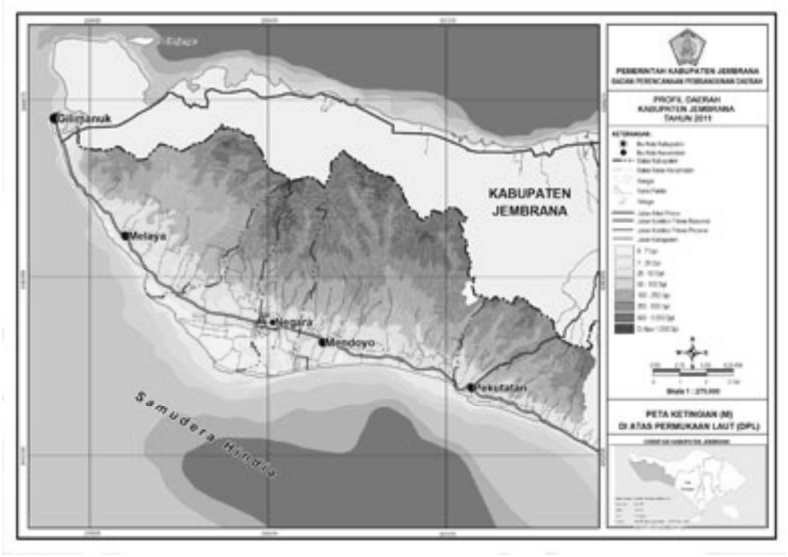
ジュンブラナ県

ジュンブラナ県の地区

ジュンブラナ県はバリ州に内に存在す九地区と都市一つである。西部バリにあり、西から東へ伸び、南緯 8°09'30" - 8°28'02"と東経 114°25'53" - 114°56'38"である。ジュンブラナ県の地区の面積はバリ島の地区の面積から、約 841,800 平方キロメートルである。地域の地形はインドネシア洋に境を接する南部に平野部(海岸)と北部に山岳地方を覆う。真ん中は都市地域である。

首都：ヌガラ
上の行政区でジュンブラナ県は五で構成されている。

1. ムラヤ区
   ムラヤ区の面積は 197,19 平方キロメートル
2. ヌガラ区
   ヌガラ区の面積は 126,6 平方キロメートル
3. ジュンブラナ区
   ジュンブラナ区の面積は 93,l87 平方キロメートル
4. ムンドヨ区
   ムンドヨ区の面積は 294,49 平方キロメートル
5. ペクタタン区
   ペクタタン区の面積は 129,65 平方キロメートル



潜在的漁業

ジュンブラナ県は 604.24 平方キロメートルの海の面積約を持って、バリ州に最大の魚の生産地である。南部ジュンブラナな県のペンゲラゴアンから西部ジュンブラナ県のギリマヌクまで広がっている海岸である。この海岸沿いに住んでいる住民は、漁師として生活して、伝統的な漁師としても現在の漁師としてもいる。

- ジュンブラナ県は約 604.24 平方キロメートルの海域を持っている。
- 西部バリの海域海洋水産資源の不変な潜在的は一年で 5.6947 トンである。
    - 遠洋は一年で 53947 トンである。
    - 海底に生息するのは一年で 3877 トンである。
- 漁獲量の種類：レムル、まぐろ、ラヤン、ロブスター、いか、クラプ、他の魚の種類である。
- 支配的な漁具；まき網、刺網
    - まき網 74 台
    - 刺網 1277 台

- 逮捕の艦隊
    - 発動機船：8 台
    - 船外発動機小船：1560 台
    - 発動機なしの小船
- 2010 年の魚の生産
    - 海水魚：23.309 トン
    - 養魚地の培養：1.414，7 トン
    - 一般的な水域：36 トン
    - 池：226，8 トン

ジュンブラナ県の漁師の数

- 最良の漁師：7538 人
- 副業の漁師：2515 人

潜在的労働者

バリ州は特にジュンブラナ県がきれいな自然を持っていることと、外国人観光客の訪問の目的なことと、多数住民はヒンドゥ教を知られているに加えて、最近、丁寧、誠実、規律、勤勉、粘り強、外国で仕事するとき抗議がないので知られている。今まで、日本で実習した実習生は大勢いる、特に農業と畜

産業である。現在において、ジュンブラナの政府は日本へ研修技能実習協会と共同し、ジュンブラナ県の若者を実習することを準備して、特に漁業である。

ジュンブラナ県には漁業の技能プログラと ISO 9001: 2008 の証明書を認定された水産製品の加工技術の専門知識をプログラムを持つ国立職業高校がある。

2011 年以来、国立職業高校は漁業技能プログラと漁業製品の加工技術の専門知識のプログラムが始まりました。今まで数百の漁業産業の様々な分野で仕事している卒業生を卒業しました。

ヌガラ国立第２職業高校の授業

NPL
22

W.R.S

SURVEY KOMPETENSI SMK DAN POLITEKNIK PADA EMPAT KOTA BESAR DI INDONESIA

PT DASINDO PRATAMA

2014

BAB 1
PENDAHULUAN

1.1. Latar Belakang

Indonesia merupakan negara yang berpenduduk terbesar keempat di dunia sesudah China, India, Amerika Serikat. Berbeda dengan Amerika Serikat, penduduk Indonesia masih didominasi oleh penduduk usia produktif yaitu 15 tahun keatas, yang memerlukan lebih banyak lapangan kerja. Diproyeksikan Indonesia akan mengalami bonus demografi pada tahun 2020-2040, yaitu masa dimana angka beban ketergantungan penduduk mencapai titik terrendah. Bonus demografi ini akan menjadi bonus apabila seluruh penduduk produktif terserap di dalam pasar kerja. Untuk mencapai kondisi tersebut Indonesia harus mampu meningkatkan kualitas SDM nya dan juga menyiapkan kesempatan kerja untuk menampung penduduk usia produktif tersebut.

Indonesia sebenarnya sudah melakukan berbagai upaya untuk meningkatkan SDM melalui pendidikan dan pelatihan.Program wajib belajar 9 tahun bagi seluruh penduduk terutama penduduk miskin sudah dijalankan, namun pendidikan tersebut tidak cukup untuk memenuhi kebutuhan ketenagakerjaan.Oleh sebab itu diperlukan wajib belajar 12 tahun, sehingga diharapkan semua penduduk produktif mempunyai pendidikan minimal SMA.Namun demikian, pendidikan SMA masih belum menjadi jaminan bahwa SDM Indonesia siap masuk ke pasar kerja, karena lulusan sekolah menengah masih belum bias menjawab tantangan tenag akerja terampil yang dibutuhkan oleh dunia usaha. Oleh sebab itu pemerintah kemudian mendorong sekolah-sekolah kejuruan, untuk mempersiapkan SDM siap pakai.

Pemerintah juga telah membuat kebijakan untuk meningkatkan jumlah sekolah dan lulusan sekolah kejuruan seimbang dengan lulusan sekolah umum.Namun permasalahan yang terjadi adalah bahwa pemerintah tidak mempunyai grand desain arah pendidikan yang jelas.Pendidikan di Indonesia terkesan tambal sulam, karena setiap terjadi penggantian cabinet terjadi penggantian tatacara dan kurikulum sekolah.Kurikulum yang satu belum tuntas diaplikasikan, sudah dirubah dengan kurikulum baru. Hal yang sama juga terjadi pada tatacara pendidikan yang dilaksanakan selama ini.

Kondisi ini tentu saja menjadi hal yang perlu diperhatikan terutama menjelang globalisasi yang telah dicanangkan sejak beberapa tahun yang lalu, termasuk dibukanya pasar bebas ASEAN tahun 2015 nanti. Berbeda dengan negara-negara ASEAN yang lain, Indonesia tidak mempunyai strategi, program dan kebijakan yang jelas. Semuanya dibiarkan tanpa arah.Padahal pasar bebas ASEAN menjadi ancaman yang nyata bagi Indonesia, mengingat bahwa SDM Indonesia masih rendah dari sisi kualitas maupun produktifitasnya. Berbagai negara ASEAN lain telah mempersiapakn SDM mereka untuk mengisi kekosongan tenaga kerja trampil di Indonesia, dan jika ini dibiarkan terus maka Indonesia hanya akan menjadi penonton di negeri sendiri. Sementara pasar bebas di Luar Negeri baru hanya diisi oleh Indonesia dengan tenaga kerja kasar.

Oleh sebab itu untuk menyambut Asean Economic Community dan pasar bebas global, Indonesia perlu menata kembali program peningkatan kualitas SDM agar mampu bersaing dengan Negara-negara ASEAN lainnya baik didalam maupun di luar negeri.Hal ini harus segera dilakukan mengingat bahwa produktifitas SDM Indonesia masih berada dibawah rata-rata negara ASEAN lainnya. Beberapa Negara ASEANlainnya sudah bersiap-siap meningkatkan SDM mereka untuk bias bekerja di kawasan ASEAN termasuk

Indonesia. Menghadapi srbuan calon tenaga kerja asing ini maka pendidikan di Indonesia harus mampu menghasilkan lulusan yang mempunyai standar kompetensi yang ditandai dengan sertifikasi bidang keahlian tertentu.

Sejalan dengan hal tersebut perlu dilakukan pemetaan tentang kualitas SMK, minat dan harapan siswa terhadap SMK dan politeknik dan bagaimana SMK harus dikelola ke depan agar memenuhi standar kompetensi yang diinginkan. Salah satu Negara yang mempunyai perhatian terhadap keberadaan SMK adalah Jepang yang menginginkan adanya keterpaduan standar ompetensi sehingga lulusan SMK baik di Indonesia maupun Jepang dapat bergerak bebas secara global dan regional

1.2. Tujuan

Tujuan dari survey ini adalah untuk memperoleh gambaran tentang kondisi SMK dilihat dari kurikulum, sarana dan prasarana pendidikan, kualitas/standar kompetensi serta permasalahan yang dihadapi.

Tujuan khusus adalah :

1. Memperoleh gambaran tentang kurikulum SMK
2. Memperoleh gambaran tentang minat siswa dan kualitas sekolah
3. Memperoleh gambaran tentang permasalahan yang dihadapi oleh SMK
4. Memperoleh gambaran standar kompetensi yang dibutuhkan.

1.3. Ruang Lingkup

1.3 Ruang lingkup dari kajian ini adalah:

1. Gambaran kondisi SMK maupun politeknik dilihat dari sarana dan prasarana sekolah
2. Gambaran kurikulum secara umum
3. Gambaran standar kompetensi yang dimiliki
4. Kemungkinan adanya kerjasama untuk membuat double degree bagi SMK maupun politeknik untuk meningkatkan kapabilitas lulusan sekolah vokasi.

1.4 Keluaran

Keluaran dari kajian ini adalah peta pendidikan vokasi di Indonesia, yang dilengkapi dengan kelebihan dan kelemahannya serta hal=hal apa saja yang harus dilakukan untuk perbaikan, dengan tujuan menjadi dasar pengembangan sekolah vokasi dengan system double degree, dengan pengembangan jejaring dan kerjasama dengan luar negeri.

BAB 2
METODE PENELITIAN

2.1. Metode

Metode yang digunakan adalah metode kuantitatif dengan wawancara menggunakan kuesioner terstruktur, untuk murid SMK, guru baik di SMKmaupun politeknik yang diambil sebagai sampel. Kuesioner terstruktur digunakan untuk memperoleh gambaran tentang kondisi SMK dilihat dari sarana dan prasarana, kurikulum, pendapat siswamaupun guru/dosen tentang kurikulum yang digunakan, standar kompetensi, perluasan jejaring dengan sekolah lain maupun dengan dunia usaha serta dengan pihak luar negeri.

Selain metode kuantitatif juga dilakukan metode kualitatif untuk mempelajari kebijakan yang dilakukan oleh SMK maupun politeknik yang diobservasi, permasalahan dan

rekomendasi yang pernah ada.Metode kualitatif dilakukan dengan wawancara mendalam dengan kepala sekolah atau dekan/wakil dekan yang membidangi bidang akademis.

2.2. Lokasi Penelitian dan Jumlah Sample

Penelitian dilakukan di 4 kota yaitu Bandung, Jakarta, Semarang dan Denpasar, masing-masing kota akan diambil 2 SMK dan 2 politeknik dengan program studi yang berbeda-beda.SMK/politeknik yang diambil sebagai sampel tidak hanya sekolah negeri tetapi juga sekolah swasta.

2.3. Sampel

Penelitian ini akan mengambil sampel sebanyak 2 SMK dan 2 Politeknik baik negeri maupun swasta di setiap kota yang diamati. SMK yang dipilih adalah SMK yang mempunyai kualitas baik dan mempunyai salah satu dari jurusan yang diinginkan dalam penelitian ini yaitu elektronika, otomotive, tata rambut, tata busana, gizi, teknologi informasi, akuntansi, pariwisata, bahasa dan akuntansi.

Dari masing-masing SMK diambil 4 murid, 2 murid klas 2 dan 2 murid klas 3, masing-masing satu laki-laki dan satu perempuan. Hal yang sama juga dilakukan untuk politeknik. Masing-masing lembaga penelitian diambil 4 guru/dosen pengampu mata pelajaran/kuliah yang penting di lembaga pendidikan tersebut sesuai dengan kompetensinya.

Adapun pemilihan responden adalah sebagai berikut:

1. Jakarta
    a. SMK jurusan otomotive

b. SMK Jurusan Teknologi informasi

c. Politeknik program studi Elektronika

d. Politeknik Akuntansi

2. Semarang

a. SMK jurusan otomotive

b. SMK Jurusan Teknologi informasi

c. Politeknik program studi Elektronika

d. Politeknik Akuntansi

3. Bandung

a. SMK jurusan bahasa

b. SMK Jurusan tata busana

c. Politeknik program gizi

d. Politeknik pariwisata

4. Denpasar

a. SMK jurusan Pariwisata

b. SMK Jurusan Tata Rias

c. Politeknik program Bahasa

d. Politeknik Teknologi informasi

Jadi jumlah responden yang diwawancarai adalah 128 dengan rincian sebagai berikut:

- 2 SMK x 4 murid x 4 Kota = 32 orang murid
- 2 SMK x 4 guru x 4 Kota = 32 orang guru SMK
- 2 Pol x 4 mhs x 4 Kota = 32 orang mahasiswa
- 2 Pol x 4 dosen x 4 Kota = 32 dosen

Untuk melengkapi data yang dikumpulkan maka setiap lembaga pendidikan diwawancara kepala sekolah SMK atau wakilnya serta dekan atau wakil dekan bidang akademis.Kuesioner tersetruktur dan pedoman wawancara dapat dilihat pada lampiran.

2.4. Pengolahan data dan analisis

Data akan dientry dan diolah dengan menggunakan program SPSS, dengan menyusun tabulasi silang berdimensi 2 atau 3. Analisis dilakukan dengan analisis deskripsi baik untuk kuantitatif maupun kualitatif.

Bab 3
Kajian Pustaka

Indonesia mempunyai posisi penting didunia dalam hal potensi ekonomi.Selain sebagai pasar dunia yang cukup besar, Indonesia juga pemasok tenaga kerja potensial dunia. Dari sisi pertumbuhan ekonomi Indonesia telah menempati urutan ke 17 ekonomi terbesar di dunia. Indonesia juga menjadi negara ASEAN yang aktif di forum-forum internasional seperti G-20, APEC, dan kerjasama bilateral lainnya.Krisis tahun 2008 yang melanda dunia telah berhasil dilalui Indonesia dengan baik tanpa implikasi yang berarti, dan ini telah diapreasiasi oleh negara-negara dunia dan lembaga-lembaga internasional sebagai negara yang cukup stabil terhadap resesi dunia.

Meskipun demikian, Indonesia masih mempunyai tantangan dalam pembangunan ekonomi ke depan yang harus diantisipasi sejak dari sekarang. Jumlah tenaga kerja yang besar, kualitas yag belum memadai serta iklim berusaha yang belum memadai menjadi tantangan yang cukup berat untuk diselesaikan. Indonesia harus siap menghadapi berbagai perubahan dunia yang mengglobal dengan segala implikasi yang akan terjadi. Letak Indonesia sangat strategis di titik pertumbuhan ekonomi dunia yaitu kawasan Asia Timur yang termasuk didalamnya Cina, Malaysia, Filipina, Kamboja, Thailand, Korea, Fiji dan Vietnam (Bank Dunia). Tantangan yang harus diselesaikan adalah bagaimana Indonesia menempatkan tenaga kerjanya dalam kawasan ekonomi global, yang berdaya saing, mandiri dan beretika. Dengan demikian, tenaga kerja ini akan menjadi tenaga kerja yang disegani dikawasan global.

3.1 Penduduk sebagai Potensi Ekonomi

Indonesia merupakan negara dengan jumlah penduduk terbesar keempat didunia yaitu 237,6 juta. Penduduk tersebut didominasi oleh penduduk usia produktif 15 – 64 tahun, yang terus membesar sebagai akibat kelahiran dimasa lalu. Implikasinya adalah beban

ketergantungan akan menurun dan Indonesia akan mencapai masa bonus demografi pada tahun 2020-2040 nanti. Bonus demografi ini secara teori akan memberikan keuntungan ekonomi yang disebabkan penurunan rasio ketergantungan (Adioetomo, 2005). Lebih lanjut dikatakan bahwa peningkatan jumlah penduduk usia kerja akan ikut mengurangi investasi untuk penduduk muda (0-15 tahun) sehingga sumber daya yang ada dapat dialihkan untuk memacu pertumbuhan ekonomi dan peningkatan kesejahteraan keluarga. Bonus demografi yang disebabkan oleh transisi demografi akan berdampak pada ; 1) peningkatan jumlah tenaga kerja yang apabila mendapatkan kesempatan kerja produktif akan meningkatkan total output, 2). Peningkatan tabungan, 3) tersedianya human capital yang jumlahnya banyak.

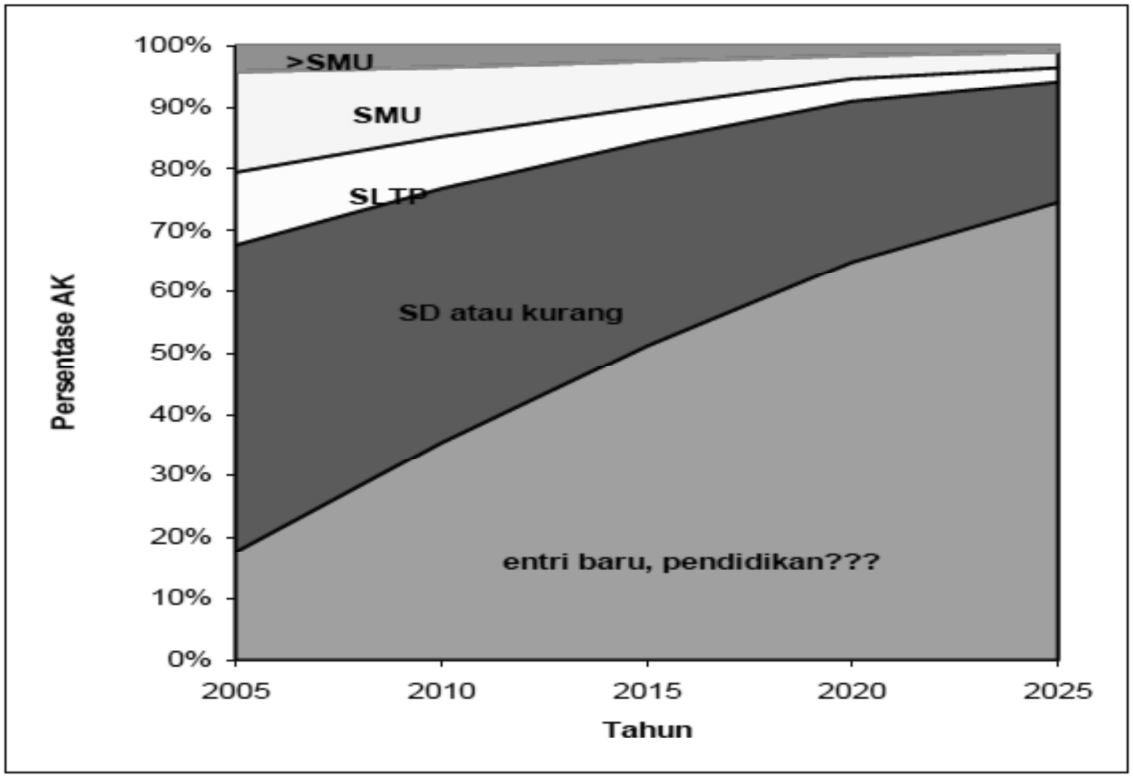
Penurunan angka kelahiran yang cukup sigifikan sejak era 70an telah menyebabkan jumlah penduduk usia dibawah 15 tahun mengecil dari tahun ke tahun, namun konsekuensinya usia produktif terus meningkat sesuai dengan pergeseran umur penduduk. Kondisi ini menyebabkan beban ketergantungan mencapai angka terrendah, atau yang disebut sebagai bonus demografi. Secara teori bonus demografi mempunyai implikasi yaitu pada keuntungan ekonomi karena penduduk produktif hanya menanggung penduduk non produktif yang sedikit sehingga terjadi peningkatan kemampuan untuk menabung baik di level keluarga maupun level masyarakat, yang pada gilirannya tabungan tersebut kemudian bisa digunakan untuk investasi sumber daya manusia maupun investasi ekonomi lainnya.

Peningkatan jumlah penduduk produktif ini merupakan potensi untuk mendorong percepatan pertumbuhan industri di Indonesia.Namun demikian, kenyataan menunjukkan bahwa penduduk yang besar ini masih memiliki kualitas yang rendah. Adioetomo (2009) menemukan bahwa entry baru tenaga kerja Indonesia pada

periode 2000-2010 sebanyak 44 juta, yang berpendidikan rendah. Kondisi ini akan sulit diperbaiki, karena mereka yang sudah masuk kedalam kelompok tenaga kerja dengan pendidikan dan ketrampilan yang rendah, akan terus berada pada kondisi tersebut. Peningkatan jumlah penduduk usia kerja ini ke depan, merupakan isu global yang tidak saja dialami oleh Indonesia tetapi juga negara-negara lain di dunia. Kebutuhan kesempatan kerja yang banyak juga dibutuhkan oleh penduduk dunia, sehingga ke depan persaingan baik di dalam negara maupun secara global akan semakin ketat. Berbagai negara sudah mempersiapkan SDM mereka untuk memasuki persaingan global.

Adioetomo (2008) menyatakan bahwa ketenagakejaan Indonesia masih diwarnai dengan tenaga kerja yang berpendidikan rendah dan tidak mempunyai ketrampilan yang memadai. Penduduk muda yang pada tahun 2005 berusia 5-19 tahun sudah telah memasuki angkatan kerja akan terus berada di angkatan kerja sampai selama 50 tahun mendatang sampai usia pension 60-65 tahun. Kualitas angkatan kerja di masa depan ini akan dapat terkoresi apabila ada upaya peningkatan mutu dan tingkat pendidikan yang cukup. Lebih lanjut dikatakan tahun 2007 terdapat 43 juta penduduk usia 15-24 tahun dan sekitar 22,5 juta telah masuk angkatan kerja, namun sekitar 25,1% (5,6 juta) diantaranya menganggur.

GAMBAR 3.1
PROYEKSI ANGKATAN KERJA LAMA MENURUT PENDIDIKAN DAN ENTRI BARU



Sumber Adioetomo (2007)

Oleh sebab itu peningkatan kualitas SDM harus terus dilakukan untuk menghadapi era globalisasi tersebut, terutama menghadapi *ASEAN Economic Community* yang akan diberlakukan pada tahun 2015. Peningkatan kuantitas dan kualitas pendidikan, balai-balai latihan kerja yang sesuai kebutuhan serta peningkatan soft skill sangat dibutuhkan untuk menjawab tantangan tersebut. Sistem ketenagakerjaan Indonesia yang menganut *outsourcing,* dengan sistem kontrak ternyata dianggap tidak efektif dan menunjukkan ketidaberpihakan terhadap tenaga kerja dalam negeri, sementara ancaman tenaga kerja asing semakin banyak dan semakin intens. Pemerintah Indonesia melalui UU no 13 tahun 2003 telah menetapkan bahwa pembangunan tenaga kerja dilakukan untuk:

1. Memberdayakan dan mendayagunakan tenaga kerja secara optimal dan lebih manusiawi
2. Mewujudkan pemerataan kesempatan kerja dan penyediaan tenaga kerja yang sesuai dengan kebutuhan pembangunan nasional dan daerah
3. Memberikan perlindungan kepada tenaga kerja dalam mewujudkan kesejahteraan.
4. Meningkatkan kesejahteraan tenaga kerja dan keluarganya.

Dalam kaitannya dengan pemberlakuan ASEAN Economic Community maupun globalisasi yang akan membuka kesempatan kerja bagi tenaga kerja asing (TKA) di Indonesia, UU ini telah memberikan batasan bahwa TKA hanya diperkenankan bekerja selama 4 tahun, dilakukan oleh perusahaan bukan perorangan, memperoleh ijin dari kementerian atau pejabat yang ditunjuk, dan hanya diperkenankan untuk jabatan tertentu sesuai keputusan menteri yang ditunjuk (pasal 42). Dengan berlakunya UU tersebut, maka keberadaan tenaga kerja asing di Indonesia tidak dalam artian bebas penuh tetapi mengikuti persyaratan yang ada.Hal yang perlu dilakukan lebih lanjut adalah pengawasan bagi TKA yang ada di Indonesia.

Meskipun penduduk merupakan potensi ekonomi, namun pada kenyataannya penduduk Indonesia masih rendah kualitasnya.Sebagian besar penduduk masih berpendidikan SMP kebawah. Selain itu produktifitas SDM Indonesia masih lebih rendah daripada produktivitas SDM di negara-negara ASEAN, bahkan Vietnam yang baru saja berdiri menjadi negara yang merdeka.Adioetomo (2007) mengatakan bahwa diperkirakan selama masa proyeksi 2000-2025 akan terdapat entry tenaga kerja baru berumur 15-24 tahun sebanyak 44 juta, yang pada umumnya masih berpendidikan rendah. Jika kualitas dan kuantitas pendidikan tidak ditingkatkan maka tenaga kerja

Indonesia masih akan didominasi oleh tenaga kerja berpendidikan rendah dan tanpa ketrampilan.

Kondisi ini tentu saja sangat memprihatinkan mengingat bahwa jumlah SDM Indonesia sangat besar dan menjadi salah satu pasar terbesar didunia.

3.2 Kebijakan Pemerintah Dalam Bidang Peningkatan Kualitas SDM

Pemerintah Indonesia telah menyusun kebijakan untuk meningkatkan status pendidikan masyarakat mellui program wajib belajar 9 tahun. Program ini tidak cukup karena jika hanya 9 tahun maka praktis hanya akan memperoleh pendidikan setingkat SMP. Oleh sebab itu pemerintah menetapkan wajib belajar 12 tahun [ada tahun 2014 ini.Kebijakan ini dirasakan sangat terlambat mengingat bahwa tahun 2015 kesepakatan negara ASEAN untuk pasar bebas ASEAN sudah dilaksanakan.Saat ini saja pekerja migran dari luar negeri sudah mulai masuk ke Indonesia melalui perusahaan-perusahaan asing yang melalukan investasi di Indonesia. UU No 13 tahun 2004, tentang ketenagakerjaan, telah melakukan upaya untuk membatasi tenaga kerja asing masuk ke Indonesia, namun UU tersebut tidak cukup untuk menahan serbuan TKA masuk ke Indonesia.Meskipun UU no 3 tahun 2003 telah mengatur jabatan apa saja yang bisa dijabat oleh tenaga kerja asing, namun sayangnya tidak ada pembatasan standar kompetensi yang harus digunakan baik oleh tenaga kerja Indonesia maupun tenaga kerja asing. SKKNI yang seharusnya sudah tersedia untuk berbagai jabatan dan jenis pekerjaan baru sedikit yang selesai. Target setiap tahun 2 jenis skkni tidak dapat dicapai, karena alas an keuangan maupun sumber daya yang menyusun SKKNI tersebut.

Apabila standar kompetensi tidak segera diterbitkan, maka seluruh jabatan strategis di perekonomian akan diampu oleh TKA, Data Sakernas menunjukkan bahwa tenaga kerja Indonesia selama ini lebih banyak beerja sebagai operator dan tenaga produksi. Oleh

sebab itu apabila kualitas tenaga kerja tidak ditingkatkan maka gambaran jabatan yang diampu oleh tenaga kerja hanya akansetingkat operator saja. Permintaan tenaga kerja akan terus berkembang sejalan dengan kemajuan teknologi, komunikasi dan teknologi informasi serta tantangan ekonomi global. Oleh sebab itu selain pengetahuan dan ketrampilan yang tinggi diperlukan pula tenaga kerja yang mempunyai etos kerja yang baik, mempunyai kemauan kerja, kedisiplinan dan kecermatan yang baik. Semua sumber daya untuk meningkatkan mutu modal manusia harus terus dijalankan tidak hanya meliputi pendidikan tetapi juga kesehatan dan peningkatan aspek social budaya yang berkaitan erat dengan perilaku. Dengan demikian tenaga kerja ini dapat memenuhi kebutuhan pasar yang terus meningkat., yang mempunyai ketrampilan yang sesuai dengan kebutuhan, etos kerja, kemampuan berkomunikasi, mempunyai logika berfikir yang baik, menguasai teknologi dan aspek social budaya lainnya.

Kementerian Pendidikan melalui UU system pendidikan nasional, telah menyusun ketetapan penyelenggaran pendidikan di Indonesia, dari jenis, serifikasi sekolah sampai kurikulum pendidikan.Berdasarkan UU tersebut Kementerian Pendidikan telah menyusun kebijakan untuk menambah jumlah sekolah kejuruan maupun lulusannya untuk menjawab tantangan kurangnya SDM trampil dan siap pakai.Meski UU Sisdiknas telah diteta[kan , namun kementerian pendidikan tidak mempunyai grand desain yang jelas tentang arah, strategi dan program kegiatan belajar mengajar di Indonesia.

Peningkatan jumlah sekolah menengah kejuruan untuk mengejar ketertinggalan jumlah tenaga kerja trampil, tumbuh tanpa pola dan tujuan yang jelas. Seharusnya pemerintah menyusun suatu pemetaan, tenaga kerja trampil di bidang apa saja yang harus dipenuhi, sehingga tidak terjadi penumpukan program studi di satu atau bidang saja. Sebagai contoh lulusan sekolah/institusi pendidikan vocasi untuk bidan sudah melampaui jumlah

yang dibutuhkan.Sementara untuk mengirimkan tenaga bidan tersebut, lulusan belum memenuhi standar kompetensi yang dibutuhkan.Oleh sebab itu pemerintah ndonesia seharusnya segera menyusun grand desain arah dan tujuan pendidikan yang mampu memenuhi kebutuhan kegiatan perekonomian, seperti yang dilakukan oleh Korea Selatan, Jepang, Taiwan dan lain sebagainya.

3.3 Kurikulum Pendidikan vokasi

Kurikulum pendidikan menengah ditetapkan berdasarkan Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan Indonesia No 70 tahun 2013 tentang Kerangka Dasar dan Struktur Kurikulum Sekolah Menengah Kejuruan/Madrasah Aliyah Kejuruan. Pada pasal 1 ayat 1 dijelaskan bahwa kerangka dasar kurikulum Sekolah Menengah Kejuruan/Madrasah Aliyah Kejuruan merupakan landasan filosofis, sosiologis, psikopedagogis, dan yuridis yang berfungsi sebagai acuan pengembangan struktur kurikulum pada tingkat nasional dan pengembangan muatan lokal pada tingkat daerah serta pedoman pengembangan kurikulum pada Sekolah Menengah Kejuruan/Madrasah Aliyah Kejuruan. (2) Struktur Kurikulum Sekolah Menengah Kejuruan/Madrasah Aliyah Kejuruan merupakan pengorganisasian kompetensi inti, Mata pelajaran, beban belajar, dan kompetensi dasar pada setiap Sekolah Menengah Kejuruan/Madrasah Aliyah Kejuruan.

Kurikulum 2013 dikembangkan berdasarkan faktor-faktor sebagai berikut:

a. Tantangan Internal Tantangan internal antara lain terkait dengan kondisi pendidikan dikaitkan dengan tuntutan pendidikan yang mengacu kepada 8 (delapan) Standar Nasional Pendidikan yang meliputi standar isi, standar proses, standar kompetensi lulusan, standar pendidik dan tenaga kependidikan, standar sarana dan prasarana, standar pengelolaan, standar pembiayaan, dan standar penilaian pendidikan.

Tantangan internal lainnya terkait dengan perkembangan penduduk Indonesia dilihat dari pertumbuhan penduduk usia produktif. Saat ini jumlah penduduk Indonesia usia produktif (15-64 tahun) lebih banyak dari usia tidak produktif (anak-anak berusia 0-14 tahun dan orang tua berusia 65 tahun ke atas). Jumlah penduduk usia produktif ini akan mencapai puncaknya pada tahun 2020-2035 pada saat angkanya mencapai 70%.

Oleh sebab itu tantangan besar yang dihadapi adalah bagaimana mengupayakan agar sumberdaya manusia usia produktif yang melimpah ini dapat ditransformasikan menjadi sumberdaya manusia yang memiliki kompetensi dan keterampilan melalui pendidikan agar tidak menjadi beban.

b. Tantangan Eksternal Tantangan eksternal antara lain terkait dengan arus globalisasi dan berbagai isu yang terkait dengan masalah lingkungan hidup, kemajuan teknologi dan informasi, kebangkitan industri kreatif dan budaya, dan perkembangan pendidikan di tingkat internasional. Arus globalisasi akan menggeser pola hidup masyarakat dari agraris dan perniagaan tradisional menjadi masyarakat industri dan perdagangan modern seperti dapat terlihat di World Trade Organization (WTO), Association of Southeast Asian Nations (ASEAN) Community, Asia-Pacific Economic Cooperation (APEC), dan ASEAN Free Trade Area (AFTA). Tantangan eksternal juga terkait dengan pergeseran kekuatan ekonomi dunia, pengaruh dan imbas teknosains serta mutu, investasi, dan transformasi bidang pendidikan. Keikutsertaan Indonesia di dalam studi International Trends in International Mathematics and Science Study (TIMSS) dan Program for International Student Assessment (PISA) sejak tahun 1999 juga menunjukkan bahwa capaian anak-anak Indonesia tidak menggembirakan dalam beberapa kali laporan yang dikeluarkan TIMSS dan PISA. Hal ini disebabkan

antara lain banyaknya materi uji yang ditanyakan di TIMSS dan PISA tidak terdapat dalam kurikulum Indonesia

Adapun struktur kurikulum yang harus dibuat meliputi Kompetensi inti yang terdiri dari :

1. Kompetensi inti 1 untuk kmpetensi inti sikap spiritual
2. Kompetensi inti 2 untuk kompetensi inti sikap social
3. Kompetensi inti 3 untuk kompetensi inti pengetahuan
4. Kompetensi inti 4 untuk kompetensi intri ketrampilan

Peraturan Pemerintah Nomor 17 Tahun 2010 tentang Penyelenggaraan dan Pengelolaan Pendidikan Pasal 80 menyatakan bahwa: (1) penjurusan pada SMK, MAK, atau bentuk lain yang sederajat berbentuk bidang keahlian; (2) setiap bidang keahlian sebagaimana dimaksud pada ayat (1) dapat terdiri atas 1 (satu) atau lebih program studi keahlian; (3) setiap program studi keahlian sebagaimana dimaksud pada ayat (2) dapat terdiri atas 1 (satu) atau lebih kompetensi keahlian. Bidang keahlian pada SMK/MAK meliputi:

a. Teknologi dan Rekayasa;
b. Teknologi Informasi dan Komunikasi;
c. Kesehatan;
d. Agribisnis dan Agroteknologi;
e. Perikanan dan Kelautan;
f. Bisnis dan Manajemen;
g. Pariwisata;
h. Seni Rupa dan Kriya;
i. Seni Pertunjukan.

Dalam penetapan penjurusan sesuai dengan bidang/program/ paket keahlian mempertimbangan Spektrum Pendidikan Menengah Kejuruan yang ditetapkan oleh Direktur Jenderal Pendidikan Menengah Kementerian Pendidikan dan

Kebudayaan.Pemilihan Peminatan Bidang Keahlian dan program keahlian dilakukan saat peserta didik mendaftar pada SMK/MAK. Pilihan pendalaman peminatan keahlian dalam bentuk pilihan Paket Keahlian dilakukan pada semester 3, berdasarkan nilai rapor dan/atau rekomendasi guru BK di SMK/MAK dan/atau hasil tes penempatan (placement test) oleh psikolog.

Adapun struktur kurikulum yang digunakan oleh SMK/MAK adalah sebagaimana dalam table 3.1

TABEL 3.

STRUKTUR KURIKULUM TAHUN 2013

Mata Pelajaran	Alokasi Waktu Per minggu		
	Klas X	Klas XI	Klas XII
Kaleompok A			
1. Pendidikan Agama dan Budi Pekerti	3	3	3
2. Pendidikan Pancasila dan Kewarganegaraan	2	2	2
3. Bahasa Indonesia	4	4	4
4. Matematrika	4	4	4
5. Sejarah Indonesia	2	2	2
6. Bahasa Inggris	2	2	2
Kelompok B (Wajib)			
1. Seni Budaya	2	2	2
2. Pendidikan Jasmani, Olah Raga dan Kesehatan	3	3	3
3. Prakarya dan Kewirausahaan	2	2	2
Jumlah Mata Pelajaran Wajib	24	24	24
Kelompok C (Peminatan)			
1. Mata pelajaran peminatan Akademi Vokasi	24	24	24
Jumlah alokasi waktu Mata pelajaran yg harus diikuti perminggu	48	48	48

Sumber: PerMendikmud No 70/2013

Kurikulum tahun 2013 ini baru digunakan bagi murid klas X yang masuk tahun 2013, sementara murid klas XI dan XII menggunakan kurikulum tahun sebelumnya yaitu KTSP

2011 dan KTSP 2012. Sehingga persepsi setiap ganti tahun ganti kurikulum dan setiap ganti menteri ganti pula kebijakannya. Kondisi inilah yang membuat pendidikan vokasi di Indonesia belum beranjak dari sekedar memenuhi target jumlah, belum memenuhi target kualitas.

Dengan kurikulum diatas diharapkan dapat meningkatkan kompetensi lulusan sesuai program studi yang dipilih. Di lain pihak, standar kompetensi yang seharusnya menjadi salah satu bahan penyusunan kurikulum, belum siap seluruhnya. Karena tidak semua SMK mempunyai standar kompetenis dan mampu melakukan uji kompetensi, maka pemerintah menentukan beberapa lembaga untuk melakukan uji kompetensi dan memberikan lisensi sertifikasi atas keahlian yang dimiliki oleh SMK.

Karena dirasakan bahwa lulusan sekolah advokasi belum semuanya sesuai dengan standar kompetensi yang ditentukan maka kementerian tenaga kerja dan transmigrasi membuat pusat-pusat pelatihan (BLK) untuk menambah ketrampilan bagi lulusan SMA dan SMK.Sayangnya BLK ini tidak diperuntukkan bagi lulusan SD dan SMP, sehingga lulusan SD dan SMP hanya bisa menjadi pekerja kasar seperi office boy dan satpam atau pekerjaan informal lainnya.

BAB 4

Hasil Penelitian

4.1 Karakteristik Responden Siswa/ Mahasiswa

Responden yang diambil dalam pebelitian ini berjumlah 64 siswa/mahasiswa di 4 kota besar di Indonesia. Jumlah murid/mahasiswa yang diwawancarai sebanyak 64 orang terdiri dari 27 laki-laki dan 37 perempuan.Responden berasal dari SMK sebanyak 34 orang dan dari Politeknik sebanyak 34 orang. Jumlah yang berbeda sebanyak 4 orang ini disebabkan bahwa SMK jurusan bahasa tidak ada, sehingga diganti dengan politeknik jurusan bahasa (gambar 4.1)

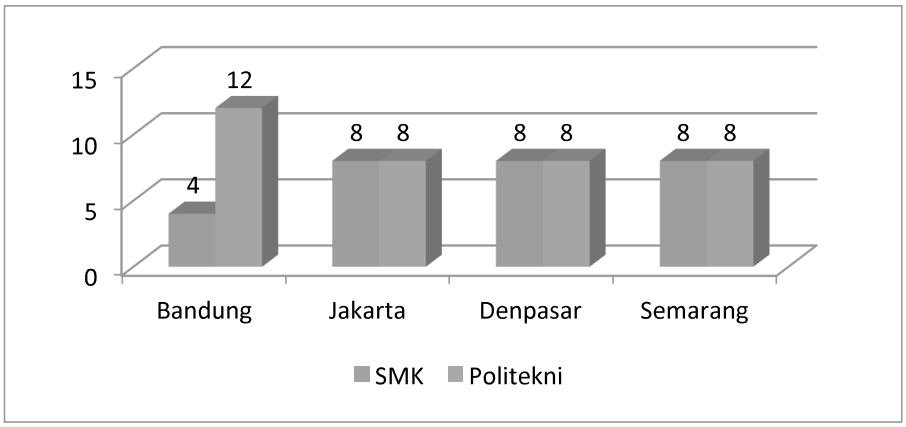
Tabel 4.1

Jumlah Responden Murid SMK Berdasarkan Jenis Kelamin, 2013

Kota	Laki-laki		Perempuan	
	N	%	n	%
Bandung	6	22.22	10	27.03
Jakarta	5	18.52	11	29.73
Denpasar	8	29.63	8	21.62
Semarang	8	29.63	8	21.62
Jumlah	27	100	37	100

Gambar 4.1

Jumlah Responden Murid/Mahasiswa Berdasakan Jenis Pendidikan, 2013



Murid/mahasiswa yang menjadi responden berasal dari status social ekonomi yang berbeda-beda, jika dilihat dari pendidikan, status pekerjaan dan penghasilan orang tua. Jika diperhatikan dari sisi pendidikan, sebagian besar orang tua (ayah) berpendidikan SMA dan D1 keatas.Sementara pendidikan ibu untuk Bandung, Denpasar dan Semarang juga didominasi oleh mereka yang berpendidikan SMA. Di Jakarta, sebagian responden mengaku bahwa pendidikan ibu mereka hanya tamat SD *35.71%) dan tamat Diploma (28,57%).

Tabel 4.2

Jumlah dan Persentase Murid/Mahasiswa Menurut Pendidikan Ayah, 2013

Pendidikan Ayah	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	n	%	N	%	n	%	n	%
Tidak Tamat SD	0	-	0	-	1	6.25	0	-
Tamat SD	0	-	1	7.14	0	-	1	6.25
Tamat SMP	1	6.25	3	21.43	3	18.75	0	-
Tamat SMA	8	50.00	6	42.86	5	31.25	10	62.50
Tamat D1 – D3	3	18.75	0	-	5	31.25	0	-
Tamat S1	4	25.00	4	28.57	2	12.50	5	31.25
	16	100	14	100	16	100	16	100
Pendidikan Ibu								
Tidak Tamat SD	0	-	0	-	1	6.25	0	-
Tamat SD	3	18.75	5	35.71	0	-	2	12.50
Tamat SMP	1	6.25	2	14.29	5	31.25	4	25.00

Tamat SMA	8	50.00	1	7.14	9	56.25	5	31.25
Tamat D1 - D3	3	18.75	4	28.57	1	6.25	0	-
Tamat S1	1	6.25						
	16	100	14	100	16	100	16	100

Jika diperhatikam status bekerja orang tua, sebagian besar responden mengaku ayah mereka bekerja yaitu masing-masing di Bandung (87,5%), Jakarta (85,71%), Denpasar (87,5% dan Semarang (93,33%). Sedangkan yang mempunyai ibu yang bekerja di Bandung hanya 43,75% dan di Jakarta, Denpasar maupun Semarang proporsinya mencapai 50%. Kondisi ini menunjukkan bahwa sebagian besar responden berasal dari keluarga yang cukup baik kondisi social ekonomi mereka.

Tabel 4.3

Jumlah dan Persentase Murid/Mahasiswa Menurut Status Pekerjaan Orang Tua2013

Pekerjaan	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	n	%	N	%	n	%	n	%
Ayah								
Tidak Bekerja	2	12.50	2	14.29	2	12.50	1	6.67
Bekerja	14	87.50	12	85.71	14	87.50	14	93.33
Jumlah	16	100	14	100	16	100	15	100
Ibu								
Tidak Bekerja	9	56.25	7	50.00	8	50.00	8	50.00
Bekerja	7	43.75	7	50.00	8	50.00	8	50.00
Jumlah	16	100	14	100	16	100	16	100

Pada umumnya responden masih tinggal bersama orang tua mereka masing-masing yaitu Jakarta (99,81%), Denpasar (83,33%) dan Semarang (81,25%). Berbeda dengan

responden di 3 kota tersebut, responden di Bandung pada umumnya tinggal tidak dengan orang tua mereka tetapi kost di tempat lain (56,25%). Bandung merupakan kota wisata maupun pendidikan, dimana murid/mahasiswa berasal dari berbagai daerah baik di Jawa Barat maupun provinsi lainnya.

Tabel 4.4

Jumlah dan Persentase Murid/Mahasiswa Menurut Status Tinggal, 2013

Tinggal	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
Bersama	n	%	n	%	N	%	N	%
Orang Tua	6	37.50	16	99.81	15	83.33	13	81.25
Kost	9	56.25	0	0.19	3	16.67	3	18.75
Numpang	1	6.25		0.00		0.00		0.00
	16	100	16.03	100	18	100	16	100

4.1. Karakteristik Responden Guru/ Dosen

Karakteristik guru dan dosen terbanyak pada laki laki yaitu 56,3 persen dan Kota Semarang mencapai terbanyak bila dibandingkan dengan kota lain yaitu 75 persen. Sementara responden guru dan dosen yang berjenis kelamin perempuan terbanyak di kota Denpasar yaitu 62,5 persen (table 4.4.a)

Tabel 4.4.a Presentase Jenis Kelamin Guru/Dosen Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Jenis Kelamin	Laki-laki	Count	8	10	6	12	36
		%	50.0%	62.5%	37.5%	75.0%	56.3%
	Perempuan	Count	8	6	10	4	28
		%	50.0%	37.5%	62.5%	25.0%	43.8%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Riwayat guru dan dosen sebelum mengajar di lembaga pendidikan saat survey umumnya pernah pengalaman mengajar di tempat lain yaitu 56,3 persen dan karakteristik yang menarik sebanyak 43,8 persen guru dan dosen sebagai responden belum pernah bekerja ditempat lain. Infomrmasi ini menunjukan bahwa responden guru dan dosen yang diwawancarai 43,8 persen adalah pertama kali bekerja dan mengajar di lembaga pendidikan SMK dan Politeknik saat di survey (table 4.4.b)

Tabel 4.4.b Persentase Pengalaman Mengajar Guru/Dosen
Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Apakah Pernah Bekerja Sebelumnya	Belum bekerja	Count	7	5	6	10	28
		%	43.8%	31.3%	37.5%	62.5%	43.8%
	SMK/Politeknik lain	Count	9	11	10	6	36
		%	56.3%	68.8%	62.5%	37.5%	56.3%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4.2. Gambaran Tentang Peminatan dan Pembiayaan Pendidikan

Pendidikan di Indonesia sangat dipengaruhi oleh peran orang tua dalam menentukan kearah mana murid/siswa sekolah.Pertimbangan untuk sekolah di jenis pendidikan tertentu di pengaruhi oleh pertimbangan biaya sekolah, cepatnya memperoleh pekerjaan serta letak sekolah dari rumah. Dari hasil lapangan diperoleh informasi bahwa sebagian besar responden murid/mahasiswa menempuh pendidikan vokasi karena dorongan dari oran tua terutama di Bandung dan Jakarta. Sedangkan di Denpasar

maupun Semarang lebih ditentukan oleh kemauan siswa sendiri untuk masuk vokasi.Di Indonesia masih muncul adanya persepsi bahwa pendidikan vokasi adalah pendidikan kelas 2, disbanding SMA.Masih banyak yang beranggapan bahwa SMK adalah pendidikan tukang, sementara SMA dianggap lebih bergengsi karena bisa meneruskan sampai sarjana.Kondisi ini menyebabkan SMK yang kurang baik tidak memperoleh murid dalam tahun ajaran mereka.Sebagai contoh SMK Tugu Ibu di Jakarta ditutup karena sepi peminat, demikian pula SMK untuk kerajinan kayu dan rotan di Sukabumi.Data tentang jumlah SMK yang ditutp tidak dapat diperoleh, karena pusat data di kemendikbud tidak menyediakan data semacam ini.

Tabel 4.5

Jumlah dan Persentase Murid/Mahasiswa

Menurut Siapa Yang Mendorong Masuk Pendidikan Vokasi, 2013

Yang Mendorong Sekolah Vokasi	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	N	%	n	%	N	%	N	%
Orang Tua	8	50.00	11	68.75	6	37.50	4	25.00
Kemauan Sendiri	6	37.50	3	18.75	10	62.50	10	62.50
Teman	2	12.50	1	6.25	0	-	1	6.25
Keluarga	0	-	1	6.25	0	-	1	6.25
	16	100	16	100	16	100	16	100
Sesuai Cita-cita								
Sesuai	14	87.5	6	37.5	16	100	11	68.75
Tidak	2	12.5	10	62.5		0	5	31.25
	16	100	16	100	16	100	16	100

Ketika ditanyakan lebih lanjut apakah SMK/vokasi yang mereka ikuti sesuai dengan cita-cita?Sebagian besar siswa/mahasiswa mengatakan bahwa pendidikan yang mereka

tempuh saat ini sudah sesuai dengan cita-cita mereka.Hanya di Jakarta yang sebagian responden mengatakan bahwa pendidikan mereka tidak sesuai dengan cita-cita mereka. Informasi jurusan peminatan dari pendapat guru/dosen SMK/politeknik terkait dengan alasan pilihan jurusan terbanyak pada banyaknaya jurusan yang dibutuhkan dunia usaha yaitu sebesar 68,8 persen atau 44 guru/dosen. Jurusan minat terbesar dari alas an kebutuhan dunia usaha terbesar pada jurusan akuntansi dan perbankan yaitu 12,5 persen dan jumlah jurusan peminatan karena lasan kebutuhan dunia usaha adalah pada jurusan bahasa asing, teknologi informasi dan telekomunikasi masing masing 10,9 persen dan 9,4 persen. Infomrasi ini paling tidak dapat menunjukan bahwa pasar kerja bagi lulusan SMK atau politeknik terbanyak pada ketiga jurusan tersebut.

Sementara alasan pilihan jurusan minat terbesar kedua menurut guru/dosen adalah pada pertimbangan paling siap kerja yaitu sebanyak 15,6 persen dan jurusan minat yang dimaksud paling siap kerja tersebut adalah pada otomotive, teknologi informasi dan telekomunikasi serta akuntasi dan perbankan. Sementara alasan pilihan lain adalah pada sedang trend di masyarakat dan kualiatas lebih baik yaitu masing masing sebanyak 6,3 persen. Jurusan minat dengan alas an sedang tred di masyarakat terbesar masih pada teknologi informasi dan komunikasi sebanyak 6,3 persen sedangkan alasan pilihan karena kualitas lebih baik adalah pada jurusan minat parawisata dan hotel (table 4.5a). Informasi informasi pilihan minta tersebut diatas adalah menggambarkan permintaan pasar kerja luluisan SMK/politeknik sehingga diperlukan pengembangan semua aspek jurusan minta agar dapat menjawab permintaan pasar kerja.

Informasi terkait jurusan dan minat utama berdasarkan pertimbangan alasan pilihan dari informasi guru/dosen diperkaya dengan pilihan minat jurusan kedua, ketiga dan keempat dalam lampiran.

Tabel 4.5a. Jurusan Minat Utama Berdasarkan Alasan Pilihan Minat

Jurusan Minat		Alasan Pilihan Jurusan Minat						Total
		Banyak dibutuhkan dunia usaha	Kualitas nya lebih baik	Paling siap kerja	Menerima lulusan SMA dari semua jurusan	Sedang trend di masya rakat	Sesuai minat	
Listrik dan elektro	Count	1	0	0	0	0	0	1
	% 1	1.6%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	1.6%
Bangunan dan sipil	Count	2	0	0	0	0	0	2
	%	3.1%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	3.1%
Teknologi informasi dan telekomunikasi	Count	6	0	3	0	4	0	13
	%	9.4%	.0%	4.7%	.0%	6.3%	.0%	20.3%
Otomotive dan mesin	Count	3	0	4	0	0	1	8
	%	4.7%	.0%	6.3%	.0%	.0%	1.6%	12.5%
Tata rias	Count	1	0	0	0	0	0	1
	%	1.6%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	1.6%
Tata boga dan restoran	Count	5	0	0	0	0	0	5
	%	7.8%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	7.8%
Pariwisata dan hotel	Count	5	3	1	0	0	0	9
	%	7.8%	4.7%	1.6%	.0%	.0%	.0%	14.1%
Akuntansi dan perbankan	Count	8	0	2	1	0	0	11
	%	12.5%	.0%	3.1%	1.6%	.0%	.0%	17.2%
Bahasa	Count	7	1	0	0	0	0	8
	%	10.9%	1.6%	.0%	.0%	.0%	.0%	12.5%
Tata busana	Count	2	0	0	0	0	0	2
	%	3.1%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	3.1%

Kesehatan masyarkat dan biomedik	Count	1	0	0	0	0	0	1
	%	1.6%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	1.6%
Ilmu pangan dan gizi	Count	3	0	0	0	0	0	3
	%	4.7%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	4.7%
Count		44	4	10	1	4	1	64
%		68.8%	6.3%	15.6%	1.6%	6.3%	1.6%	100.0%

Sementara informasi biaya sekolah diperoleh dari orang tua masing-masing, hanya 1 orang di Bandung dan 1 orang di Denpasar yang memperoleh beasiswa.Beasiswa tersebut mereka peroleh dari sekolah masing-masing.

Tabel 4.6

Jumlah dan Persentase Murid/Mahasiswa

Menurut Sumber Biaya Pendidikan, 2013

	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
Bayar sekolah	n	%	n	%	n	%	N	%
Orang Tua	15	93.75	15	93.75	15	93.75	16	100.00
Keluarga	0	-	1	6.25	0	-	0	-
Lainnya	1	6.25	0	-	1	6.25	0	-

Tabel 4.6

Jumlah dan Persentase Murid/Mahasiswa

Menurut Kelas dan Jurusan/Program Studi Yang diikuti Vokasi, 2013

	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
Kelas	n	%	N	%	n	%	N	%
Dua	8	50.00	7	43.75	7	43.75	7	43.75

Tiga	8	50.00	9	56.25	9	56.25	9	56.25
	16	100	16	100	16	100	16	100
Jurusan								
Elektronika	0	-	5	31.25	0	-	4	25.00
Otomotive	0	-	3	18.75	0	-	4	25.00
Tata Rias	0	-	0	-	4	25.00	0	-
Tata Busana	4	25.00	0	-	0	-	0	-
Teknologi Informasi	0	-	4	25.00	0	-	4	25.00
Akuntansi	0	-	4	25.00	4	25.00	4	25.00
Pariwisata	4	25.00	0	-	4	25.00	0	-
Gizi	4	25.00	0	-	0	-	0	-
Bahasa Asing	4	25.00	0	-	4	25.00	0	-
Jumlah	16	100	16	100	16	100	16	100

Responden yang diwawancarai sebagian besar duduk di kelas 3 atau tingkat 3 (semester 5 dan 6).Adapun jurusan yang diambil di Bandung adalah Tata Busana, Pariwisata, Gizi danBahasa Asing.Di Jakarta jurusan elektronika, otomotive, teknologi informasi, dan akuntansi. Di Denpasar siswa yang diambil adalah mereka yang belajar di program studi Tata Rias, Akuntansi, Pariwisata dan Bahasa Asing, sedangkan di Semarang berasal dari elektronika, otomotive, teknologi informasi dan akuntansi.

4.3. Kondisi Sekolah

Sekolah SMK maupun politeknik yang diambil dalam kajian ini adalah SMK dengan akreditasi A atau B., dengan proporsi yang sama yangi masing-masing 8 murid dari sekolah terakreditasi A dan 8 murid dari sekolah dengan akreditasi B di setiap kota yang diamati. Sedangkan kondisi sekolah dilihat dari fisik bangunan, kondisi bangku dan meja serta sarana lain dan kondisi bengkel kerja maupun perpustakaan. Dari sisi Kondisi fisik sekolah sebagian besar murid mengaku kondisi sekolah mereka cukup baik masing-mnasingdi Bandung 68,75%, dan Semarang 50%. Di Jakarta sebagian besar murid dan mahasiswa mengatakan bahwa kondisi sekolah/universitas mereka sangat baik (75%), sedangkan di Denpasar 43,75% mengatakan baik.

Bagaimana dengan kondisi bengkel kerja? Hanya murid/mahasiswa di Denpasar yang sebagian besra mengatakan sangat baik (43,75%). Responden di Bandung mengatakan baik (62,50%) dan Denpasar (50%) mengatakan baik. Kondisi bengkel kerja sangat berpengaruh terhadap kemampuan dan ketrampilan siswa, karena tanpa bengkel kerja siswa/mahasiswa tidak dapat melakukan kerja praktek dengan baik.Oleh sebab itu beberapa SMK melakukan kerjasama dengan perusahaan melalui program CSR mereka.Sebagai contoh bantuan bengkel untuk SMK otomotive yang diberikan oleh Astra.Menarik untuk disimak adalah 2 responden di Bandung dan 2 di Semarang mengatakan bahwa bengkel kerja yang mereka miliki kurang.

Selain bengkel kerja kondisi meja dan kursi juga menengukan kenyamanan murid/mahasiswa dalam proses belajar. Serinkali sekolah-sekolah yang ada tidak memiliki fasilitas meja dan kursi yang memadai. Dalam kajian ini diperoleh informasi bahwa ondisi meja dan kuris di smk maupun politeknik rata-rata dan kondisi baik.

Meskipun sekolah vokasi pada umumnyalebih banyak melakukan kerja praktek dibandingkan dengan pemberian materi dalam kelas, namun referensi buku-buku ajar

sangat diperlukan dalam proses belajar. Dalam hal ini diperlukan fasilitas perpustakaan yang memadai dan memungkinkan murid/mahaiswa mencari eferensi untu menambah wawasan dan pengetahuan mereka. Dari 4 kota yang diamati, proporsi responden di Jakarta yang mengatakan fasilitas perpustakaan mereka sangat baik yaitu 43,75%, sedangkan di Bandung, Denpasar dan Semarang sebagian besar mengatakan bahwa fasilitas perpustakaan di sekolah mereka dalam kondisi baik. Cukup memprihatinkan adanya responden yang berpendapat bahwa perpustakaan di sekolah mereka kurang yaitu di Bandung, Jakarta dan Semarang.Fasilitas perpustakaan di sekolah-sekolah SMK maupun politeknik dengan banyak program study, seringkali kurang lengkap sehingga menyulitkan siswa mencari buku-buku bacaan.

Tabel 4.7

Jumlah dan Persentase Murid/Mahasiswa Menurut Kondisi Sekolah, 2013

Kondisi Sekolah	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	N	%	N	%	n	%	n	%
Kondisi Sekolah								
sangat baik	0	-	12	75.00	5	31.25	1	6.25
cukup baik	11	68.75	4	25.00	4	25.00	8	50.00
Baik	5	31.25	0	-	7	43.75	7	43.75
Bnegkel Kerja								
sangat baik	0	-	6	37.50	7	43.75	2	12.50
cukup baik	4	25.00	7	43.75	1	6.25	1	6.25
Baik	10	62.50	3	18.75	8	50.00	11	68.75
Kurang	2	12.50	0	-	0	-	2	12.50
Kondisi meja kursi								

sangat baik	0	-	11	68.75	4	25.00	2	12.50
cukup baik	7	43.75	1	6.25	10	62.50	7	43.75
Baik	9	56.25	1	6.25	2	12.50	7	43.75
Kurang	0	-	3	18.75	0	-	0	-
Kondisi Perpustakaan								
sangat baik	0	-	7	43.75	3	18.75	6	37.50
cukup baik	5	31.25	6	37.50	4	25.00	1	6.25
Baik	10	62.50	2	12.50	9	56.25	8	50.00
Kurang	1	6.25	1	6.25	0	-	1	6.25

Kondisi lembaga pendidikan dari sisi guru dan dosen Nampak SMK dan politeknik terlihat terbesar adalah pada program studi teknik informatika yaitu 50 persen, otomotive sebanyak 43,8 persen dan elektronik sebanyak 42,2 persen. Sementara program studi yang paling sedikit sebagai objek penelitian adalah pada bahasa, Gizi, tata rambut dan tata busana yang jumlahnya dibawah 19 persen.Kondisi sekolah sebagaimana program studi pada table 4.7..a menunjukan bahwa sekolah SMK dan Politeknik banyak di dominasi pada siswa laki laki dan kecenderungan dan *image* seperti tersebut sudah cukup kuat dalam masyarakat sehingga banyak siswa perempuan tidak terlalu berminat pada pendidikan SMK dan Politeknik khusus pada tiga program terbanyak pada table 4.7.a.

Tabel 47.a Persentase Program Studi Yang ada berdasarkan Empat Kota Besar

Program Studi	Empat Kota Besar				Total
	Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Otomotive	.0%	75.0%	.0%	100.0%	43.8%
Tata Rambut	25.0%	.0%	50.0%	.0%	18.8%

Tata Busana	25.0%	.0%	50.0%	.0%	18.8%
Teknik Informatika	.0%	75.0%	25.0%	100.0%	50.0%
Akuntansi	.0%	50.0%	25.0%	50.0%	31.3%
Parawisata	50.0%	.0%	75.0%	.0%	31.3%
Gizi	25.0%	.0%	50.0%	.0%	18.8%
Bahasa	25.0%	.0%	25.0%	.0%	12.5%
Bahasa Inggris	.0%	.0%	25.0%	.0%	6.3%
Elektronik	.0%	75.0%	.0%	93.8%	42.2%

Kondisi lain dari sisi guru dan dosen dalam lembaga pendidikan SMK dan Politeknik menyebutkan 56,3 persen sekolah berstatus negeri dan sisanya adalah swasta. Sementara pada SMK dan Politeknik di Semarang semuanya atau 100 persen berstatus sekolah negeri. Objek sasaran SMK dan Politeknik yang berstatus negeri terendah berada di Jakarta atau hanya 25 persen (table 4.7.b). Karakteristik objek lembaga pendidikan SMK dan politeknik yang jumlahnya hampir sama antara ber status negeri dan swasta, menggambarkan data data lebih variatif dan objektif.

Tabel 4.7.b. Presentasei Status Sekolah/Politeknik Berdasarkan Empat Kota Besar

		Empat Kota Besar				
		Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Status Sekolah/	Negeri Count	8	4	8	16	36
	%	50.0%	25.0%	50.0%	100.0%	56.3%

Politeknik	Swasta	Count	8	12	8	0	28
		%	50.0%	75.0%	50.0%	.0%	43.8%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Kondisi sekolah lain dapat dilihat dari kualitas lembaga pendidikan SMK dan politeknik dimana pada pada table 4.7.c separuh berakriditasi A dan separuh lainnya berakriditasi B. Pola tersebut sama dengan lokasi survey yaitu Bandung, Jakarta, denpasar dan semarang.

Tabel 4.4.c. Persentase Peringkat Akreditasi Sekolah/Politeknik Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Akreditasi	A	Count	8	8	8	8	32
		%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
	B	Count	8	8	8	8	32
		%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

4.4. Kurikulum dan Sertifikasi

Adapun kurikulum yang digunakan sampai saat ini adalah KTSP 2013 untuk murid/mahasiswa yang baru masuk tahun 2013, KTSP 2012 dan KTSP 2010.Penggantian kurikulum setiap tahun menurut kepala sekolah yang diwawancarai menyulitkan pihak sekolah, karena guru harus belajar dan menyesuaikan diri dengan tuntutan kurikulum yang diberikan.Dari hasil wawancara yang dilakukan dengan murid, rata-rata

matapelajaran yang diikuti cukup banyak yang terdiri dari matapelajaran wajib (inti untuk agama dan budipekerti), matapelajaran inti social, mata pelajaran inti untuk program studi.Matapelajaran inti program studi tergantung dari jenis studi yang dipelajari (lihat lmpiran).

Matapelajaran bahasa meliputi bahasa Indonesia, Inggri, Perancis, Jepang, Korea dan mandarin.Ilmu budaya dasar dan agama juga diberikan di SMK mupun politeknik.Cukup banyak matapelajaran yang harus diikuti di SMK.Jika diperhatikan Permendikbud tentang kurikulum maka jampelajaran yang harus diikuti rata-rata 48 jam per minggu untuk SMK.

ISO merupakan suatu sertifikasi untuk bidang tertentu.Dari hasil kajian diperoleh informasi bahwa responden yang menjawab sekolah mereka sudah mempunyai ISO hanya responden di Bandung, Denpasar dan Semarang.Hal ini memunculkan pertanyaan apakah siswa di Jakarta tidak mengetahui sekolah mereka memperoleh ISO atau memang tidak ada sekolah yang telah memperoleh ISO yang diambil sebagai sampel kajian ini.

Dari hasil kajian yang dilakukan seluruh responden murid/mahasiswa di Bandung mengatakan bahwa sekolah mereka memperoleh ISO, di Denpasar hanya 12 dan di Semarang 15 orang responden. Jika dirinci ISO di program studi mana saja, diperoleh informasi bahwa di Bandung program study TATA Rias, Tata Busana, pariwisata, bahasa asing dan gizi telh memperoleh ISO. DI semarang proporsi murid/mahasiswa yang mengatakan ada ISO bagi sekolah mereka adalah pariwisata dan teknologi informaika.Di

Semarang sebagian besar mengatakan memperoleh ISO di bidang elektro, otomotif dan tejnologi informatika.

Tabel 4.8
Jumlah dan Persentase Responden Menurut Pengetahuan
Tentang ISO yang diberikan kepada pihak sekolah, 2013

	Bandung		Denpasar		Semarang	
	n	%	n	%	n	%
Telah memperoleh ISO	16	100.00	12	75.00	15	93.75
Elektro	0	-	0	-	12	75.00
Otomotive	0	-	0	-	11	68.75
Tata Rias	4	25.00	0	-	0	-
Tata Busana	4	25.00	0	-	0	-
Teknologi Informasi	1	6.25	4	25.00	12	75.00
Akuntansi	0	-	0	-	4	25.00
Bahasa Asing	5	31.25	0	-	0	-
Pariwisata	8	50.00	8	50	0	0
Gizi	4	25.00	0	-	0	-
Jasa Boga	2	12.5	0	0	0	0
Tata Boga	1	6.25	0	0	0	0

Lebih lanjut ditanyakan pada responden, apakah sekolah/politeknik ini mempunyai kerjasama dengan luar negeri?Beberapa sekolah teah melaklukan kerjasama dengan luar negeri. Di Bandung sebanhyak 10 murid/mahasiswa mengatakan bahwa sekolah

mereka telah melakukan kerjasama dengan luar negeri yaitu 80% dengan Jepang dan 20% mengatakan dengan Kanada. Di Jakarta 10 murid/mahasiswa mengatakan bahwa sekolah telah melakukan kerjasama dengan luar negeri yaitu Malaysia, Jepang, India dan Singapura.Sedangkan di Semarang kerjasama dilakukam dengan Korea, Australia dan Taiwan. Dalam bidang apa saja kerjasama tersebut dilakukan?

Seluruh murid dan mahasiswa yang menjawab ada kerjasama luar negeri, mengatakan bahwa bentuk kerjasama yang pernah dilakukan adalah pertukaran pelajar, dengan negara-negara yang disebutkan diatas.Pertukaran pelajar meupakan salah stau upaya untuk memperoleh ketrampilan yang lebih baik dan memperkaya pengetahuan dengan standar kurikulum dari negara negara tersebut. Manurung (2013) menuliskan bahwa perbedaanmendasar pendidikan di Indonesia dengan di luar negeri adalah bahwa mereka selalu mendekatkan pendidikan dengan pasar kerja, artinya komunikasi tentang apa saja yang akan dibutuhkan selalu terjalin. Selain itukurikulum yang dibuat lebih sederhana tetapi sesuai bidang yng dibutuhkan.Contoh kasus yang paling baik adalah Korea. Kondisi Indonesia saat ini sama dengan Korea tahun 1974an. Namun Korea mampu mengejar ketertinggalan dengan memfokuskan pendidikan vokasi mereka pada kebutuhan dari dunia usaha, serta memberikan kesempatan pendidikan yang sama khususnya untuk penduduk yang menganggur, miskin dan terpinggirkan.

Berbeda dengan Korea, pembangunan sekolah sekolah vokasi lebih banyak mengikuti trend yang terjadi, sehingga terjadi penumpukan vokasi dengan rogram studi bidang tertentu saja misalnya vokasi kesehatan dan mesin.Persebaran sekolah sekolah tersebut juga tidak merata untuk setiap provinsi jika dibandingkan dengan jumlah penduduknya. Dibutuhkan pendidikan vokasi

bidang-bidang tertentu seperti kerajinan kayu dan rotan yang mempunyai prospek cukup baik dimasa depan, yang sekarang hanya ada 1 di Indonesia.

Selain itu sikap masyarakat Indonesia terhadap pendidikan SMK belum sebaik pendidikan SMA.SMK dianggap sebagai sekolah kelas 2 yang hanya menghasilkan tukang dan tenaga produksi.Kondisi ini menyebabkan minat masyarakat untuk masuk pendidikan vokasi rendah.Pungut dkk (2012) menemukan bahwa lulusan sekolah mesin, lebih banyak yang tidak ingin bekerja di bidang yang dia pelajari, karena bidang tersebut dinilai sebagai pekerjaan yang kurang bergengsi dan kotor.Oleh sebab itu rebranding SMK dan pendidikan vokasi perlu dilakukan untuk meningkatkan citra SMK dimata masyarakat. Salah stau upaya yangd ilakukan adalah membuat SMK 4 tahun atau SMK plus.

Bidang bidang kersama denga lembaga luar negeri dan double degree terlihat pada pendapat guru/dosen SMK/politeknik pada sub bab kerjama.

Tabel 4.8

Jumlah dan Persentase Responden Menurut Pengetahuan

Tentang ISO yang diberikan kepada pihak sekolah, 2013

Kerjasama dengan Luar Negeri	Bandung		Jakarta		Semarang	
	N	%	n	%	n	%
Malaysia	0	-	4	50.00	0	-
Jepang	4	80.00	4	50.00	0	-
Korea	0	-	0	-	1	25.00
Australia	0	-	0	-	1	25.00
Taiwan	0	-	0	-	1	25.00
Kanada	1	20.00	0	-	0	-
India	0	-	1	12.50	0	-
Singapura	0	-	1	12.50	0	-

Sekolah/institusi pendidikan boleh melakukan kerjasama dengan pihak swasta maupun pemerintah lainnya sepanjang tidak merubah atau merusak kurikulum dan jam belajar mengajar di sekolah tersebut.Dalam hal ini untuk meningkatkan keahlian dan ketrampilan murid/mahasiswa pihak institusi pendidikan bekerjasama dengan perusahaan. Bagi pelaku usaha kerjasama ini menjadi bagian dari *Coorporete Social Responsibility* (CSR) sedangkan bagi institusi pendidikan kerjasama ini dapat meningkatkan ketrampilan dan kesempatan siswa untuk magang dan memperoleh pekerjaan di perusahaan yang bersangkutan.

Menurut murid/mahasiswa, kerjasama dengan perusahaan telah dilakukan baik untuk

pengembangan sekolah, bantuan pengajar/instruktur, bantuan bengkel kerja, beasiswa maupun kesempatan magang.Dari sejumlah responden yang diwawancarai, sebagian besar mengatakan bahwa kerjasama dilakukan untuk pengembangan sekolah, magang dan pemberian beasiswa.Hanya sedikit responden yang mengatakan bahwa kerjasama dilakukan untuk pengajar maupun bengkel kerja.

Magang atau praktek kerja lapangan merupakan salah satu syarat murid/mahasiswa untuk kelulusan mereka, sehingga setiap murid diharapkan dapat memperoleh tempat magang diakhir masa pendidikan mereka di SMK maupun politeknik.Beberapa perusahaan menjadikan kegiatan magang/PKL ini sebagai bagian dari program CSR mereka, dan beberapa diantaranya memberikan kesempatan untuk bekerja di perusahaan tersebut apabila kinerjanya baik.

Tabel 4.9

Jumlah dan persentase Murid/Mahasiswa Menurut Pengetahuan Tengang Kerjasama dengan Perusahaan di Dalam Negeri, 2013

Kerjasama Perusahaan Dalam Negeri	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	n	%	N	%	n	%	n	%
Pengembangan sekolah	10	62.5	14	87.5	5	31.25	10	62.5
Pengajar	0	0	2	12.5	4	25	7	43.75
Bengkel Kerja	0	0	12	75	2	12.5	8	50
Beasiswa	6	37.5	15	93.75	0	0	9	56.25
Magang	15	93.75	16	100	10	62.5	15	93.75
Lainnya	1	6.25	0	0	9	56.25	4	25

Selain bekerjasama dengan pihak perusahaan, sekolah biasanya mempunyai beberapa program yang dijalankan setiap tahunnya.Program tersebut diantaranya adalah pemagangan, pertukaran pelajar, roadshow ke perusahaan dan lain sebagainya.Sebagian besar responden murid mengatakan bahwa program magang dilakukan oleh sekolah dengan perusahaan maupun kantor-kanor pemerintah.

Sementara proporsi responden yang tahu soal pertukaran pelajar hanya sedikit demikian pula yang tahu tentang program lainnya.

Tabel 4.9

Jumlah dan persentase Murid/Mahasiswa Menurut Pengetahuan Program Yang Dilakukan Sekolah, 2013

Program sekolah	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	n	%	N	%	N	%	n	%
Magang	16	100.00	16	100.00	12	75.00	16	100.00
Pertukaran pelajar	8	50.00	4	25.00	3	18.75	2	12.50
Roadshow	16	100.00	10	62.50	9	56.25	15	93.75
Lainnya	4	25.00	0	-	0	-	1	6.25

Murid/mahasiswa berpendapat bahwa pemagangan yang dilakukan oleh pihak sekolah cukup baik. Di Bandung 68,75% murid mengatakan program pemagangan di sekolah mereka baik. Di Jakarta 68,75% murid/mahasiswa mengatakan program pemagangannya sangat baik. Di Denpasar program pemagangannya dinilai cujup baik (37,50%) dan Di Semarang 56,25 responden mengatakan program magang di sekolah mereka baik. Meskipun sebagian besar mengatalan program pemagangan baik, namun di Denpasar, Jakarta dan Semarang terdapat murid/mahasiswa yang menagatakn program pemagangannya jelek.

Tabel 4.9

Jumlah dan persentase Murid/Mahasiswa Menurut Pengetahuan Program Yang Dilakukan Sekolah, 2013

Program Sekolah	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	n	%	n	%	n	%	N	%
Magang								
sangat baik	0	-	11	68.75	3	18.75	4	25.00
cukup baik	5		3		6		2	12.50

		31.25		18.75		37.50		
baik	11	68.75	1	6.25	3	18.75	9	56.25
kurang	0	-	1	6.25	4	25.00	1	6.25
Penempatan Kerja								
sangat baik	0	-	12	75.00	3	18.75	3	18.75
cukup baik	3	18.75	2	12.50	5	31.25	2	12.50
baik	12	75.00	2	12.50	8	50.00	11	68.75
kurang	1	6.25	0	-	0	-	0	-

Selain program pemagangan, sekolahjuga berusaha membuka peluang erja dengab program penempatan kerja. Dari keempat kota yang diamati, responden yang mengatakan bahwa program penempatan kerja terbaik berada di DKI Jakarta, sedangkan di Bandung (75%), Semarang (68,75%) serta Denpasar (50%) mengatakan program penempatan kerja sekolah mereka baik.

Ketika ditanyakan apabila sekolah mempunyai program double degrre, apakah muris/mahasiswa bersedia mengikuti program tersebut?Dari 64 responden yang diwawancarai sebanyak 53 responden mengatakan bersedia.Kenera amana saja jika double degrre dialkukan.Sebagian besar responden memilih Jepan g sebagai negara untuk memperoleh Double degrre, disusul kemudian negara Taiwan.Jepang dengan teknologi yang sangat tinggi diminati oleh banyak responden.Lowongan pekerjaan ke negara ini juga cukup besar, namun dalam 2 tahun terakhir ini kuota pekerja Indonesia ke Jepang semakin dibatasi.

Tabel 4.10

Jumlah dan persentase Murid/Mahasiswa Menurut Persepsi Jika Sekolah Menyelenggarakan Program Double Degree, 2013

Jika ada double degree	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	N	%	n	%	N	%	n	%
Ya	12	75.00	16	100.00	10	62.50	15	93.75
Negara yg diinginkan								
ASEAN	0	-	1	6.25	1	6.25	2	12.50
Jepang	4	25.00	5	31.25	4	25.00	7	43.75
Korea	1	6.25	0	-	0	-	2	12.50
Taiwan	5	31.25	6	37.50	2	12.50	4	25.00
Eropa	0	-	4	25.00	1	6.25	0	-
Amerika Serikat	1	6.25	0	-	1	6.25	0	-
Australia	1	6.25	0	-	1	6.25	0	-

Dari mereka yang menjawab tidak ingin ikut double degree sebagian besar alasannya karena alasan tidak mampu, takut biayanya tinggi maupun tidak mau jauh dari rumah. Hasil penelitian yang dilakukan Toersilaningsih dkk 2011, ditemukan bahwa tenaga kerja Indonesia pada umumnya enggan jika berjauhan dengan tempat tinggal asalnya, banyak pekerja yang baru direkrut mengundurkan diri karena kangen yang tidak bisa diatasi. Hambatan semacam ini seharusnya mulai dihilangkan dengan memberikan pengertian bahwa globalisasi juga memberikan kesempatan bagi lulusan SMK dan vokasi untu bekerja di luar negeri.

Tabel 4.11

Jumlah dan persentase Murid/Mahasiswa Menurut ALasan Tidak Ingin Mengikuti Program Double Degree, 2013

Alasan	Bandung		Denpasar		Semarang	
	N	%	n	%	N	%
Merasa tidak mampu	2	12.50	3	18.75	0	-
Tidak bs berbahasa asing	2	12.50	3	18.75	0	-
Biaya	2	12.50	5	31.25	0	-

Jauh dari rumah	2	12.50	6	37.50	0	-
Kuliah padat	1	6.25	0	-	0	-
Program beda	0	-	0	-	1	6.25

Ketika ditanyakan dimanakah murid/mahasiswa ingin bekerja setelah lulus?? Sebagian besar responden murid/mahasiswa di Bandung, Jakarta dan Semarang mengatakan ingin bekerja didalam negeri saja yaitu masing-masing 56,25%,75% dan 75%. Berbeda dengan Bandung dan Jakarta, responden di Denpasar lebih banyak yang ingin bekerja disekitar rumah mereka.Ini menunjukkan bahwa calon tenaga kerja Indonesia masih menyukai untuk bekerja di negara sendiri atau dekat dengan rumah dan keluarga. Triasih, Toersilaningsih dan Nurhadi (2011) menemukan bahwa perusahaan elektronik di luar Jawa sulit mempertahankan tenagakerja dari Jawa, karena begitu masa kontrak habis mereka jarang yang mau memperpanjang dengan alas an selalu kangen dengan daerah asal.

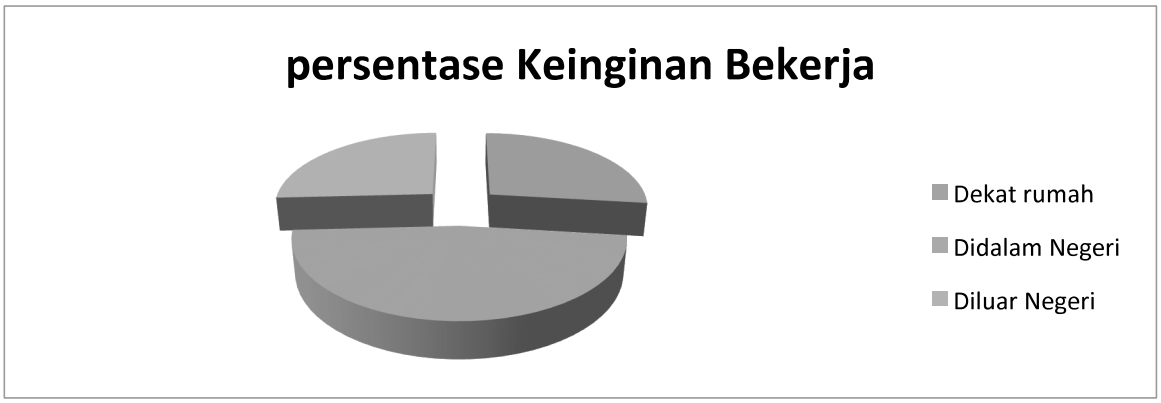
Tabel 4.11a

Jumlah dan persentase Murid/Mahasiswa Menurut Keinginan Untuk Bekerja, 2013

Bekerja dimana?	Bandung		Jakarta		Denpasar		Semarang	
	n	%	N	%	n	%	n	%
dekat rumah	4	25.00	0	-	12	75.00	9	56.25
di dalam negeri	9	56.25	12	75.00	11	68.75	12	75.00
diluar negeri	6	37.50	4	25.00	5	31.25	9	56.25

Sementara terkait kurikulum dari sisi Guru dan Dosen menyebutkan program studi program studi yang telah menggunakan kurikulum standar nasional elektronik dan otomotive di Kota Jakarta dan Semarang dan Tata rambut dan tata busana di kota Bandung dan Denpasar. Sementara program studi Teknologi infomrasi dan akuntansi di Kota Jakarta, Denpasar dan semarang sudah menggunakan kurikulum standar nasional.

Program stsudi lain seperti parawisata, danBahasa telah menggunakan kurikulum nasional di kota Bandung dan Denpasar. (table 4.12.)



Tabel 4.12. Presentase Program Studi Menggunakan
Kurikulum Standar Nasional Berdasarkan Empat Kota Besar

Program Studi	Empat Kota Besar				Total
	Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Elentronik		100.0%		100.0%	100.0%
Otomotive		100.0%		100.0%	100.0%
Tata Rambut	100.0%		100.0%		100.0%
Tata Busana	100.0%		100.0%		100.0%
Teknologi Informasi		100.0%	100.0%	92.9%	96.4%
Akuntansi		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
Parawisata	100.0%		33.3%		60.0%
Gizi	100.0%				100.0%
Bahasa	100.0%		100.0%		100.0%

Menurut Guru dan Dosen penggunaan kurikulum standar internasional belum banyak diterapkan pada program program studi di SMK dan politeknik. Hanya program studi informasi di kota Semrang dan program studi parawisata di Bali yang telah

menggunakan kurikulum internasional. Parawisata di kota Bali memang sudah sangat maju sejalan sebagai kota wisata maka untuk memasuki pasar kerja parawisata maka kurikulum sudah menerapkan standar internasional. Sejalan dengan hal tersebut kota Semarang sudah lebih maju dibandingkan kota kota lain terkait dengan program studi informatika dimana untuk memasuki pasar internasional maka SMK dan politeknik sudah menggunakan kurikulum internasional, walau baru sebanyak 7,1 persen (table 4.13).

Informasi Guru dan dosen terkait standar kurikulum lainnya adalah melakukan kerjasama dengan perusahaan diterapkan pada satu SMK atau Politeknik di Jakarta.

Tabel 4.13. Presentase Program Studi Menggunakan Kurikulum
Standar Internasional Nasional Berdasarkan Empat Kota Besar

Program Studi	Empat Kota Besar				Total
	Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Teknologi Informasi		.0%	.0%	7.1%	3.6%
Parawisata	.0%		66.7%		40.0%

Pengembangan kurikulum Nampak dari informasi guru dan dosen dimana 56,3 persen menyatakan kurikulum perlu ditingkatkan kembali dan terdapat pula 43,8 persen menyatakan tidak perlu ditingkatkan. (table 4.14). SMK dan Politeknik di kota Semarang semuanya atau 100 persen menginginkan adanya peningkatan kurikulum sementara yang cukup puasa adalah Denpasar yang menyatakan 87,5 persen guru dan dosen menyatakan kurikulum tidak perlu ditingkatakan lagi.

Tabel 4.13. Persentase Pengembangan Kurikulum SMK/Politeknik
Berdasarkan empat Kota Besar

	Empat Kota Besar	Total

			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Apakah Masih Perlu Ditingkatkan	Ya	Count	6	12	2	16	36
		%	37.5%	75.0%	12.5%	100.0%	56.3%
	Tidak	Count	10	4	14	0	28
		%	62.5%	25.0%	87.5%	.0%	43.8%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

Beberapa point kurikulum yang perlu dikembangkan dan ditingkatkan adalah:

1. Peningkatan fasilitas bengkel Kerja, laboratorium
2. Peningkatan SDM dan didikasi Pengajar
3. Kurikulum menyesuaikan Perkembangan Kemajuan dan sesuai pasar kerja
4. Kerjasama dengan sekolah lain, perusahaan parawisata dalam negeri atau luar negeri
5. Kesesuaian Teori dan praktek
6. Kompetensi di tingkatkan, kurikulum nasional menjadi internasional
7. Perkembangan ilmu harus di update
8. Bahan penunjang materi dan Pengadaan buku pegangan sekolah
9. Jam mengajar ditingkatkan
10. Manajemen sekolah

Pendapat guru dan dosen SMK/Politeknik terkait kurikulum sudah sesuai dengan kebutuhan pasar kerja terlihat hampir 95 persen menyatakan bahwa kurikulum sudah sesuai denmgan kebutuhan dunia usaha dan terdapat 4,7 persen menyatalan belum sesuai. (table 4.14)

Tabel 4.14. Presentase Kurikulum Memenuhi Kebutuhan Dunia Usaha Berdasarkan Empat Kota Besar

	Empat Kota Besar				
	Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total

Apakah Memenuhi Kebutuhan Dunia Usaha	Ya	Count	14	15	16	15	60
		%	87.5%	93.8%	100.0%	93.8%	93.8%
	Belum	Count	2	0	0	1	3
		%	12.5%	.0%	.0%	6.3%	4.7%
	Tidak tahu	Count	0	1	0	0	1
		%	.0%	6.3%	.0%	.0%	1.6%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

Sementara upaya SMK/Politeknik yang menyatakan kurikulum belum sesuai dengan kebutuhan dunia usaha upaya yang dilakukan adalah melakukan kerjasama dengan perusahaan, membuka kerjasama dengan rekan kerja, meningkatkan bursa kerja dan menyesuaikan dengan kebutuhan dunia usaha.

Pendapat guru/dosen terkait dengan bahan ajaran di SMK/politeknik terbanyak menyatakan cukup memadai yaitu 64,1 persen dan hanya 15,6 persen yang menyatakan sangat memadai. Sementara masih terdapat 1,6 persen menyatakan kurang memadai khususnya di Jakarta. SMK/Politeknik di Kota Semarang mencapai jumlah terbesar yang menyatakan sangat memadai yaitu 25 persen. (table 4.15)

Tabel 4.15 Persentase Pendapat Guru/Dosen tentang
Bahan Pengajaran Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Pendapat Tentang Bahan Pengajaran	Sangat memadai	Count	3	2	1	4	10
		%	18.8%	12.5%	6.3%	25.0%	15.6%
	Cukup memadai	Count	13	11	7	10	41
		%	81.3%	68.8%	43.8%	62.5%	64.1%
	Memadai	Count	0	2	8	2	12

		%	.0%	12.5%	50.0%	12.5%	18.8%
	Kurang memadai	Count	0	1	0	0	1
		%	.0%	6.3%	.0%	.0%	1.6%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

Mengenai fasilitas praktikum bagi SMK/Politeknik semua guru/dosen menyatakan memiliki bengkel kerja yang digunakan untuk praktikum siswa/mahasiswa.Jenis bengkel kerja beragam sesuai dengan program studi dari SMK/Politeknik yang ada (Tabel 4.16). Sementara penggunaan bengkel kerja oleh siswa/mahasiswa menurut guru/dosen tidak dipungut biaya atau gratis dan juga berlaku pada lembaga pendidikan di empat kota besar pada lokasi survey.

Kondisi bengkel umumnya guru/dosen SMK/Politeknik menyatakan bagus dan sudah memenuhi standar industry, hanya beberapa menyebut seperti bengkel elektronik masih kurang dan kurang memadai karena digunakan oleh jurusan lain. Secara kualitatif para guru/dosen berharap bengkel masih tetap perlu ditingkatkan agar sesuai dengan standar dunia usaha. Sementara kepemilikan laboratorium sebagaimana juga bengkel semua guru/dosen SMK/politeknik menyatakan memiliki laboratorium termasuk semua lembaga pendidikan di empat kota besar sebagai lokasi survey. Mengenai kondisi laboratorium 71,9 persen menyatakan kondisinya cukup baik dan 14,1 persen menyatakan sangat baik. Jumlah terbesar yang menyatakan kondisi laboratorium sangat baik adalah di lokasi Jakarta yaitu 25 persen. Sementara masih ada yang menyatakan kondisi laboratorium kurang baik yaitu 1,6 persen SMK/politeknik di Semarang (table 4.16)

Tabel 4.16 Persentase Kondisi Laboratorium SMK/Politeknik
Berdasarkan Empat Kota Besar

		Empat Kota Besar				
		Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Bagai Sangat	Count	1	4	2	2	9

Mana Kondisi Labora Torium	baik	%	6.3%	25.0%	12.5%	12.5%	14.1%
	Cukup baik	Count	13	12	13	8	46
		%	81.3%	75.0%	81.3%	50.0%	71.9%
	Baik	Count	2	0	1	5	8
		%	12.5%	.0%	6.3%	31.3%	12.5%
	Kurang baik	Count	0	0	0	1	1
		%	.0%	.0%	.0%	6.3%	1.6%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

Salah satu idikator kualitas berstandar internasional adalah kepemilikan SMK/Politeknik dalam ISO dimana pada table 4.17 nampak bahwa 67,2 persen SMK/Politeknik telah memiliki ISO dan hanya 32,8 persen yang tidak mempunyai ISO. Jumlah SMK/Politeknik terbanyak yang memiliki ISO adalah di Kota Bandung dan Semarang yaitu semua atau 100 persen SMK/Politeknik mempunyai ISO. Sementara jumlah kepemilikan ISO SMK/Politeknik terendah di kota Jakarta yaitu hanya 18,8 persen.

Tabel 4.17 Persentase Kepemilikan ISO Pada SMK/Politeknik Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Apakah Sudah Mempunyai Iso	Ya	Count	16	3	8	16	43
		%	100%	18.8%	50.0%	100%	67.2%
	Tidak-	Count	0	13	8	0	21
		%	.0%	81.3%	50.0%	.0%	32.8%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

Program studi di SMK/Politeknik yang telah memiliki ISO terbanyak adalah

Elektronik dan tehnologi informasi dengan jumlah 39,5 persen, sementara di empat kota besar Denpasar dan Semarang memiliki terbanyak lembaga pendidikannya memiliki ISO. Jumlah terendah SMK/Politiknik yang memiliki ISO adalah program studi gizi dan bahasa yang masing masing 9,3 persen (table 4.18)

Tabel 4.18 Persentase Program Studi Yang Sudah Mempunyai ISO
Berdasarkan Empat Kota Besar

Program Studi	Empat Kota Besar				Total
	Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Elektronik	.0%	66.7%	.0%	93.8%	39.5%
Otomotive	.0%	33.3%	.0%	100%	39.5%
Tata Rambut	25.0%	.0%	100%	.0%	27.9%
Tata Busana	25.0%	.0%	100%	.0%	27.9%
Teknologi Informasi	.0%	33.3%	.0%	100%	39.5%
Akuntansi	.0%	33.3%	.0%	50.0%	20.9%
Parawisata	50.0%	.0%	100.0%	.0%	37.2%
Gizi	25.0%	.0%	.0%	.0%	9.3%
Bahasa	25.0%	.0%	.0%	.0%	9.3%

Terkait dengan kemampuan SMK/Politeknik kemampuan mengeluarkan sertifikat kompetensi menurut guru/dosen baru 14,1 persen saja yang mempunyai kamampuan dan terbanyak ada pada SMK/Politeknik di kota Semarang yaitu 50 peren. Masih banyak SMK/Politeknik yang belum mampu mengeluarkan sertifikat kompetensi yaitu hampir 86 persen. Lokasi SMK/Politeknik terbesar atau semua yang tidak mampu mengeluarkan sertifiakt adalah yang berada di Bandung dan Denpasar (table 4.19).

Tabel 4.19 Persentase Kemampuan Mengeluarkan Sertifikasi Kompetensi
Berdasarkan Empat Kota Besar

		Empat Kota Besar				
		Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Kemampuan Mengeluarkan	Ya Count	0	1	0	8	9
	%	.0%	6.3%	.0%	50.0%	14.1%

Sertifikasi Komptensi	Tidak	Count	16	15	16	8	55
		%	100.0%	93.8%	100.0%	50.0%	85.9%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Salah satu persyaratan kemampuan mengelurkan sertifikasi adalah kepemilikan lembaga sertifikasi profesi, dimana pada table 4.20 menurut guru/dosen baru 21,9 persen SMK/politeknik memilikinya dan sisanya sebanyak 78,1 persen belum memiliki. Jumlah terbesar SMK/politeknik memeiliki lembaga sertifikasi profesi adalah di kota Semarang yaitu 56,3 persen dan kedua adalah kota Bandung sebesar 25 persen. Kota Denpasar hanya 6,3 persen SMK/politeknik memiliki lembaga sertifikasi profesi dan Kota Jakarta tidak satupun ditemukan SMK/politeknik memilikinya.

Tabel 4.20 Persentase Kepemilikan Lembaga Serifikasi Profesi Berdasarkan Empat Kota Besar

			KL01				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Apakah Sdh Mempunyai Lembaga Sertifikasi Profesi	Ya	Count	4	1	0	9	14
		%	25.0%	6.3%	.0%	56.3%	21.9%
	Tidak	Count	12	15	16	7	50
		%	75.0%	93.8%	100.0%	43.8%	78.1%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

4.5. Penyerapan Lulusan Pada Pasar Kerja

Salah satu ukuran keberhasilan pendidikan SMK/Politeknik adalah kelulusan dan banyaknya terserap oleh pasar kerja. Pada table 4.21 pendapat guru/dosen menyatakan 62,5 persen kelulusan SMK/politeknik terserap oleh pasar kerja dan bahkan 34,4 persen sudah dipesan sebelum siswa/mahasiswa lulus. Jumlah terbanyak yang diserap oleh pasar kerja lulusan SMK/politeknik adalah di kota Bandung yaitu 100 persen dan kedua adalah Jakarta dan Denpasar. Sementara kota Semarang lebih banyak siswa/mahasiswa

SMK/politeknik sudah di pesan sebelum kelulusan yaitu 50 persen.

Tabel 4.21. Kelulusan SMK/Politeknik Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Kelulusan SMK/ Politeknik	Banyak yang terserap di pasar kerja	Count	16	9	9	6	40
		%	100.0%	56.3%	56.3%	37.5%	62.5%
	Sudah dipesan sebelum lulus	Count	0	7	7	8	22
		%	.0%	43.8%	43.8%	50.0%	34.4%
	Lainnya, sebutkan	Count	0	0	0	2	2
		%	.0%	.0%	.0%	12.5%	3.1%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100%	100%	100%	100%	100%

Selain adanya terserap oleh pasar kerja dan sudah dipesan sebelum lulus siswa/mahasiswa SMK/politeknik sebanyak 3,1 persen lainnya yaitu melanjutkan kuliah atau berusaha sendiri.

4.6. Kerjasama

Pengembangan SMK/politeknik salah satunya adalah dengan melakukan kerjasama khususnya dengan dunia usaha dan lembaga lembaga pendidikan di dalam dan luar negeri. Pada table 4.22 nampak bahwa SMK/politeknik sudah cukup banyak yang melakukan kerjsama dengan dunia usaha yaitu sebanyak 98,4 persen dan bahkan semua SMK/politeknik di Bandung, Denpasar dan Semarang telah melakukan kerjasama dengan dunia usaha. Informasi ini menunjukan bahwa SMK/politeknik sudah cukup berkembang sesuai dengan kebutuhan perkembangan industry di Indonesia.

Tabel 4.22. Kerjasama SMK/Politeknik Dengan Dunia Usaha Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat kota besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Apakah Sudah Membuka Kerjasama Dengan Dunia Usaha	Ya	Count	16	15	16	16	63
		%	100.0%	93.8%	100.0%	100.0%	98.4%
	Tidak	Count	0	1	0	0	1
		%	.0%	6.3%	.0%	.0%	1.6%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Bentuk kerjsama SMK/politeknik terbanyak adalah pemagangan dimana lembaga pendidikan mengirim siswa/mahasiswa untuk belajar bekerja dalam program pemagangan dengan waktu tertntu.Pemagangan juga di tujukan agar siswa dapat memasuki pasar kerja sebagaimana yang diinginkan. Sementara kerjasama yang cukup besar lainnya adalah menampung kelulusan SMK/Politeknik yaitu sebesar 25,4 persen yang biasanya perusahaan sudah memahami kualitas kelulusan dari siswa/mahasiswa dan kedua belah pihak akan mendapatkan keuntungan. Kerjasama menerima kelulusan akan menguntungkan perusahaan dengan mendapatkan SDM yang baik dan trampil sementara SMK/politeknik dapat menyalurkan kelulusan, (table 4.23).

Kerjasama lainnya yang dilakukan dengan dunia usaha adalah instruktur bidang studi, pertukaran siswa dan pemberian beasiswa yang relative kecil.

Tabel 4.23. Bentuk Kerjasama SMK/Politeknik Dengan Dunia Usaha Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat kota besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Kerjasama Apa Saja Yg Dilakukan	Pemagangan	Count	12	11	13	9	45
		%	75.0%	73.3%	81.3%	56.3%	71.4%
	Instruktur	Count	0	0	0	1	1

	bidang studi	%	.0%	.0%	.0%	6.3%	1.6%
	Menampung lulusan	Count	4	3	3	6	16
		%	25.0%	20.0%	18.8%	37.5%	25.4%
	Pertukaran siswa	Count	0	1	0	0	1
		%	.0%	6.7%	.0%	.0%	1.6%
Total		Count	16	15	16	16	63
		%	100%	100%	100%	100%	100%

Pengembangan lebih jauh SMK/politeknik adalah adanya kerjama dengan luar negeri dimana pendapat guru/dosen pada table 4.24 menyatakan 60,9 persen sudah bekerjasama dengan luar negeri dan hanya 39,1 persen yang belum menjejaki bekerjasama dengan luar negeri

Tabel 4.24. Kerjasama SMK/Politeknik Dengan Lembaga di LN
Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Apakah Sdh Pernah Menjajaki Kerjasama Dg Lembaga Di Ln	Sudah	Count	10	9	12	8	39
		%	62.5%	56.3%	75.0%	50.0%	60.9%
	Belum	Count	6	7	4	8	25
		%	37.5%	43.8%	25.0%	50.0%	39.1%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Bentuk kerjasama SMK/politeknik dengan luar negeri umumnya atau terbanyak pada kerjasama pengembangan kurikulum dan pertukarangan siswa/mahasiswa masing masing sebanyak 23,1 persen, Bentuk kerjsama yang cukup banyak lainnya adalah pada pelatihan guru dan double degree yaitu 15,4 persen dan 12,8 persen (table 4.25). SMK/Politeknik di Bandung lebih cenderung kerjasamanya dalam bentuk pertukaran

siswa sementara di Jakarta lebih cenderung kerjsama bisang pengembangan kurikulum.

Tabel 4.25 Bentuk Kerjasama SMK/Politeknik Dengan Lembaga LN Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat kota besar				Total
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Bagaimana Bentuk Kerjasama Yang Pernah Atau Sdg Dirintis	Menjajaki pertukaran siswa/mahasiswa	Count	6	0	0	3	9
		%	60.0%	.0%	.0%	37.5%	23.1%
	Double Degree	Count	2	2	0	1	5
		%	20.0%	22.2%	.0%	12.5%	12.8%
	Pengembangan kurikulum	Count	1	7	1	0	9
		%	10.0%	77.8%	8.3%	.0%	23.1%
	Pelatihan guru/dosen	Count	1	0	4	1	6
		%	10.0%	.0%	33.3%	12.5%	15.4%
	Lainnya, sebutkan	Count	0	0	7	3	10
		%	.0%	.0%	58.3%	37.5%	25.6%
Total		Count	10	9	12	8	39
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Bentuk kerjsaman lainnya dengan lembaga luar negeri adalah pendampingan pendidikan kejuruan, live broadcase dengan Taiwan, mendatangkan ahli mesin dari Korea dan praktek kerja

Peluang double degree di sikapai oleh guru/dosen SMK/politeknik dimana pada table 4.26 mayoritas atau 96,9 persen atau hampir 97 persen menyatakan setuju atau berminat apabila ada peluang double degree. Informasi ini menunjukan bahwa peluang dan kesempatan kerjasama dengan SMK/politeknik sangat terbuka lembaran karena mayoritas guru/dosen menyetujuinya/

Tabel 4.26 Peluang Double Degree SMK/Politeknik Berdasarkan Empat Kota Besar

	Empat Kota Besar	Total

			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Jika Ada Peluang Double Degree Apakah Setuju	Ya-	Count	16	16	16	14	62
		%	100.0%	100.0%	100.0%	87.5%	96.9%
	Tidak	Count	0	0	0	2	2
		%	.0%	.0%	.0%	12.5%	3.1%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Harapan guru/dosen SMK/politeknik bentuk kerjsama double degree adalah:

1. Pertukaran mahasiswa
2. Pengembangan kurikulum
3. Pengembangan kompetensi siswa, beasiswa melanjutkan studi
4. Pelatihan dan pengembangan pengajar
5. Pertukaran dosen/guru
6. Fasilitas pendidikan
7. Kerjasama proses belajar mengajar dengan lembaga pendidikan luar negeri
8. Penelitian
9. Peningkatan mutu pembelajaran standarisasi di setiap jurusan
10. Penyiapan tenaga kerja (skill), 2. Pemberian beasiswa kuliah

Sementara SMK/politeknik yang berpendapat belum berminat dalam kerjsama double degree adalah dengan pertimbangan belum memfokuskan ke double degree dan untuk kalangan siswa belum perlu karena terhalang dana. siswa berasal dari kalangan menengah ke bwah

4.7. Beasiswa

Kondisi SMK dan Politeknik yang lain adalah terlihat dari pemberian beasiswa bagi mahasiswa san siswa dimana sebanyak 92,2 persen guru/dosen menyatakan bahwa

disediakan program beasiswa. Fasilitas beasiswa terbesar diberikan di SMK/Politeknik di kota semarang dimana semua SMK dan Politeknik yang diwawancarai menyatakan memberikan fasilitas beasiswa. Sementara fasilitas beasiswa terendah di Kota Denpasar yaitu hanya 12 dari 16 atau 75 persen lembaga pendidikan yang disurvey. Informasi ini menunjukan bahwa masih terdapat hampir 7,8 persen lembaga pendidikan SMK/Politeknik yang tidak menyediakan fasilitas beasiswa bagi siswa dan mahasiswanya. Program beasiswa ini belum optimal sehingga kesempatan kerjasama dal;am double degree terbuka luas khususnya program beasiwa dan pertukarana siswa dalam meningkatkan lulusan yang dapat diserap oleh pasar kerja di dalam negeri dan luar negeri (table 4.27)

.

Tabel 4.27. Beasiswa Bagi Siswa Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Apakah Menyediakan Beasiswa	Ya	Count	16	15	12	16	59
		%	100.0%	93.8%	75.0%	100.0%	92.2%
	Tidak	Count	0	1	4	0	5
		%	.0%	6.3%	25.0%	.0%	7.8%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Sumber beasiswa yang diperoleh oleh SMK/Politeknik terbanyak adalah dari pemerintah yaitu 73,1 persen dan hanya 9,6 persen dari swasta dan 17,3 persen dari sumber lainnya. SMK dan Politeknik di kota Semarang hampir semua bersumber dari pemerintah dan hanya 6,3 persen dari sumber lain. Sementara kota Jakarta terendah mendapatkan sumber beasiswa dari pemerintah yaitu 62,5 persen. Data ini menunjukan bahwa semakin jauh dari pusat kota sumber beasiswa dari pemerintah relative lebih besar. Sumber beasiwa dari pihak swasta tidak di temukan di SMK atau politeknik di Semarang (table 4.28).

Tabel 4.28 Sumber Beasiswa Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	Total
Darimana Sumber Beasiswa	Pemerintah	Count	8	5	10	15	38
		%	50.0%	62.5%	83.3%	93.8%	73.1%
	Swasta	Count	1	2	2	0	5
		%	6.3%	25.0%	16.7%	.0%	9.6%
	Lainnya	Count	7	1	0	1	9
		%	43.8%	12.5%	.0%	6.3%	17.3%
Total		Count	16	8	12	16	52
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Informasi ini menunjukan lembaga pendidikan seperti SMK dan Politeknik belum menggali potensi beasiswa dari pemerintah dan hanya mengharapkan beasiwa dari program pemerintah. Sisi lain dapat juga di gambarkan bahwa swasta belum berperan optimal masuk pada lembaga pendidikan seperti SMK dan Politeknik.

Sementara sumber sumber lain asal beasiswa adalah dari Yayasan dan sekolah yang bersangkutan. Belum Nampak adanya beasiswa dari luar negeri. Informasi ini menunjukan bahwa kerjasama dengan luar negeri dalam program double degree belum dijalankan dan kondisi ini menjadi peluang bagi lembaga asing untuk menawarkan kerjasama dengan SMK dan Politeknik yang ada di Indonesia.

Tabel 4.29 Sumber Beasiswa SMK/Politeknik Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar				Total
			Bandung	Jakarta	Denpasar	Semarang	
Sumber Beasiswa Lainnya		Count	9	15	16	15	55
		%	56.3%	93.8%	100.0%	93.8%	85.9%
	Dari SMK N 7 Semarang	Count	0	0	0	1	1
		%	.0%	.0%	.0%	6.3%	1.6%
	Yayasan	Count	7	1	0	0	8
		%	43.8%	6.3%	.0%	.0%	12.5%
Total		Count	16	16	16	16	64
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Lembaga pendidikan SMK dan Politeknik yang tidak menyediakan program beasiwa khususnya yang ada di Jakarta dan Denpara nampak sebagain besar atau 80 persen siswa ayau mahasiswa tidak memperoleh beasiswa dan hanya 20 persen yang mendapatkan beasiswa yang kemungkinan hasil usaha sendiri.

Tabel 4.30 Beasiwa SMK/Politkenik Yang Tidak Menyediakan Berdasarkan Empat Kota Besar

			Empat Kota Besar		Total
			Jakarta	Denpasar	
Apakah Siswa/Mahasiswa Memperoleh Bantuan Beasiswa	Ya-	Count	1	0	1
		%	100.0%	.0%	20.0%
	Tidak	Count	0	4	4
		%	.0%	100.0%	80.0%
Total		Count	1	4	5
		%	100.0%	100.0%	100.0%

BAB 5
Kesimpulan dan Rekomendasi

5.1. Kesimpulan

1. Pemerintah Indonesia telah mempunyai kebijakan untuk meningkatkan jumlah dan kualitas SMK sebagai jawaban atas tantangan keutuhan tenaga kerja trampil di Indonesia. Sampai saat ini ditargetkan 50% SMK dan 50% SMA. Meskipun demikian kebijakan ini tidak ditunjang dengan kebijakan untuk membuat kurikulum yang lebih baik. Pemerintah selalu merubah kurikulum dengan alasan untuk menyesuaiakn dengan kebutuhan dunia usaha, tetapi pemerintah tidak melihat bahwa perubahan kurikulum memerlukan waku penyesuaian bagi sekolah-sekolah tersebut.
2. Untuk menambahkan ketrampilan pemerintah telah membangun Balai Latihan Kerja diberbagai provinsi di Indonesia, tetapi BLK ini hanya diperuntukkan bagi mereka yang berpendidikan SMA dan SMK keatas. Sedangkan mereka yang hanya lulusan SD dan SMP tidak memperoleh kesempatan untuk menambah ketrampilan mereka.
3. Pada umumnya keinginan untuk sekolah di SMK adalah keinginan sendiri dan keinginan orang tua. Responden murid merasakan bahwa sekolah yang mereka inginkan sudah memenuhi harapan karena memberikan ketrampilan sebagaimana diinginkan oleh dunia usaha. Pertimbangan pilihan pendidikan SMK/politeknik serta jurusan minat umumnya terkait dengan kesempatan kerja yang diberikan oleh dunia usaha sehingga

mekanisme pemilihan jurusan minat sudah sesuai dengan mekanisme pasar kerja terkait kebutuhan SDM.

4. Sebagian besar murid/mahasiswa vokasi membiayai sendiri pendidikan mereka hanya sebagian kecil yang memperoleh beasiswa dari sekolah
5. Mata pelajaran yang diberikan pada umumnya sesuai dengan bidang atau program study masing-masing dengan tambahan mata pelajaran bahasa Indonesia, Bahasa Inggris, dan agama. Menurut murid/mahasiswa yang diwawancara, sebagian besar menyukai mata pelajaran pokok program study masing-masing
6. Pada umumnya murid/mahasiwa mengatakan bahwa fasilitas pendidikan tempat mereka belajar sudah memenuhi baik dari kondisi gedung, fasilitas bengkel kerja, perpustakaan maupun laboratorium bahasa maupun kimia.
7. Sebagian besar responden mengatakan bahwa sekolah mereka telah melakukan kerjasama dengan pihak luar negeri terutama Jepang dan Korea, dengan bentuk pertukaran pelajar.
8. Sebagian besar responden mengatakan bahwa sekolah/kampus mereka telah melakukan kerjasama dengan perusahaan-perusahaan di dalam negeri terutama untuk tempat magang, bantuan bengkel kerja maupun instruktur.
9. Guru /dosen SMK/politeknik berharap banyak dengan adanya kerjasama lembaga pendidikan dimana mereka mengajar melakukan kerjasama dengan lembaga pendidikan asing khususnya terkait pengembangan kurikulum dan pengembangan kompetensi dan SDM dari pengajar agar sesuai dengan pasar kerja internasional.

10. Sebagian besar murid/mahasiswa mengatakan bahwa *double degree* dapat dilakukan dengan negara lain, tetapi minat untuk mengikuti double degree masih belum tinggi, karena takut biaya mahal, jauh dari rumah dan program pendidikan di dalam negeri sangat padat.
11. Sebagian besar murid/mahasiswa bisa bekerja didalam negeri sesuai keahlian mereka. Minat untuk belajar keluar negeri masih sangat rendah.

5.2. Rekomendasi

1. Perlu dibuat grand desain ketenagakerjaan yang melibatkan kementerian pendidikan, kementerian tenaga kerja dan transmigrasi serta kementerian perindustrian dan kementerian perdagangan. Grand desain ini memuat segala strategi arah dan tujuan pembangunan ketenagakerjaan dari sisi pengembangan kualitas SDM, pembukaan kesempatan kerja dan penempatan tenaga kerja
2. Membuka peluang yang besar bagi sekolah vokasi untuk mengembangkan pendidikan mereka dengan melakukan kerjasama dengan pihak luar negeri terutama pendidikan *double degree* yang sesuai standar kompetensi masing-masingbidang study

3. Meningkatkan kualitas guru dengan memberikan uji kompetensi bidang studi agar guru mampu melakukan alih pengetahuan dan ketrampilan bagi murid/mahasiswa mereka.
4. Membuka kerjasama dengan pihak perusahaan melalui program *Coorporate Social Responsibility* (CSR) untuk melatih murid/mahasiswa belajar sambil bekerja di perusahaan yang sesuai bidang studi masing-masing.
5. Memberikan KIE kepada murid/mahasiswa untuk meningkatkan keberanian dan percaya diri bahwa mereka setara dengan lulusan luar negeri, sehingga untuk meningkatkan kemungkinan bekerja diluar negeri, dalam kerangka ekonomi global
6. Mendorong pemerintah untuk menyusun MoU dan kesepakatan dengan negara-negara lain dalam perlindusngan hukum bagi pekerja Indonesia diluar negeri termasuk upah, hak-hak pekerja dan perlindungan bagi tenaga kerja yang bermasalah.

平成 25 年度　文部科学省
成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業
双方向性を持ち統合化されたグローバル専門人材育成システムの提言とプログラムの開発
（接続プログラム開発分科会）
『事業報告書』

発　行：平成 26 年 3 月
発行者：学校法人宮崎総合学院「双方向性を持ち統合化されたグローバル専門人材育成システムの提言とプログラムの開発」プロジェクト推進委員会
〒880-0806　宮崎県宮崎市広島 2-10-21　宮崎情報ビジネス専門学校内
TEL　0985－22－1030　　FAX　0985－22－0651